

吹田市民の地域福祉に関する実態調査
報 告 書

令和8年(2026年)3月

吹 田 市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の内容	1
3	調査の方法	2
4	回収の結果	2
5	報告書の見方	2
II	調査結果	3
1	回答者の属性	3
(1)	性別	3
(2)	年齢	3
(3)	同居家族	5
(4)	同居者の年齢や属性	7
(5)	現在の住まい	8
(6)	現在の住まいでの居住年数	8
(7)	居住地域	9
(8)	世帯の主な収入	9
(9)	経済的な状況	11
2	相談や情報の入手などについて	12
(1)	日常生活で困っていることや不安なこと	12
(2)	くらしや健康・福祉についての相談相手の有無	14
(3)	くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）の認知度	16
(4)	相談窓口に相談した結果	18
(5)	相談窓口の対応	19
(6)	くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法	20
3	近所付き合いについて	26
(1)	近所付き合いの程度	26
(2)	付き合いしている理由	28
(3)	近所付き合いが難しい理由	31
4	地域で暮らす中での問題等について	35
(1)	地域生活の中で福祉について気になっていること	35
(2)	地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること	39
(3)	地域生活の中で福祉等に関する制度や施設・サービスについて気になっていること	43
(4)	地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）	48
(5)	地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）	52
(6)	地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）	56

5	地域活動やボランティア活動について	61
	(1) 自治会への加入状況	61
	(2) 自治会に加入してよかったこと	63
	(3) 自治会に加入して課題だと感じたこと	66
	(4) 自治会に加入していない理由	69
	(5) 地域活動への参加・取組状況	72
	(6) 地域活動に参加してよかったこと	75
	(7) 地域活動に参加してみたいと思える活動内容	78
	(8) 地域活動に参加しやすくするために必要なこと	81
	(9) 福祉ボランティア活動への参加・取組状況	84
	(10) 福祉ボランティア活動に参加してよかったこと	88
	(11) 福祉ボランティア活動に参加してみたいと思える活動内容	90
6	社会福祉協議会やCSWについて	93
	(1) 社会福祉協議会の認知状況	93
	(2) 社会福祉協議会の取組として知っているもの	96
	(3) CSWの認知状況	98
	(4) CSWに期待すること	101
7	民生委員・児童委員について	103
	(1) 民生委員・児童委員の認知度	103
	(2) 民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと	105
8	成年後見制度について	107
	(1) 成年後見制度の認知度	107
	(2) 成年後見制度の利用意向	108
	(3) 成年後見人になってほしい人	109
	(4) 利用したいと思わない理由	111
	(5) 財産の管理や契約の手続きについての相談相手	113
	(6) 成年後見制度の周知に効果的な方法	115
9	災害から生命を守る取組などについて	117
	(1) 防災に関する取組や情報について知っているもの	117
	(2) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組	120
10	再犯防止の取組などについて	121
	(1) 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの	121
	(2) 再犯や再非行を防止するために必要なこと	123
	(3) 非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向	125
	(4) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいこと	126
	(5) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したくない理由	127
11	合理的配慮について	129
	(1) 合理的配慮の認知状況	129
12	自由意見	130

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、第5次地域福祉計画を策定するにあたり、市民のくらしの課題や地域福祉活動の現状、行政に対する施策ニーズ等の基礎データを得ることを目的に実施しました。

2 調査の内容

調査の目的を達成するために、以下の項目について調査を実施しました。

- (1) **回答者の属性**…性別、年齢、同居家族の続柄と属性、現在の住まい、居住年数、居住地域、世帯の主な収入、経済的な状況
- (2) **相談や情報の入手などについて**…日常生活で困っていることや不安なこと、くらしや健康・福祉についての相談相手、くらしや健康・福祉に関わる相談窓口の認知度と利用結果、くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法
- (3) **近所付き合いについて**…近所との付き合いの程度・付き合っている理由、近所付き合いが難しい理由
- (4) **地域で暮らす中での問題などについて**…地域生活の中で福祉について気になっていること、地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること、地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること、地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組
- (5) **地域活動やボランティア活動について**…自治会への加入状況・加入してよかったことと課題・加入していない理由、地域活動への参加・取組状況、地域活動に参加してよかったこと・参加したくなる条件、地域活動に参加しやすくするために必要なこと、福祉ボランティア活動への参加・取組状況、福祉ボランティア活動に参加してよかったこと・参加したくなる条件
- (6) **社会福祉協議会やCSWについて**…社会福祉協議会の認知状況、社会福祉協議会の取組として知っているもの、CSWの認知状況、CSWに期待すること
- (7) **民生委員・児童委員について**…民生委員・児童委員の認知状況、民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと
- (8) **成年後見制度について**…成年後見制度の認知状況、成年後見制度の利用意向・援助者になってほしい人・利用したいと思わない理由、財産の管理や契約の手続きについての相談先、成年後見制度の効果的な周知方法
- (9) **災害から生命を守る取組などについて**…防災に関する取組や情報について知っているもの、災害時要援護者への支援を進めるうえで優先すべき取組
- (10) **再犯防止の取組などについて**…再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの、再犯や再非行を防止するために必要なこと、非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向・協力したい内容・協力したくない理由
- (11) **合理的配慮について**…合理的配慮の認知状況
- (12) **その他（要望や意見等）について**…国や府、市などへの要望や意見など

3 調査の方法

- (1) 調査地域 吹田市内
- (2) 調査対象 満18歳以上の市民
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 質問紙の郵送及び回収、並びにWEBによる調査の併用（督促1回送付）
- (6) 調査期間 令和7年（2025年）11月11日（火）から12月12日（金）

4 回収の結果

配布数	回収数	無効回答数	有効回答数	有効回答率
2,000件	1,117件	1件	1,116件 (うちWEB回答415件・37.2%)	55.8%

[居住地域別]

居住地域	配布数	回答数	回収率
JR以南地域	188件	95件	50.5%
片山・岸部地域	293件	164件	56.0%
豊津・江坂・南吹田地域	402件	196件	48.8%
千里山・佐井寺地域	337件	176件	52.2%
山田・千里丘地域	422件	245件	58.1%
千里ニュータウン・万博・阪大地域	358件	215件	60.1%

※無回答：25件

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- (4) 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・MA% (Multiple Answer)：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA% (3 Limited Answer)：回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- (5) 本文中のグラフや数表で、コンピューターの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- (6) クロス集計結果の『性別』における「どちらでもある」、「どちらでもない」はそれぞれ回答者が1人と少ないため、分析に関するコメント及び図表は省略しています。
- (7) 本文及び図中における「前回調査」とは、令和元年（2019年）度を実施した「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」の結果のことです。

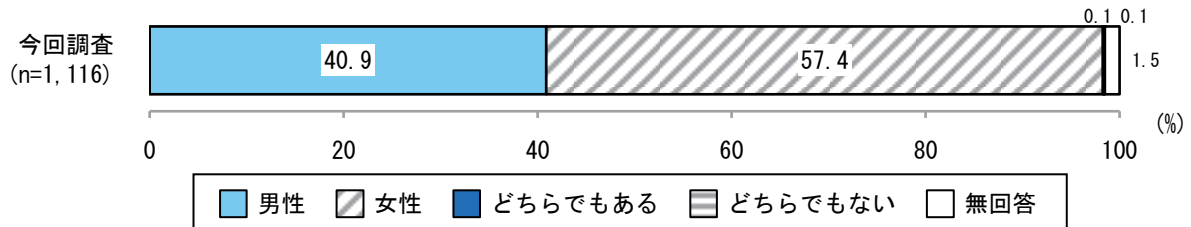
II 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別は。(〇は1つ)

【図表1-1 性別】

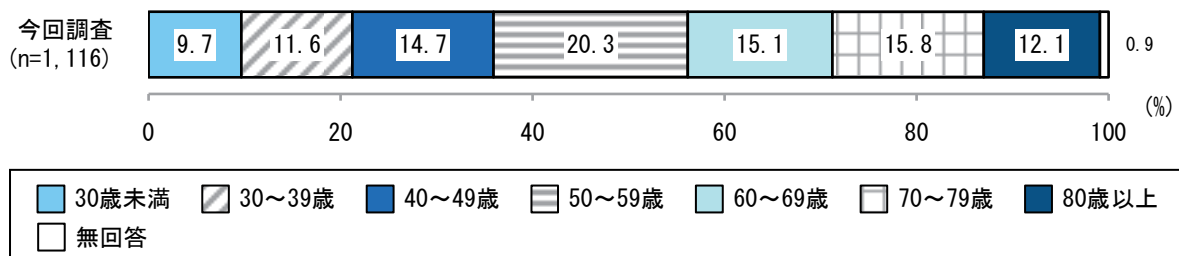


回答者の性別は、「女性」が57.4%で最も多く、次いで「男性」が40.9%、「どちらでもある」と「どちらでもない」がそれぞれ0.1%となっています。(図表1-1)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢は。(令和7年11月1日現在) (〇は1つ)

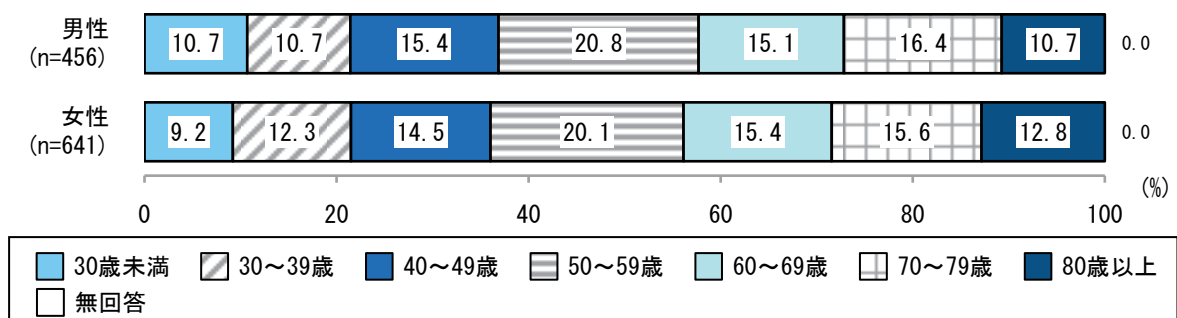
【図表1-2 年齢】



回答者の年齢は、「50～59歳」が20.3%で最も多く、次いで「70～79歳」が15.8%、「60～69歳」が15.1%、「40～49歳」が14.7%となっています。(図表1-2)

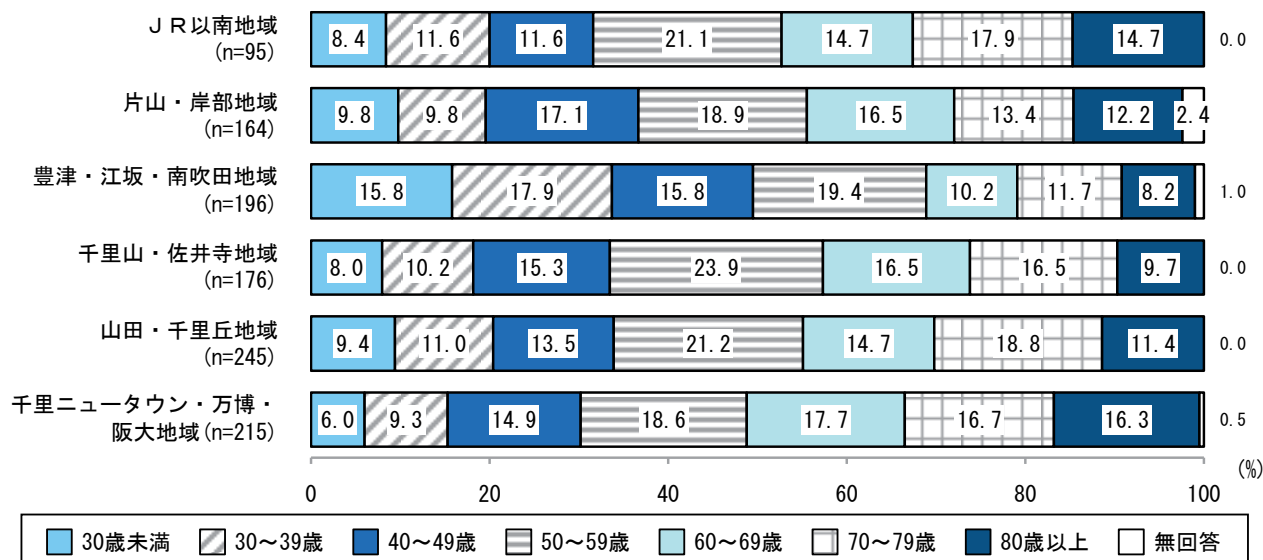
性別で見ると、男女とも「50～59歳」が最も多く、男性が20.8%、女性が20.1%となっています。(図表1-2-1)

【図表1-2-1 性別 年齢】



居住地域別でみると、いずれの地域も「50～59歳」が最も多くなっています。「30歳未満」「30～39歳」の割合はいずれも豊津・江坂・南吹田地域が最も高く、「80歳以上」の割合では千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も高くなっています。(図表1-2-2)

【図表1-2-2 居住地域別 年齢】

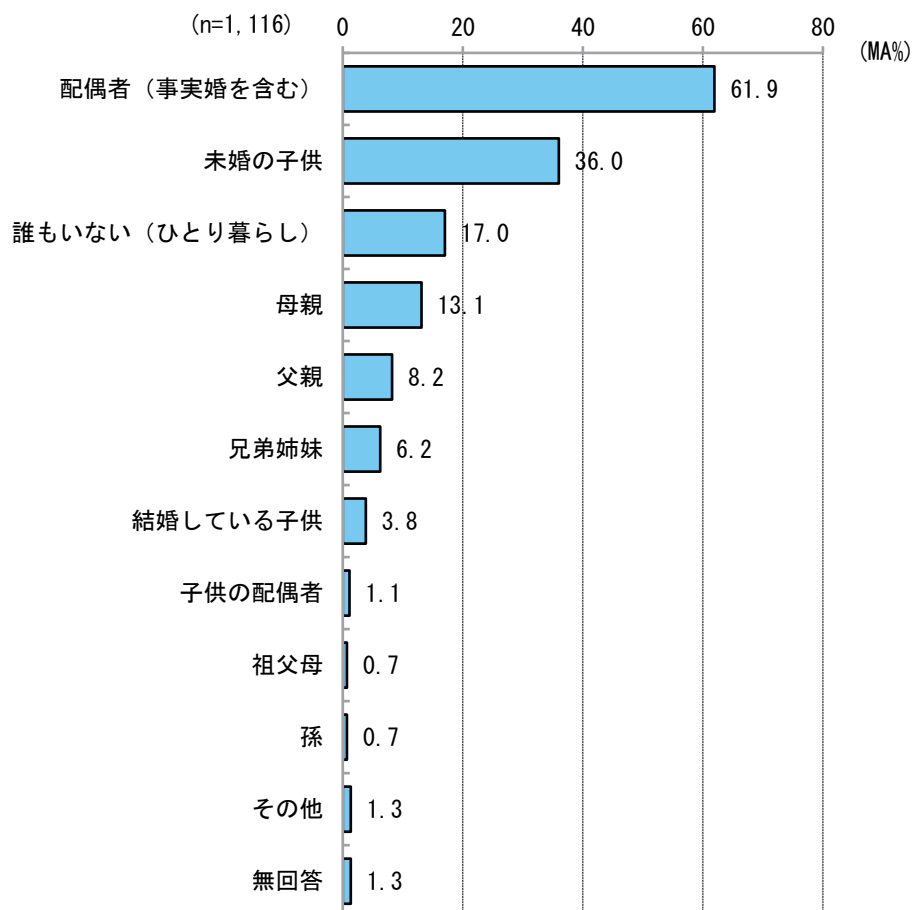


(3) 同居家族

問3 あなたと一緒に暮らしている人についてお答えください。

問3-1 一緒に暮らしている人はどなたですか。あなたからみて続柄でお答えください。
(〇はいくつでも)

【図表1-3 同居家族】

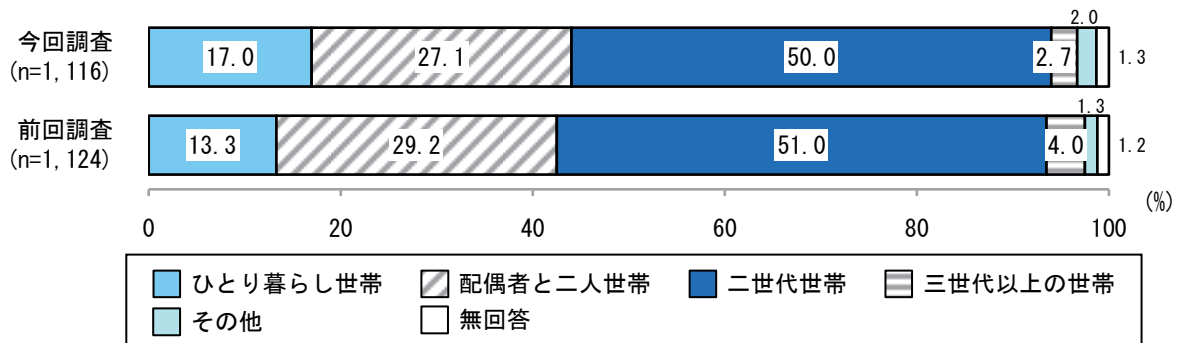


同居している人では「配偶者(事実婚を含む)」が61.9%で最も多く、次いで「未婚の子供」が36.0%、「誰もいない(ひとり暮らし)」が17.0%、「母親」が13.1%となっています。(図表1-3)

同居家族から家族構成をみると、「二世帯世帯」が50.0%で最も多く、次いで「配偶者と二人世帯」が27.1%、「ひとり暮らし世帯」が17.0%となっています。

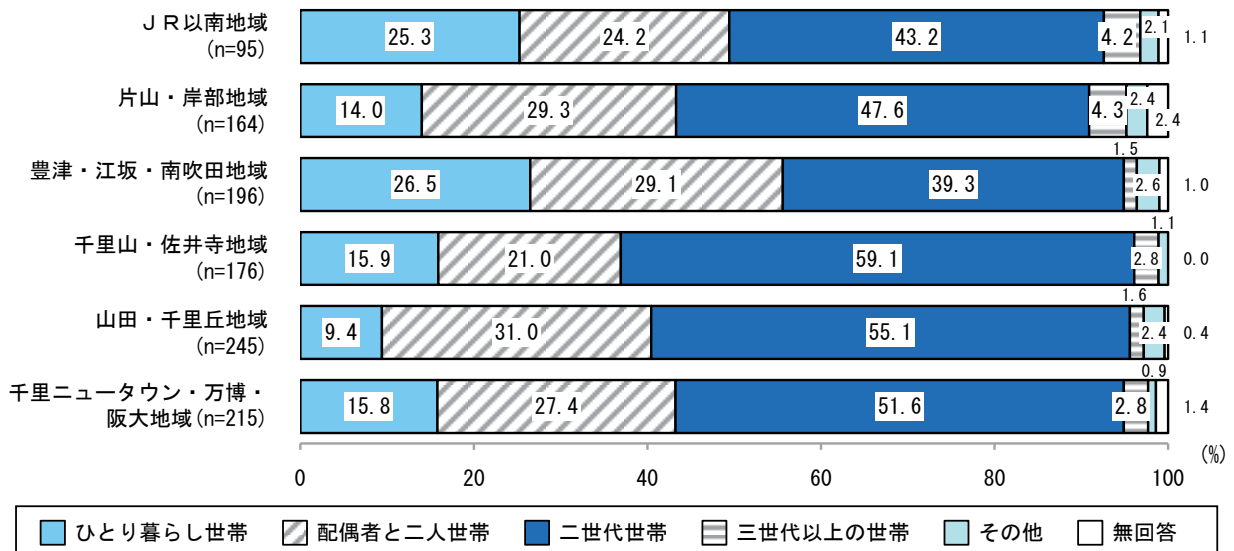
前回調査と比較すると、「ひとり暮らし世帯」は前回（13.3%）より3.7ポイント高くなっています。（図表1-3-1）

【図表1-3-1 家族構成（経年比較）】



家族構成を居住地域別で見ると、いずれの地域も「二世帯世帯」が最も多く、なかでも千里山・佐井寺地域が59.1%で最も高くなっています。「ひとり暮らし世帯」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が26.5%で最も高く、次いでJR以南地域が25.3%となっています。「配偶者と二人世帯」の割合は山田・千里丘地域が31.0%で最も高くなっています。（図表1-3-1-1）

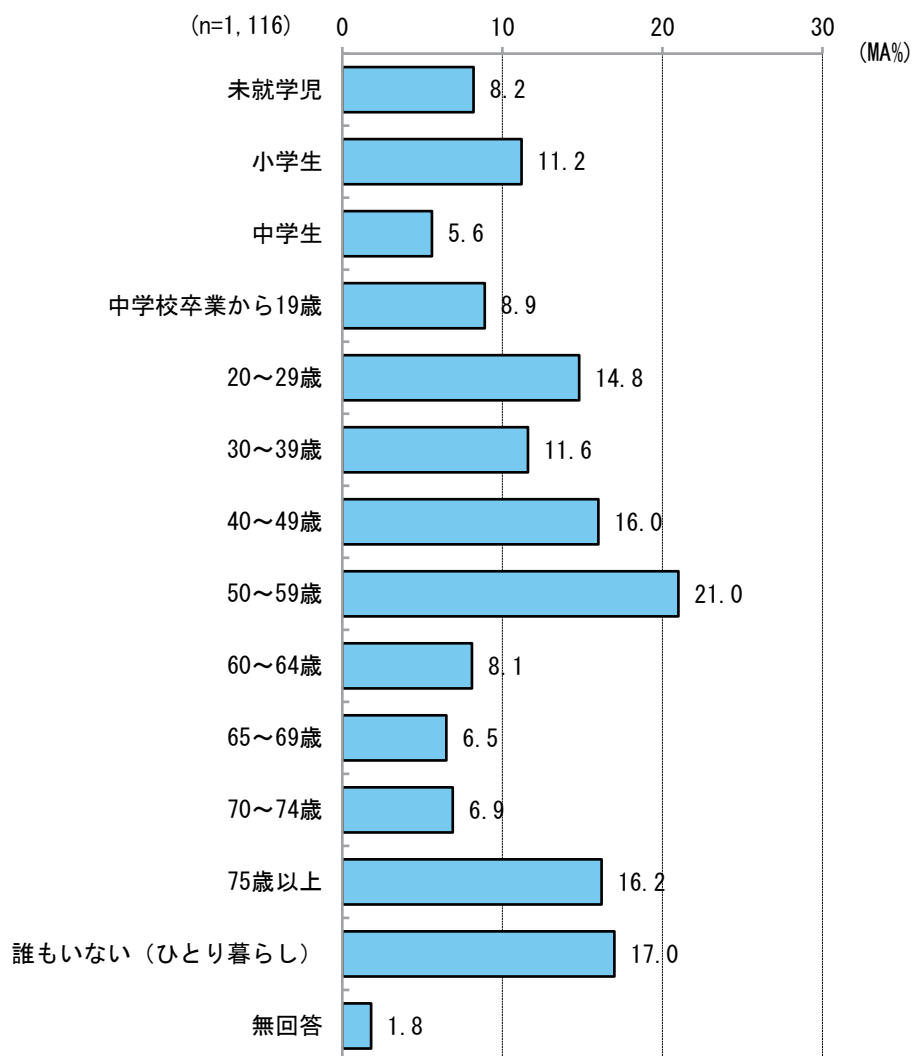
【図表1-3-1-1 居住地域別 家族構成（経年比較）】



(4) 同居者の年齢や属性

問3-2 一緒に暮らしている人の年齢や属性を教えてください。(〇はいくつでも)

【図表1-4 同居者の年齢や属性】

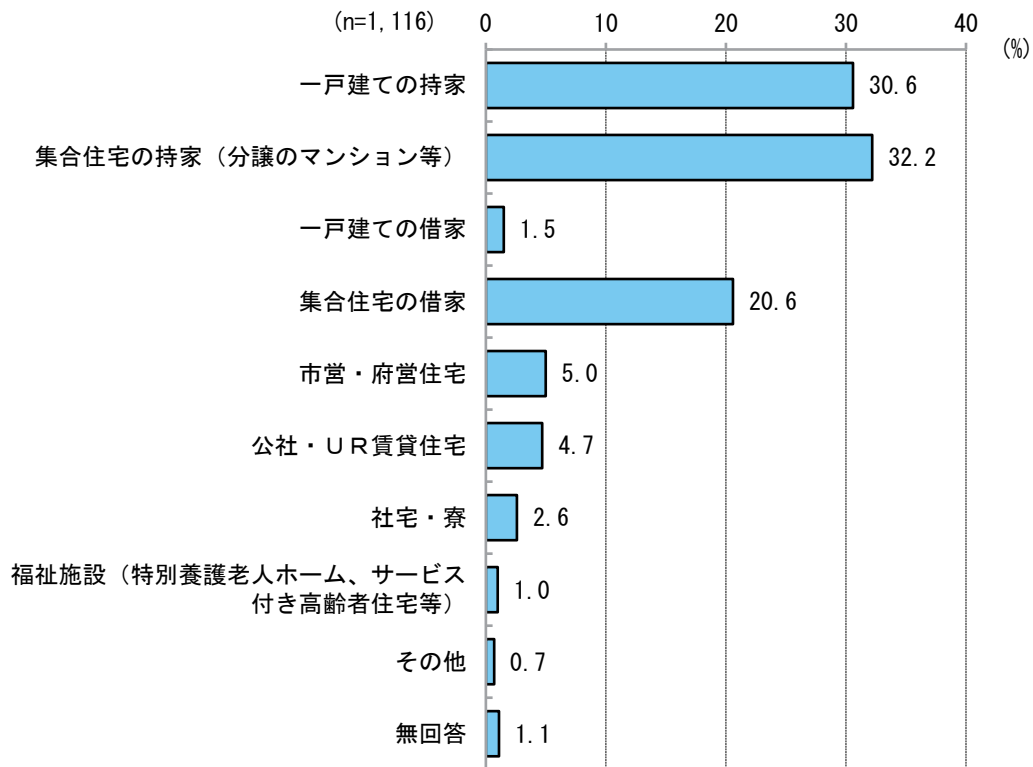


同居者の年齢や属性は、「50~59歳」が21.0%で最も多く、次いで「誰もいない(ひとり暮らし)」が17.0%、「75歳以上」が16.2%、「40~49歳」が16.0%となっています。(図表1-4)

(5) 現在の住まい

問4 現在の住まいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

【図表1-5 現在の住まい】

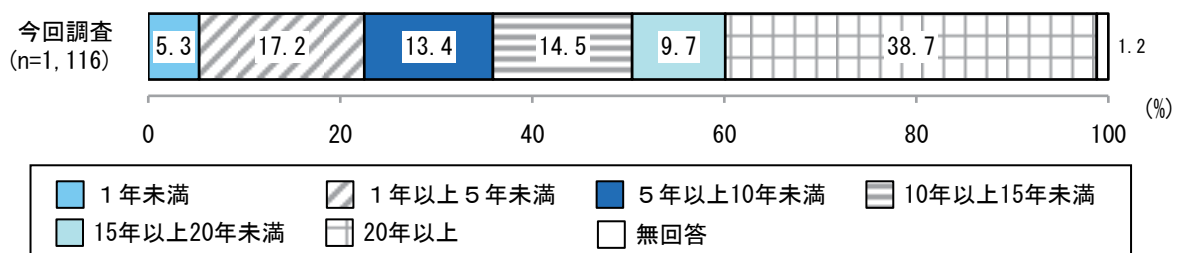


現在の住まいについては、「集合住宅の持家 (分譲のマンション等)」が32.2%で最も多く、次いで「一戸建ての持家」が30.6%、「集合住宅の借家」が20.6%となっており、「一戸建ての持家」と「集合住宅の持家 (分譲のマンション等)」をあわせた持家率は62.8%となっています。(図表1-5)

(6) 現在の住まいでの居住年数

問5 現在の住まいには、何年間お住まいですか。(○は1つ)

【図表1-6 現在の住まいの居住年数】

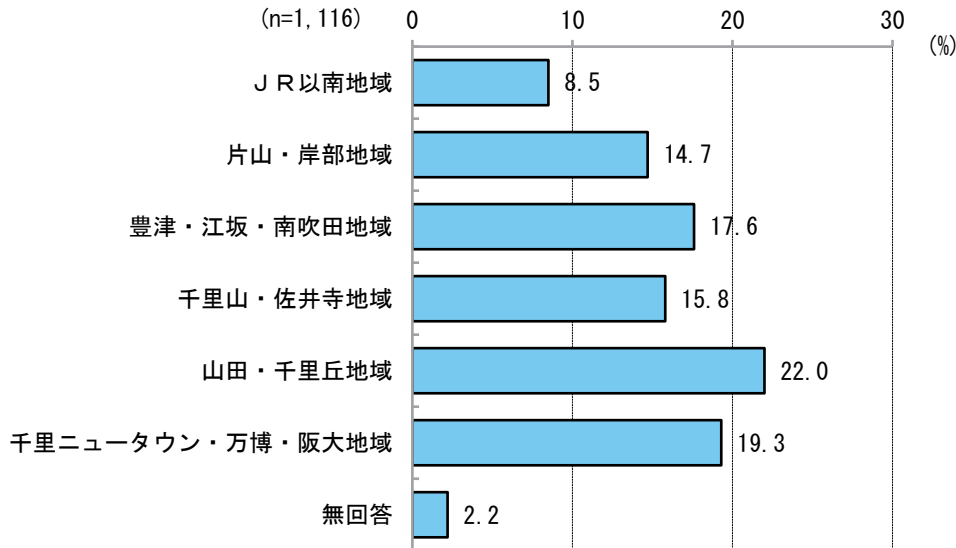


現在の住まいでの居住年数は、「20年以上」が38.7%で最も多く、次いで「1年以上5年未満」が17.2%、「10年以上15年未満」が14.5%となっています。(図表1-6)

(7) 居住地域

問6 あなたはどちらの地域にお住まいですか。(1～6の地域のなかから○は1つ)

【図表1-7 居住地域】

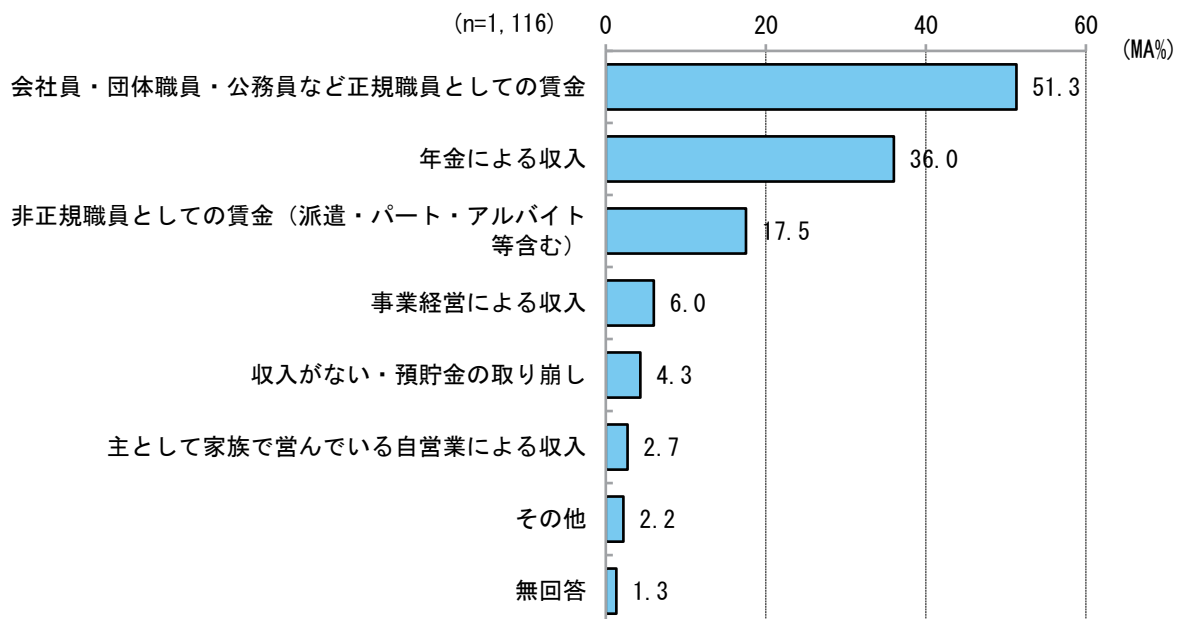


回答者の居住地域は、「山田・千里丘地域」が22.0%で最も多く、次いで「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が19.3%、「豊津・江坂・南吹田地域」が17.6%、「千里山・佐井寺地域」が15.8%、「片山・岸部地域」が14.7%となっています。(図表1-7)

(8) 世帯の主な収入

問7 あなたの世帯の主な収入についてお答えください。(○はいくつでも)

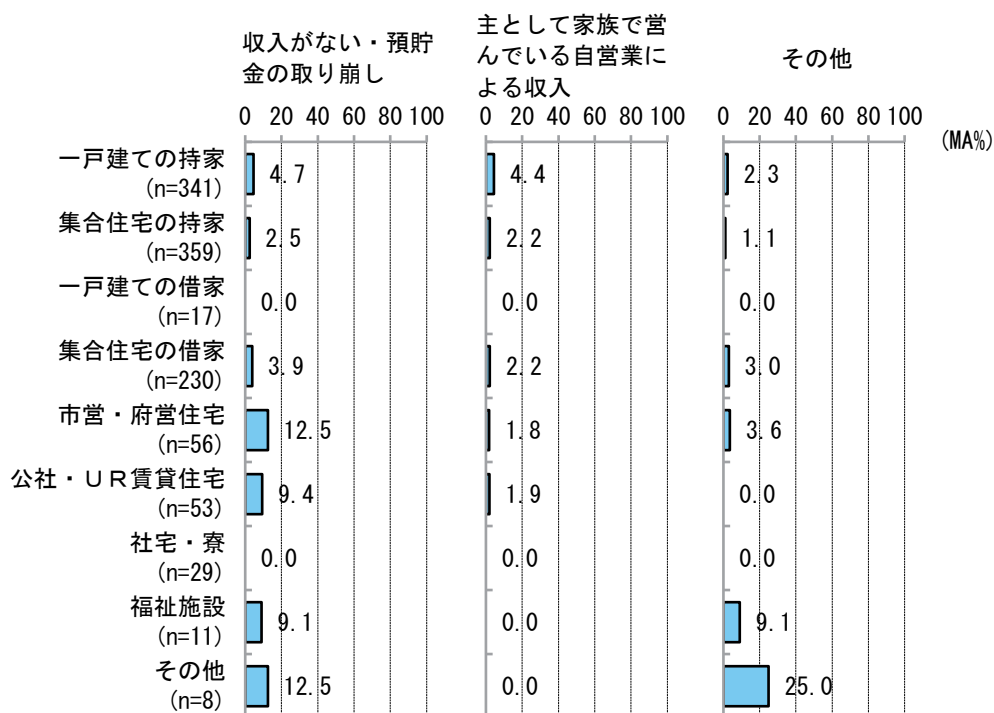
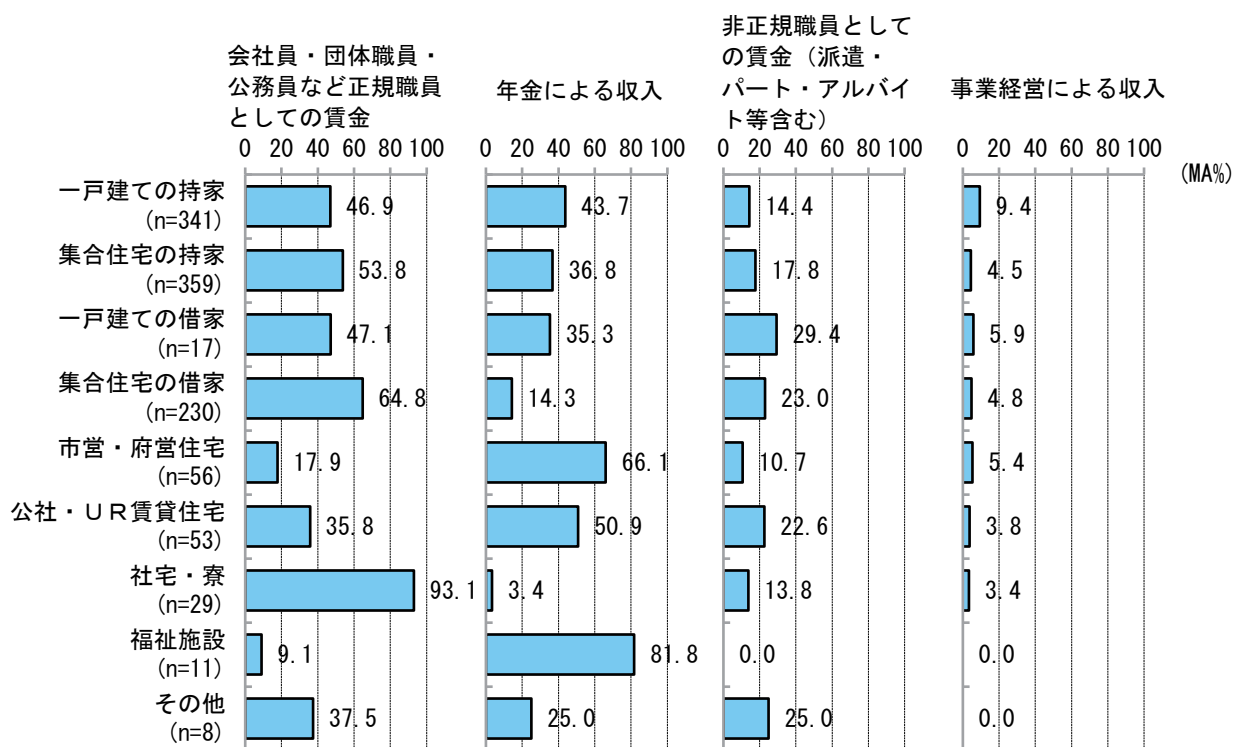
【図表1-8 世帯の主な収入】



世帯の主な収入については、「会社員・団体職員・公務員など正規職員としての賃金」が51.3%で最も多く、次いで「年金による収入」が36.0%、「非正規職員としての賃金（派遣・パート・アルバイト等含む）」が17.5%となっています。（図表1-8）

現在の住まい別でみると、市営・府営住宅、公社・UR賃貸住宅、福祉施設では「年金による収入」が最も多く、それ以外の住まいでは「会社員・団体職員・公務員など正規職員としての賃金」が最も多くなっています。（図表1-8-1）

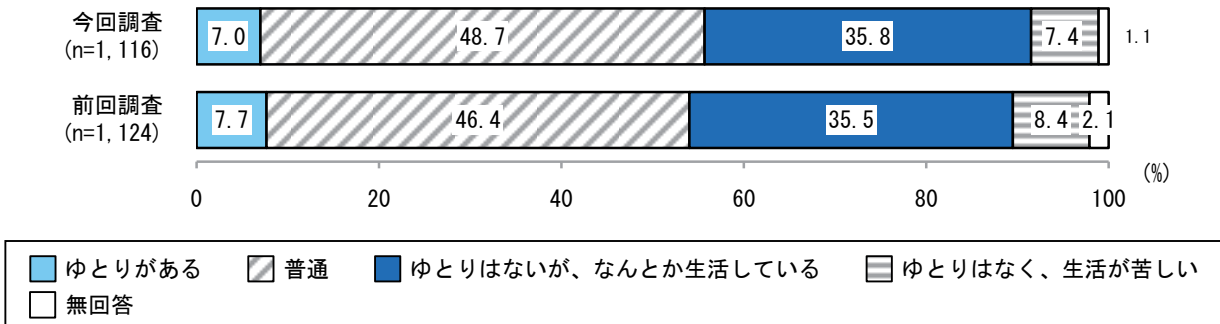
【図表1-8-1 現在の住まい別 世帯の主な収入】



(9) 経済的な状況

問8 あなたの生活の経済的な状況について、どのように感じていますか。(○は1つ)

【図表1-9 経済的な状況（経年比較）】

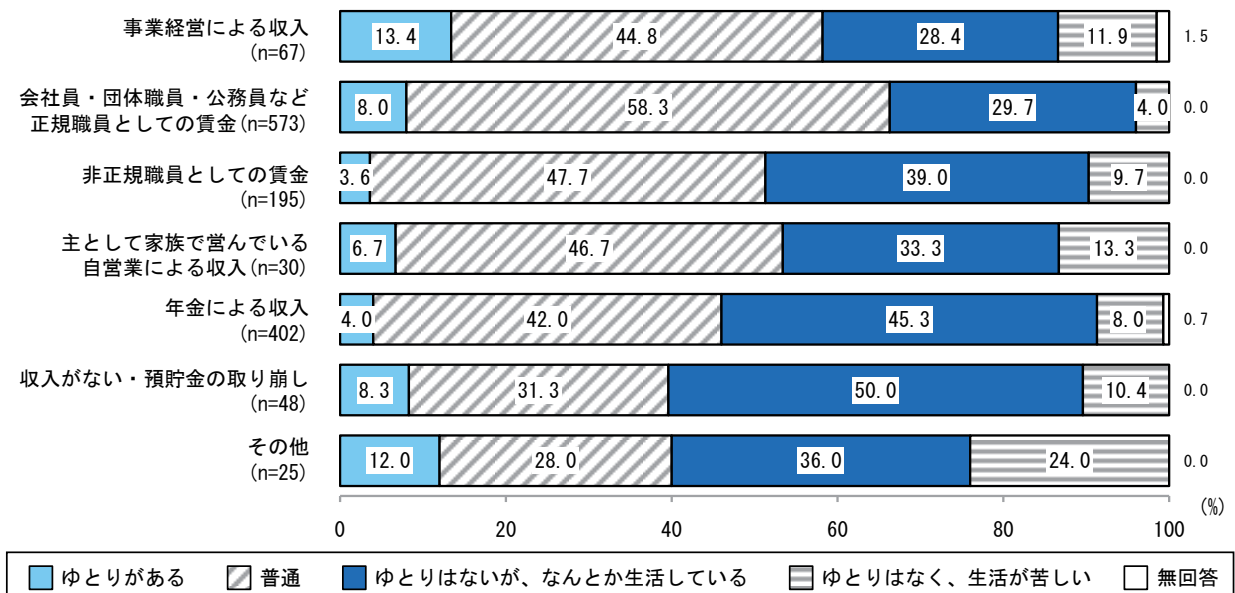


経済的な状況については、「普通」が48.7%で最も多く、次いで「ゆとりはないが、なんとか生活している」が35.8%、「ゆとりはなく、生活が苦しい」が7.4%で、「ゆとりはないが、なんとか生活している」と「ゆとりはなく、生活が苦しい」をあわせた『ゆとりがない』は43.2%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差はみられません。(図表1-9)

世帯の主な収入別で見ると、年金による収入と収入がない・預貯金の取り崩しは「ゆとりはないが、なんとか生活している」が最も多く、4割以上となっています。(図表1-9-1)

【図表1-9-1 世帯の主な収入別 経済的な状況】

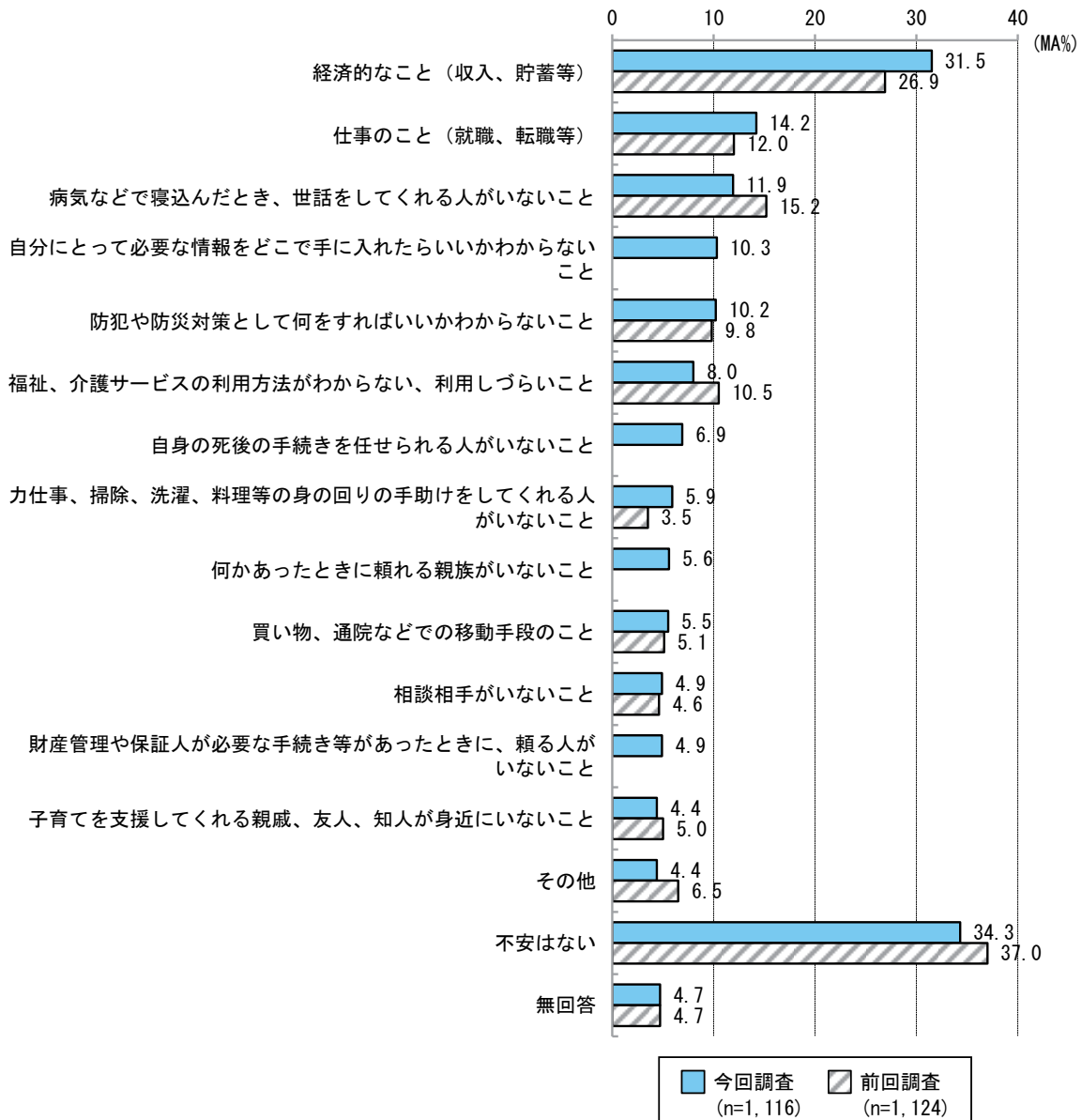


2 相談や情報の入手などについて

(1) 日常生活で困っていることや不安なこと

問9 日常生活で困っていることや不安なことはありますか。(○はいくつでも)

【図表2-1 日常生活で困っていることや不安なこと（経年比較）】



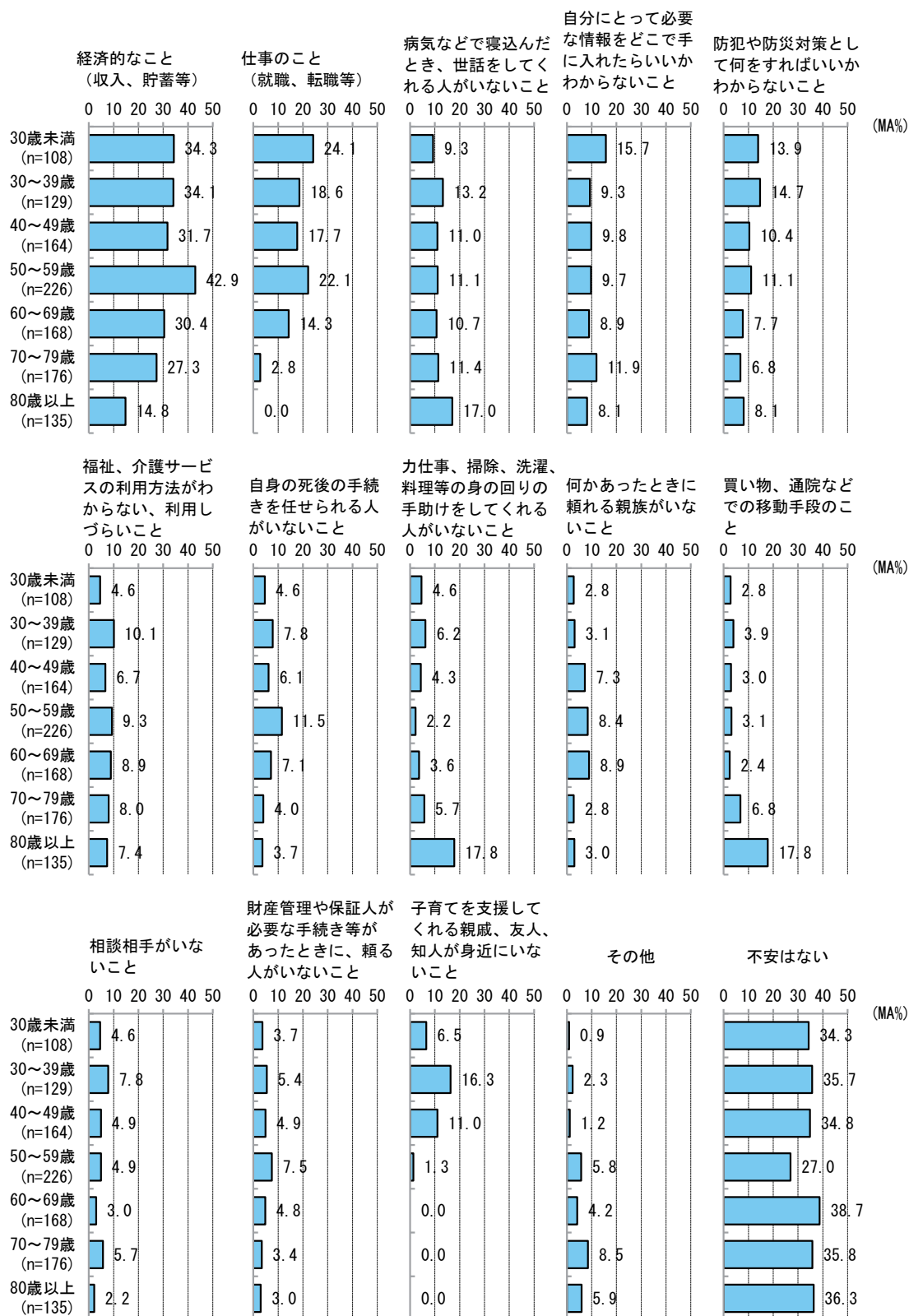
※前回調査の「力仕事、掃除、洗濯、料理等の手助けをしてくれる人がいないこと」は、今回調査では「力仕事、掃除、洗濯、料理等の身の回りの手助けをしてくれる人がいないこと」に変更しています。
 ※前回調査の「防犯や防災対策がわからないこと」は、今回調査では「防犯や防災対策として何をすればいいかわからないこと」に変更しています。
 ※「自分にとって必要な情報をどこで手に入れたらいいかわからないこと」、「自身の死後の手続きを任せられる人がいないこと」、「何かあったときに頼れる親族がいないこと」、「財産管理や保証人が必要な手続き等があったときに、頼る人がいないこと」は今回調査の新規項目です。

日常生活で困っていることや不安なことについては、「経済的なこと（収入、貯蓄等）」が31.5%で最も多く、次いで「仕事のこと（就職、転職等）」が14.2%、「病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいないこと」が11.9%となっています。

前回調査と比較すると、「経済的なこと（収入、貯蓄等）」が前回（26.9%）より4.6ポイント高くなっています。（図表2-1）

年齢別でみると、50～59歳は「経済的なこと（収入、貯蓄等）」（42.9%）が最も多く、他の年代と比べても高くなっています。それ以外の年代では「不安はない」が最も多く、30歳未満は同率の34.3%で「経済的なこと（収入、貯蓄等）」も最も多くなっています。（図表2-1-1）

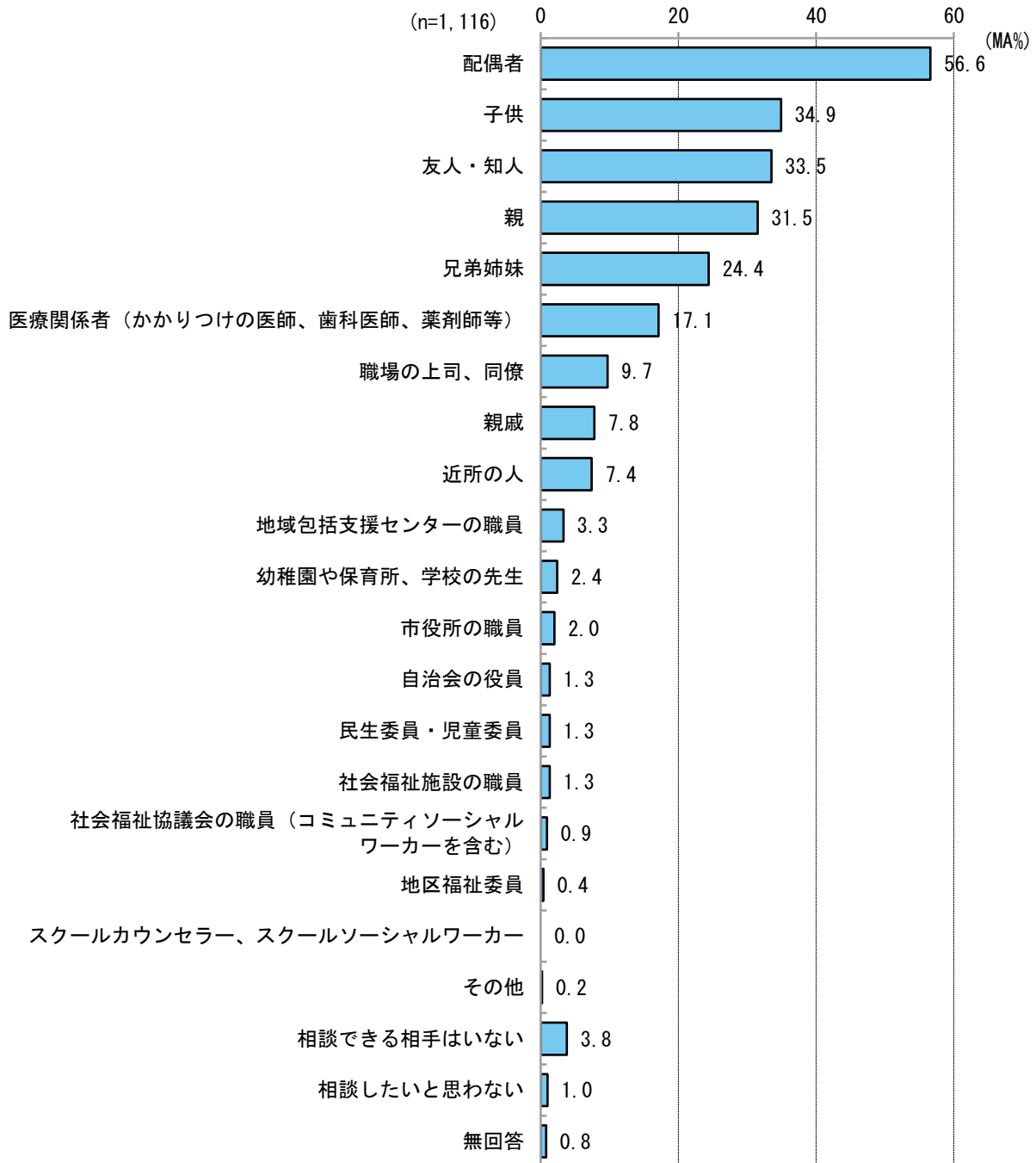
【図表2-1-1 年齢別 日常生活で困っていることや不安なこと】



(2) くらしや健康・福祉についての相談相手の有無

問10 あなたは、日頃、くらしや健康・福祉のことで相談できる相手はいますか。(○はいくつでも)

【図表2-2 くらしや健康・福祉についての相談相手の有無】



くらしや健康・福祉に関する相談相手については、「配偶者」が56.6%で最も多く、次いで「子供」が34.9%、「友人・知人」が33.5%、「親」が31.5%となっています。(図表2-2)

年齢別でみると、39歳までの年代では「親」が最も多く、40～69歳では「配偶者」となっています。70歳以上では「子供」が最も多く、次いで「配偶者」と「医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等）」が上位3位を占めています。「子供」と「医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等）」の割合は高齢になるほど高くなっていきますが、「親」の割合は高齢になるほど低くなっていきます。（図表2-2-1）

【図表2-2-1 年齢別 くらしや健康・福祉についての相談相手の有無（上位10項目）】

（単位：MA%）

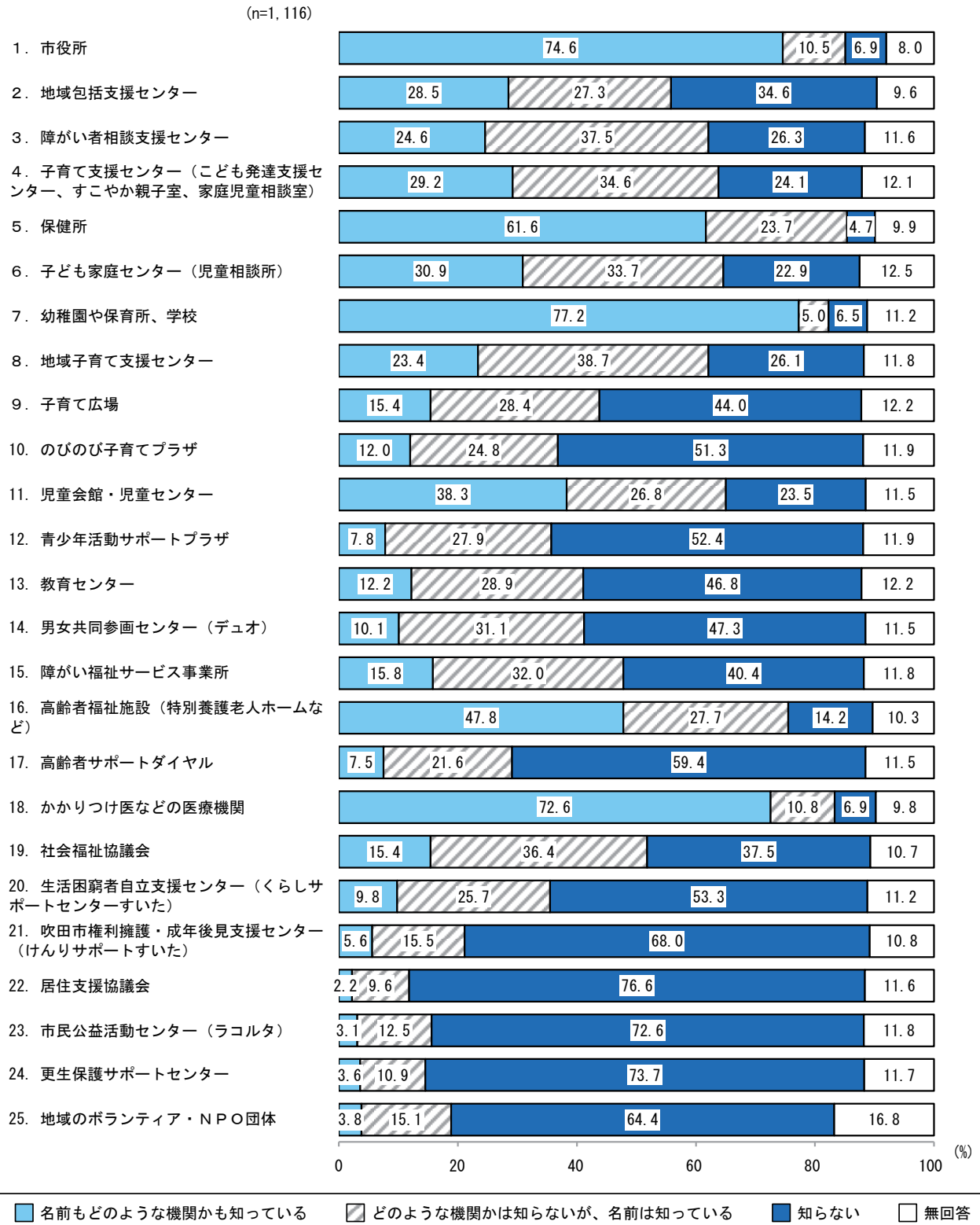
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
30歳未満 (n=108)	親 82.4	友人・知人 43.5	兄弟姉妹 28.7	配偶者 16.7	親戚 9.3
30～39歳 (n=129)	親 69.8	配偶者 59.7	友人・知人 42.6	兄弟姉妹 27.1	職場の上司、同僚 18.6
40～49歳 (n=164)	配偶者 75.0	親 53.0	友人・知人 35.4	兄弟姉妹 25.0	職場の上司、同僚 19.5
50～59歳 (n=226)	配偶者 65.0	友人・知人 36.3	親 31.0	子供 30.1	兄弟姉妹 29.2
60～69歳 (n=168)	配偶者 66.7	子供 49.4	友人・知人 35.7	兄弟姉妹 29.2	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等） 17.9
70～79歳 (n=176)	子供 61.9	配偶者 59.1	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等） 32.4	友人・知人 30.1	兄弟姉妹 21.0
80歳以上 (n=135)	子供 78.5	配偶者/医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等） 32.6	地域包括支援センターの職員 12.6	友人・知人 11.9	

	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
30歳未満 (n=108)	幼稚園や保育所、学校の先生 6.5	職場の上司、同僚 5.6	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等） 2.8	相談できる相手はいない／相談したいと思わない 1.9	
30～39歳 (n=129)	幼稚園や保育所、学校の先生 7.0	近所の人 6.2	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等）／親戚 5.4	市役所の職員 3.9	
40～49歳 (n=164)	子供 8.5	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師） 6.7	近所の人／幼稚園や保育所、学校の先生 6.1	親戚 5.5	
50～59歳 (n=226)	医療関係者（かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師） 15.5	職場の上司、同僚 13.7	親戚 10.6	近所の人／相談できる相手はいない 7.1	
60～69歳 (n=168)	親 8.9	近所の人 8.3	職場の上司、同僚 7.7	親戚 7.1	地域包括支援センターの職員 4.2
70～79歳 (n=176)	近所の人 11.9	親戚／地域包括支援センターの職員 5.1	相談できる相手はいない 3.4	民生委員・児童委員 2.8	
80歳以上 (n=135)	親戚 11.1	兄弟姉妹／近所の人 8.9	社会福祉施設の職員 5.9	自治会の役員／民生委員・児童委員 4.4	

(3) くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）の認知度

問11 あなたは、くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）として、知っているものはありますか。
 (1～25のそれぞれの相談窓口（相談先）について○を1つずつつけてください。)

【図表2-3 くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）の認知度】



くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況についてたずねました。

「名前もどのような機関かも知っている」の割合は、『7. 幼稚園や保育所、学校』(77.2%)が最も高く、次いで『1. 市役所』(74.6%)、『18. かかりつけ医などの医療機関』(72.6%)、『5. 保健所』(61.6%)、『16. 高齢者福祉施設(特別養護老人ホームなど)』(47.8%)となっています。

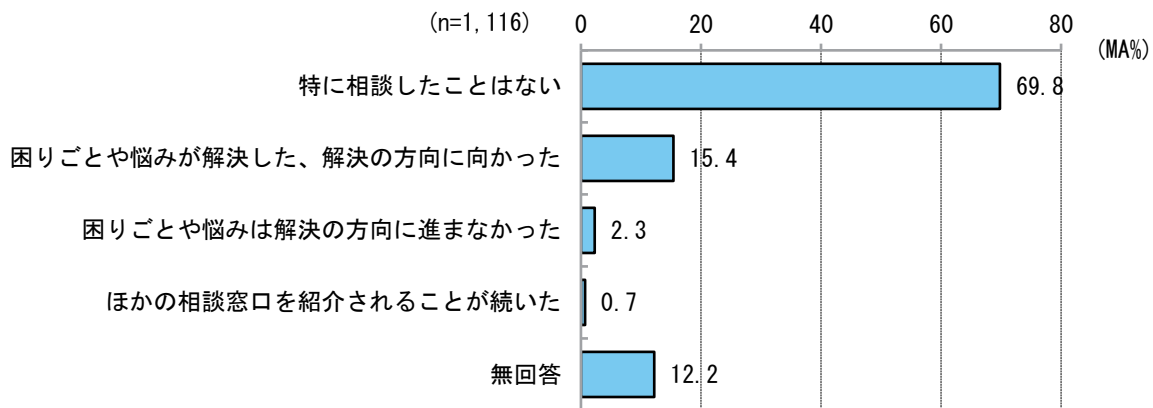
「名前もどのような機関かも知っている」と「どのような機関かは知らないが、名前は知っている」をあわせた認知度は、『5. 保健所』(85.3%)が最も高く、次いで『1. 市役所』(85.1%)、『18. かかりつけ医などの医療機関』(83.4%)となっています。

一方、「知らない」の割合は、『22. 居住支援協議会』(76.6%)が最も高く、次いで『24. 更生保護サポートセンター』(73.7%)、『23. 市民公益活動センター(ラコルタ)』(72.6%)、『21. 吹田市権利擁護・成年後見支援センター(けんりサポートすいた)』(68.0%)となっています。(図表2-3)

(4) 相談窓口に相談した結果

問12 あなたやご家族は、くらしや健康・福祉のことで問11の相談窓口（相談先）に相談した結果、解決しましたか。（〇はいくつでも）

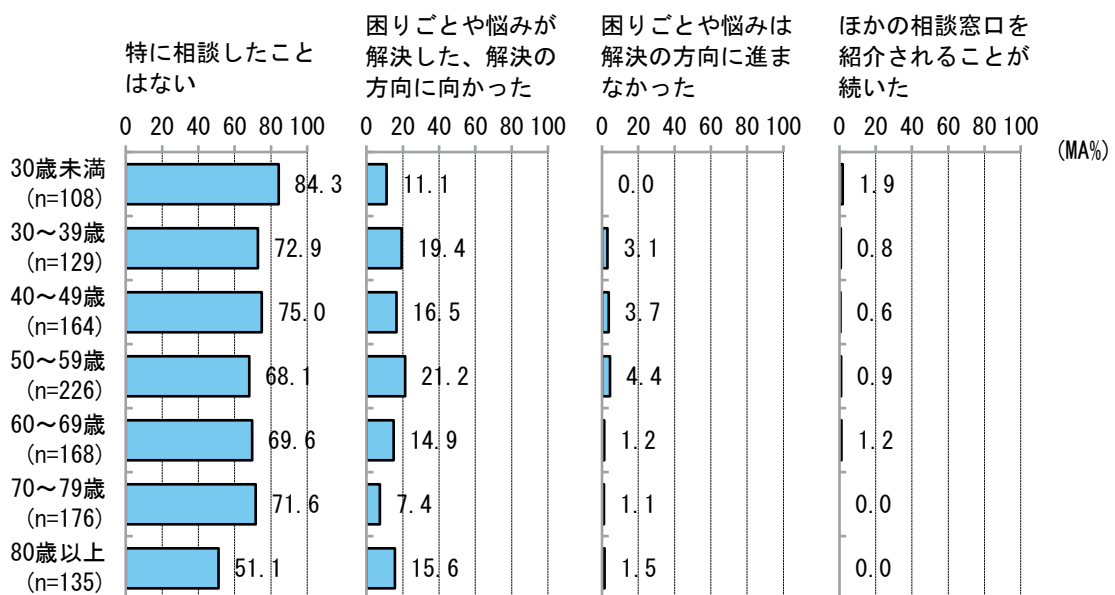
【図表2-4 相談窓口に相談した結果】



相談窓口（相談先）に相談した結果については、「特に相談したことはない」が69.8%で最も多く、次いで「困りごとや悩みが解決した、解決の方向に向かった」が15.4%、「困りごとや悩みは解決の方向に進まなかった」が2.3%となっています。（図表2-4）

年齢別でみると、いずれの年代も「特に相談したことはない」が最も多く、30歳未満が84.3%で最も高くなっています。「困りごとや悩みが解決した、解決の方向に向かった」の割合は50～59歳が21.2%で最も高く、次いで30～39歳が19.4%となっています。（図表2-4-1）

【図表2-4-1 年齢別 相談窓口に相談した結果】



(5) 相談窓口の対応

問12-1 その時の相談窓口の対応はどうでしたか。具体的にご記入ください。

相談窓口に相談した時の対応について、自由に記入いただいたところ、21件の回答があり、具体的な内容は以下のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤字・脱字は修正しています。

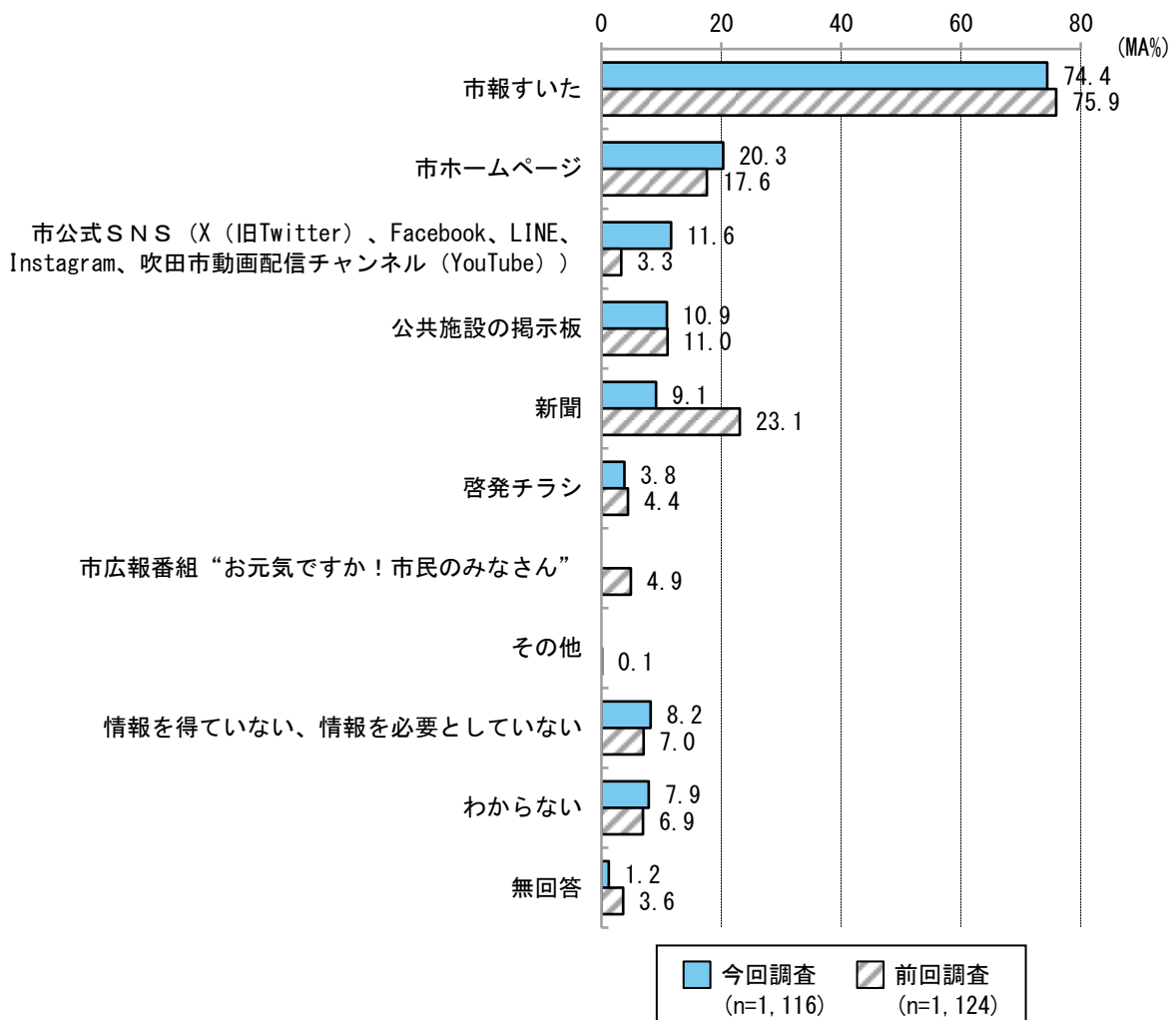
	具体的な意見
1	市役所の人は名前の記名もなく、都合が悪ければ返信もない。その他も同様、相談にならないことしかない。特に市役所の人に関しては、無責任なイメージしかない。
2	下の子が生まれたときに、上の子の赤ちゃん返りがひどく、何度か吹田市に電話で相談したが、上の子が幼稚園に入園するまで仕方がないといった内容で、解決しなかった。
3	冷やかな対応をとられ、二度と利用したくないと思った。
4	相談したが未解決、あきらめ。
5	相槌をうっただけで、助言や提案がなかった。早口の方が多く、聞き取れないことが多い。
6	話をよく聞いてくれた。
7	子供の発達について、集団検診で引っかかり(ことばの遅れ)、別室で話を聞いてもらいましたが、様子見てとだけ言われ、具体的に何をいつまで、どのように見れば良いのかなど指示がなく、後からどうすれば良かったのか・・・とギモンに思いました。私も第一子で経験もなく、言われるがままハイハイと答えてしまっていたのが悪いのですが、もう少し具体的にアドバイスいただけたらと思いました。その後、人よりは遅いもの話すようになり、今では問題ありません。
8	市役所、保健所などへたずねたが、解決せず。野良猫、野鳥(各種)増加するばかり。困っています。
9	夏の暑い時にエアコンを購入、一部でも補助金は出ないかと話したらそれは出ませんと言われました。
10	不登校の悩みはじっくりと聞いてもらえましたが、特に解決策はなかった(自分達で解決したので)(アドバイスのみ)。
11	一般的な事、無難な事しか言ってくれない。結局は解決にはならなかった。
12	丁寧でした。しかしすごく待たされました。
13	吹田市役所の無料弁護士相談に申し込んだ。窓口、弁護士さん共に対応はよかった。問題自体は解決したともまだ言えないが、話を聞いてもらえて助かった。
14	子どもの発達相談をし、話を聞いてくださった。親子教室への入室を案内された。
15	待たされる事が多く、窓口ごとに説明を求められ、大変だった。
16	子どもの不登校や発達障害の件で、教育センターに相談したことがあります。担当者に「お母さん大変ですね」と言われるだけで問題解決の方法には向かいませんでした。その時に「学びの森」など学校以外の居場所の存在を教えていただけたらよかったですのと思っています。不登校から数年経って学校からチラシをいただき存在を知ったのですが、担任は自分のクラスからそのような施設を利用する生徒が出ることを避けているように感じました。
17	担当者が多忙な上、半年程で異動になるので相談してもその場での対応で、引き継ぎはされないと思った。
18	相談をしたいことの前に 説明する時間だけが過ぎてしまい、次の相談の予約には1ヶ月後で、状況がまた変化しているので、説明から入り、本題になかなかとりつけず、結局具体的な解決策は立場的には提示できないようでした。相談する場所は そこではなかったようです。困っているときに、どこへ相談したらいいか、コーディネートをしてくれる存在がどこなのかがまず知りたい。
19	答えたく無い。
20	親身になってくれたが私の困り事はすぐには解決しないことが分かった。
21	何度も回された。

(6) くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法

問13 あなたは、市や地域団体、地域住民が発信している、くらしや健康・福祉に関する情報を何(どこ)から得ていますか。

(1) 市が発信する情報(〇はいくつでも)

【図表2-6-1 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法(市が発信する情報)(経年比較)】



※前回調査の「市公式SNS (twitter、Facebook、LINE)」は、今回調査では「市公式SNS (X (旧Twitter)、Facebook、LINE、Instagram、吹田市動画配信チャンネル (YouTube))」に変更しています。

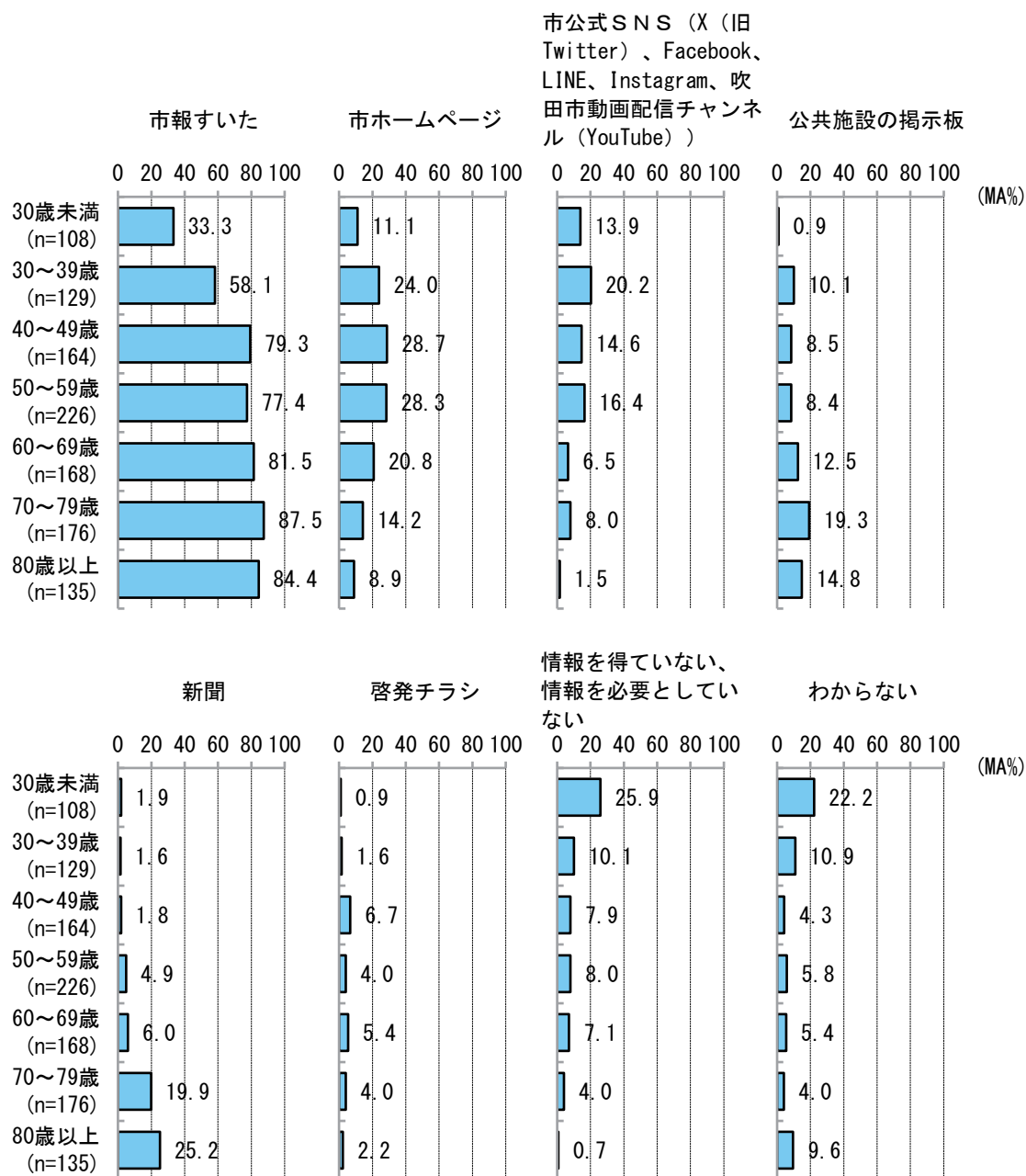
※前回調査の「市広報番組“お元気ですか！市民のみなさん”」、「その他」は、今回調査では設けていません。

市が発信するくらしや健康・福祉に関する情報の入手方法については、「市報すいた」が74.4%で最も多く、次いで「市ホームページ」が20.3%、「市公式SNS (X (旧Twitter)、Facebook、LINE、Instagram、吹田市動画配信チャンネル (YouTube))」が11.6%となっています。

前回調査と比較すると、「新聞」の割合は前回(23.1%)より14.0ポイント低くなっていますが、「市公式SNS (X (旧Twitter)、Facebook、LINE、Instagram、吹田市動画配信チャンネル (YouTube))」の割合は前回(3.3%)より8.3ポイント高くなっています。(図表2-6-1)

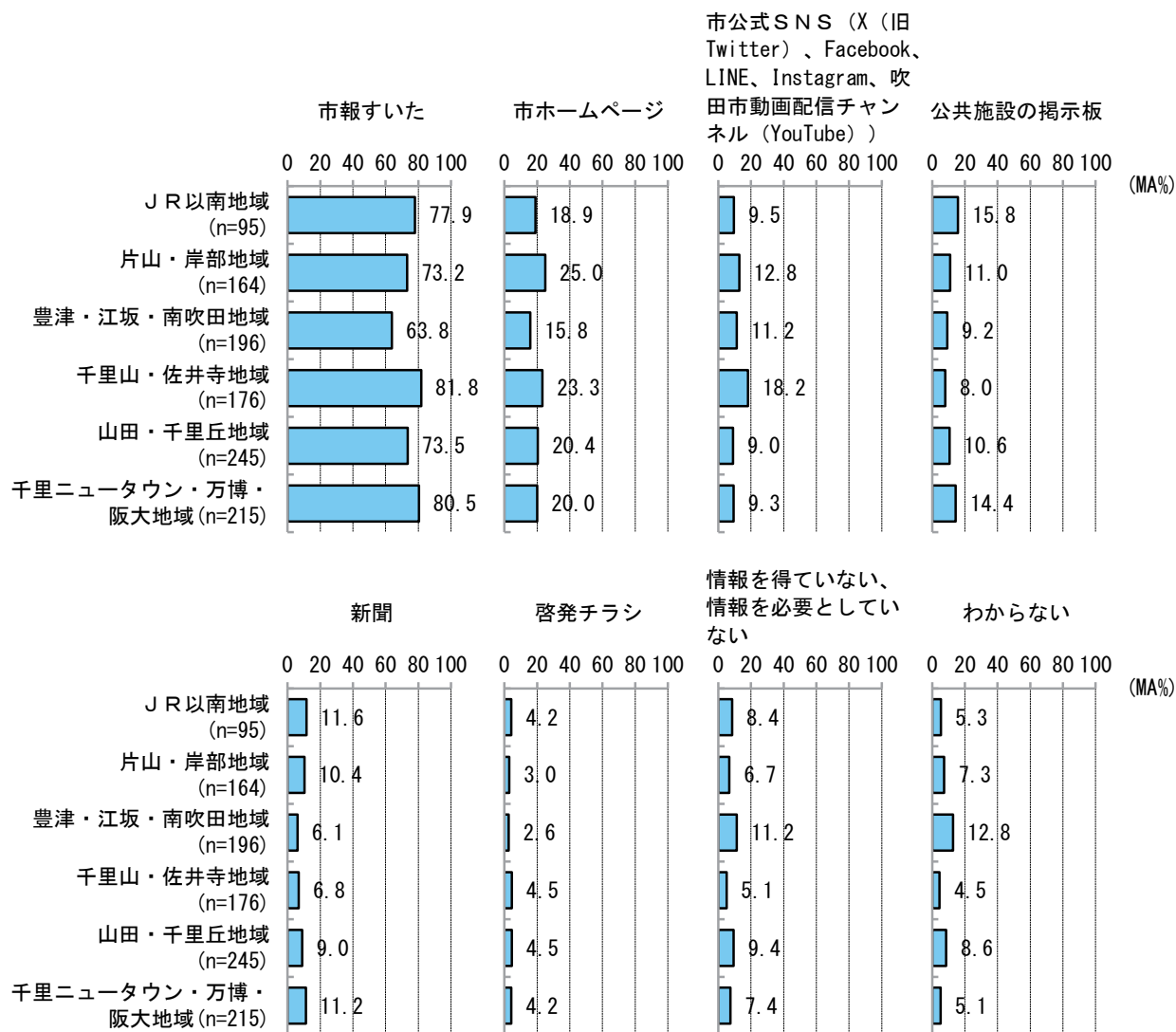
年齢別でみると、「市報すいた」は概ね高齢になるほど割合が高くなる傾向にあり、70～79歳が87.5%で最も高くなっています。「市ホームページ」の割合は40～49歳が28.7%で最も高く、「新聞」の割合は80歳以上が25.2%で最も高くなっています。(図表2-6-1-1)

【図表2-6-1-1 年齢別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）】



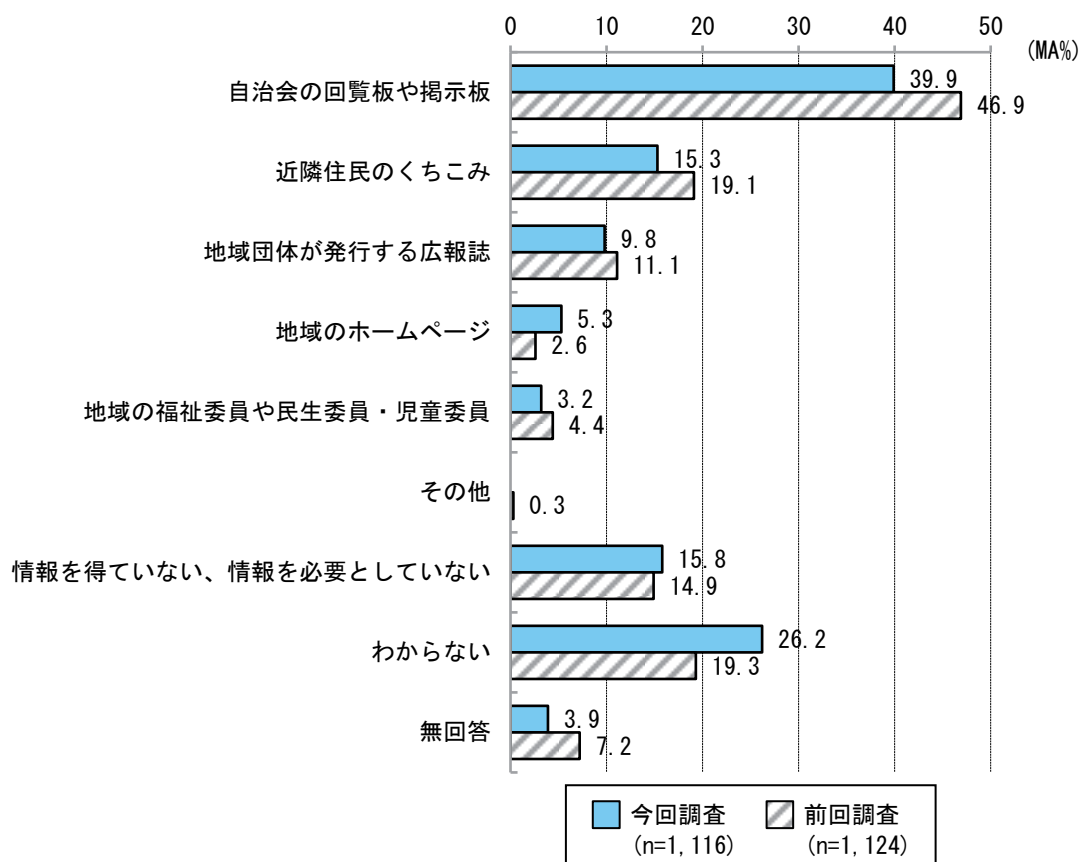
居住地域別でみると、「市報すいた」の割合は千里山・佐井寺地域（81.8%）が最も高く、「市ホームページ」の割合は片山・岸部地域（25.0%）、「公共施設の掲示板」はJR以南地域（15.8%）が最も高くなっています。（図表2-6-1-2）

【図表2-6-1-2 居住地域別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）】



(2) 地域団体や地域住民が発信する情報 (〇はいくつでも)

【図表2-6-2 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法 (地域団体や地域住民が発信する情報) (経年比較)】



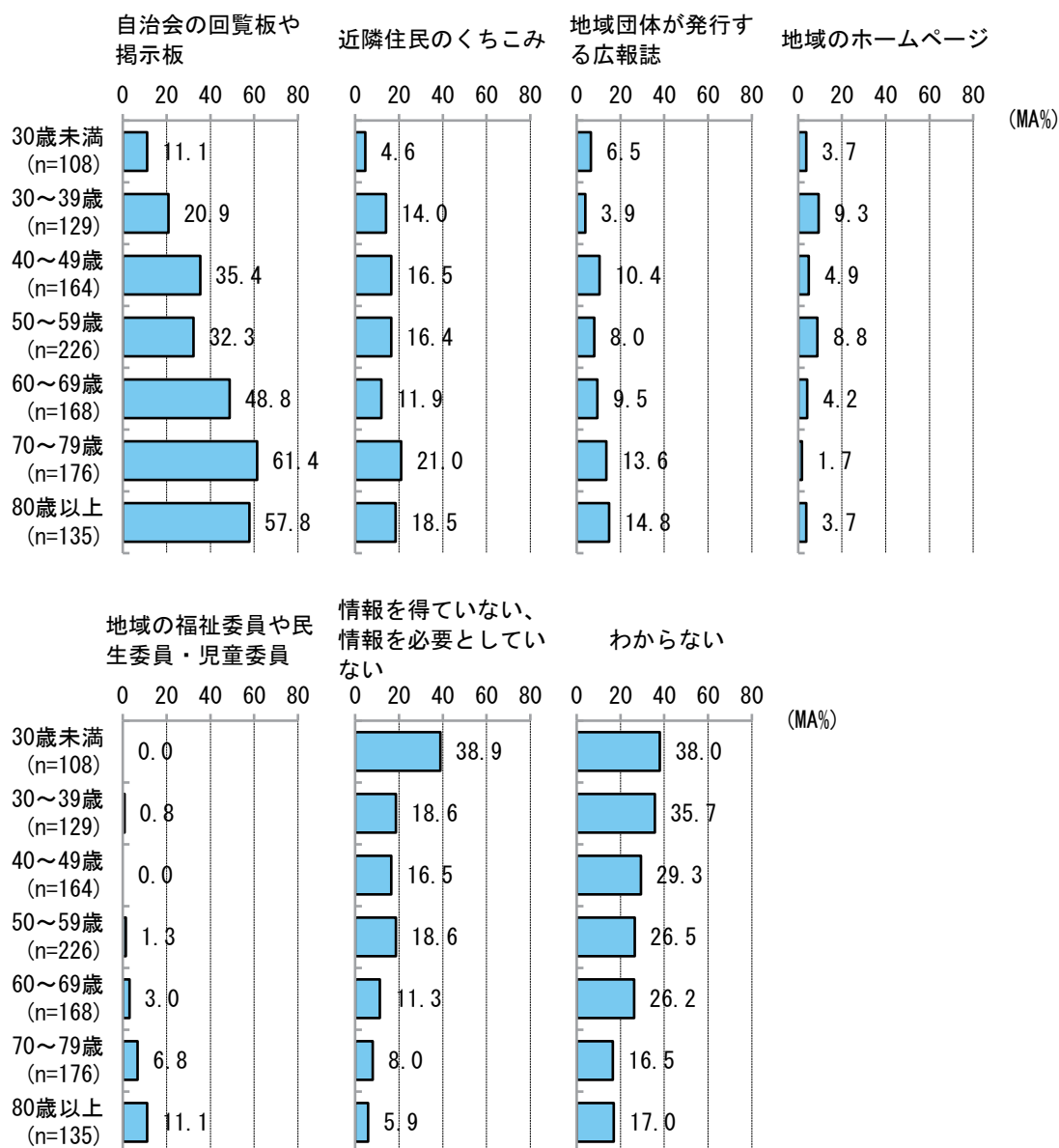
※前回調査の「その他」は、今回調査では設けていません。

地域団体や地域住民が発信する暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法については、「自治会の回覧板や掲示板」が39.9%で最も多く、次いで「近隣住民のくちこみ」が15.3%、「地域団体が発行する広報誌」が9.8%となっています。

前回調査と比較すると、「自治会の回覧板や掲示板」の割合は前回 (46.9%) より7.0ポイント低くなっています。(図表2-6-2)

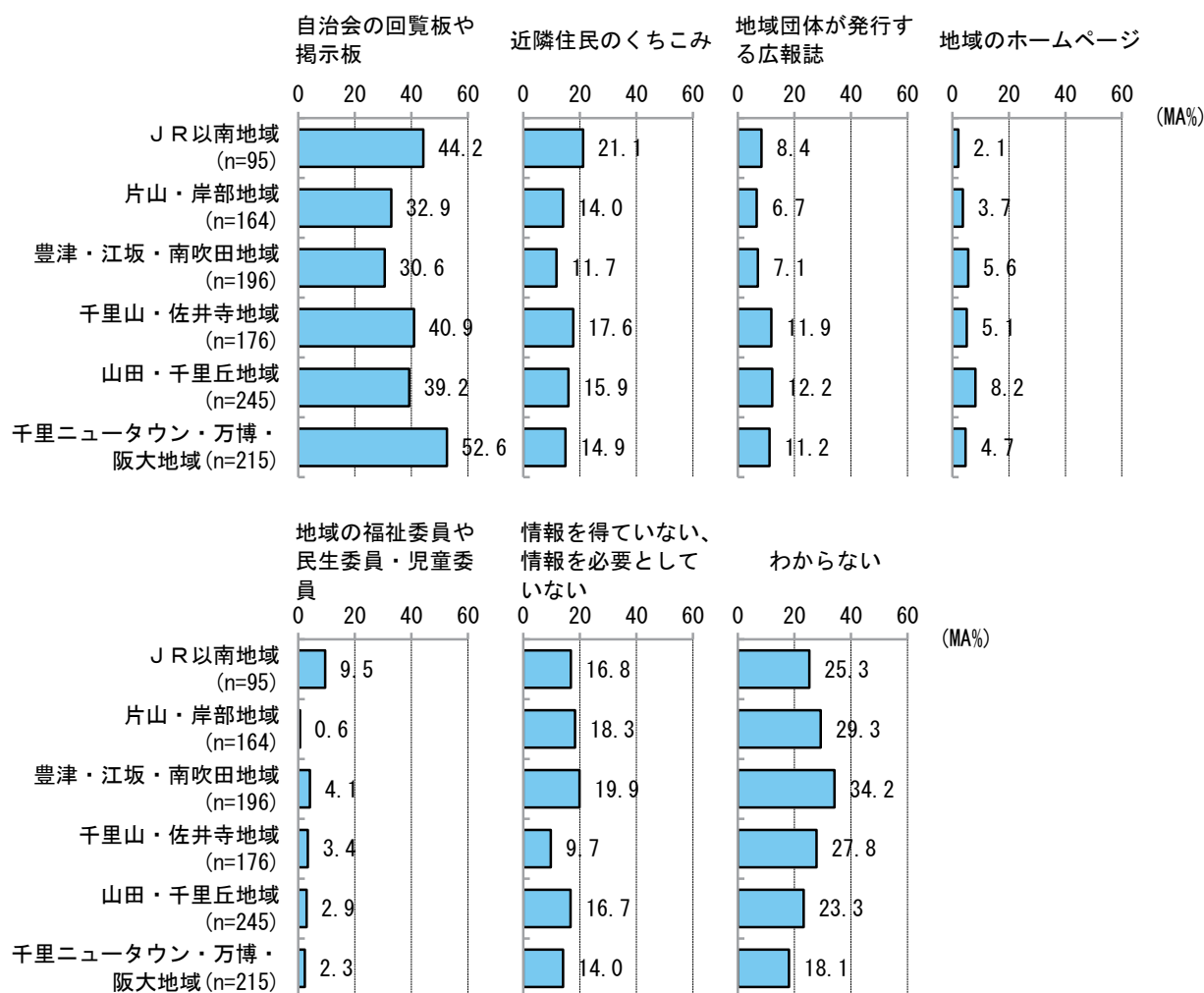
年齢別でみると、「自治会の回覧板や掲示板」の割合は概ね高齢になるほど高くなる傾向にあり、70～79歳が61.4%で最も高くなっています。「情報を得ていない、情報を必要としていない」の割合は30歳未満（38.9%）が最も高く、「わからない」も30歳未満（38.0%）が最も高くなっています。（図表2-6-2-1）

【図表2-6-2-1 年齢別 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法（地域団体や地域住民が発信する情報）】



居住地域別でみると、「自治会の回覧板や掲示版」の割合は千里ニュータウン・万博・阪大地域（52.6%）が最も高く、「近隣住民のくちこみ」と「地域の福祉委員や民生委員・児童委員」の割合はJR以南地域が最も高くなっています。（図表2-6-2-2）

【図表2-6-2-2 居住地域別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（地域団体や地域住民が発信する情報）】

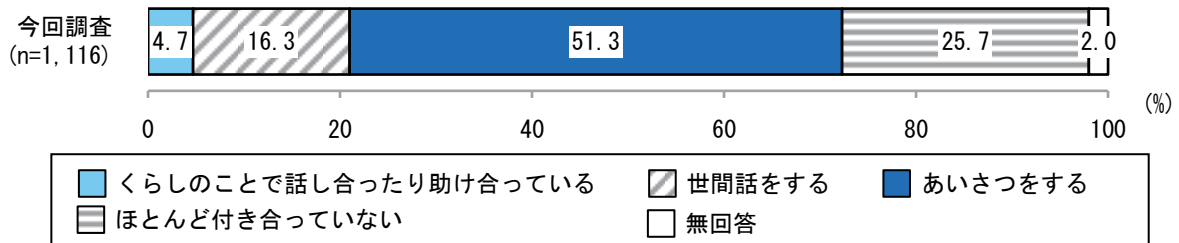


3 近所付き合いについて

(1) 近所付き合いの程度

問14 あなたは、日頃、近所の方とどのような付き合いをしていますか。(○は1つ)

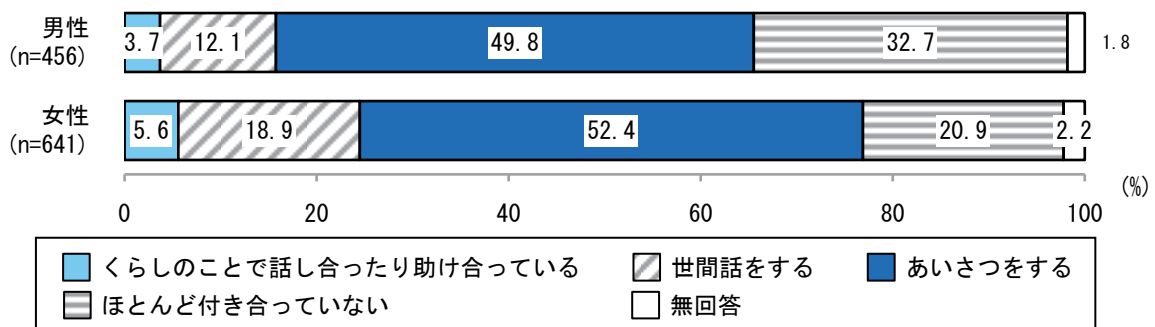
【図表3-1 近所付き合いの程度】



近所付き合いの程度については、「あいさつをする」が51.3%で最も多く、次いで「ほとんど付き合っていない」が25.7%、「世間話をする」が16.3%となっています。(図表3-1)

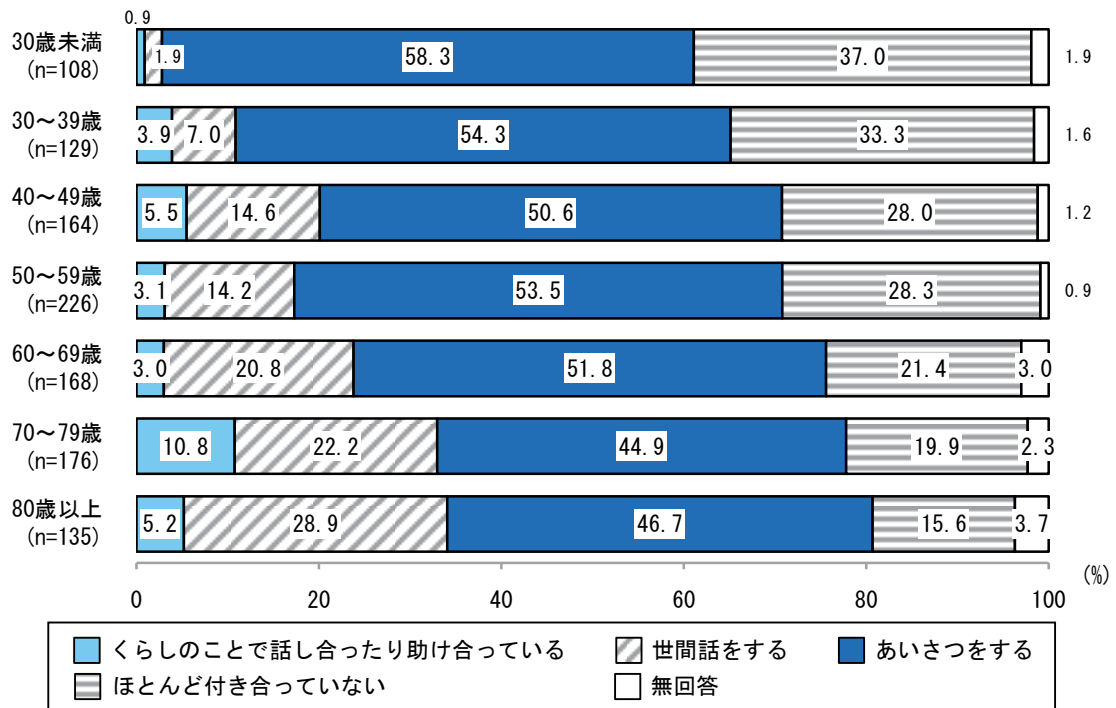
性別でみると、「ほとんど付き合っていない」の割合は女性(20.9%)より男性(32.7%)のほうが11.8ポイント高くなっています。(図表3-1-1)

【図表3-1-1 性別 近所付き合いの程度】



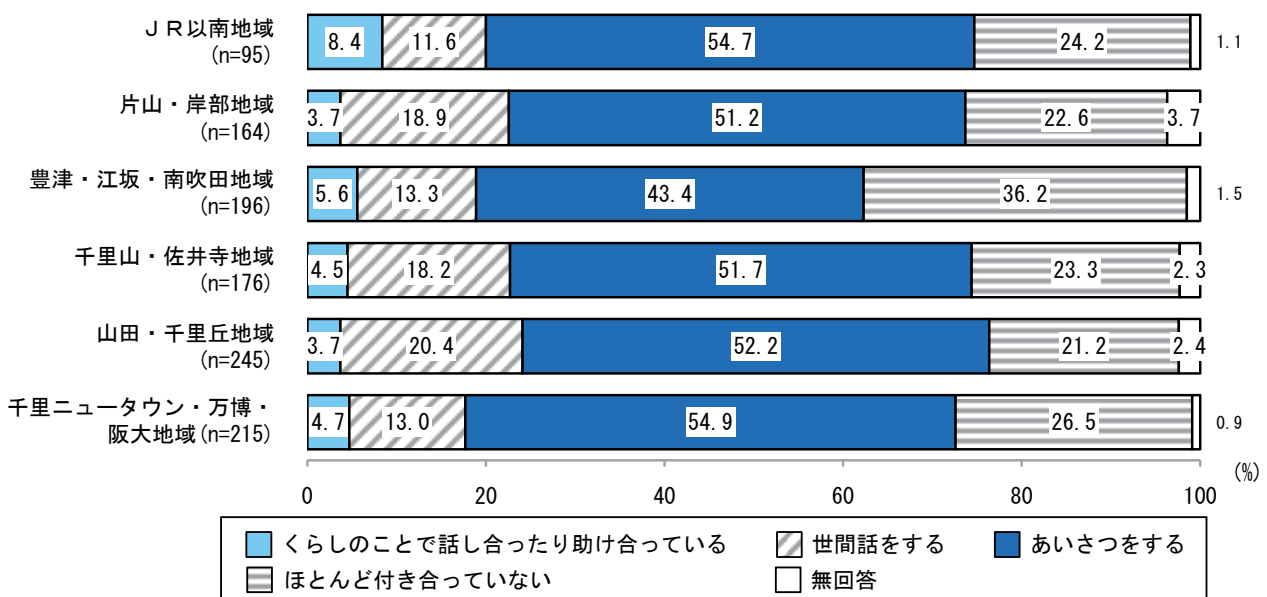
年齢別でみると、概ね高齢になるほど「世間話をする」の割合が高くなっていますが、「ほとんど付き合っていない」の割合は若い年代ほど高くなっています。(図表3-1-2)

【図表3-1-2 年齢別 近所付き合いの程度】



居住地域別でみると、「生活のことで話し合ったり助け合っている」の割合はJR以南地域(8.4%)で最も高く、「ほとんど付き合っていない」の割合は豊津・江坂・南吹田地域(36.2%)が最も高くなっています。(図表3-1-3)

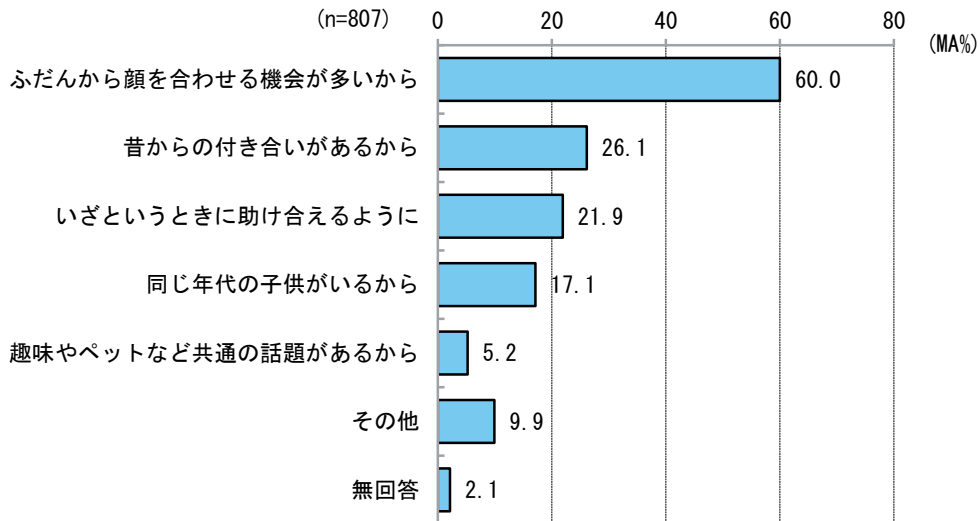
【図表3-1-3 居住地域別 近所付き合いの程度】



(2) 付き合っている理由

問14-1 問14で「1. 暮らしのことで話し合ったり助け合っている」「2. 世間話をする」「3. あいさつをする」と回答した方にお聞きします。そのように付き合っている理由は何ですか。(〇はいくつでも)

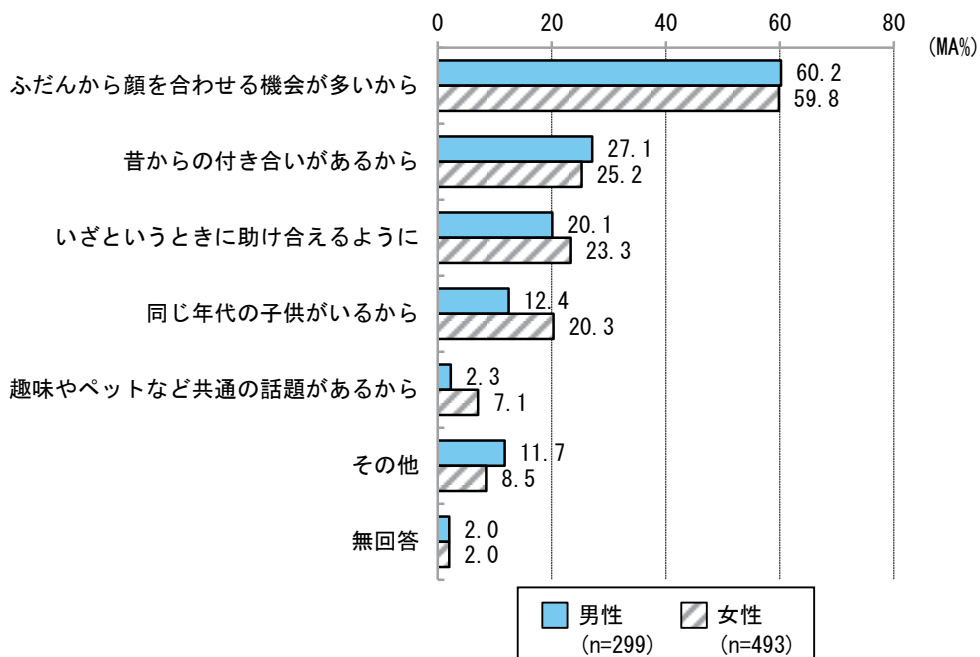
【図表3-2 付き合っている理由】



近所の人と付き合いをしていると回答した人に、その理由をたずねると、「ふだんから顔を合わせる機会が多いから」が60.0%で最も多く、次いで「昔からの付き合いがあるから」が26.1%、「いざというときに助け合えるように」が21.9%となっています。(図表3-2)

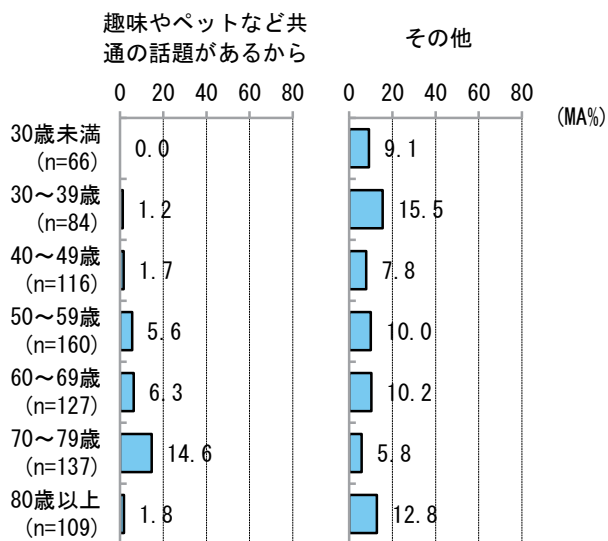
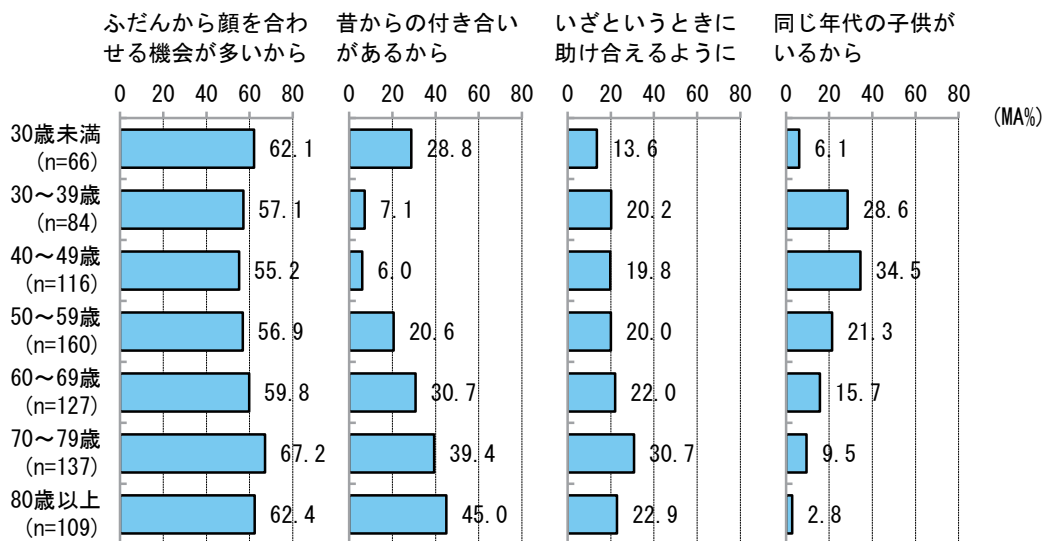
性別でみると、「同じ年代の子供がいるから」の割合は男性(12.4%)より女性(20.3%)のほうが7.9ポイント、「趣味やペットなど共通の話題があるから」の割合は男性(2.3%)より女性(7.1%)のほうが4.8ポイント、それぞれ高くなっています。(図表3-2-1)

【図表3-2-1 性別 付き合っている理由】



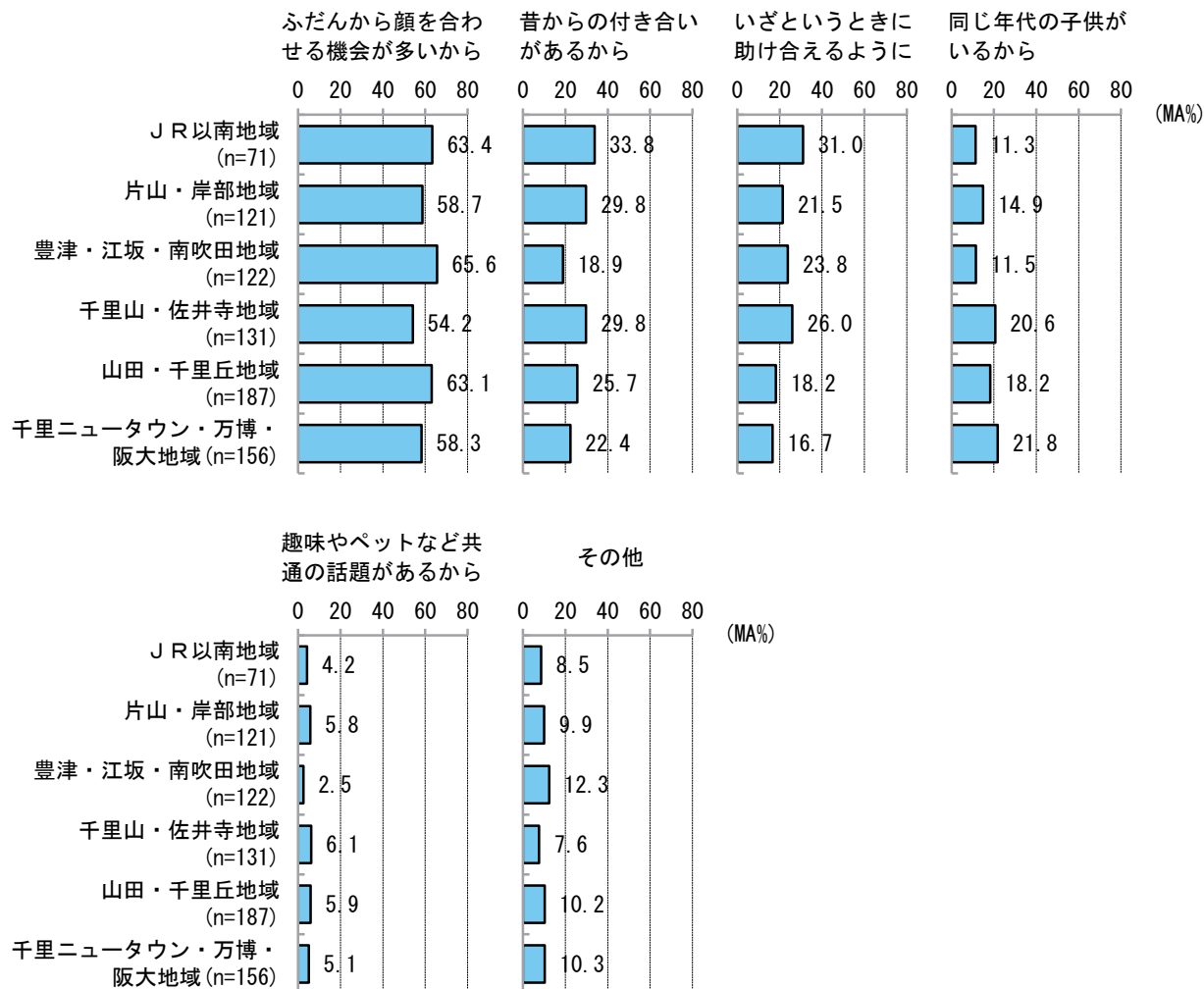
年齢別でみると、いずれの年代も「ふだんから顔を合わせる機会が多いから」が最も多く、次いで30～59歳では「同じ年代の子供がいるから」、それ以外の年代では「昔からの付き合いがあるから」が続いています。（図表3-2-2）

【図表3-2-2 年齢別 付き合っている理由】



居住地域別でみると、「昔からの付き合いがあるから」と「いざというときに助け合えるように」の割合はいずれもJR以南地域が最も高く、3割台となっています。(図表3-2-3)

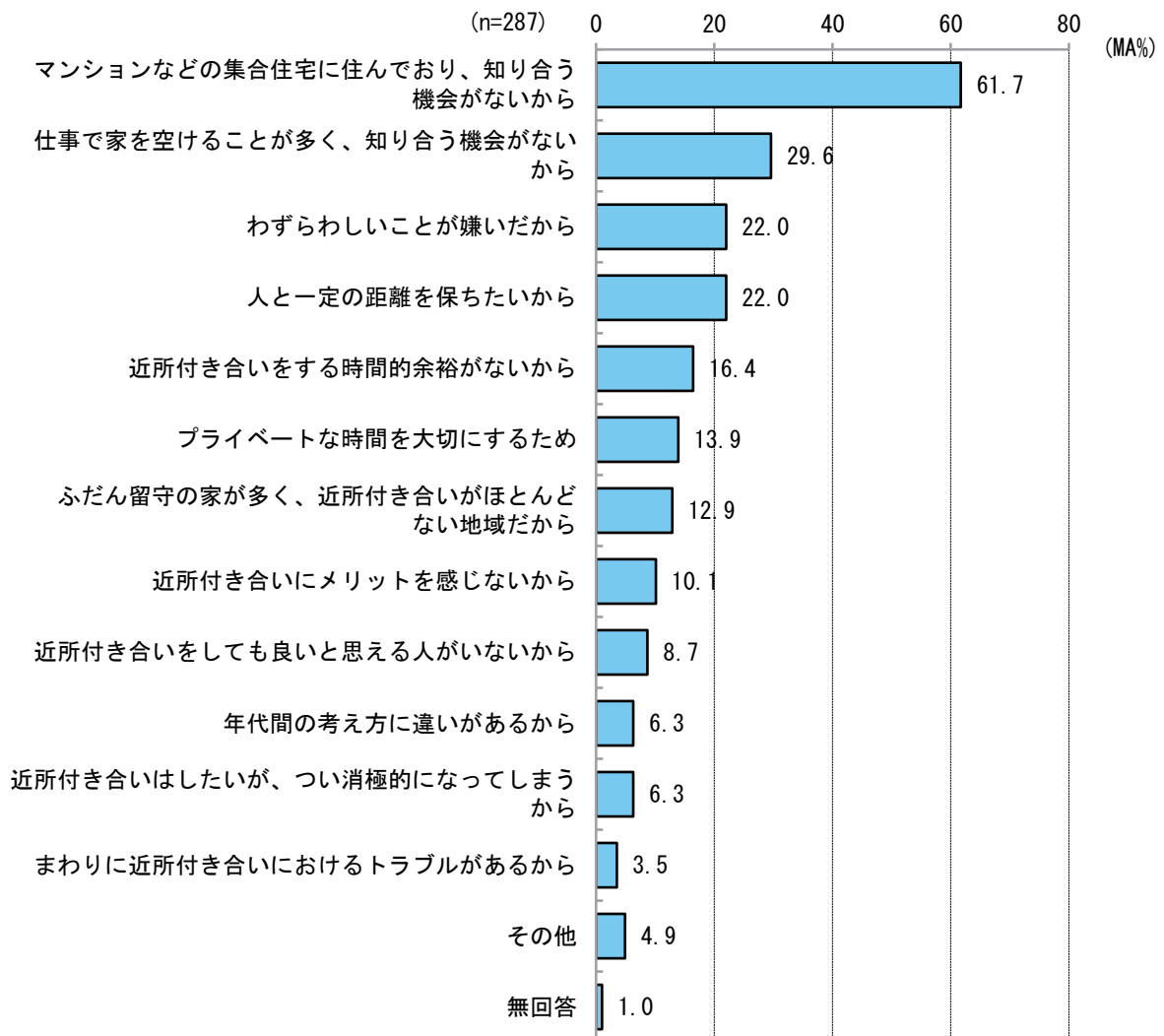
【図表3-2-3 居住地域別 付き合っている理由】



(3) 近所付き合いが難しい理由

問14-2 問14で「4. ほとんど付き合いがない」と回答した方にお聞きします。近所付き合いが難しい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

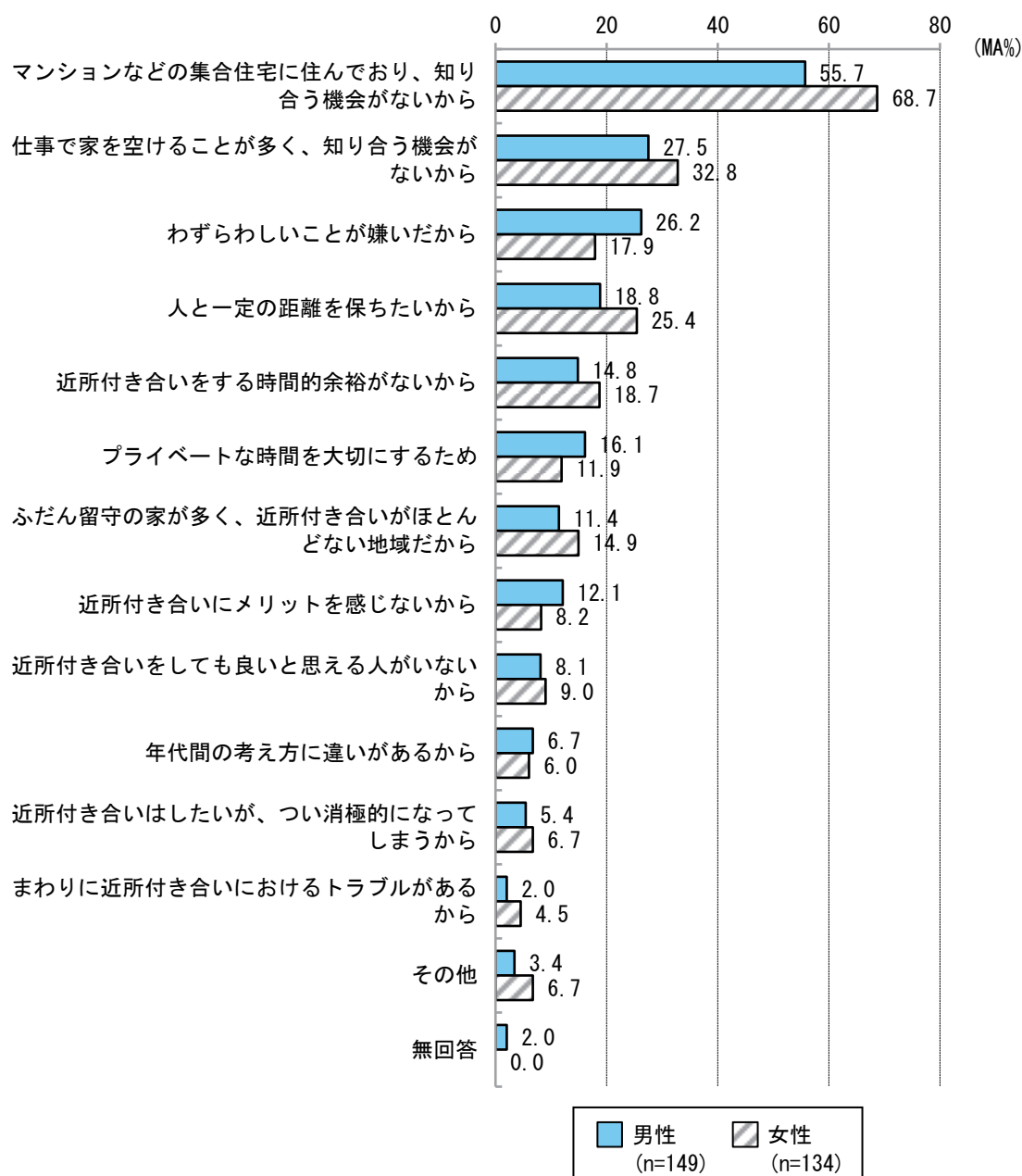
【図表3-3 近所付き合いが難しい理由】



近所の人とほとんど付き合いがないと回答した人に、近所付き合いが難しい理由についてたずねると、「マンションなどの集合住宅に住んでおり、知り合う機会がないから」が61.7%で最も多く、次いで「仕事で家を空けることが多く、知り合う機会がないから」が29.6%、「わずらわしいことが嫌だから」と「人と一定の距離を保ちたいから」がそれぞれ22.0%となっています。(図表3-3)

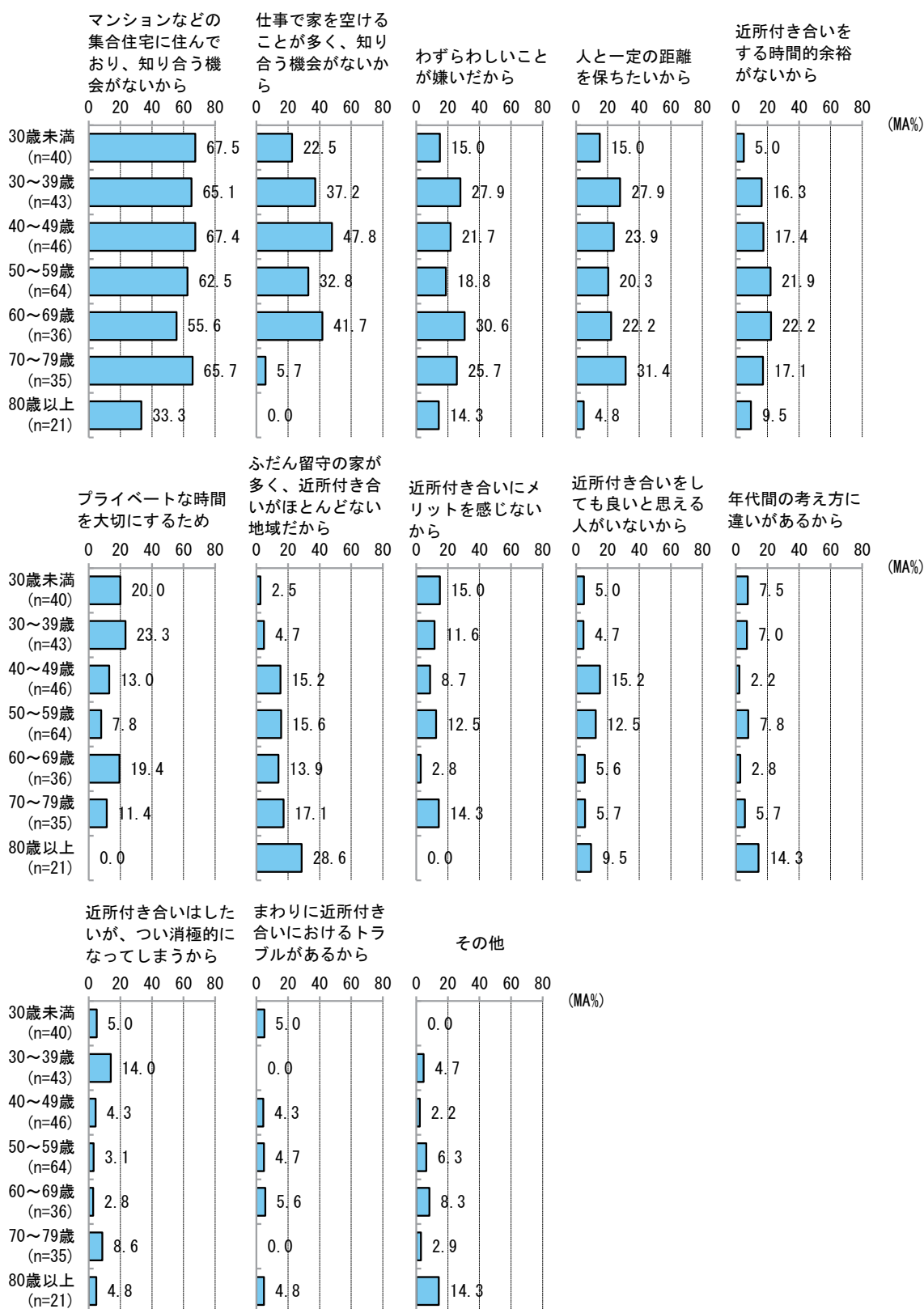
性別で見ると、「マンションなどの集合住宅に住んでおり、知り合う機会がないから」の割合は男性（55.7%）より女性（68.7%）のほうが13.0ポイント、「人と一定の距離を保ちたいから」の割合は男性（18.8%）より女性（25.4%）のほうが6.6ポイント、それぞれ高くなっています。一方、「わずらわしいことが嫌いだから」の割合は女性（17.9%）より男性（26.2%）のほうが8.3ポイント高くなっています。（図表3-3-1）

【図表3-3-1 性別 近所付き合いが難しい理由】



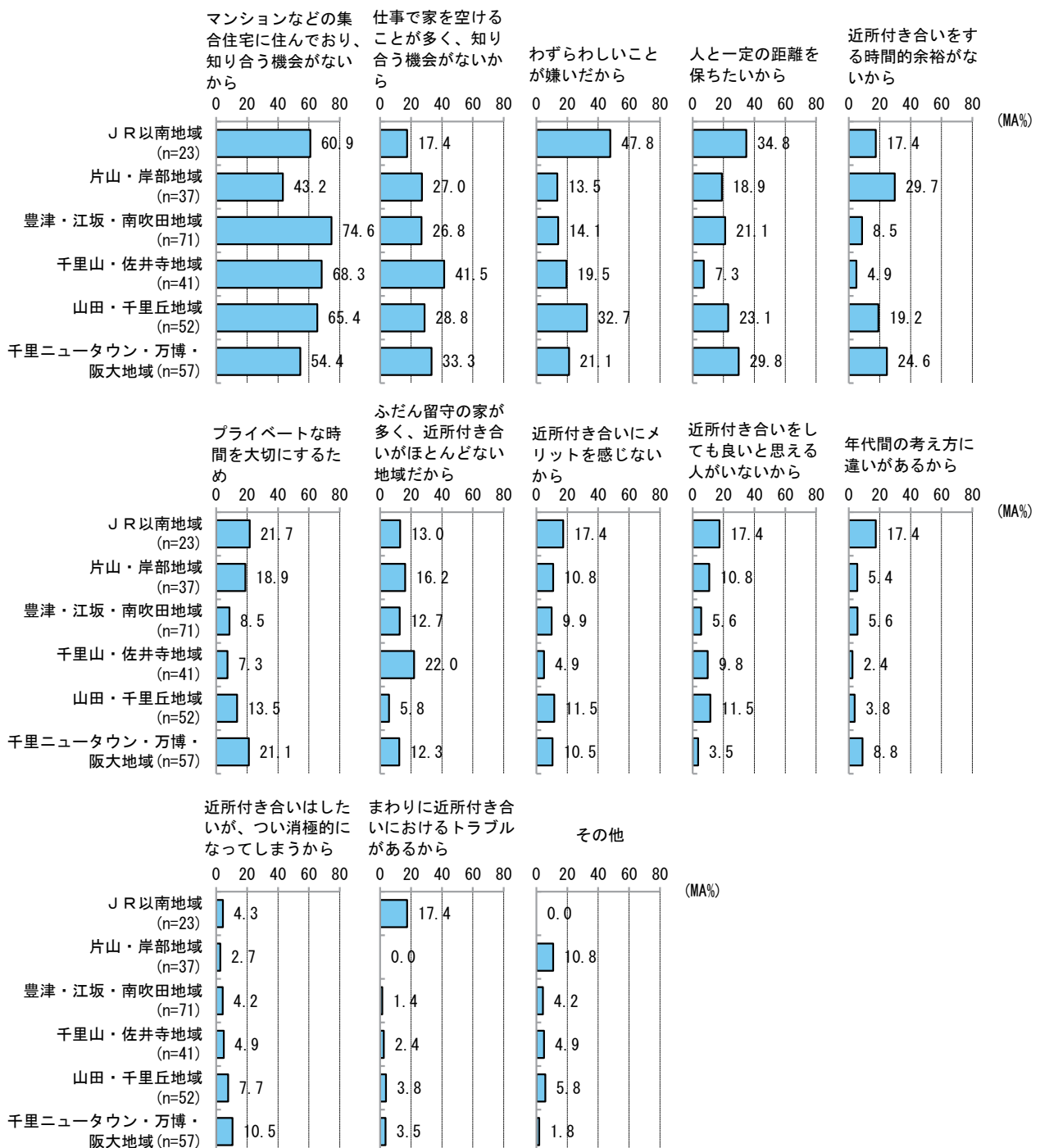
年齢別でみると、「マンションなどの集合住宅に住んでおり、知り合う機会がないから」の割合は30歳未満が67.5%で最も高く、「仕事で家を空けることが多く、知り合う機会がないから」の割合は40～49歳が47.8%で最も高く、次いで60～69歳が41.7%となっています。（図表3-3-2）

【図表3-3-2 年齢別 近所付き合いが難しい理由】



居住地域別でみると、「マンションなどの集合住宅に住んでおり、知り合う機会がないから」の割合は豊津・江坂・南吹田地域（74.6%）が最も高く、「仕事で家を空けることが多く、知り合う機会がないから」の割合は千里山・佐井寺地域（41.5%）が最も高くなっています。「わずらわしいことが嫌いだから」と「人と一定の距離を保ちたいから」、「プライベートな時間を大切にするため」、「近所付き合いにメリットを感じないから」、「近所付き合いをしても良いと思える人がいないから」、「年代間の考え方に違いがあるから」、「まわりに近所付き合いにおけるトラブルがあるから」ではそれぞれJR以南地域が最も高くなっています。（図表3-3-3）

【図表3-3-3 居住地域別 近所付き合いが難しい理由】

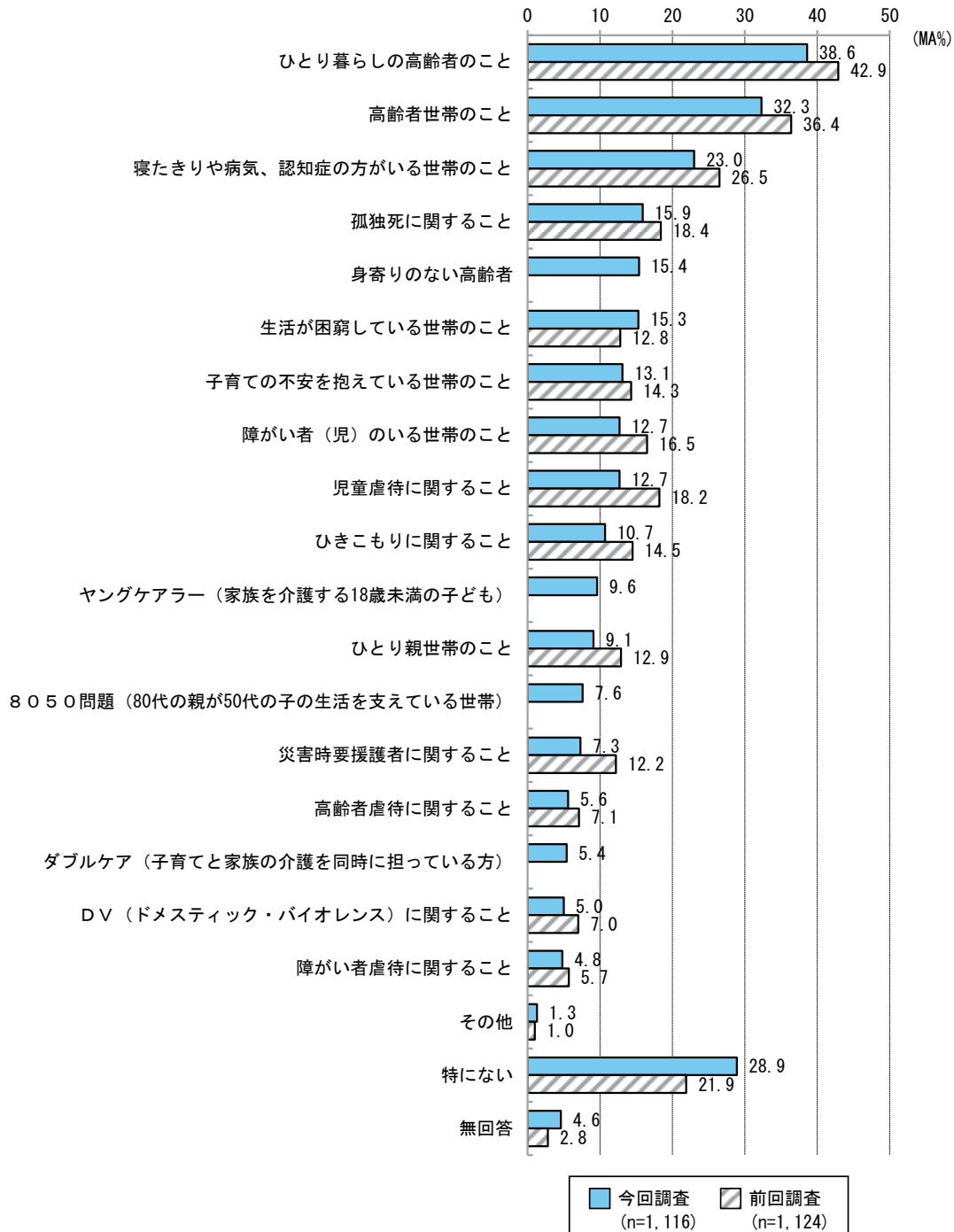


4 地域で暮らす中での問題等について

(1) 地域生活の中で福祉について気になっていること

問15 あなたが地域で暮らす中で、福祉について、日頃、気になっていることは何ですか。
(○はいくつでも)

【図表4-1 地域生活の中で福祉について気になっていること（経年比較）】



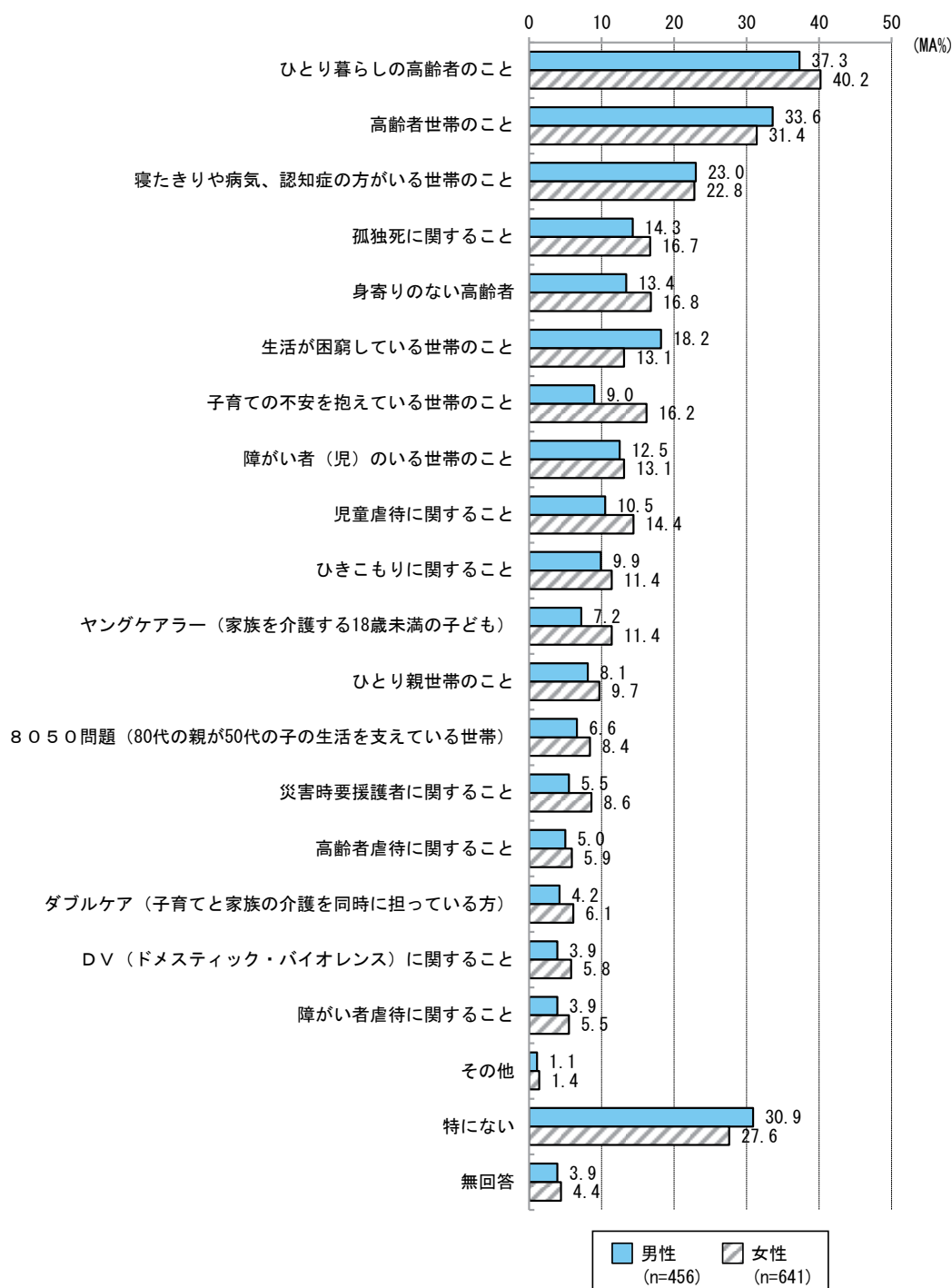
※「身寄りのない高齢者」「ヤングケアラー（家族を介護する18歳未満の子ども）」「8050問題（80代の親が50代の子の生活を支えている世帯）」「ダブルケア（子育てと家族の介護を同時に担っている方）」は今回調査の新規項目です。

地域生活の中で福祉について気になっていることについては、「ひとり暮らしの高齢者のこと」が38.6%で最も多く、次いで「高齢者世帯のこと」が32.3%、「寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと」が23.0%となっています。

前回調査と比較すると、「児童虐待に関すること」の割合は前回（18.2%）より5.5ポイント、「災害時要援護者に関すること」の割合は前回（12.2%）より4.9ポイント、それぞれ低くなっています。（図表4-1）

性別で見ると、「生活が困窮している世帯のこと」の割合は女性（13.1%）より男性（18.2%）のほうが5.1ポイント高くなっていますが、「子育ての不安を抱えている世帯のこと」の割合は男性（9.0%）より女性（16.2%）のほうが7.2ポイント高くなっています。（図表4-1-1）

【図表4-1-1 性別 地域生活の中で福祉について気になっていること】



年齢別でみると、39歳までの年代では「特にない」が最も多くなっています。50歳以上の年代では「ひとり暮らしの高齢者のこと」が最も多く、4割以上となっています。また、「高齢者世帯のこと」の割合は40歳以上の年代で3割以上と高くなっています。（図表4-1-2）

【図表4-1-2 年齢別 地域生活の中で福祉について気になっていること（上位5項目）】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
30歳未満 (n=108)	特にない 48.1	ひとり暮らしの高齢者のこと 22.2	子育ての不安を抱えている世帯のこと 17.6	高齢者世帯のこと 16.7	児童虐待に関する こと
30～39歳 (n=129)	特にない 42.6	子育ての不安を抱えている世帯のこと 26.4	ひとり暮らしの高齢者のこと 24.8	高齢者世帯のこと 16.3	生活が困窮している世帯のこと／障がい者（児）のいる世帯のこと 14.7
40～49歳 (n=164)	高齢者世帯のこと 31.1	特にない 30.5	ひとり暮らしの高齢者のこと 27.4	寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと 24.4	子育ての不安を抱えている世帯のこと 22.6
50～59歳 (n=226)	ひとり暮らしの高齢者のこと 43.4	高齢者世帯のこと 35.0	寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと 28.8	生活が困窮している世帯のこと 19.9	障がい者（児）のいる世帯のこと 19.5
60～69歳 (n=168)	ひとり暮らしの高齢者のこと 50.0	高齢者世帯のこと 39.3	寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと 29.2	特にない 20.2	身寄りのない高齢者／児童虐待に関する こと 18.5
70～79歳 (n=176)	ひとり暮らしの高齢者のこと 44.3	高齢者世帯のこと 39.8	寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと 23.3	特にない 21.0	身寄りのない高齢者 18.8
80歳以上 (n=135)	ひとり暮らしの高齢者のこと 51.1	高齢者世帯のこと 37.8	特にない 24.4	寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと 23.0	孤独死に関する こと 18.5

居住地域別でみると、いずれも「ひとり暮らしの高齢者のこと」が最も多く、JR以南地域が44.2%で最も高い割合となっています。(図表4-1-3)

【図表4-1-3 居住地域別 地域生活の中で福祉について気になっていること（上位5項目）】

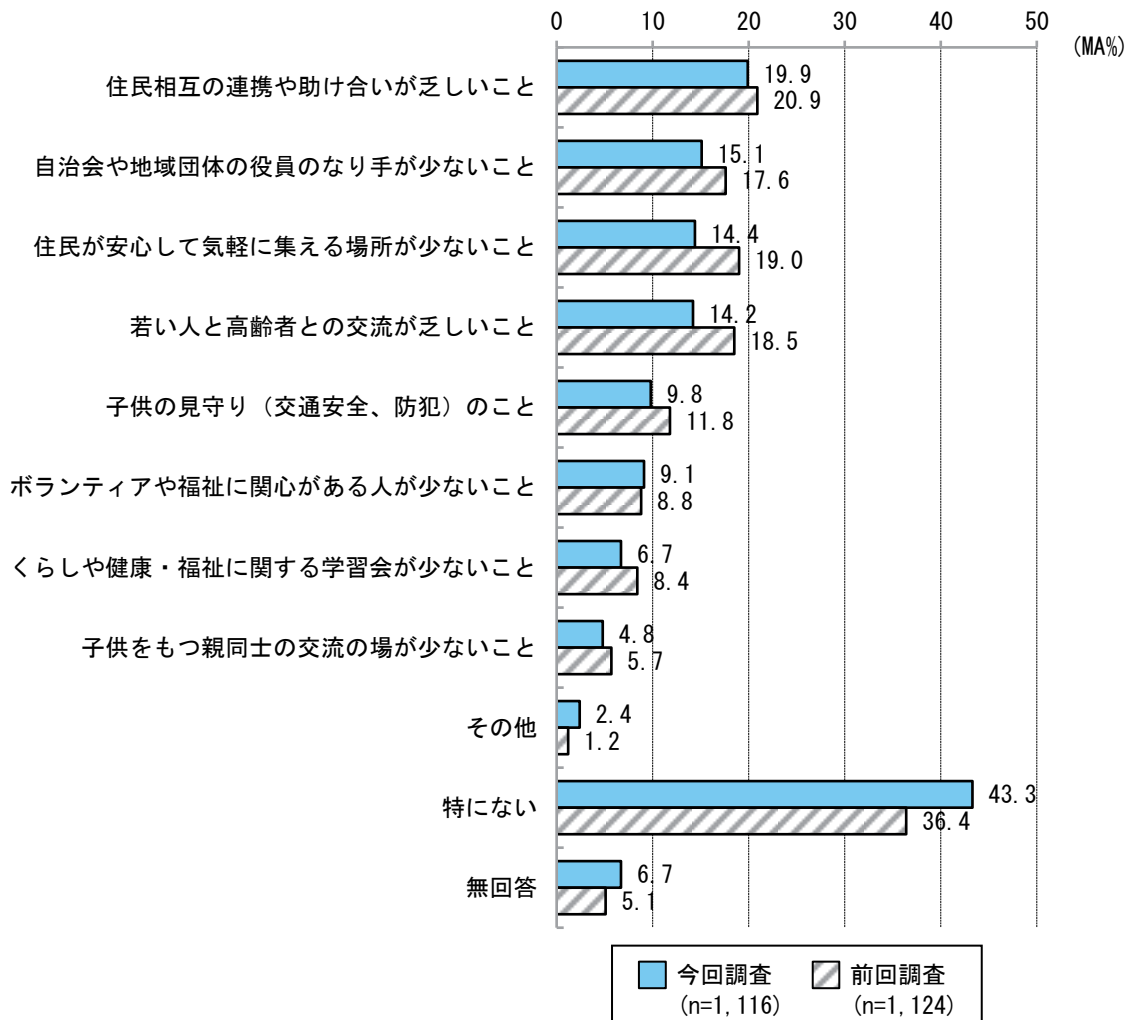
(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
JR以南地域 (n=95)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 44.2	高齢者世帯のこと 37.9	特にない 28.4	寝たきりや病気、 認知症の方がいる 世帯のこと 22.1	身寄りのない高齢 者 17.9
片山・岸部地域 (n=164)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 37.8	高齢者世帯のこと 35.4	寝たきりや病気、 認知症の方がいる 世帯のこと 25.0	特にない 23.8	生活が困窮してい る世帯のこと 22.0
豊津・江坂・南吹田 地域 (n=196)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 33.7	特にない 33.2	高齢者世帯のこと 21.9	寝たきりや病気、 認知症の方がいる 世帯のこと 20.9	生活が困窮してい る世帯のこと 16.3
千里山・佐井寺地域 (n=176)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 40.3	高齢者世帯のこと 30.7	特にない 29.5	寝たきりや病気、 認知症の方がいる 世帯のこと 21.6	身寄りのない高齢 者 15.9
山田・千里丘地域 (n=245)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 38.4	高齢者世帯のこと 33.1	特にない 31.8	寝たきりや病気、 認知症の方がいる 世帯のこと 24.1	孤独死に関するこ と 15.5
千里ニュータウン・ 万博・阪大地域 (n=215)	ひとり暮らしの高 齢者のこと 40.9	高齢者世帯のこと 38.1	寝たきりや病気、認知症の方がいる世 帯のこと／特にない	24.7	身寄りのない高齢 者 18.6

(2) 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること

問16 あなたが地域で暮らす中で、地域住民の交流について、日頃、気になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

【図表4-2 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること（経年比較）】

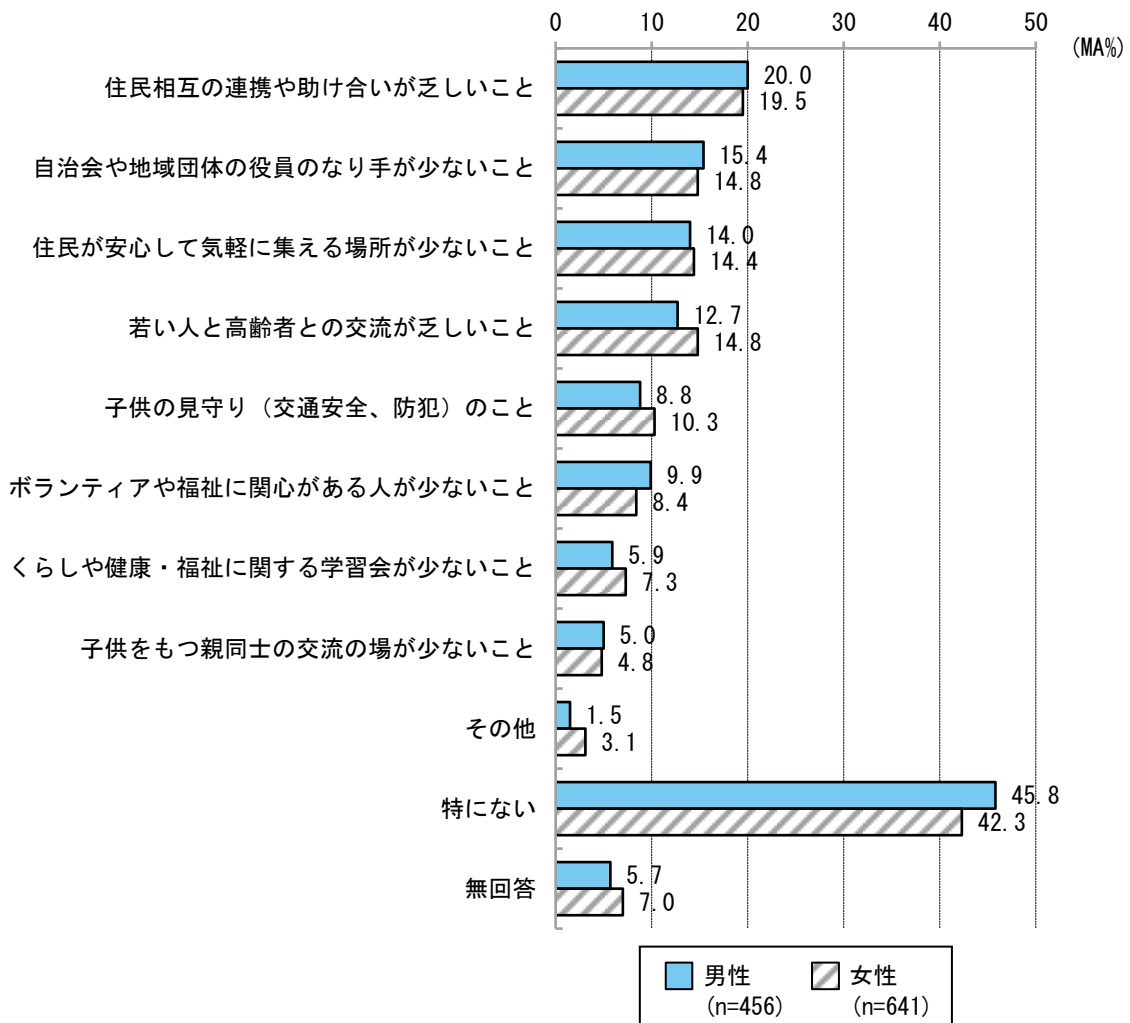


地域生活の中で地域住民の交流について気になっていることについては、「特にない」が43.3%で最も高くなっていますが、気になっていることがある人では「住民相互の連携や助け合いが乏しいこと」が19.9%で最も多く、次いで「自治会や地域団体の役員のなり手が少ないこと」が15.1%、「住民が安心して気軽に集える場所が少ないこと」が14.4%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」の割合が前回（36.4%）より6.9ポイント高くなっていますが、「住民が安心して気軽に集える場所が少ないこと」の割合は前回（19.0%）より4.6ポイント、「若い人と高齢者との交流が乏しいこと」の割合は前回（18.5%）より4.3ポイント、それぞれ低くなっています。（図表4-2）

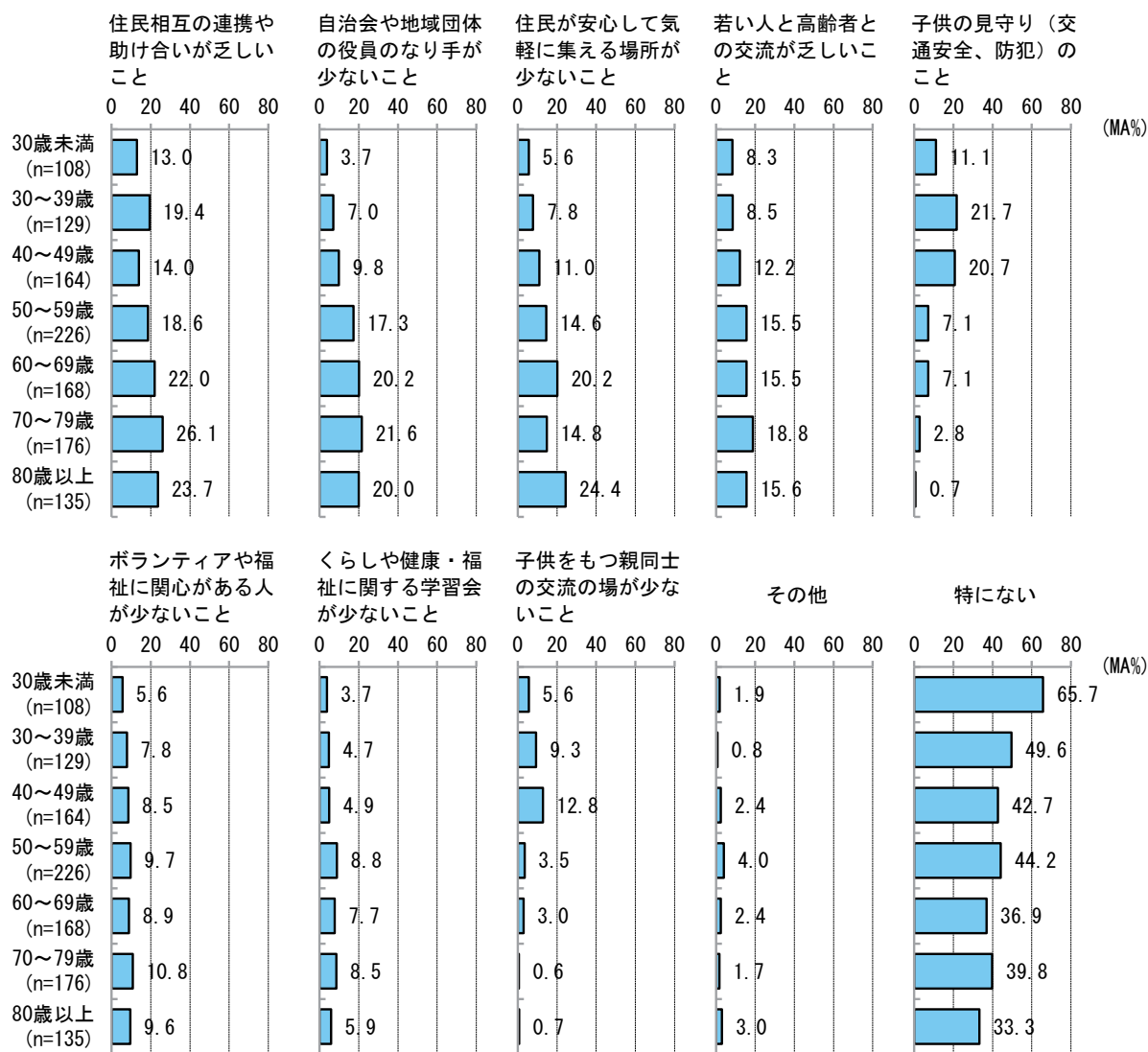
性別でも、大きな差はみられません。(図表4-2-1)

【図表4-2-1 性別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



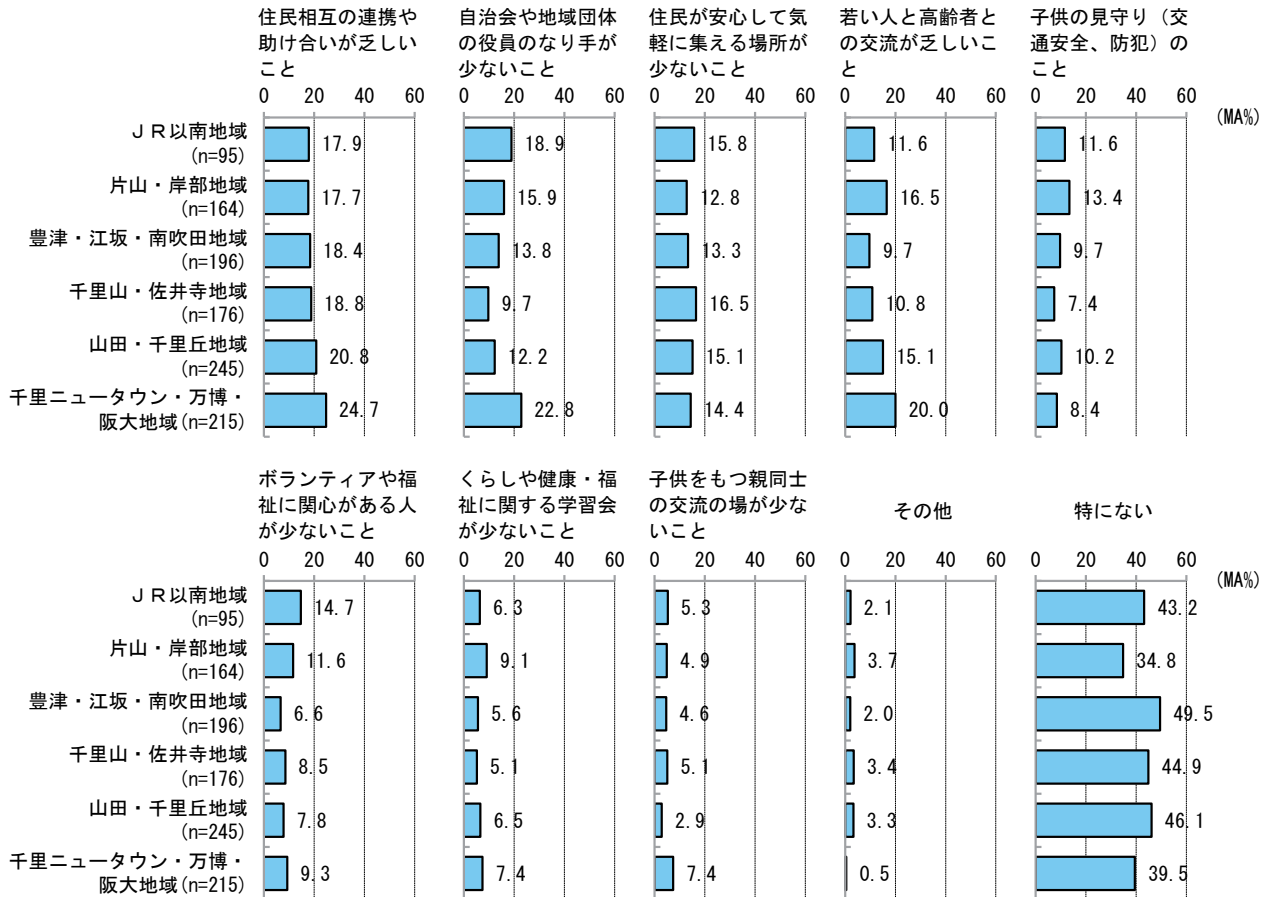
年齢別でみると、「住民相互の連携や助け合いが乏しいこと」、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ないこと」、「若い人と高齢者との交流が乏しいこと」、「ボランティアや福祉に関心がある人が少ないこと」はいずれも70～79歳で最も高い割合となっています。(図表4-2-2)

【図表4-2-2 年齢別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



居住地域別でみると、「住民相互の連携や助け合いが乏しいこと」、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ないこと」、「若い人と高齢者との交流が乏しいこと」、「子供をもつ親同士の交流の場が少ないこと」はいずれも千里ニュータウン・万博・阪大地域で最も高い割合となっています。(図表4-2-3)

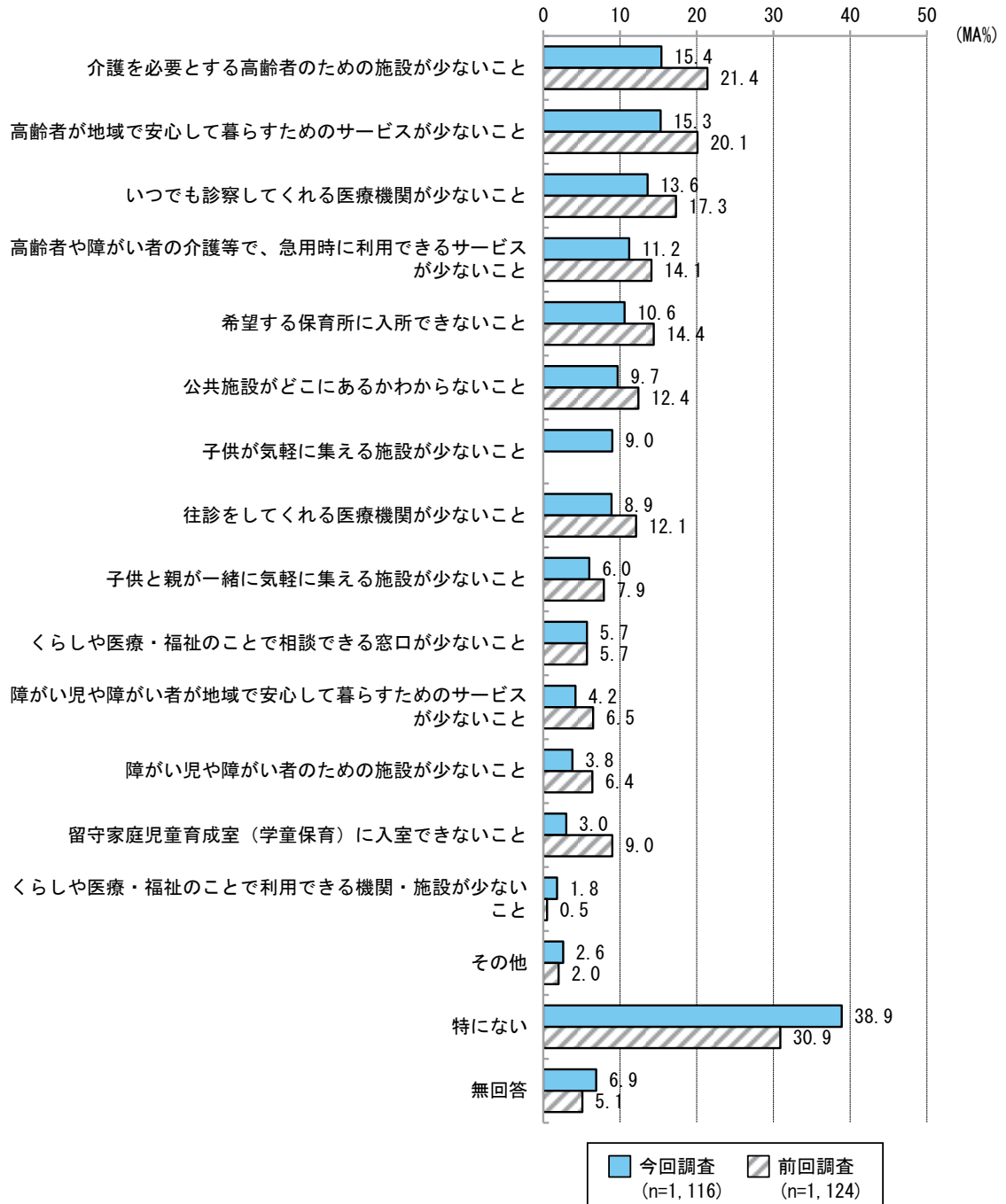
【図表4-2-3 居住地域別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



(3) 地域生活の中で福祉等に関する制度や施設・サービスについて気になっていること

問17 あなたが地域で暮らす中で、くらしや健康・福祉に関する制度や施設・サービスについて、日頃、気になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

【図表4-3 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること(経年比較)】



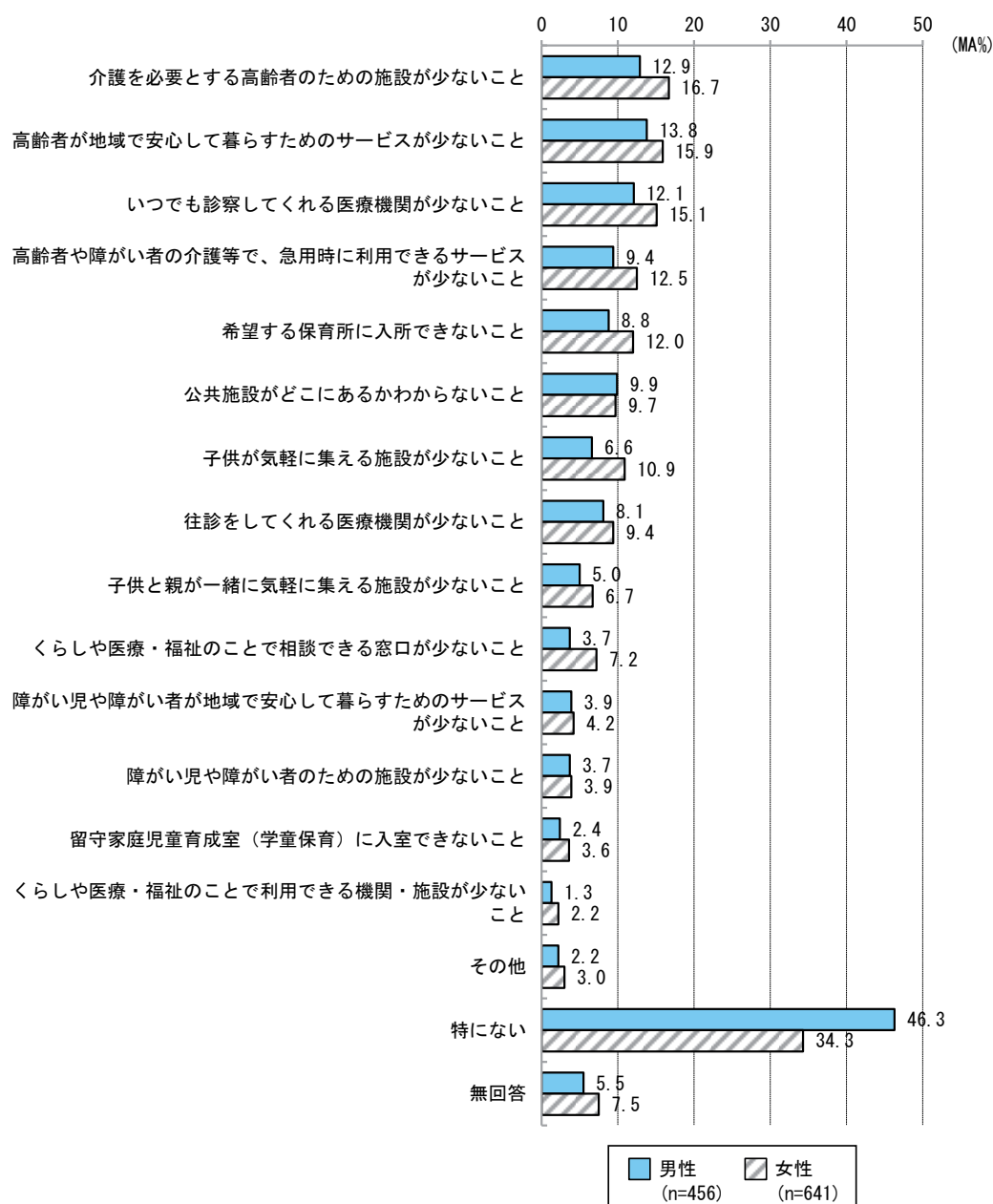
※前回調査の「留守家庭児童育成室(学童保育)への入室が小学1年生から4年生までに限定されていること」は、今回調査では「留守家庭児童育成室(学童保育)に入室できないこと」に変更しています。
 ※前回調査の「子供と親が気軽に集える施設が少ないこと」は、今回調査では「子供と親と一緒に気軽に集える施設が少ないこと」に変更しています。
 ※「子供が気軽に集える施設が少ないこと」は今回調査の新規項目です。

地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていることについては、「特にない」が38.9%で最も高いですが、気になっていることがある人では「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」が15.4%で最も多く、次いで「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」が15.3%、「いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと」が13.6%となっています。

前回調査と比較すると、「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」と「留守家庭児童育成室（学童保育）に入室できないこと」はいずれも前回より6.0ポイント低くなっています。（図表4-3）

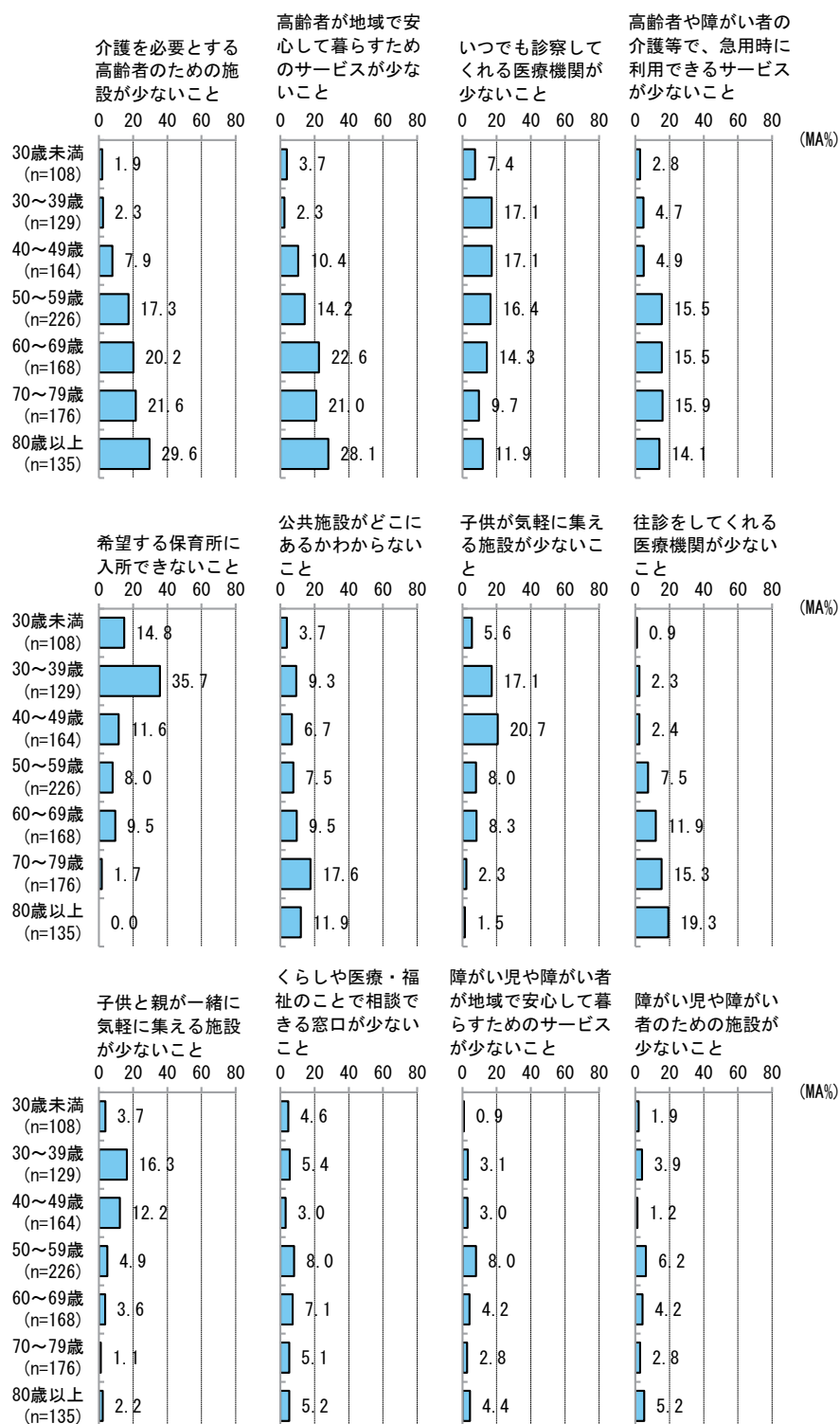
性別で見ると、男性では「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」（13.8%）が最も多く、女性では「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」（16.7%）が最も多くなっています。また、「子供が気軽に集える施設が少ないこと」の割合は男性（6.6%）より女性（10.9%）のほうが4.3ポイント高くなっています。（図表4-3-1）

【図表4-3-1 性別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること】

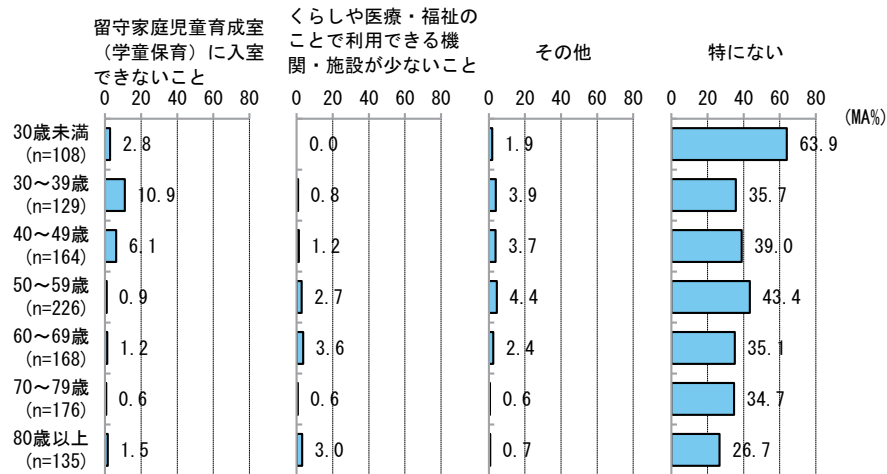


年齢別でみると、39歳までの年代では「希望する保育所に入所できないこと」が最も多く、40～49歳では「子供が気軽に集える施設が少ないこと」(20.7%)が最も多くなっています。「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」、「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」、「往診をしてくれる医療機関が少ないこと」では高齢になるほど割合が高くなる傾向にあります。(図表4-3-2)

【図表4-3-2 年齢別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること①】

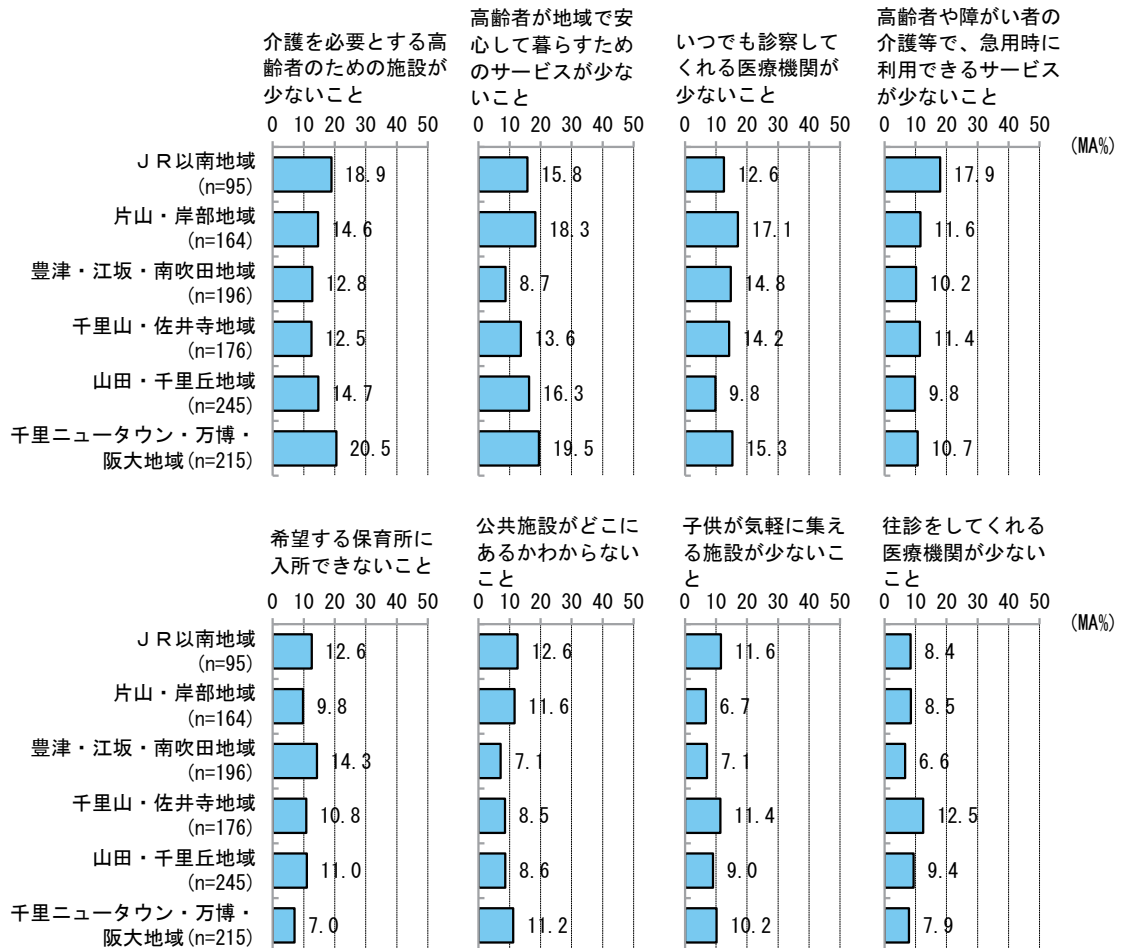


【図表4-3-2 年齢別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること②】

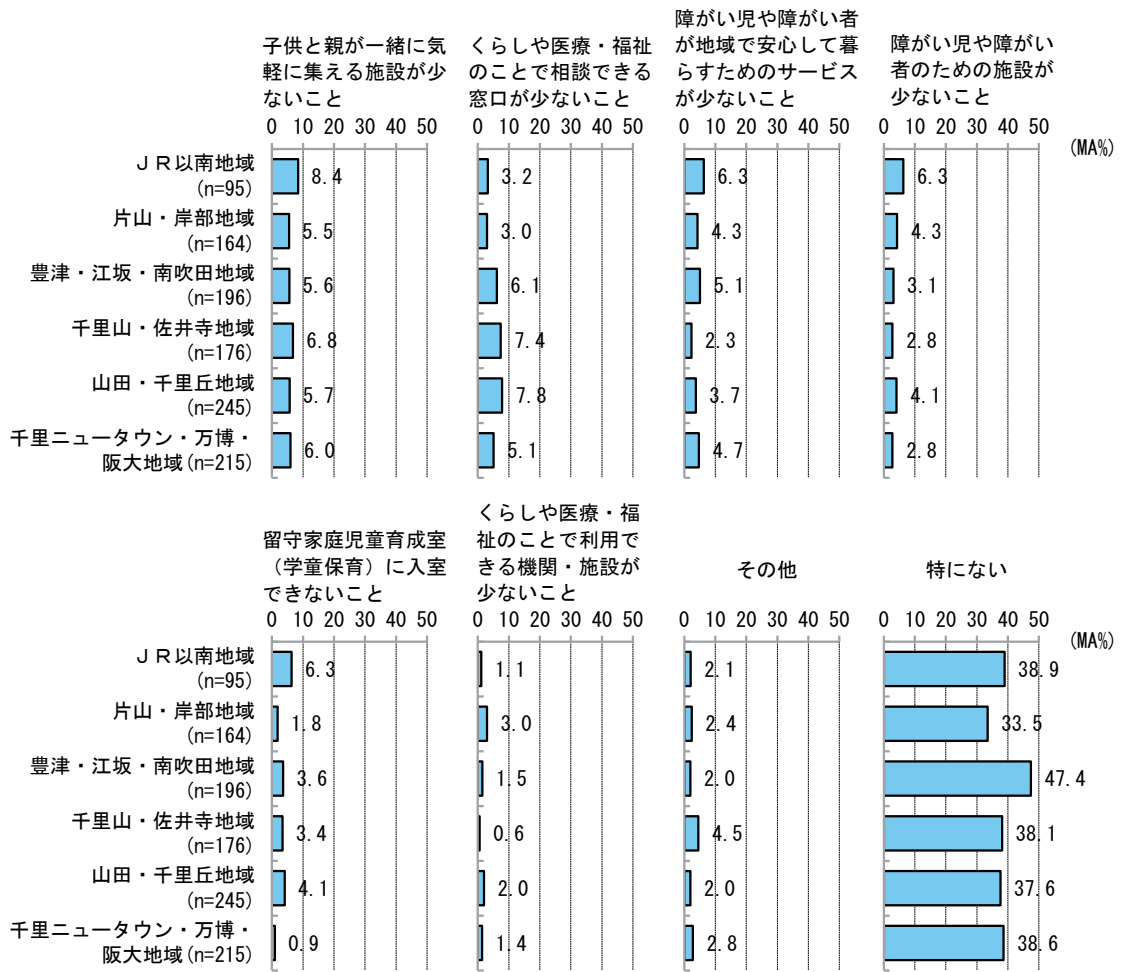


居住地域別でみると、JR以南地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域では「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」が最も多く、片山・岸部地域と山田・千里丘地域では「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」、豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域では「いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと」が最も多くなっています。(図表4-3-3)

【図表4-3-3 居住地域別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること①】



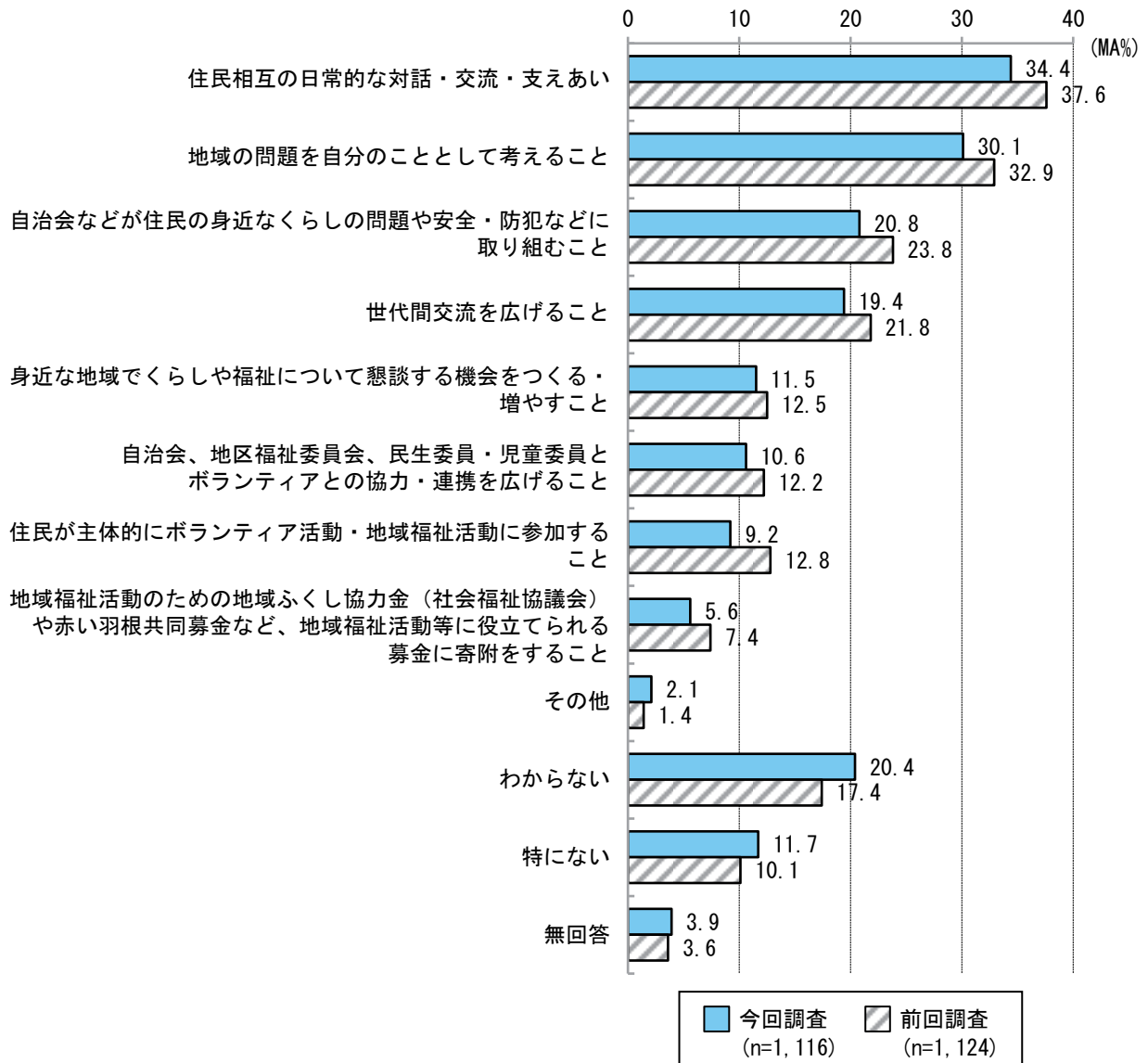
【図表4-3-3 居住地域別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること②】



(4) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）

問18 あなたは、地域で力を合わせて安心して暮らすために、どんな取組が必要だと考えますか。
 (1) 住民が主体的に取り組むことは。(〇はいくつでも)

【図表4-4 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】

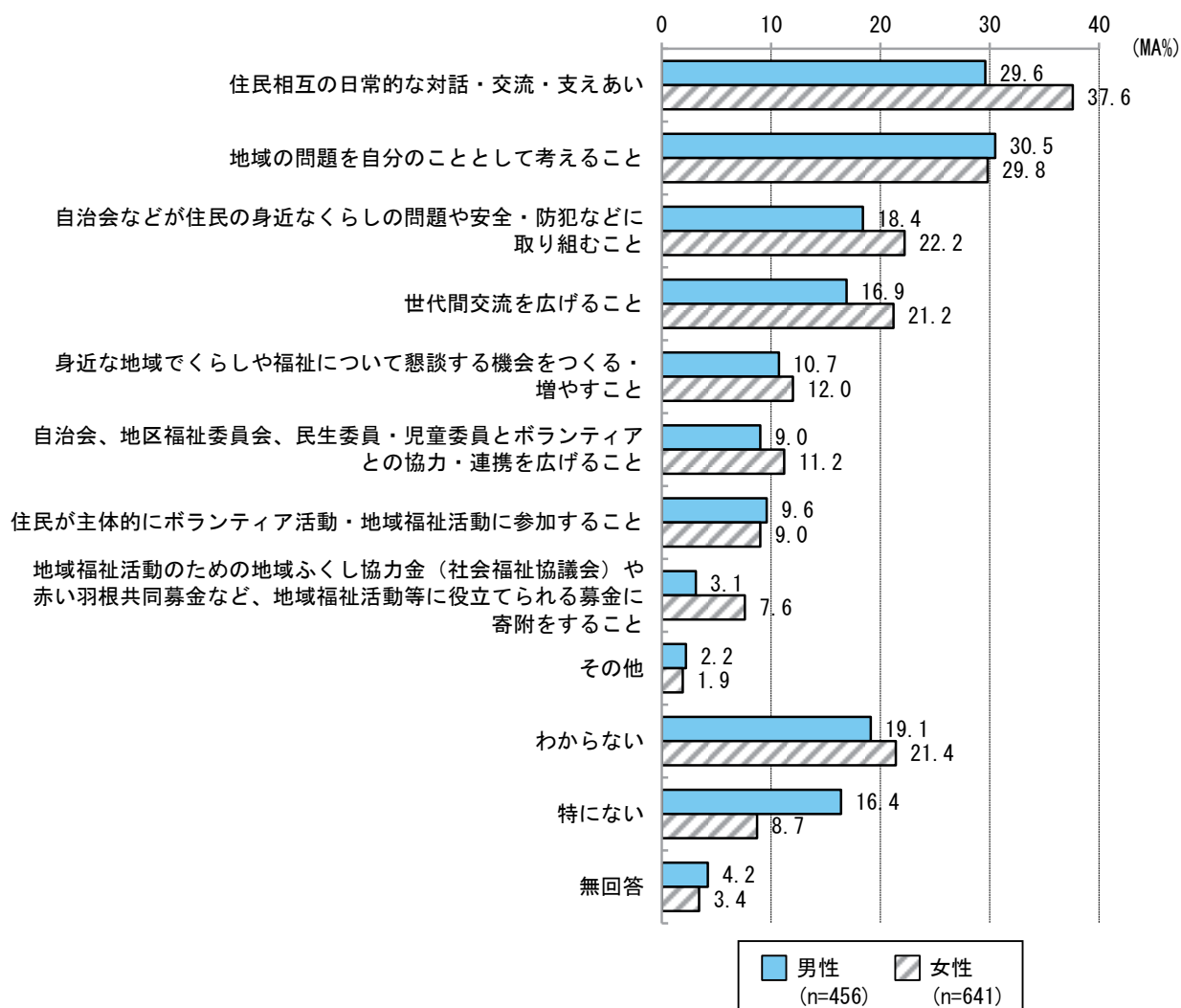


地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な住民の主体的な取組については、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が34.4%で最も多く、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」が30.1%、「自治会などが住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯などに取り組むこと」が20.8%となっています。

前回調査と比較すると、「住民が主体的にボランティア活動・地域福祉活動に参加すること」は前回(12.8%)より3.6ポイント、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は前回(37.6%)より3.2ポイント、それぞれ低くなっています。(図表4-4)

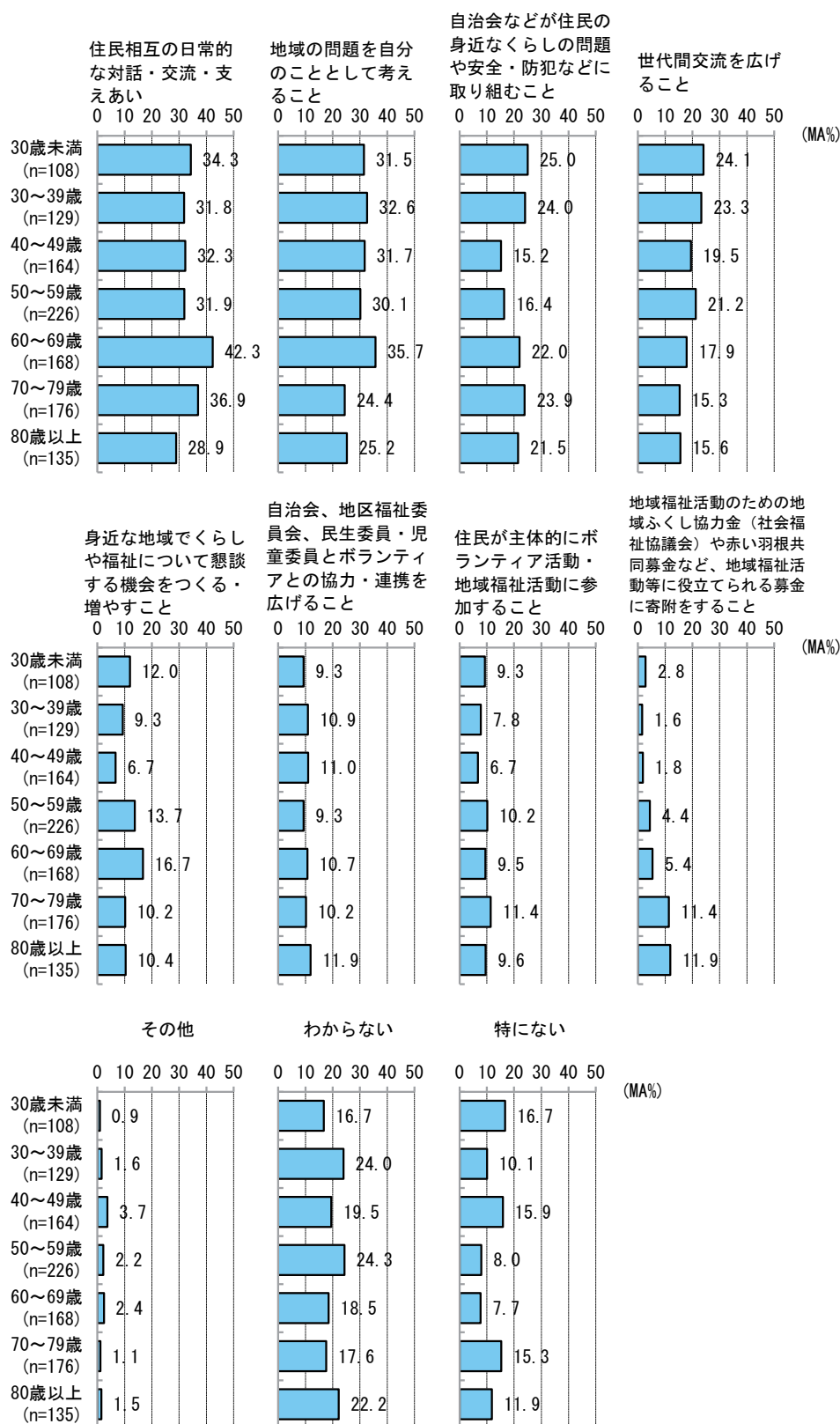
性別で見ると、男性は「地域の問題を自分のこととして考えること」が30.5%で最も多くなっています。女性では「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が37.6%で最も多く、男性（29.6%）より8.0ポイント高くなっています。（図表4-4-1）

【図表4-4-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



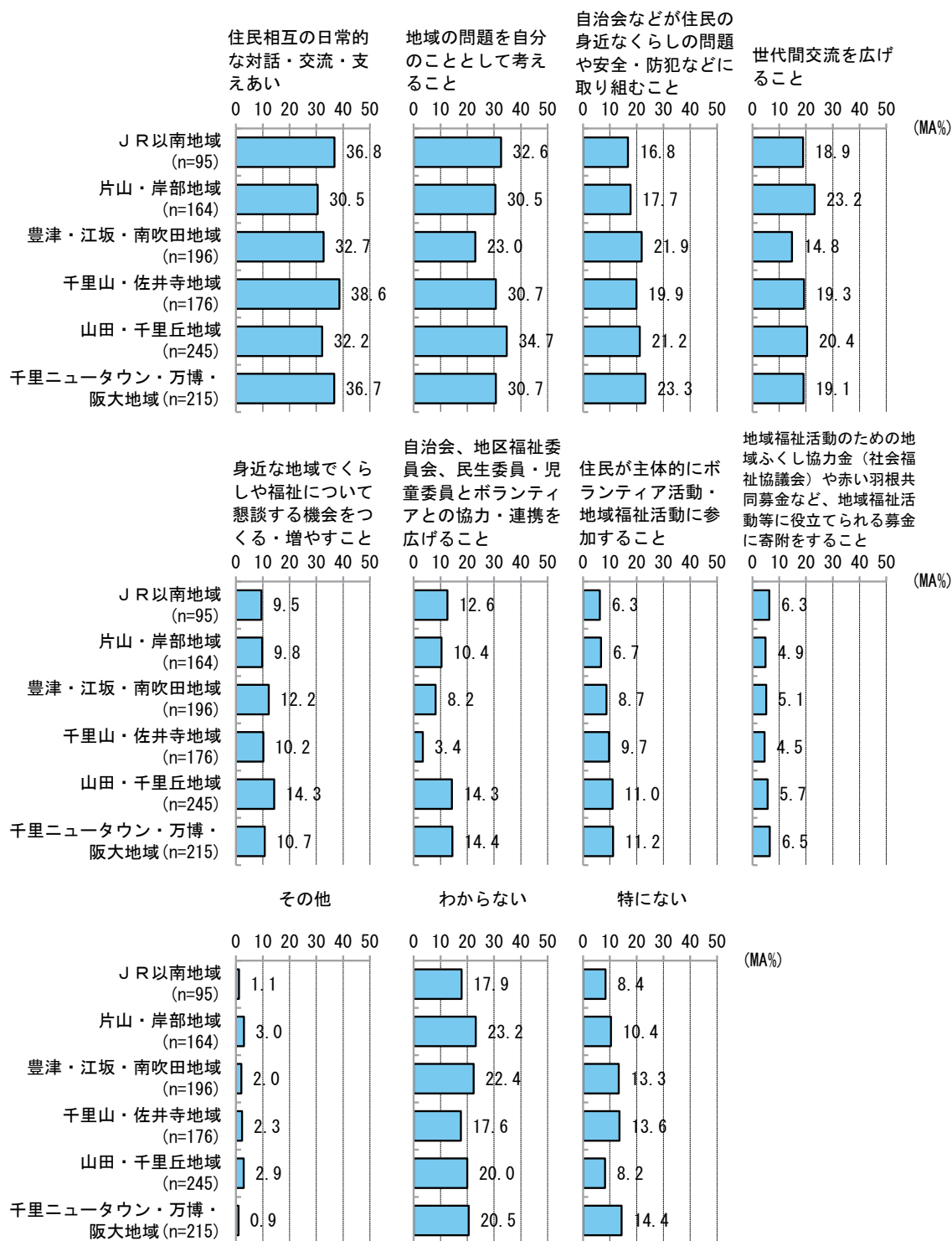
年齢別で見ると、30～39歳は「地域の問題を自分のこととして考えること」が最も多いですが、それ以外の年代では「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が最も多くなっています。また、「世代間交流を広げること」の割合は概ね若い年代ほど高くなっています。（図表4-4-2）

【図表4-4-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



居住地域別でみると、「自治会などが住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯などに取り組むこと」、「自治会、地区福祉委員会、民生委員・児童委員とボランティアとの協力・連携を広げること」、「住民が主体的にボランティア活動・地域福祉活動に参加すること」、「地域福祉活動のための地域ふくし協力金（社会福祉協議会）や赤い羽根共同募金など、地域福祉活動等に役立てられる募金に寄附をすること」はいずれも千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も高くなっています。（図表4-4-3）

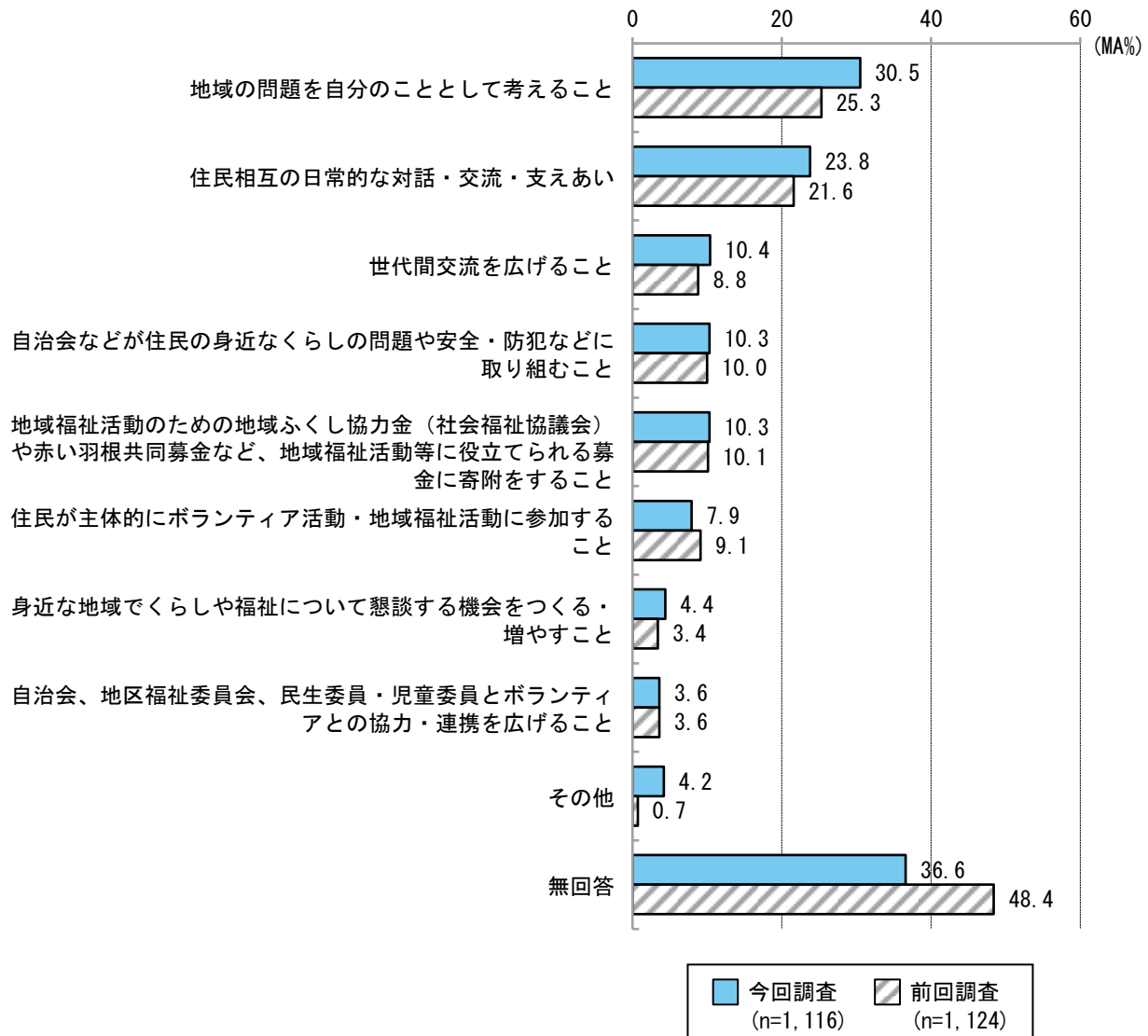
【図表4-4-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



(5) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）

(2) 問18(1)の選択肢の中で、あなたは、どのようなことができそうですか。できるものについて、問18(1)の選択肢の1～9のいずれかの番号をお書きください。（番号はいくつでも）

【図表4-5 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）（経年比較）】

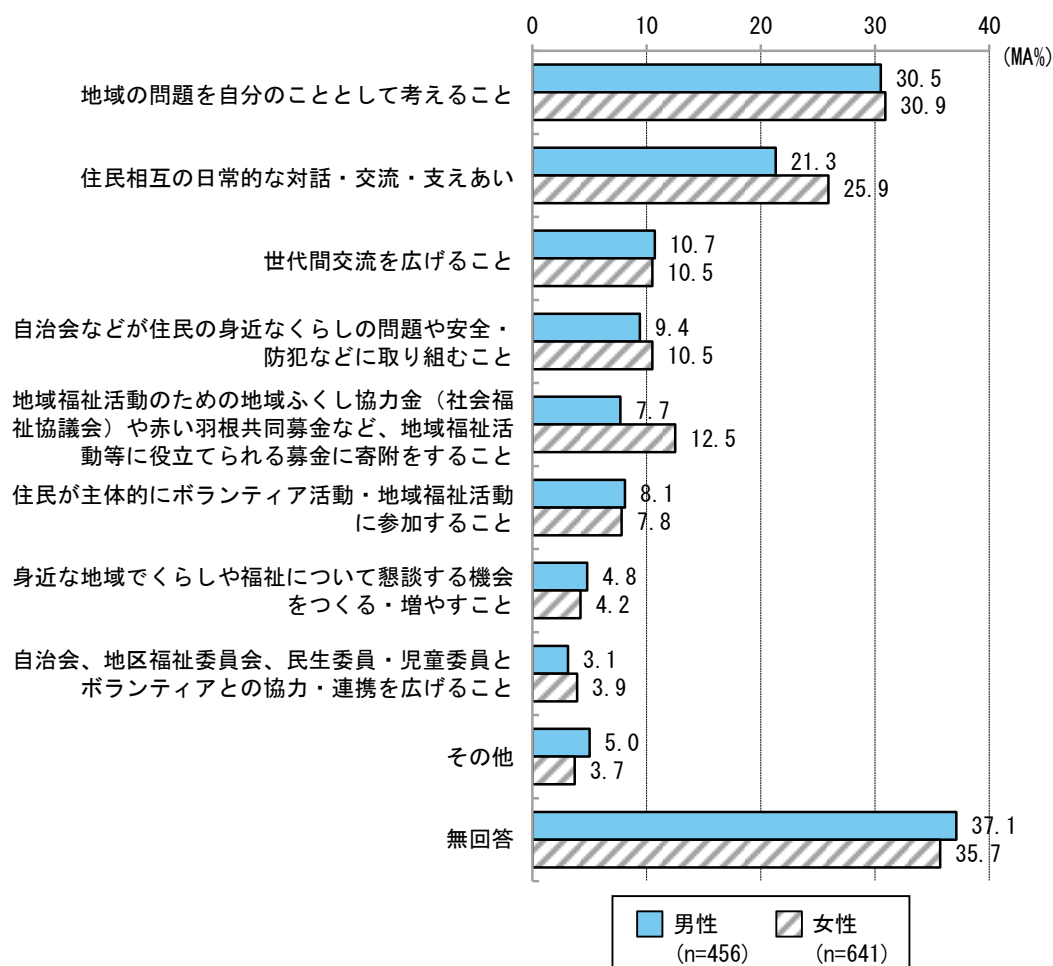


地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な自身でできる取組については、「地域の問題を自分のこととして考えること」が30.5%で最も多く、次いで「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が23.8%、「世代間交流を広げること」が10.4%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の問題を自分のこととして考えること」は前回（25.3%）より5.2ポイント高くなっています。（図表4-5）

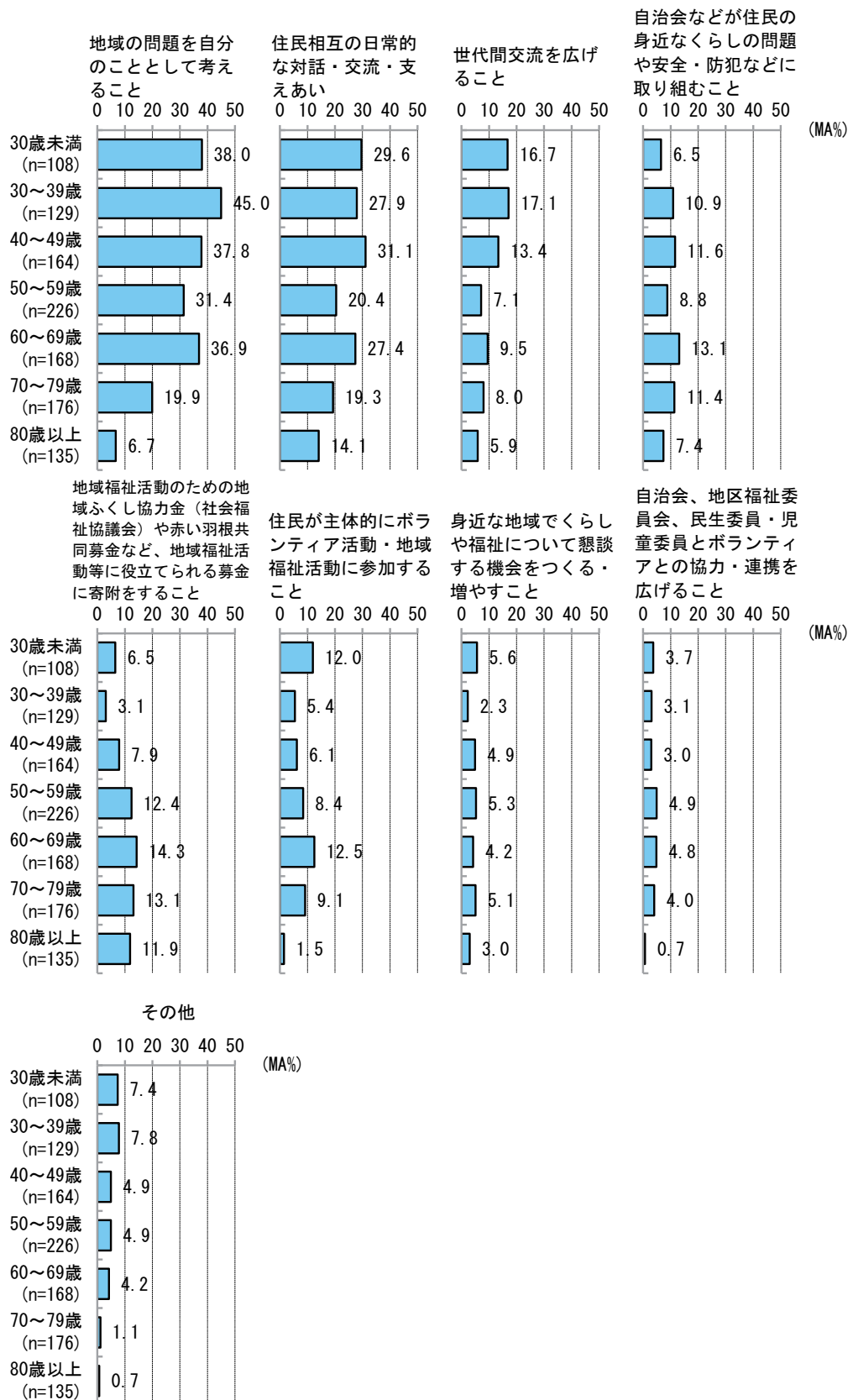
性別で見ると、「地域福祉活動のための地域ふくし協力金（社会福祉協議会）や赤い羽根共同募金など、地域福祉活動等に役立てられる募金に寄附をすること」の割合は男性（7.7%）より女性（12.5%）のほうが4.8ポイント高く、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」の割合も男性（21.3%）より女性（25.9%）のほうが4.6ポイント高くなっています。（図表4-5-1）

【図表4-5-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



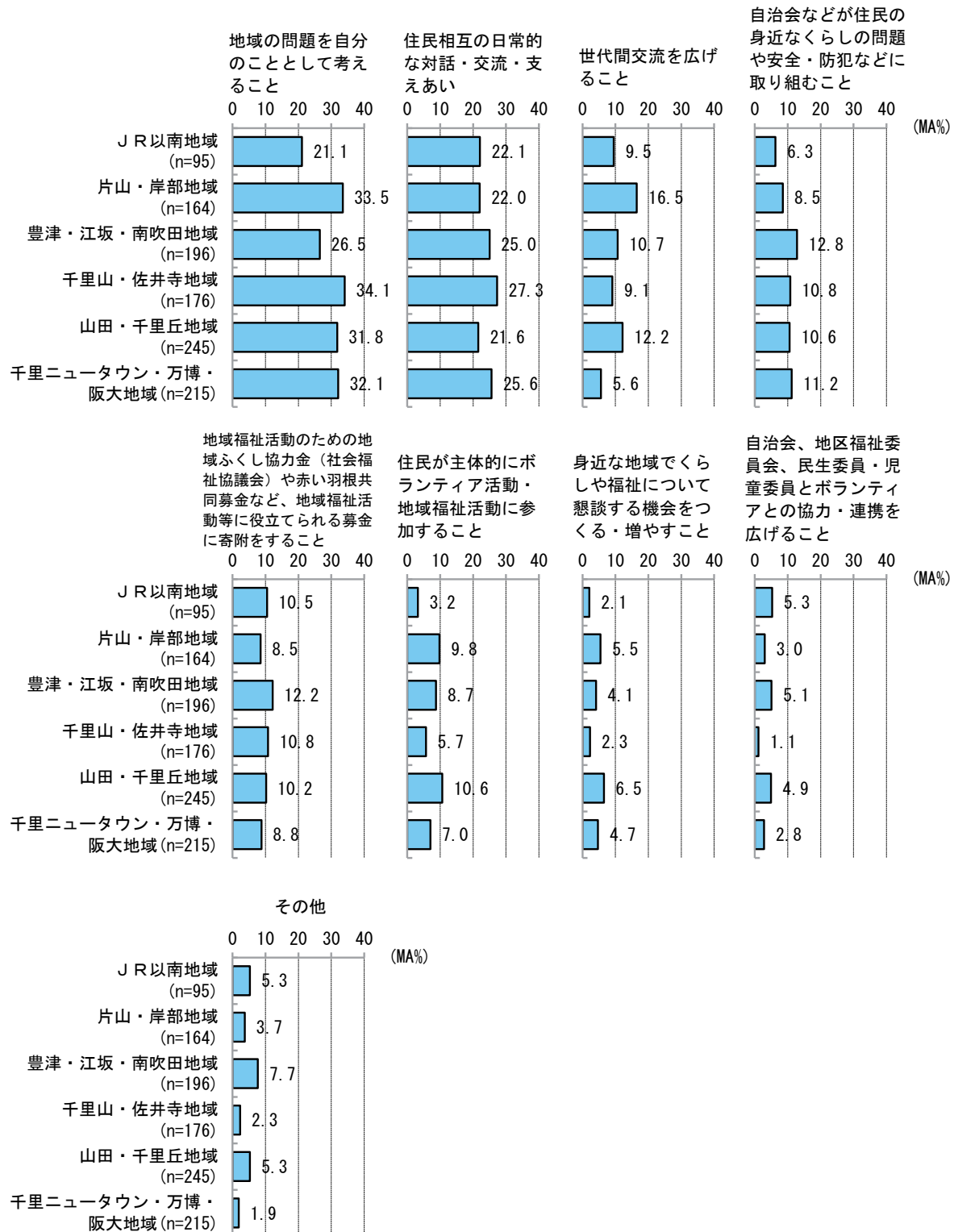
年齢別でみると、79歳までの年代では「地域の問題を自分のこととして考えること」が最も多く、80歳以上では「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が最も多くなっています。(図表4-5-2)

【図表4-5-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



居住地域別でみると、JR以南地域では「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が22.1%で最も多くなっていますが、それ以外の地域では「地域の問題を自分のこととして考えること」が最も多くなっています。(図表4-5-3)

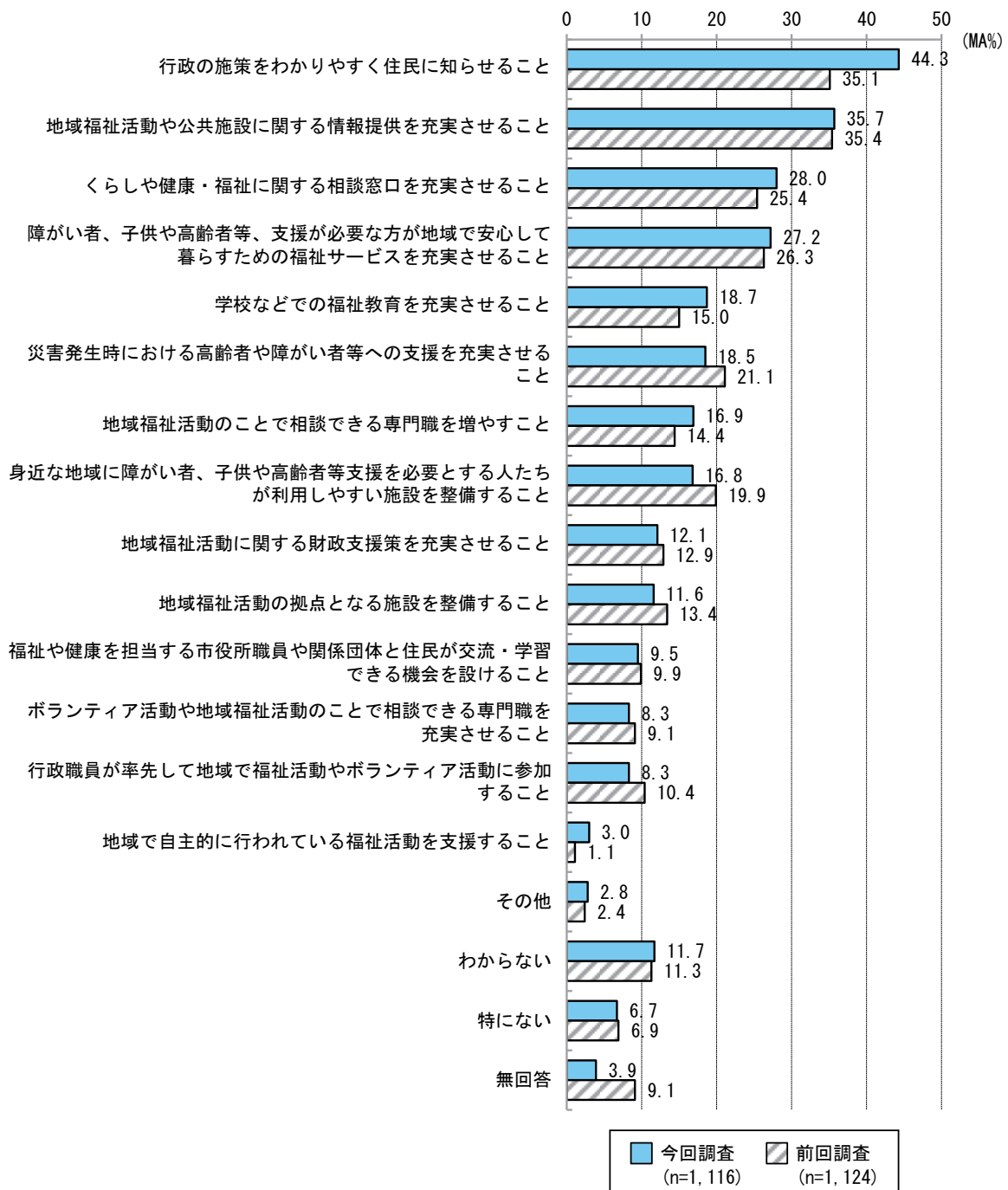
【図表4-5-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



(6) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）

(3) 市役所などの行政が主体的に取り組むことは。(〇はいくつでも)

【図表4-6 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】

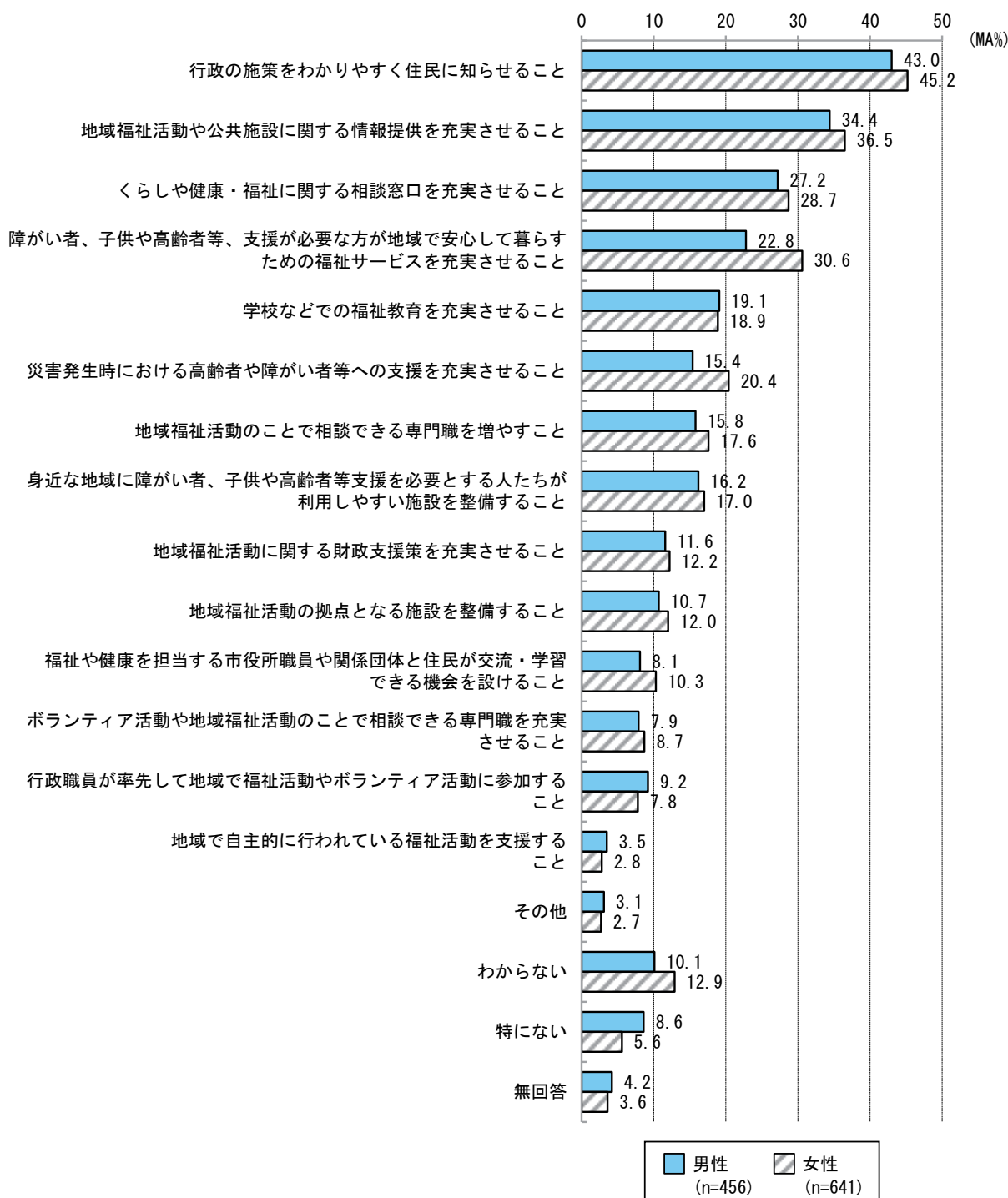


地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な行政の主体的な取組については、「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」が44.3%で最も多く、次いで「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供を充実させること」が35.7%、「くらしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること」が28.0%となっています。

前回調査と比較すると、「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」は前回(35.1%)より9.2ポイント高くなっています。(図表4-6)

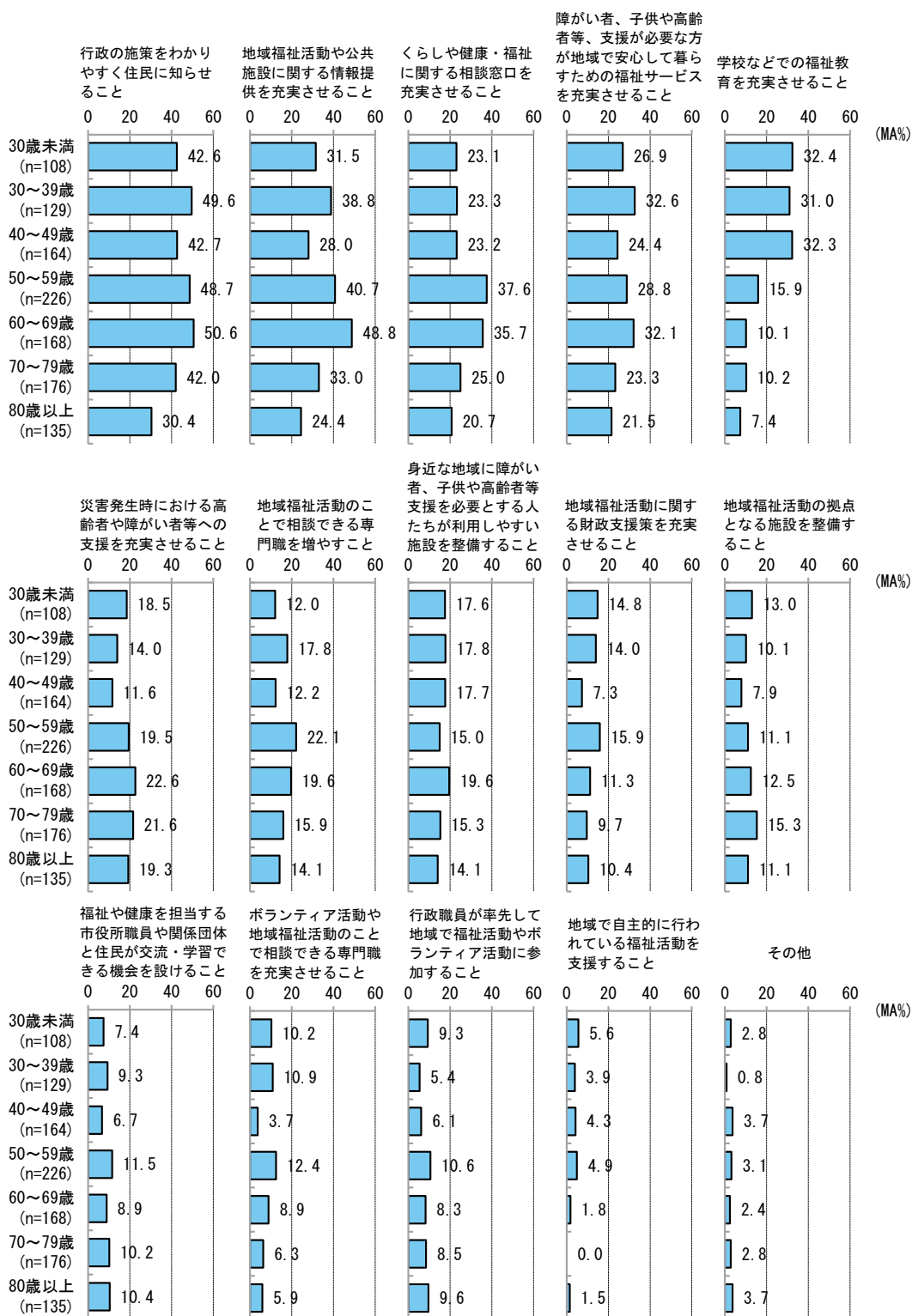
性別で見ると、「障がい者、子供や高齢者等、支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスを充実させること」の割合は男性（22.8%）より女性（30.6%）のほうが7.8ポイント、「災害発生時における高齢者や障がい者等への支援を充実させること」の割合は男性（15.4%）より女性（20.4%）のほうが5.0ポイント、それぞれ高くなっています。（図表4-6-1）

【図表4-6-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】

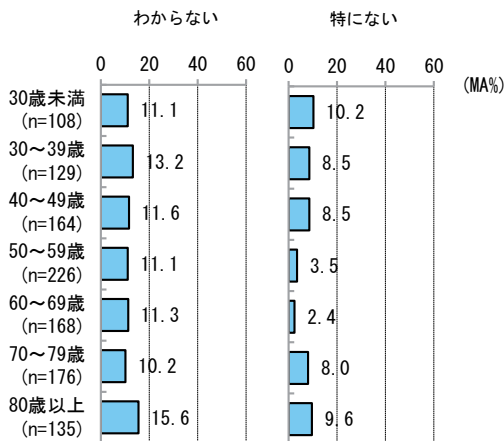


年齢別でみると、「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供を充実させること」、「災害発生時における高齢者や障がい者等への支援を充実させること」、「身近な地域に障がい者、子供や高齢者等支援を必要とする人たちが利用しやすい施設を整備すること」の割合はいずれも60～69歳が最も高くなっています。(図表4-6-2)

【図表4-6-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）①】

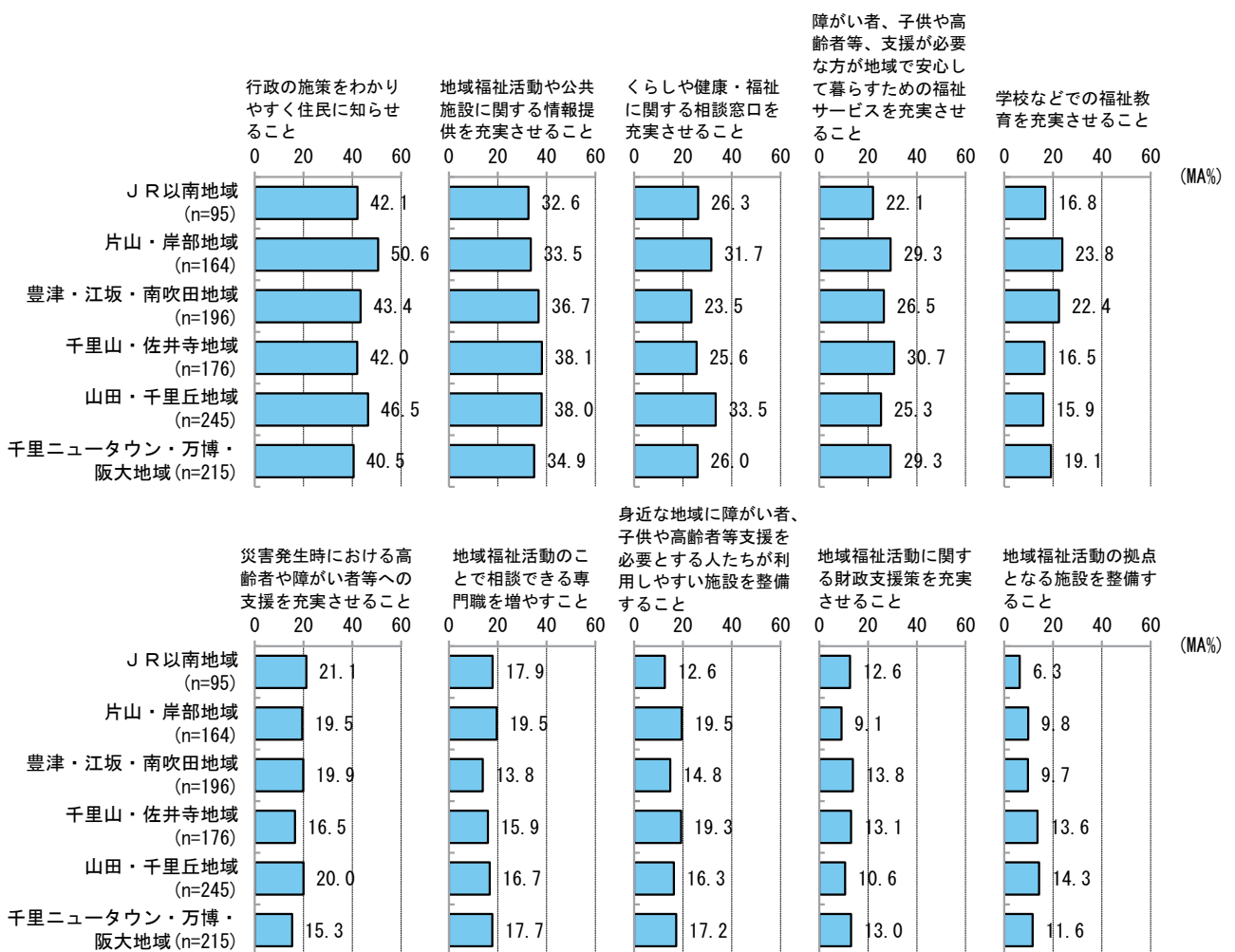


【図表4-6-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）②】

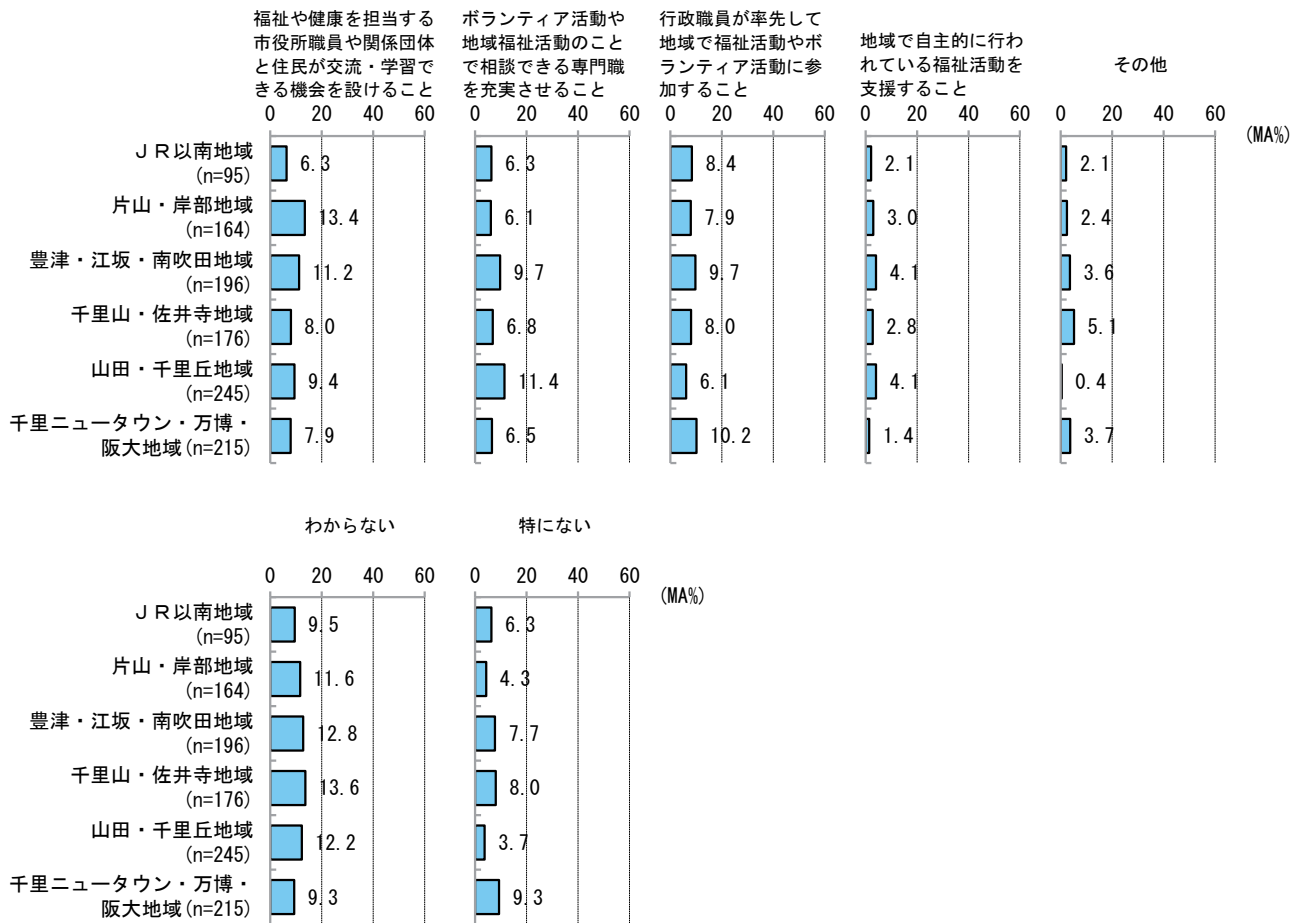


居住地域別でみると、「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」、「学校などでの福祉教育を充実させること」、「地域福祉活動のことで相談できる専門職を増やすこと」、「身近な地域に障がい者、子供や高齢者等支援を必要とする人たちが利用しやすい施設を整備すること」、「福祉や健康を担当する市役所職員や関係団体と住民が交流・学習できる機会を設けること」の割合はいずれも片山・岸部地域が最も高くなっています。（図表4-6-3）

【図表4-6-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）①】



【図表4-6-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）②】

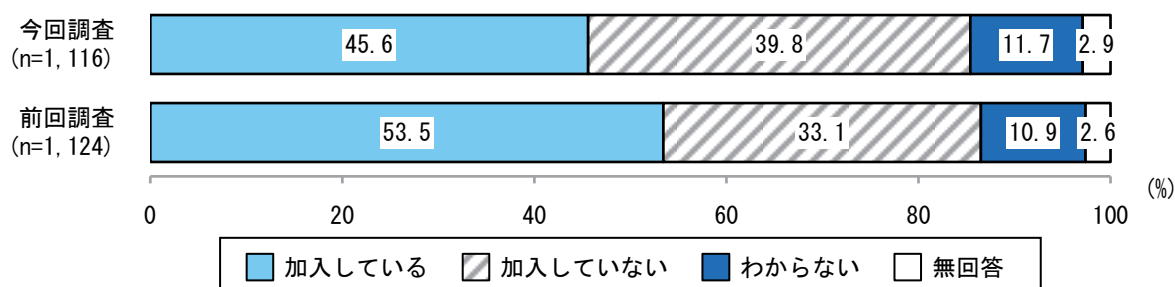


5 地域活動やボランティア活動について

(1) 自治会への加入状況

問19 あなたの世帯では地域の自治会に加入していますか。(○は1つ)

【図表5-1 自治会への加入状況（経年比較）】

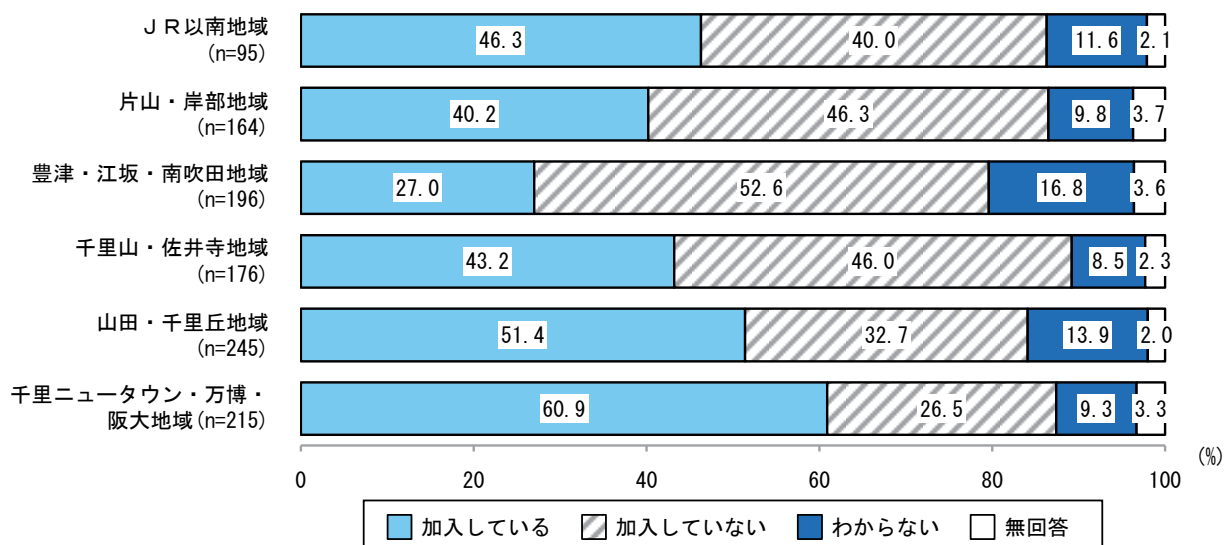


自治会への加入状況については、「加入している」が45.6%で最も多く、次いで「加入していない」が39.8%となっています。

前回調査と比較すると、「加入している」は前回（53.5%）より7.9ポイント低くなっています。（図表5-1）

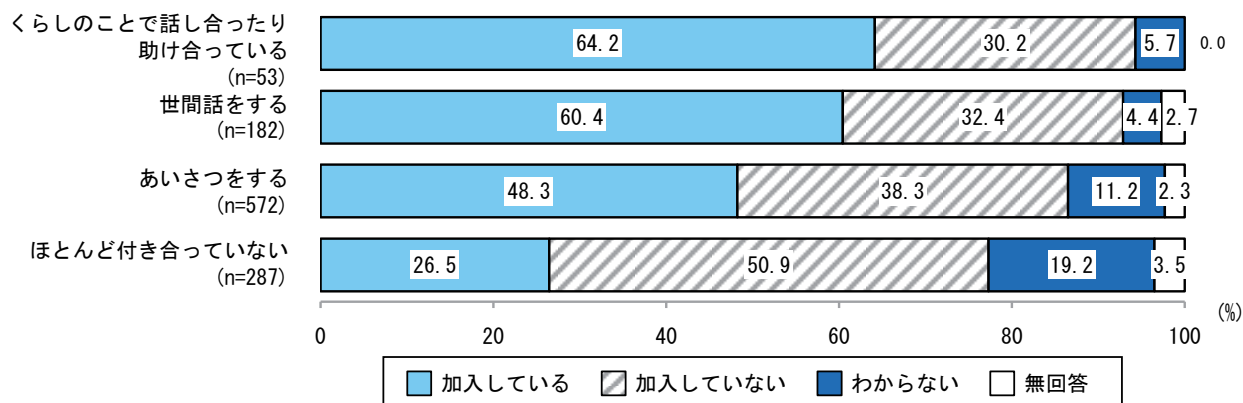
居住地域別でみると、「加入している」の割合は千里ニュータウン・万博・阪大地域が60.9%で最も高く、次いで山田・千里丘地域が51.4%となっています。一方、「加入していない」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が52.6%で最も高くなっています。（図表5-1-1）

【図表5-1-1 居住地域別 自治会への加入状況】



近所付き合いの程度別でみると、「加入している」の割合は近所付き合いをしている人ほど高く、“くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている”（64.2%）が最も高くなっています。（図表5-1-2）

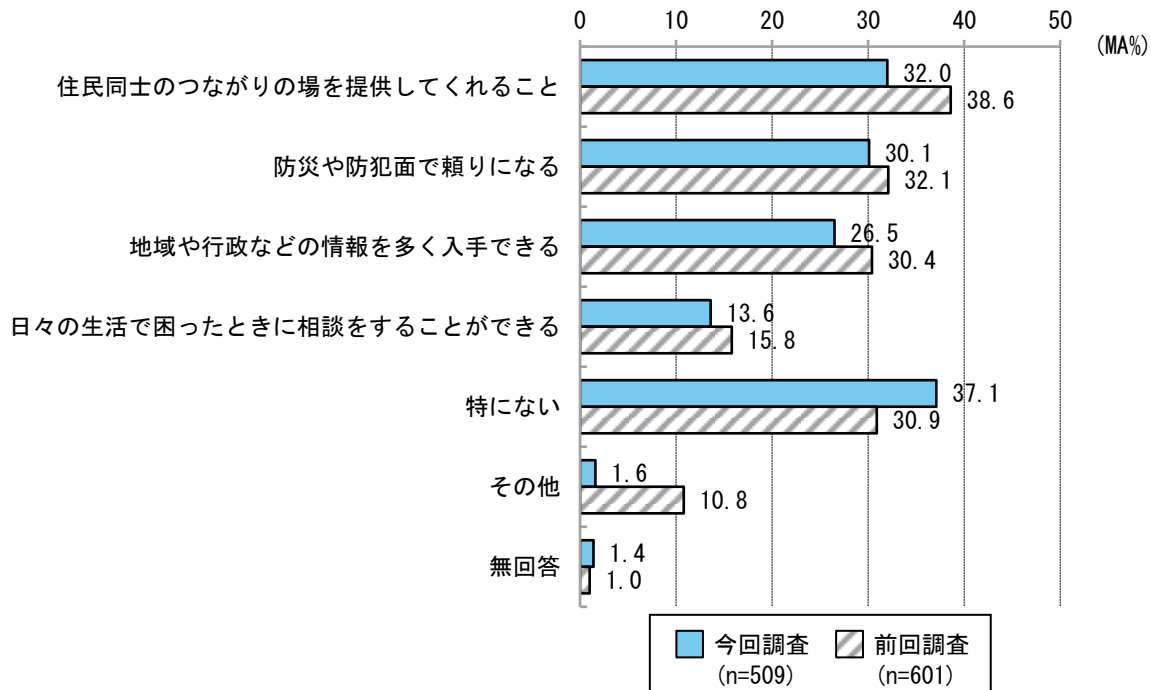
【図表5-1-2 近所付き合いの程度別 自治会への加入状況】



(2) 自治会に加入してよかったこと

問19-1 問19で「1. 加入している」と回答した方にお聞きします。
加入してよかったことは何ですか。(〇はいくつでも)

【図表5-2 自治会に加入してよかったこと(経年比較)】



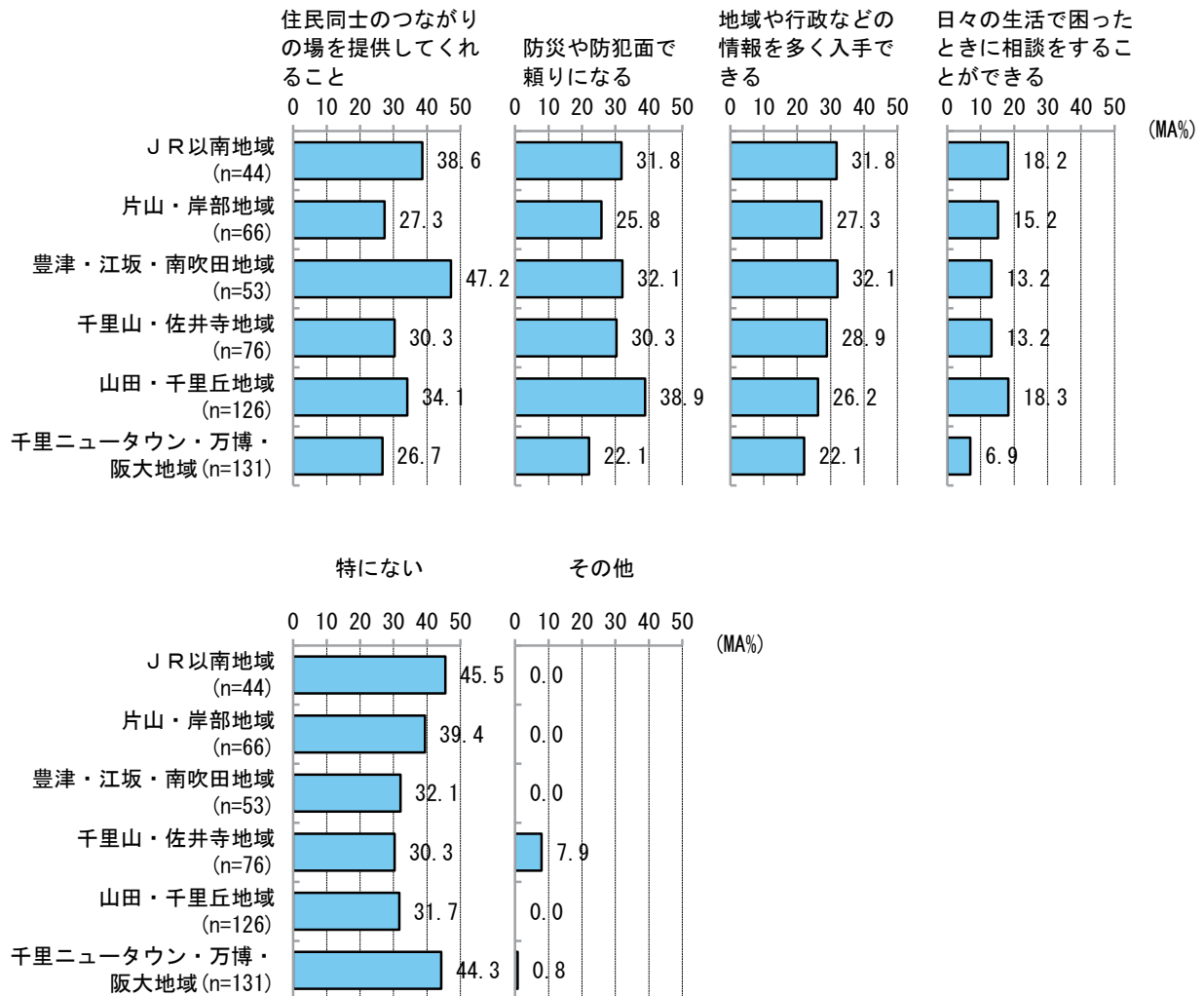
※前回調査では、自治会への加入理由を問う質問であり、注意が必要です。選択肢はいずれも「～から」となっていました。
※前回調査の「特に理由はない・知らない」は、「特にない」に変更しています。

自治会に加入していると回答した人に、加入してよかったことをたずねると、「住民同士のつながりの場を提供してくれること」が32.0%で最も多く、次いで「防災や防犯面で頼りになる」が30.1%、「地域や行政などの情報を多く入手できる」が26.5%となっています。

前回調査と比較すると、「住民同士のつながりの場を提供してくれること」の割合は前回(38.6%)より6.6ポイント低くなっています。(図表5-2)

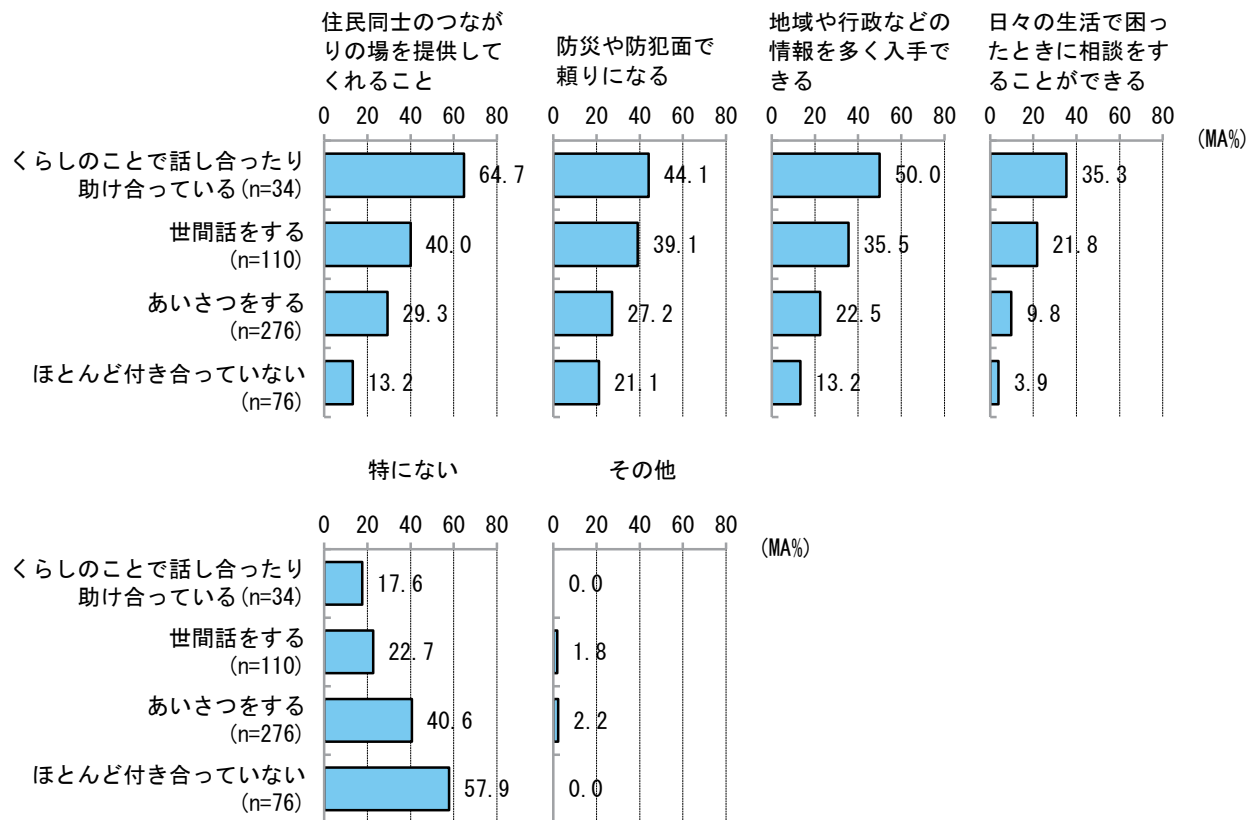
居住地域別でみると、「住民同士のつながりの場を提供してくれること」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が47.2%で最も高く、「防災や防犯面で頼りになる」の割合は山田・千里丘地域が38.9%で最も高くなっています。(図表5-2-1)

【図表5-2-1 居住地域別 自治会に加入してよかったこと】



近所付き合いの程度別でみると、いずれも“くらしのことで話し合ったり助け合っている”が最も高く、“ほとんど付き合いがない”が最も低くなっています。(図表5-2-2)

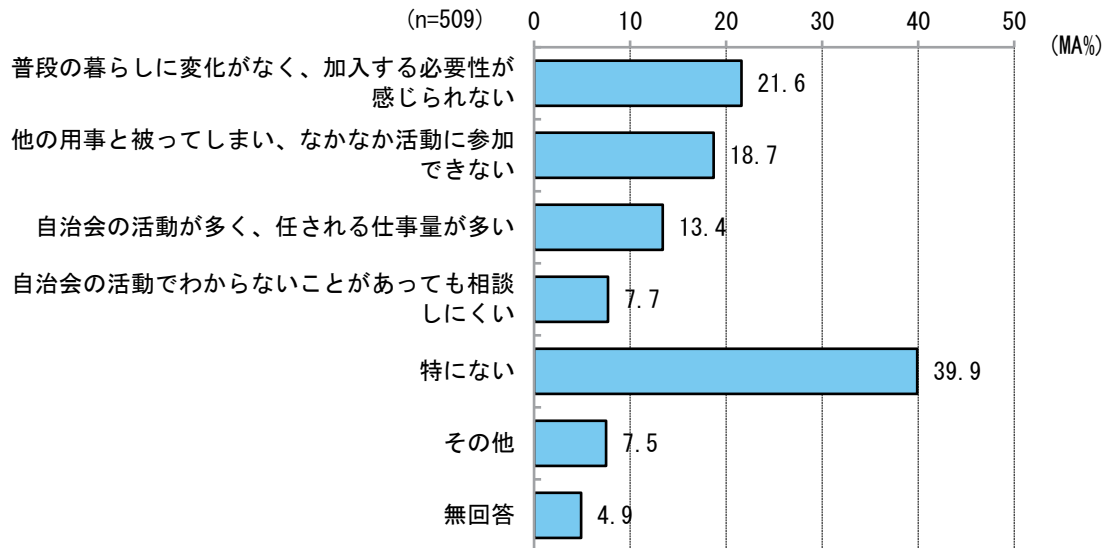
【図表5-2-2 近所付き合いの程度別 自治会に加入してよかったこと】



(3) 自治会に加入して課題だと感じたこと

問19-2 問19で「1. 加入している」と回答した方にお聞きします。加入して課題だと感じたことは何ですか。(〇はいくつでも)

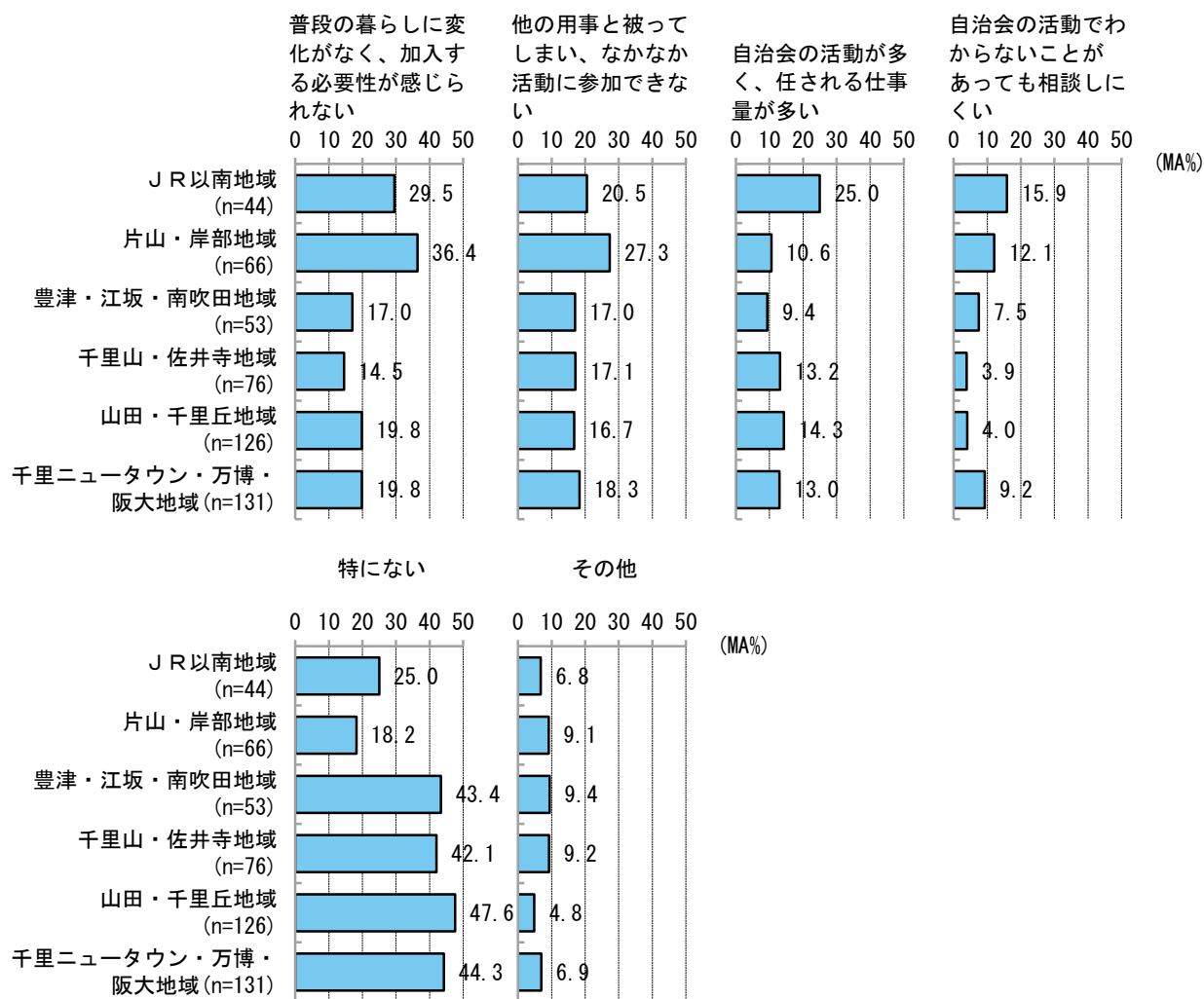
【図表5-3 自治会に加入して課題だと感じたこと】



自治会に加入していると回答した人に、加入して課題だと感じたことについてたずねると、「普段の暮らしに変化がなく、加入する必要性を感じられない」が21.6%で最も多く、次いで「他の用事と被ってしまい、なかなか活動に参加できない」が18.7%、「自治会の活動が多く、任される仕事量が多い」が13.4%となっています。一方で、「特にない」は39.9%となっています。(図表5-3)

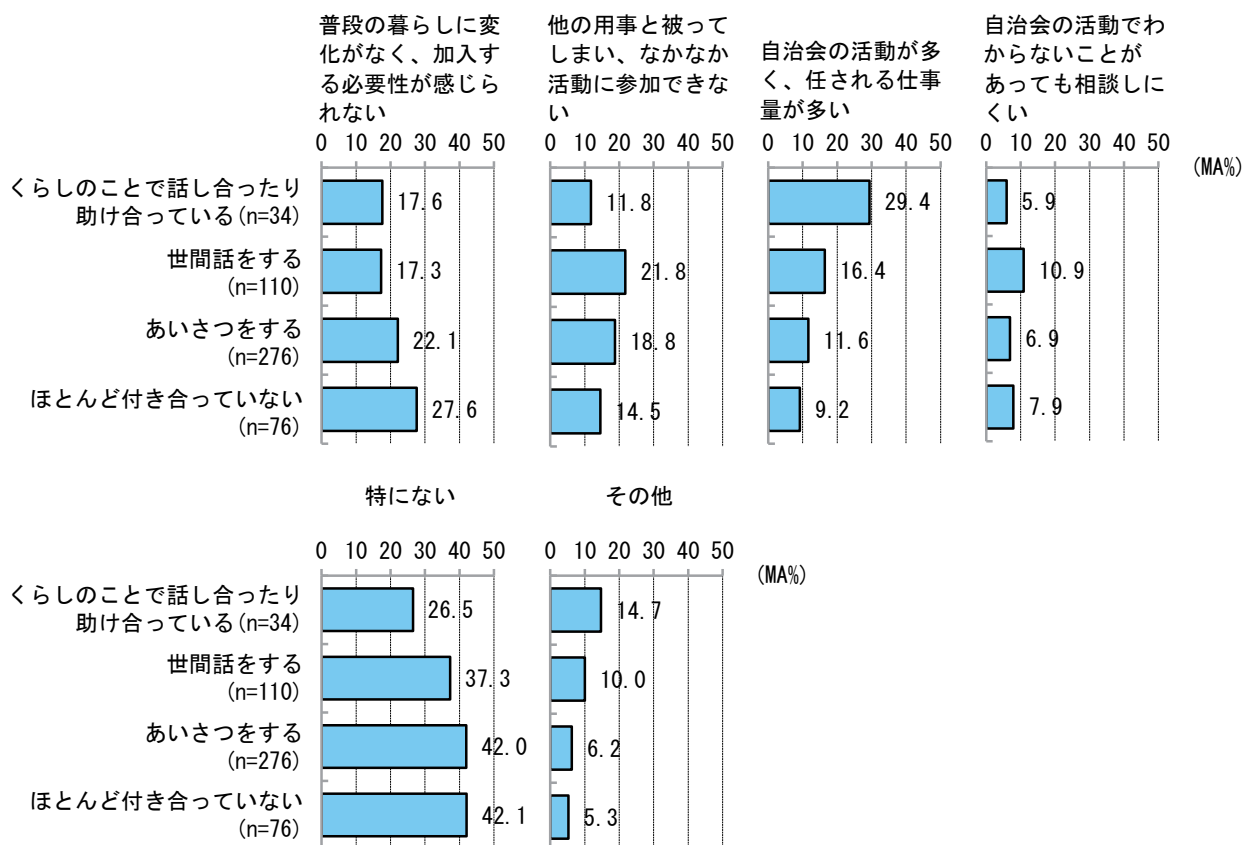
居住地域別でみると、「普段の暮らしに変化がなく、加入する必要性を感じられない」と「他の用事で被ってしまい、なかなか活動に参加できない」の割合は片山・岸部地域で最も高く、「自治会の活動が多く、任される仕事量が多い」と「自治会の活動でわからないことがあっても相談しにくい」の割合はJR以南地域で最も高くなっています。(図表5-3-1)

【図表5-3-1 居住地域別 自治会に加入して課題だと感じたこと】



近所付き合いの程度別でみると、「普段の暮らしに変化がなく、加入する必要性が感じられない」の割合は「ほとんど付き合いがない」(27.6%)で最も高く、「自治会の活動が多く、任される仕事量が多い」の割合は「くらしのことで話し合ったり助け合っている」(29.4%)が最も高くなっています。(図表5-3-2)

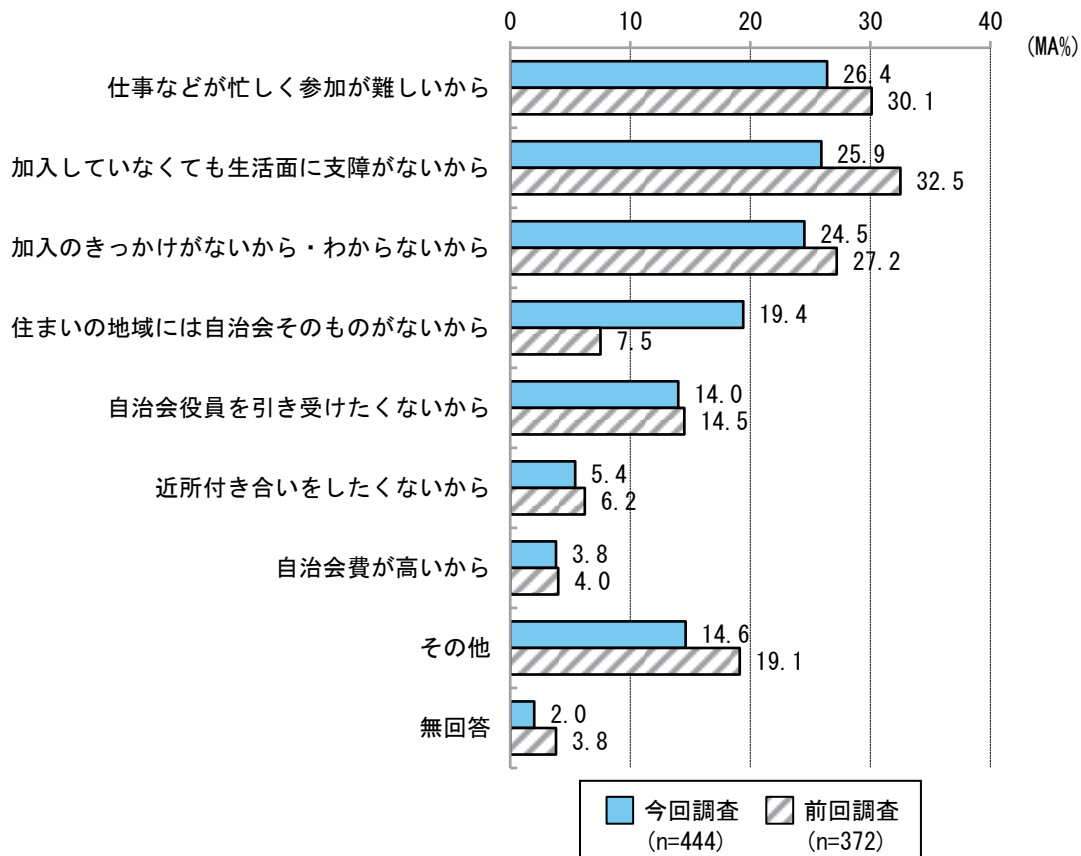
【図表5-3-2 近所付き合いの程度別 自治会に加入して課題だと感じたこと】



(4) 自治会に加入していない理由

問19-3 問19で「2. 加入していない」と回答した方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図表5-4 自治会に加入していない理由(経年比較)】



※前回調査の「自治会費を払いたくないから」は、今回調査では「自治会費が高いから」に変更しています。

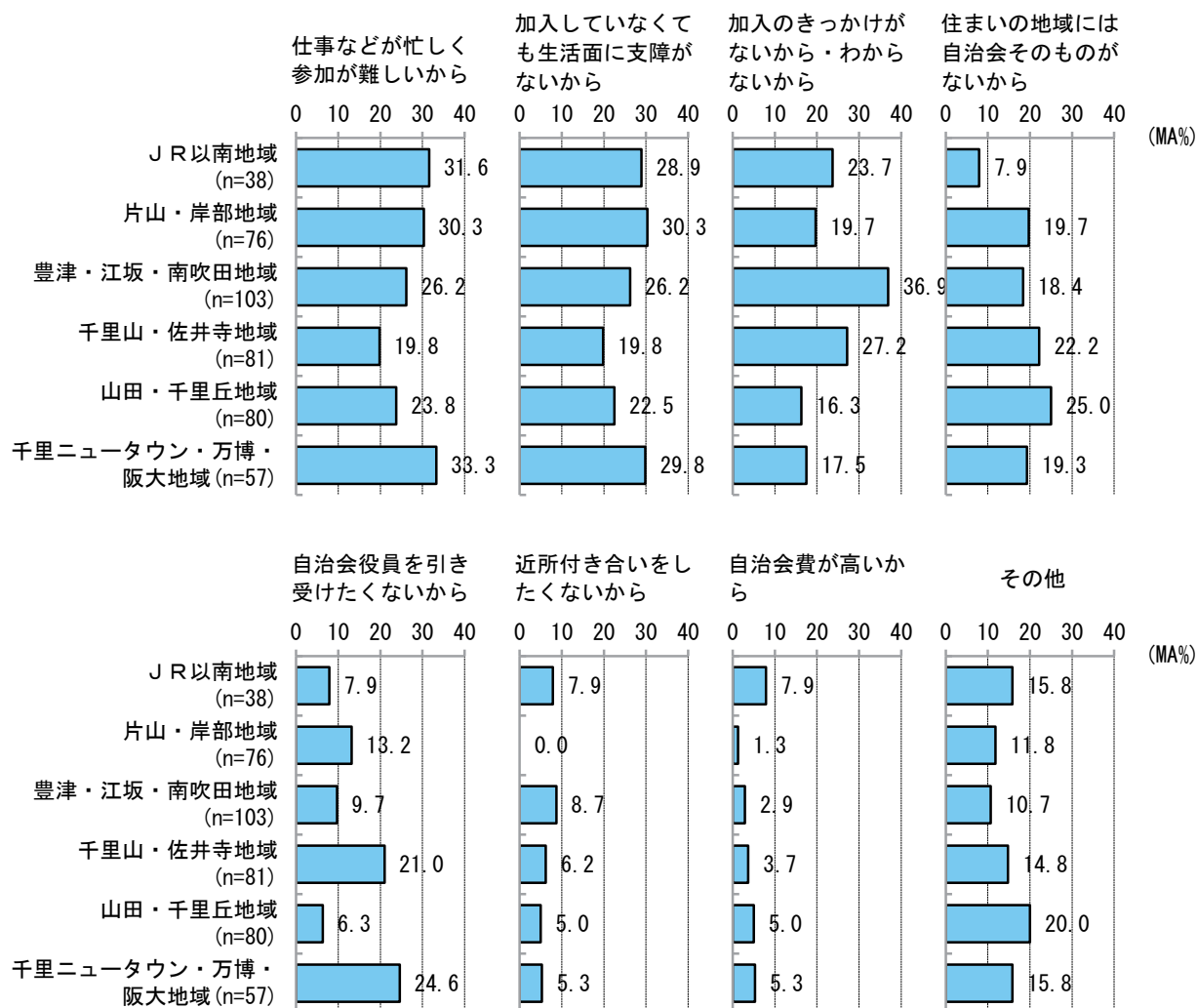
※前回調査の「住まいの地域の自治会は解散しているから」は、今回調査では「住まいの地域には自治会そのものがないから」に変更しています。

自治会に加入していないと回答した人に、その理由をたずねると、「仕事などが忙しく参加が難しいから」が26.4%で最も多く、次いで「加入してなくても生活面に支障がないから」が25.9%、「加入のきっかけがないから・わからないから」が24.5%となっています。

前回調査と比較すると、「住まいの地域には自治会そのものがないから」は前回(7.5%)より11.9ポイント高くなっています。(図表5-4)

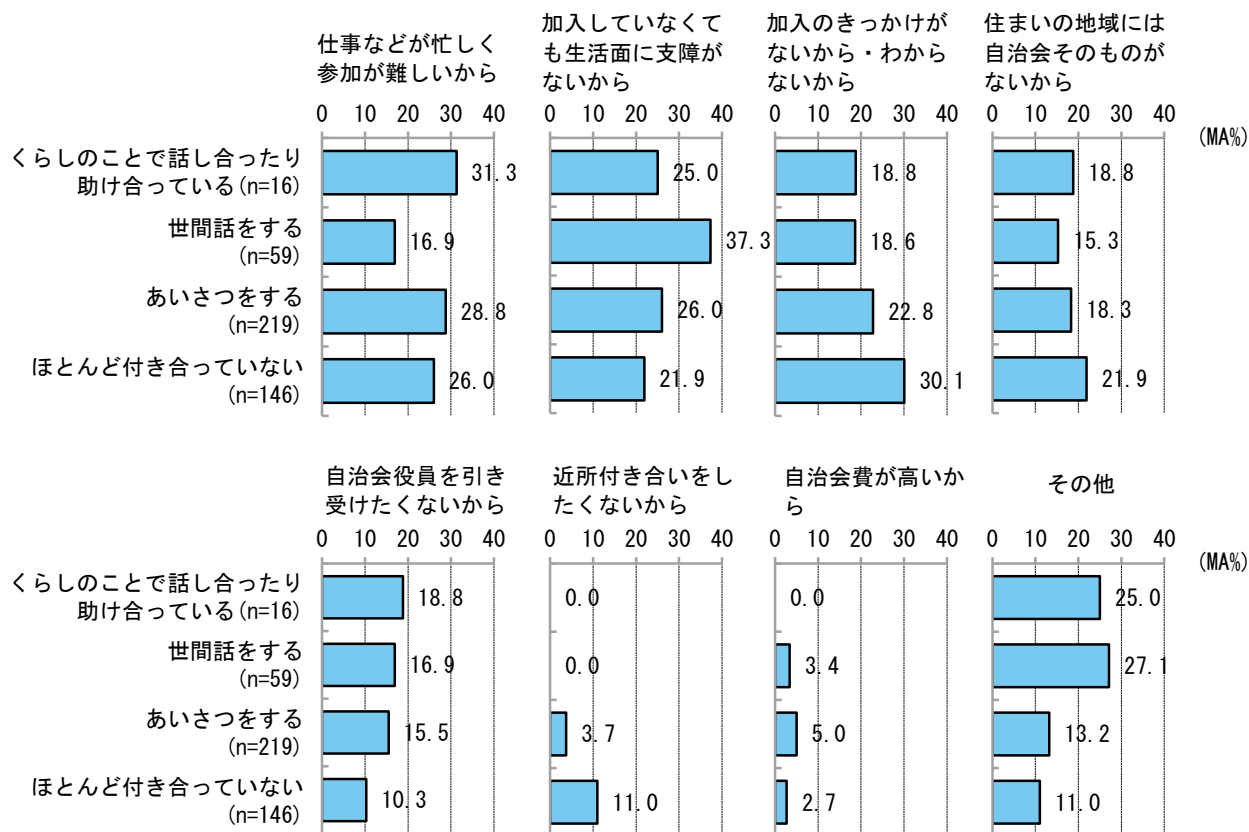
居住地域別でみると、豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域では「加入のきっかけがないから・わからないから」が最も多く、山田・千里丘地域では「住まいの地域には自治会そのものがないから」が最も多くなっています。(図表5-4-1)

【図表5-4-1 居住地域別 自治会に加入していない理由】



近所付き合いの程度別で見ると、“くらしのことで話し合ったり助け合っている”では「仕事などが忙しく参加が難しいから」が31.3%で最も多く、“ほとんど付き合いがない”では「加入のきっかけがないから・わからないから」が30.1%で最も多くなっています。(図表5-4-2)

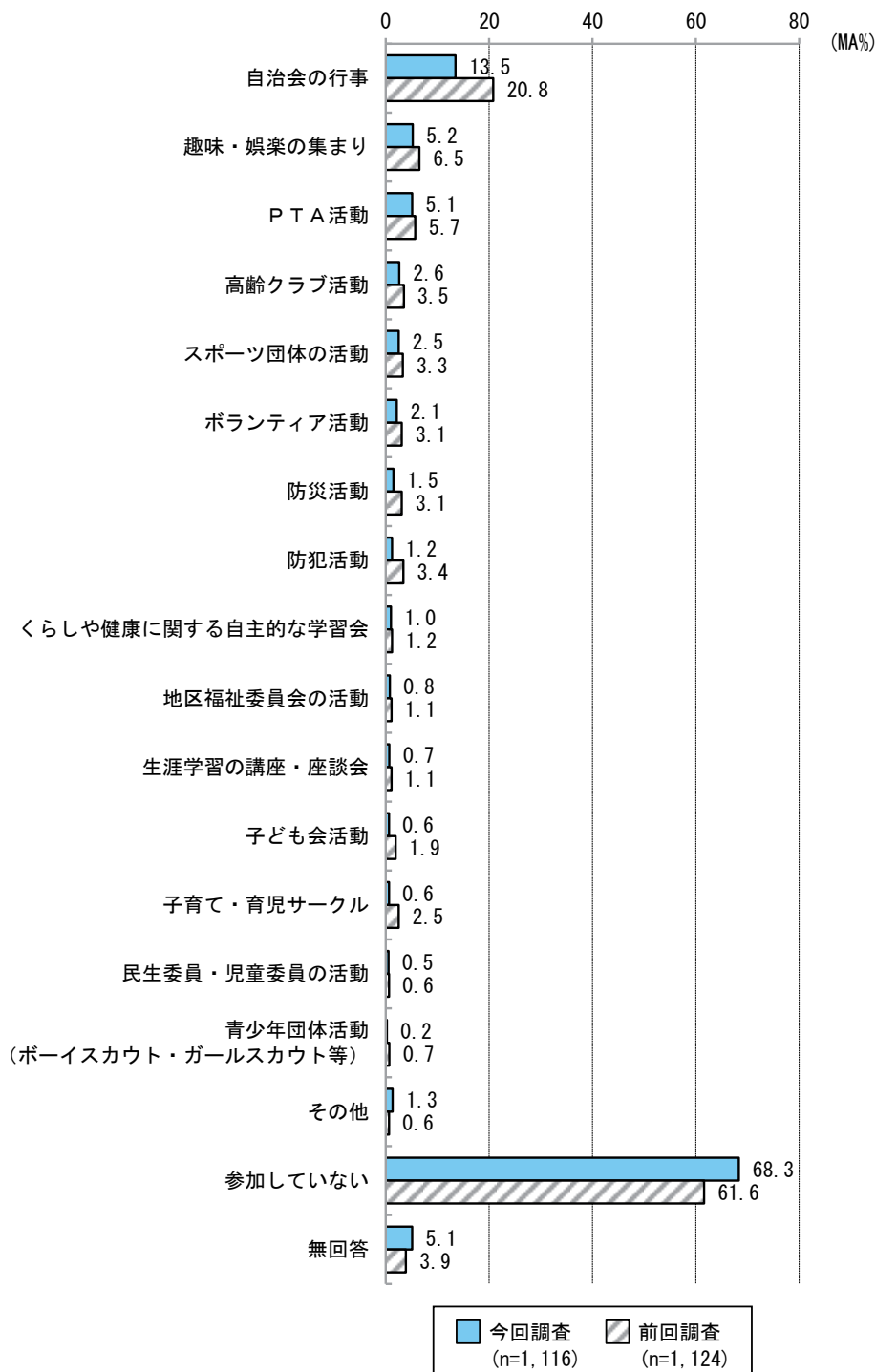
【図表5-4-2 近所付き合いの程度別 自治会に加入していない理由】



(5) 地域活動への参加・取組状況

問20 あなたは今、地域活動に参加したり、取り組んだりしていますか。(〇はいくつでも)

【図表5-5 地域活動への参加・取組状況（経年比較）】



地域活動への参加・取組状況については、「参加していない」が68.3%で最も多くなっていますが、参加したり取り組んでいる人では「自治会の行事」が13.5%で最も多く、次いで「趣味・娯楽の集まり」が5.2%、「P T A 活動」が5.1%となっています。

前回調査と比較すると、「参加していない」は前回（61.6%）より6.7ポイント高く、「自治会の行事」は前回（20.8%）より7.3ポイント低くなっています。（図表5-5）

性別で見ると、「参加していない」の割合は女性（65.8%）より男性（72.6%）のほうが6.8ポイント高くなっています。（図表5-5-1）

【図表5-5-1 性別 地域活動への参加・取組状況（上位5項目）】

（単位：MA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (n=456)	参加していない 72.6	自治会の行事 13.8	趣味・娯楽の集まり 3.7	P T A 活動 3.1	スポーツ団体の活動 2.6
女性 (n=641)	参加していない 65.8	自治会の行事 12.9	P T A 活動 6.7	趣味・娯楽の集まり 6.4	高齢クラブ活動 3.0

年齢別で見ると、いずれの年代も「参加していない」の割合が最も高く、30歳未満が91.7%で最も高くなっています。次いで40～49歳では「P T A 活動」（20.7%）となっています。（図表5-5-2）

【図表5-5-2 年齢別 地域活動への参加・取組状況（上位5項目）】

（単位：MA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
30歳未満 (n=108)	参加していない 91.7	自治会の行事／趣味・娯楽の集まり／スポーツ団体の活動			ボランティア活動／地区福祉委員会の活動／子ども会活動 1.9 0.9
30～39歳 (n=129)	参加していない 75.2	自治会の行事 9.3	P T A 活動 7.8	子育て・育児サークル 2.3	趣味・娯楽の集まり 1.6
40～49歳 (n=164)	参加していない 66.5	P T A 活動 20.7	自治会の行事 14.6	スポーツ団体の活動 3.0	ボランティア活動 2.4
50～59歳 (n=226)	参加していない 80.1	自治会の行事 6.2	P T A 活動 5.8	趣味・娯楽の集まり 3.5	ボランティア活動 2.7
60～69歳 (n=168)	参加していない 67.9	自治会の行事 17.3	防災活動 5.4	趣味・娯楽の集まり 4.8	スポーツ団体の活動 3.0
70～79歳 (n=176)	参加していない 54.0	自治会の行事 20.5	趣味・娯楽の集まり 13.6	高齢クラブ活動 5.7	スポーツ団体の活動 4.5
80歳以上 (n=135)	参加していない 45.9	自治会の行事 23.0	高齢クラブ活動 11.1	趣味・娯楽の集まり 9.6	くらしや健康に関する自主的な学習会 4.4

居住地域別でみると、いずれの地域も「参加していない」が最も多く、豊津・江坂・南吹田地域が74.5%で最も高くなっています。次いでいずれの地域も「自治会の行事」が続いており、JR以南地域が16.8%で最も高くなっています。(図表5-5-3)

【図表5-5-3 居住地域別 地域活動への参加・取組状況(上位5項目)】

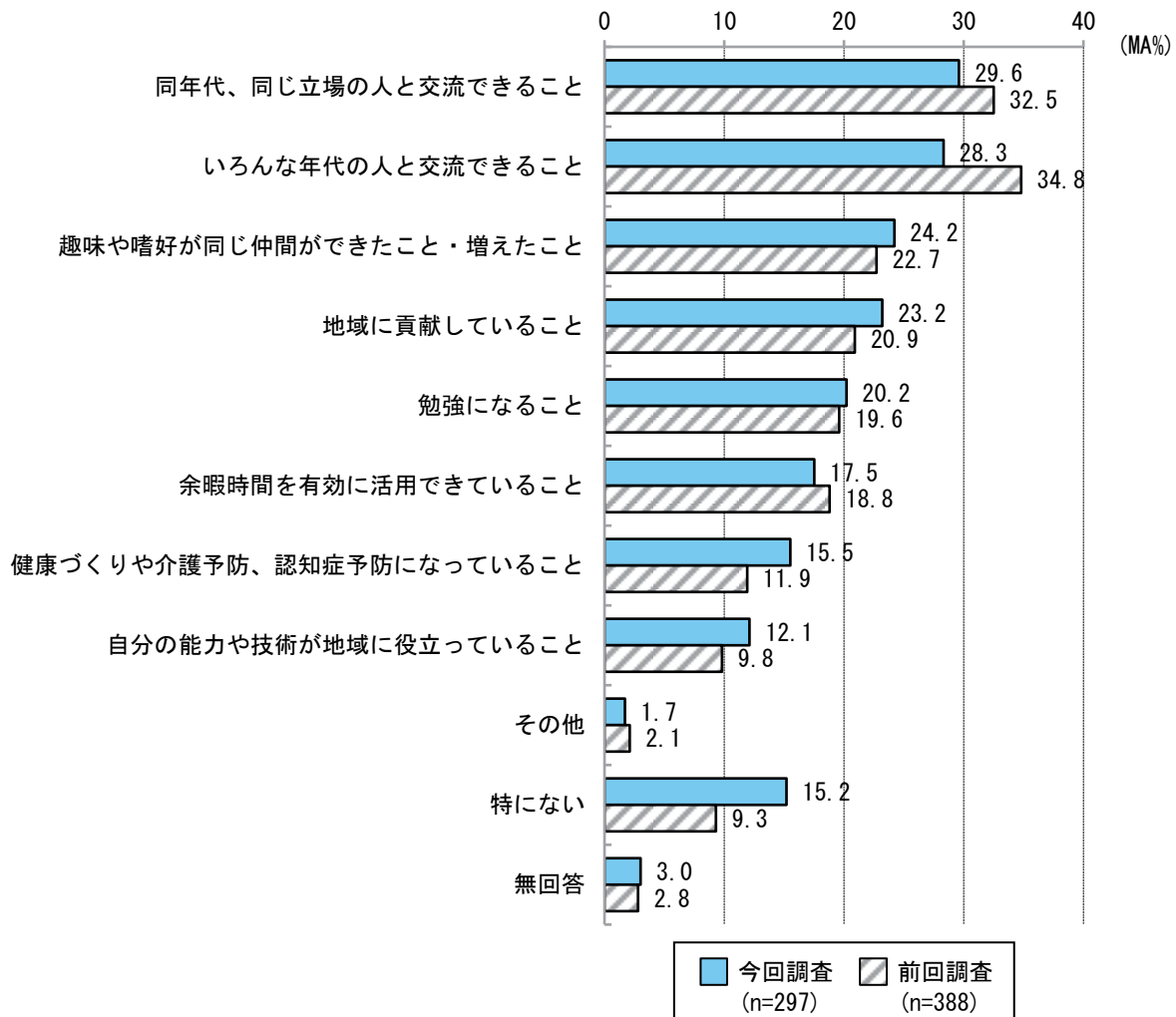
(単位:MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
JR以南地域 (n=95)	参加していない 61.1	自治会の行事 16.8	高齢クラブ活動 6.3	趣味・娯楽の集まり／PTA活動 5.3	
片山・岸部地域 (n=164)	参加していない 70.7	自治会の行事 13.4	PTA活動 4.9	高齢クラブ活動 3.7	趣味・娯楽の集まり 3.0
豊津・江坂・南吹田 地域 (n=196)	参加していない 74.5	自治会の行事 12.2	PTA活動 4.6	趣味・娯楽の集まり 2.6	スポーツ団体の活動 2.0
千里山・佐井寺地域 (n=176)	参加していない 68.8	自治会の行事 11.9	趣味・娯楽の集まり 9.7	PTA活動 6.3	高齢クラブ活動／ スポーツ団体の活動 2.3
山田・千里丘地域 (n=245)	参加していない 70.6	自治会の行事 14.7	趣味・娯楽の集まり 6.9	スポーツ団体の活動 3.3	PTA活動／高齢 クラブ活動 2.9
千里ニュータウン・ 万博・阪大地域 (n=215)	参加していない 60.5	自治会の行事 14.9	PTA活動 7.9	趣味・娯楽の集まり 3.7	ボランティア活動 3.3

(6) 地域活動に参加してよかったこと

問20-1 問20で「1」～「16」のいずれかに回答した方にお聞きします。
参加してよかったことは何ですか。(〇はいくつでも)

【図表5-6 地域活動に参加してよかったこと(経年比較)】

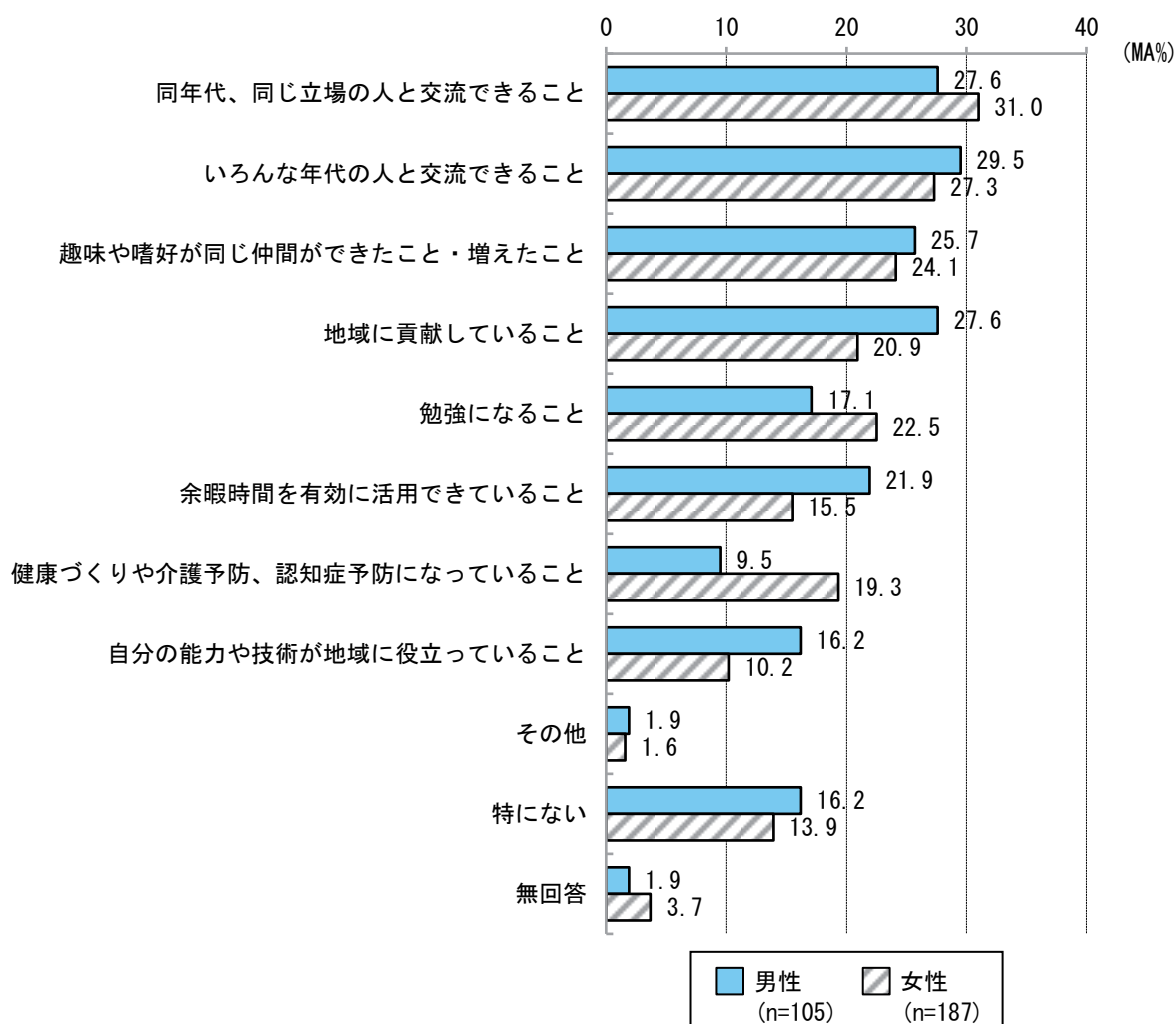


地域活動に参加したり、取り組んだりしていると回答した人に、参加してよかったことについてたずねると、「同年代、同じ立場の人と交流できること」が29.6%で最も多く、次いで「いろいろな年代の人と交流できること」が28.3%、「趣味や嗜好が同じ仲間ができたこと・増えたこと」が24.2%となっています。

前回調査と比較すると、「いろいろな年代の人と交流できること」の割合が前回(34.8%)より6.5ポイント低くなっていますが、「健康づくりや介護予防、認知症予防になっていること」の割合は前回(11.9%)より3.6ポイント高くなっています。(図表5-6)

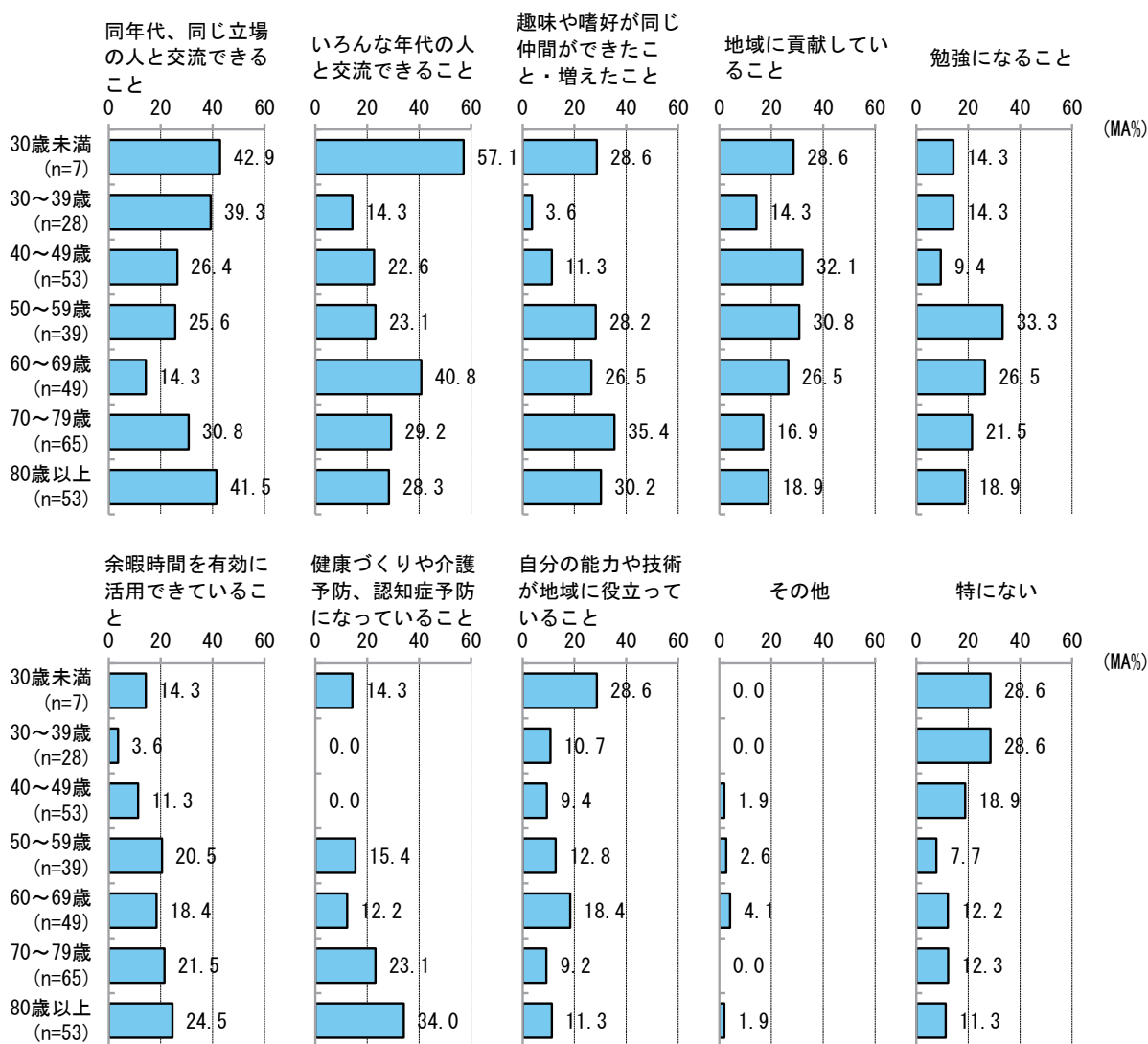
性別で見ると、「地域に貢献していること」(6.7ポイント)、「余暇時間を有効に活用できていること」(6.4ポイント)、「自分の能力や技術が地域に役立っていること」(6.0ポイント)は、いずれも女性より男性のほうが高くなっています。(図表5-6-1)

【図表5-6-1 性別 地域活動に参加してよかったこと】



年齢別でみると、60～69歳では「いろんな年代の人と交流できること」が40.8%で最も多く、70～79歳では「趣味や嗜好が同じ仲間ができたこと・増えたこと」(35.4%)、80歳以上では「同年代、同じ立場の人と交流できること」(41.5%)が最も多くなっています。(図表5-6-2)

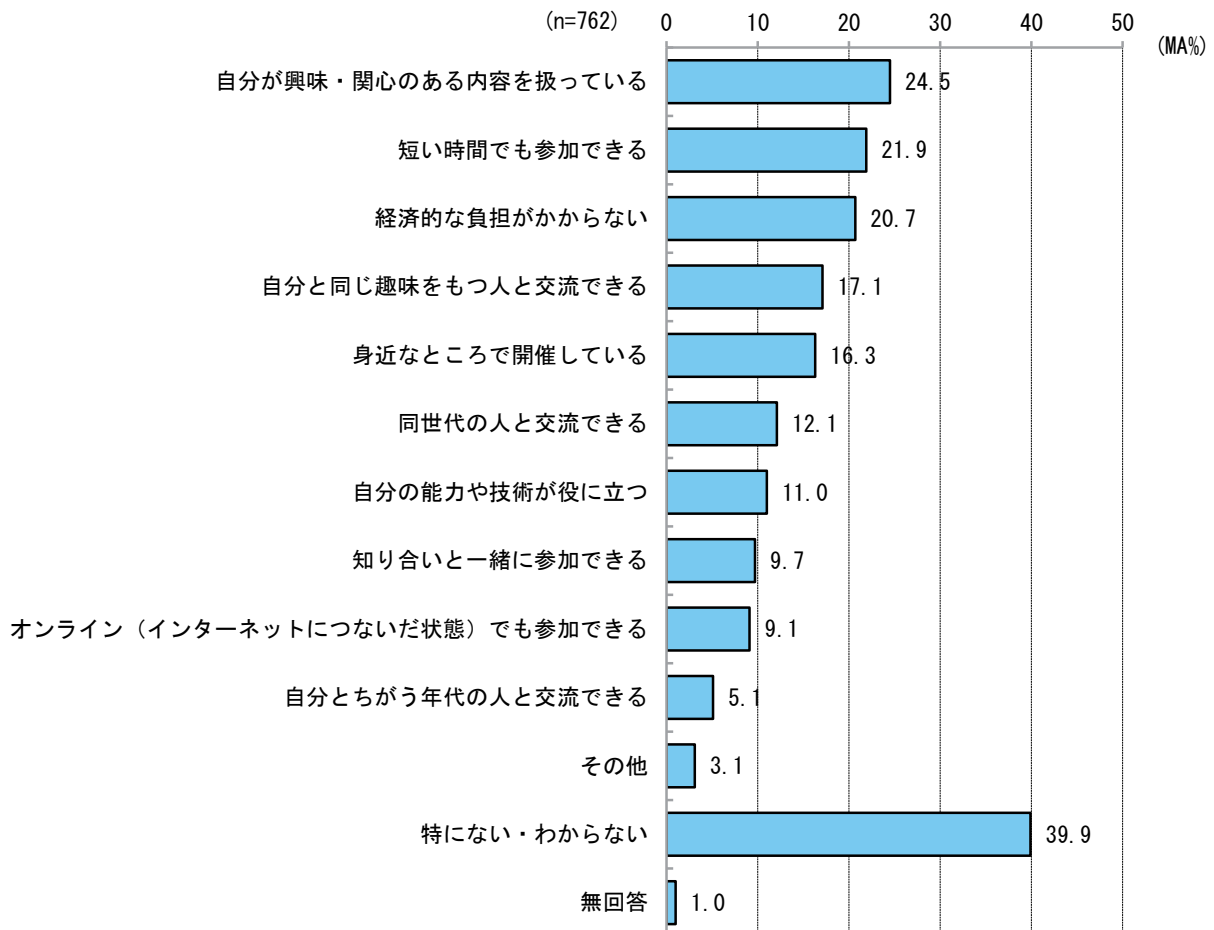
【図表5-6-2 年齢別 地域活動に参加してよかったこと】



(7) 地域活動に参加してみたいと思える活動内容

問20-2 問20で「17. 参加していない」と回答した方にお聞きします。
 地域でどのような活動（居場所）があれば参加してみたいですか。（〇はいくつでも）

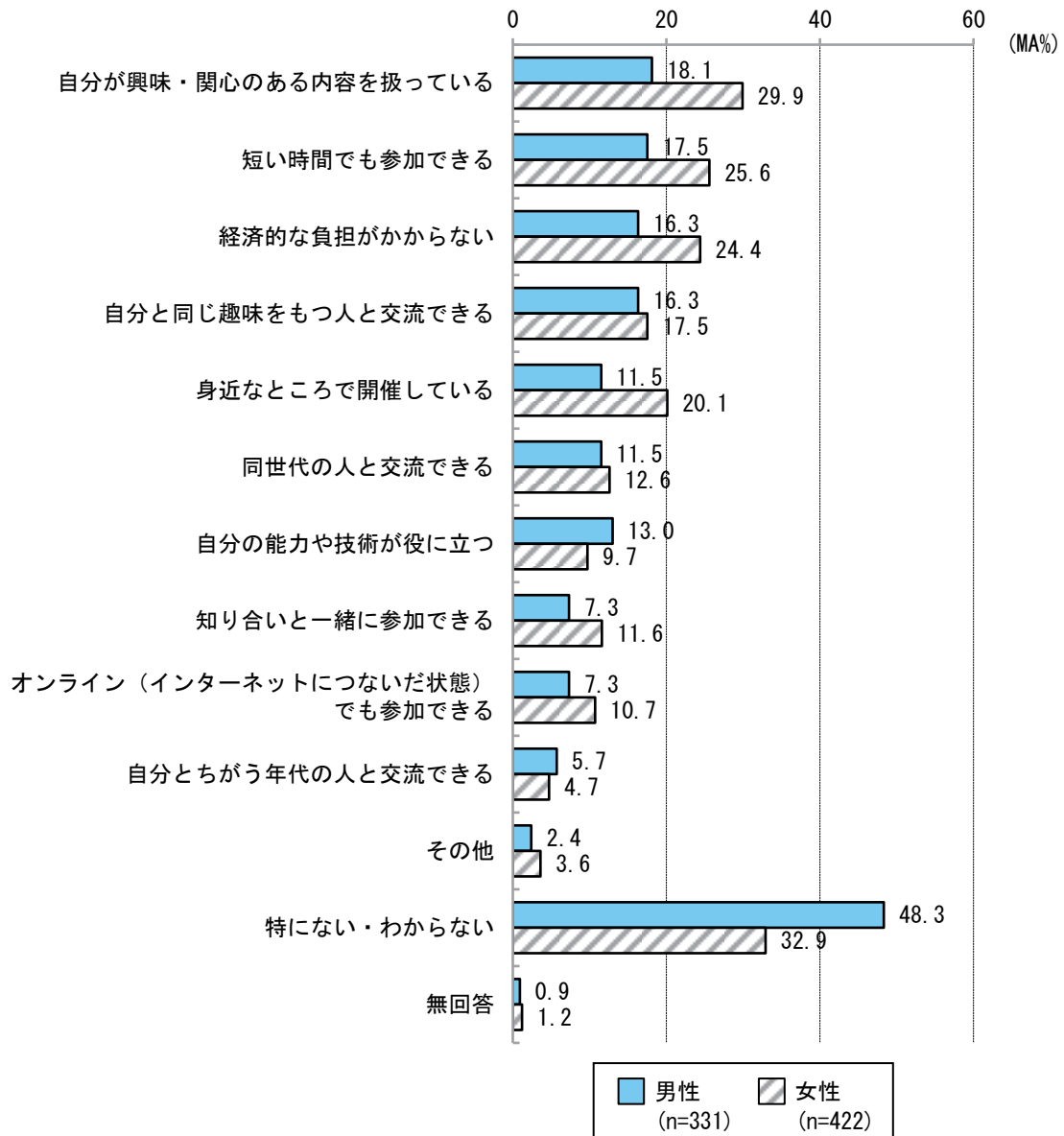
【図表5-7 地域活動に参加してみたいと思える活動内容】



地域活動に参加していないと回答した人に、地域活動に参加してみたいと思える活動内容についてたずねると、「自分が興味・関心のある内容を扱っている」が24.5%で最も多く、次いで「短い時間でも参加できる」が21.9%、「経済的な負担がかからない」が20.7%となっています。一方、「特にない・わからない」が39.9%と高い割合となっています。（図表5-7）

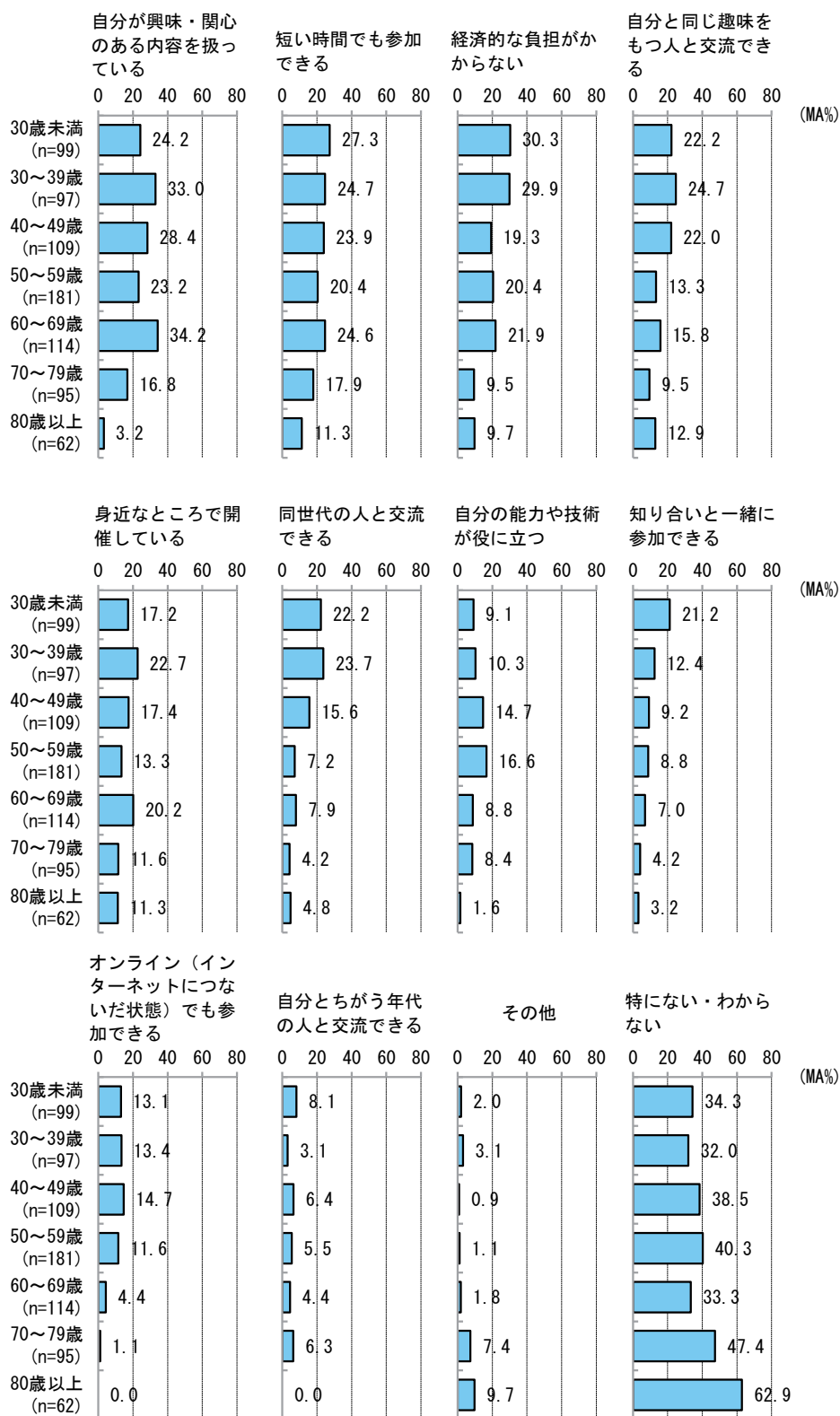
性別で見ると、「自分が興味・関心のある内容を扱っている」は11.8ポイント、「身近なところで開催している」は8.6ポイント、「短い時間でも参加できる」と「経済的な負担がかからない」がともに8.1ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっています。(図表5-7-1)

【図表5-7-1 性別 地域活動に参加してみたいと思える活動内容】



年齢別でみると、「自分が興味・関心のある内容を扱っている」の割合は60～69歳が34.2%で最も高く、次いで30～39歳が33.0%となっています。また、「短い時間でも参加できる」、「経済的な負担がかからない」、「知り合いと一緒に参加できる」、「自分とちがう年代の人と交流できる」の割合はいずれも30歳未満が最も高くなっています。(図表5-7-2)

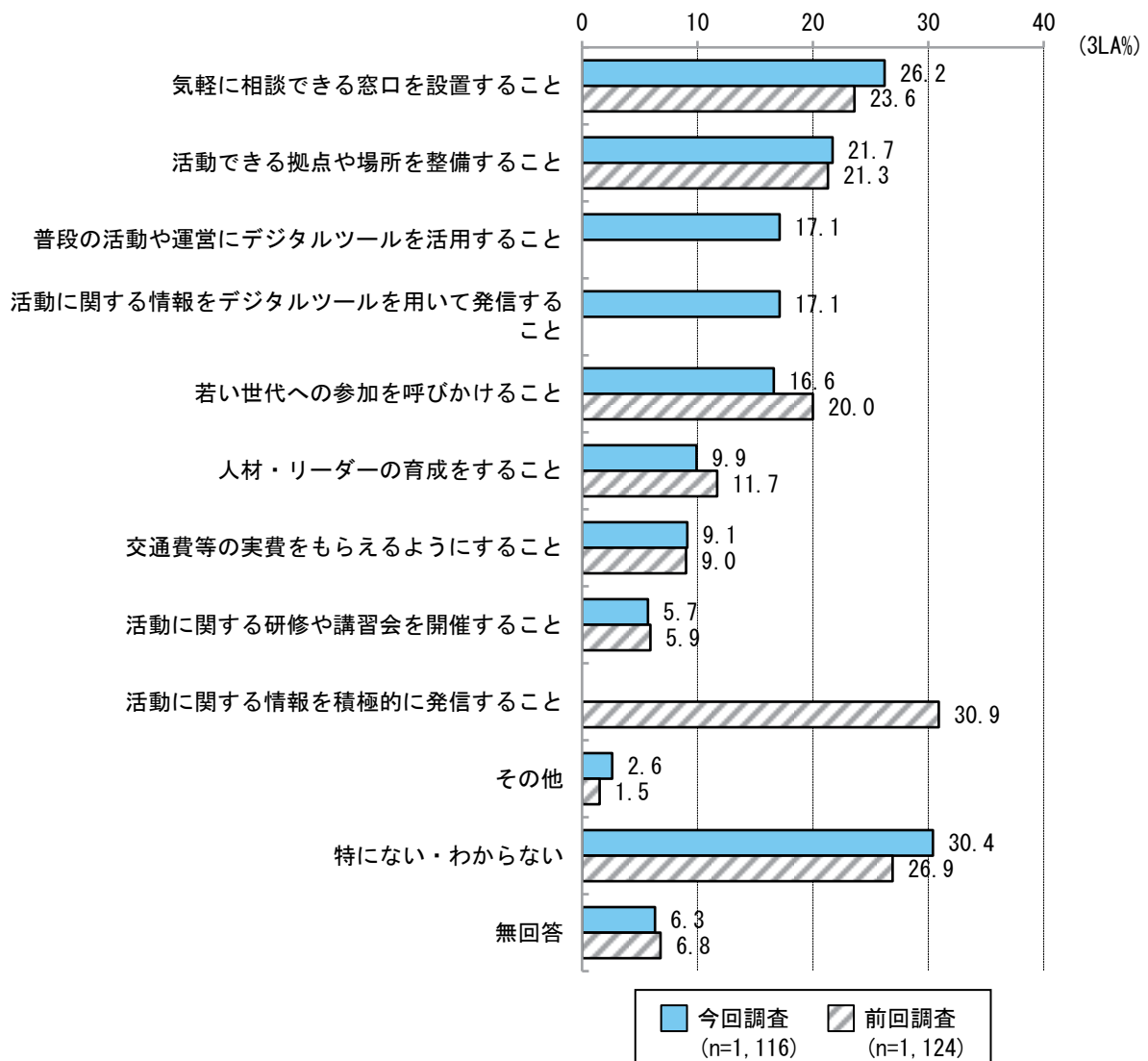
【図表5-7-2 年齢別 地域活動に参加してみたいと思える活動内容】



(8) 地域活動に参加しやすくするために必要なこと

問21 地域活動に参加しやすくするために必要なことは何だと思えますか。(○は3つまで)

【図表5-8 地域活動に参加しやすくするために必要なこと（経年比較）】



※「普段の活動や運営にデジタルツールを活用すること」、「活動に関する情報をデジタルツールを用いて発信すること」は、今回調査の新規項目です。

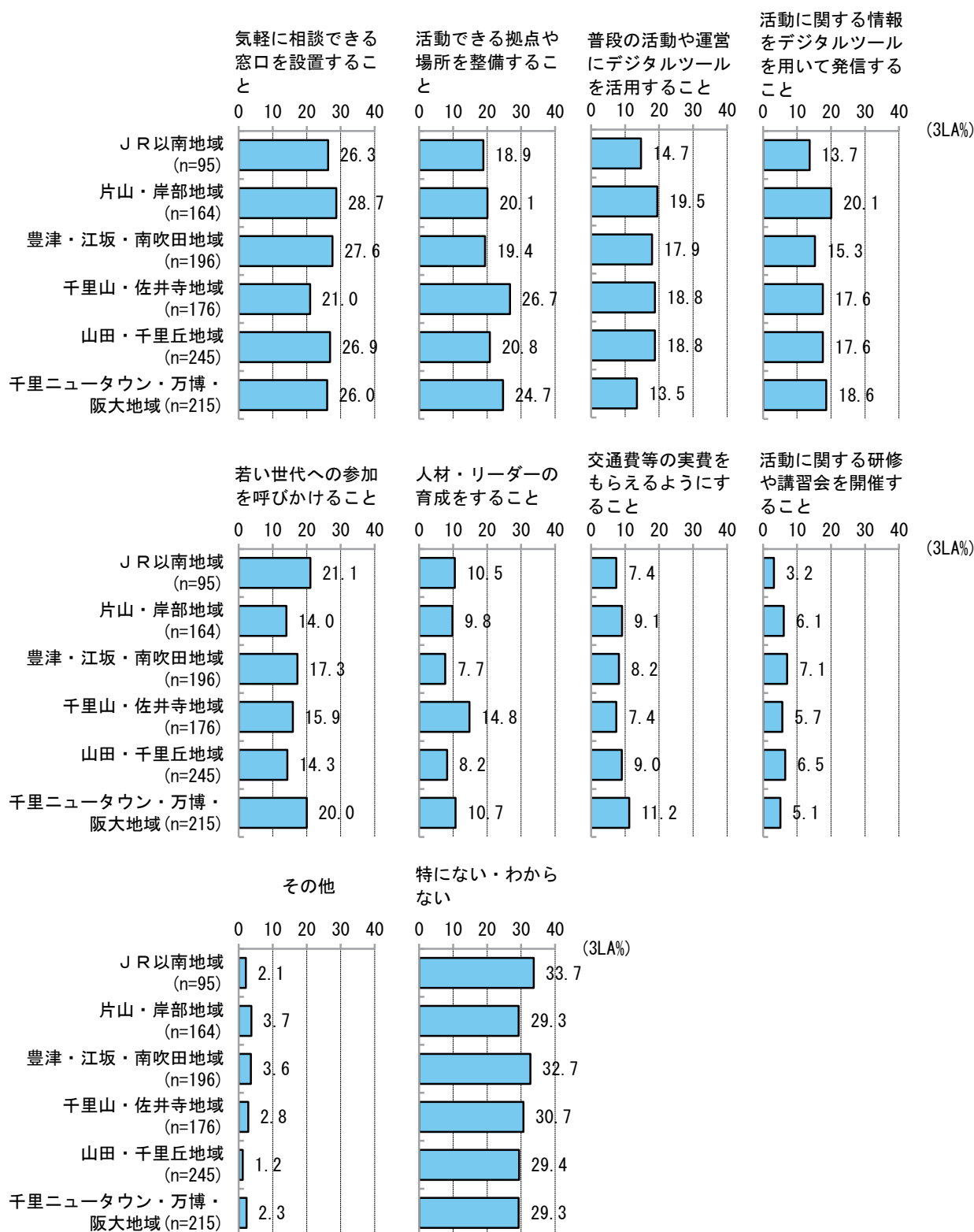
※前回調査の「活動に関する情報を積極的に発信すること」は、今回調査では設けていません。

地域活動に参加しやすくするために必要なことについては、「気軽に相談できる窓口を設置すること」が26.2%で最も多く、次いで「活動できる拠点や場所を整備すること」が21.7%、「普段の活動や運営にデジタルツールを活用すること」と「活動に関する情報をデジタルツールを用いて発信すること」がそれぞれ17.1%となっています。一方、「特にない・わからない」が30.4%と高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「若い世代への参加を呼びかけること」は前回（20.0%）より3.4ポイント低くなっています。（図表5-8）

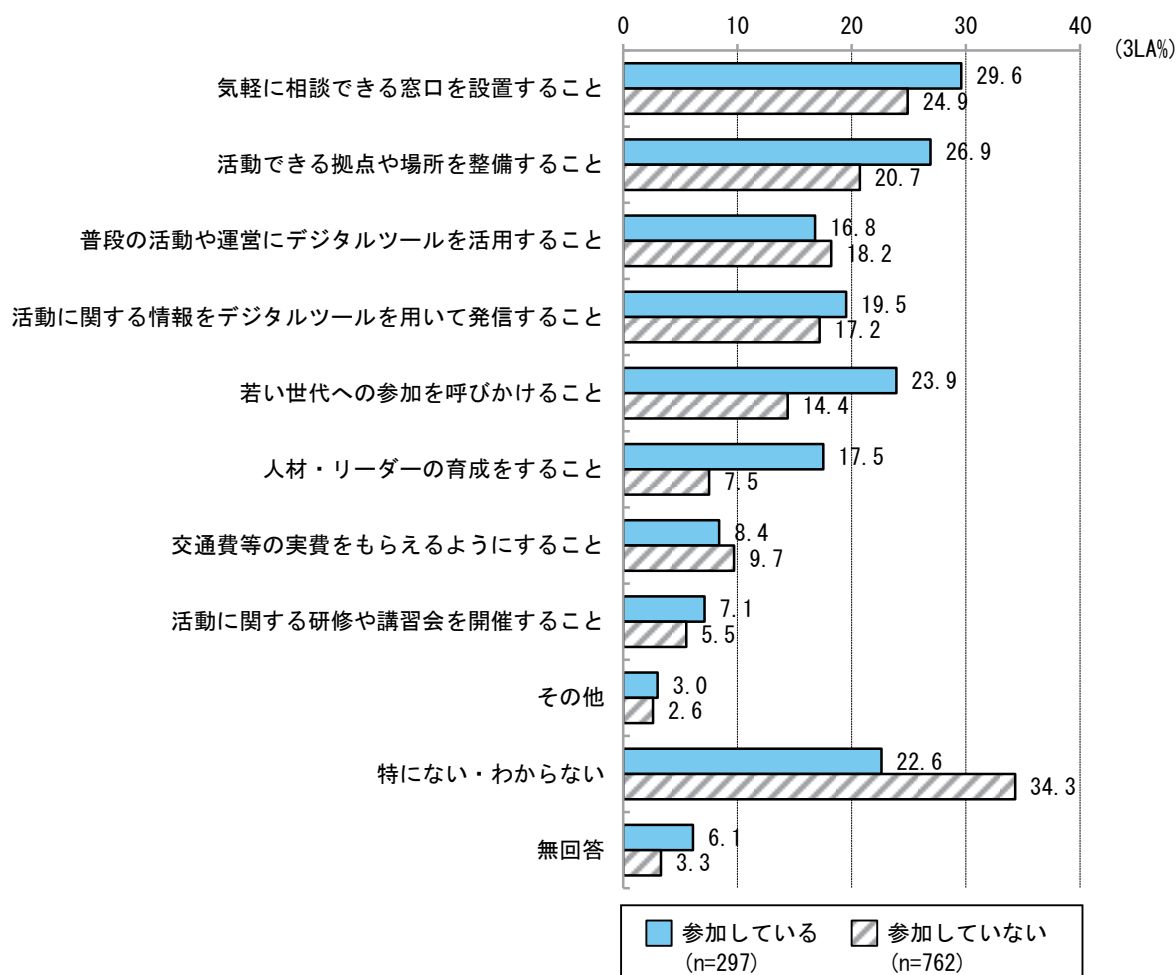
居住地域別でみると、千里山・佐井寺地域では「活動できる拠点や場所を整備すること」が26.7%で最も多いですが、それ以外の地域では「気軽に相談できる窓口を設置すること」が最も多くなっています。(図表5-8-1)

【図表5-8-1 居住地域別 地域活動に参加しやすくするために必要なこと】



地域活動への参加・取組有無別でみると、「人材・リーダーの育成をすること」の割合は参加していない人（7.5%）より参加している人（17.5%）のほうが10.0ポイント高く、「若い世代への参加を呼びかけること」の割合は参加していない人（14.4%）より参加している人（23.9%）のほうが9.5ポイント高くなっています。（図表5-8-2）

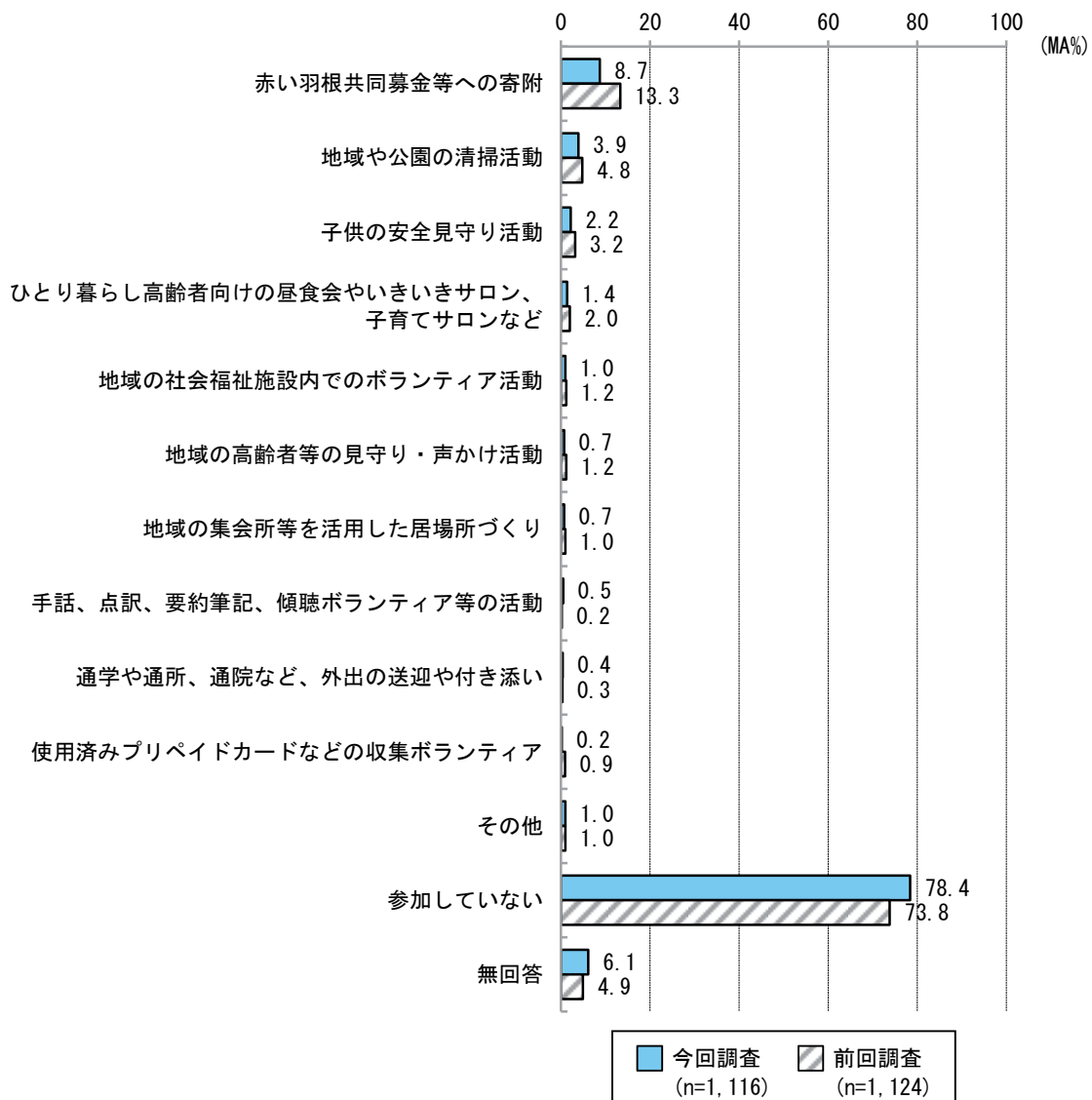
【図表5-8-2 地域活動への参加・取組有無別 地域活動に参加しやすくするために必要なこと】



(9) 福祉ボランティア活動への参加・取組状況

問22 あなたは、現在、福祉ボランティア活動に参加したり、取り組んだりしていますか。
(〇はいくつでも)

【図表5-9 福祉ボランティア活動への参加・取組状況（経年比較）】

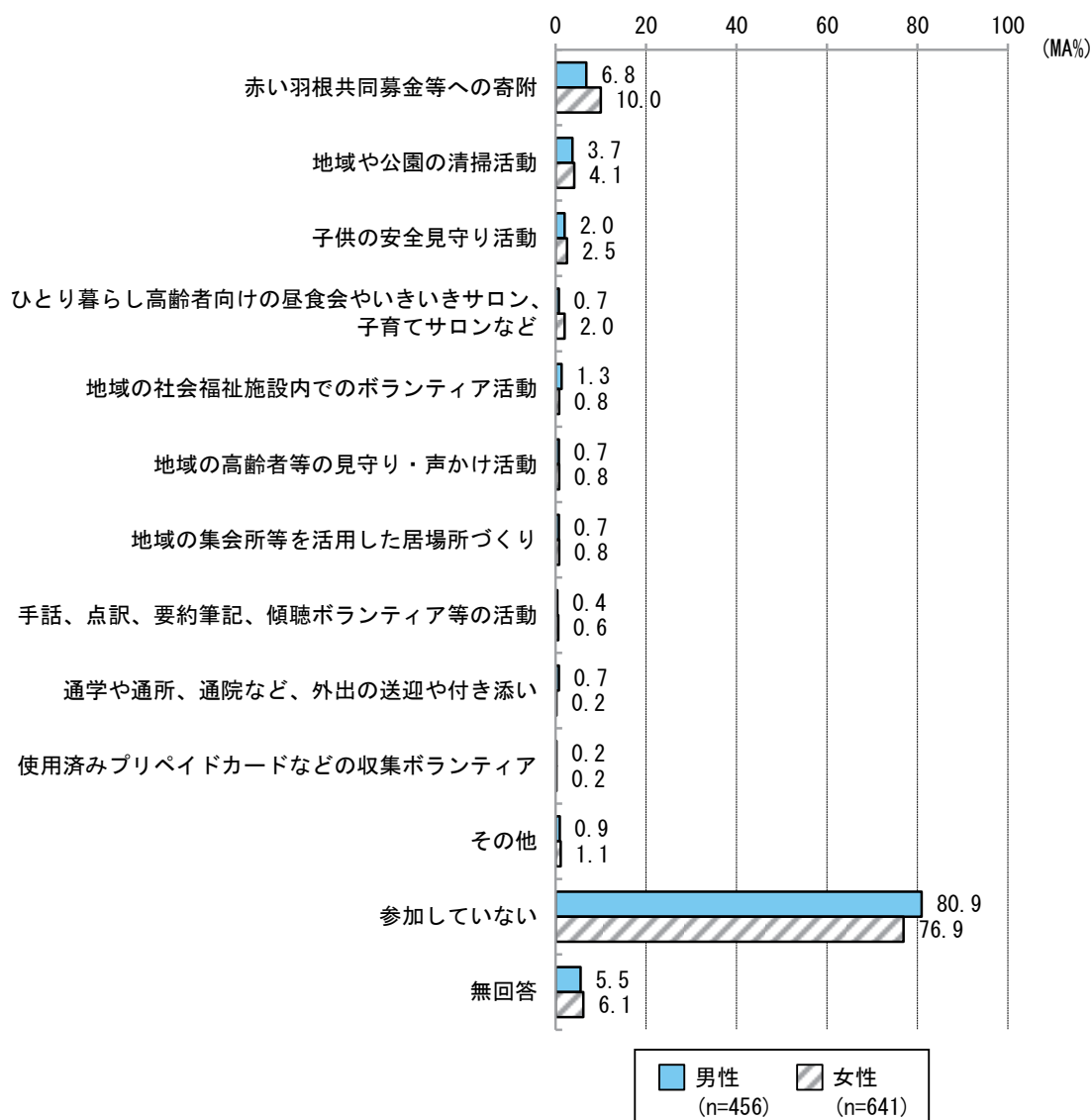


福祉ボランティア活動への参加・取組状況については、「参加していない」が78.4%と高くなっています。参加したり取り組んでいる人では「赤い羽根共同募金等への寄附」が8.7%で最も多く、次いで「地域や公園の清掃活動」が3.9%、「子供の安全見守り活動」が2.2%となっています。

前回調査と比較すると、「参加していない」が前回（73.8%）より4.6ポイント高く、「赤い羽根共同募金等への寄附」は前回（13.3%）より4.6ポイント低くなっています。（図表5-9）

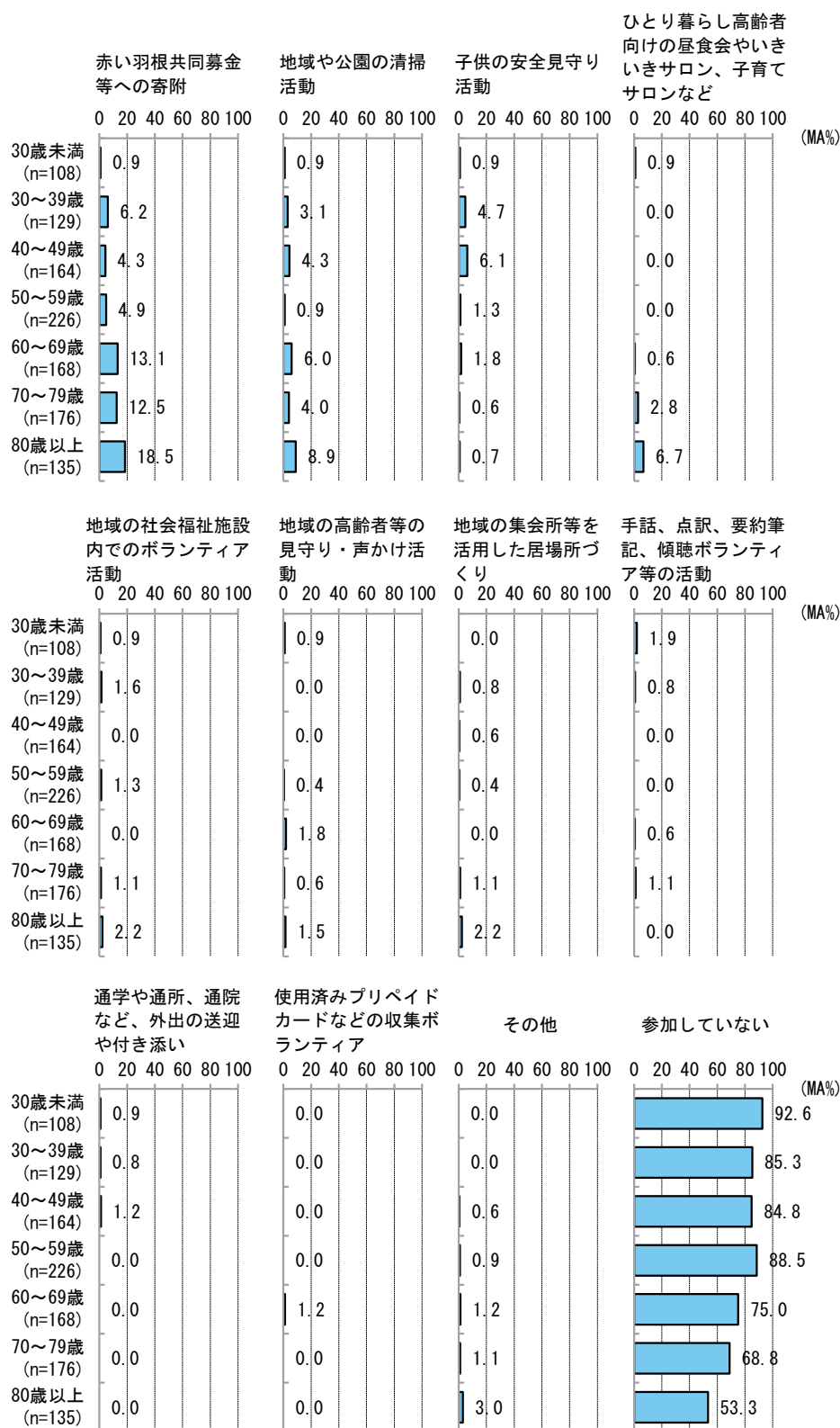
性別で見ると、「参加していない」の割合は女性（76.9%）より男性（80.9%）のほうが4.0ポイント高くなっています。「赤い羽根共同募金等への寄附」の割合は男性（6.8%）より女性（10.0%）のほうが3.2ポイント高くなっています。（図表5-9-1）

【図表5-9-1 性別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



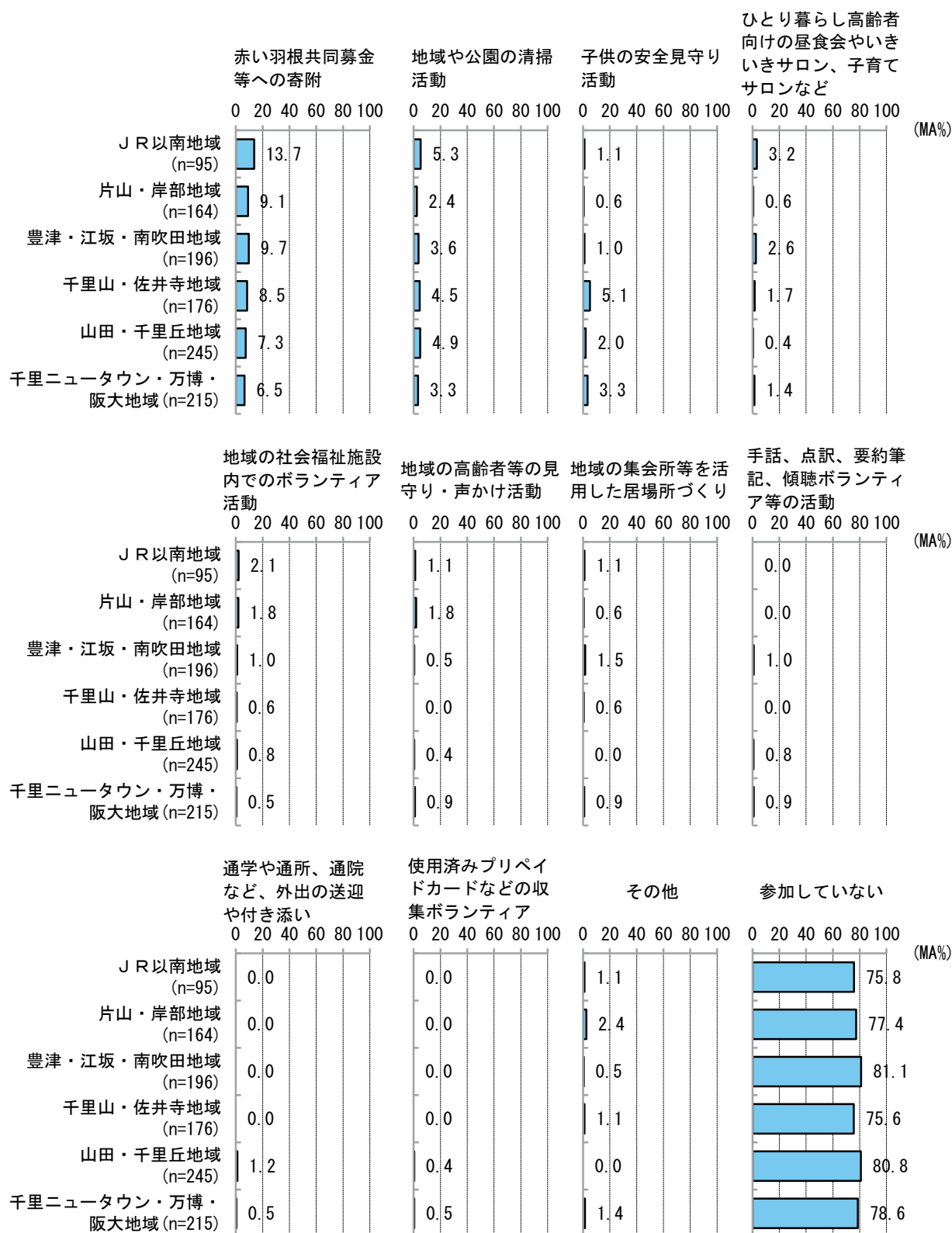
年齢別でみると、「赤い羽根共同募金等への寄附」、「地域や公園の清掃活動」、「ひとり暮らし高齢者向けの昼食会やいきいきサロン、子育てサロンなど」の割合は80歳以上で最も高くなっています。一方、「参加していない」の割合は30歳未満が92.6%で最も高くなっています。
 (図表5-9-2)

【図表5-9-2 年齢別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



居住地域別でみると、「赤い羽根共同募金等への寄附」の割合はJR以南地域が13.7%で最も高く、「地域や公園の清掃活動」もJR以南地域（5.3%）が最も高くなっています。「参加していない」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が81.1%で最も高くなっています。（図表5-9-3）

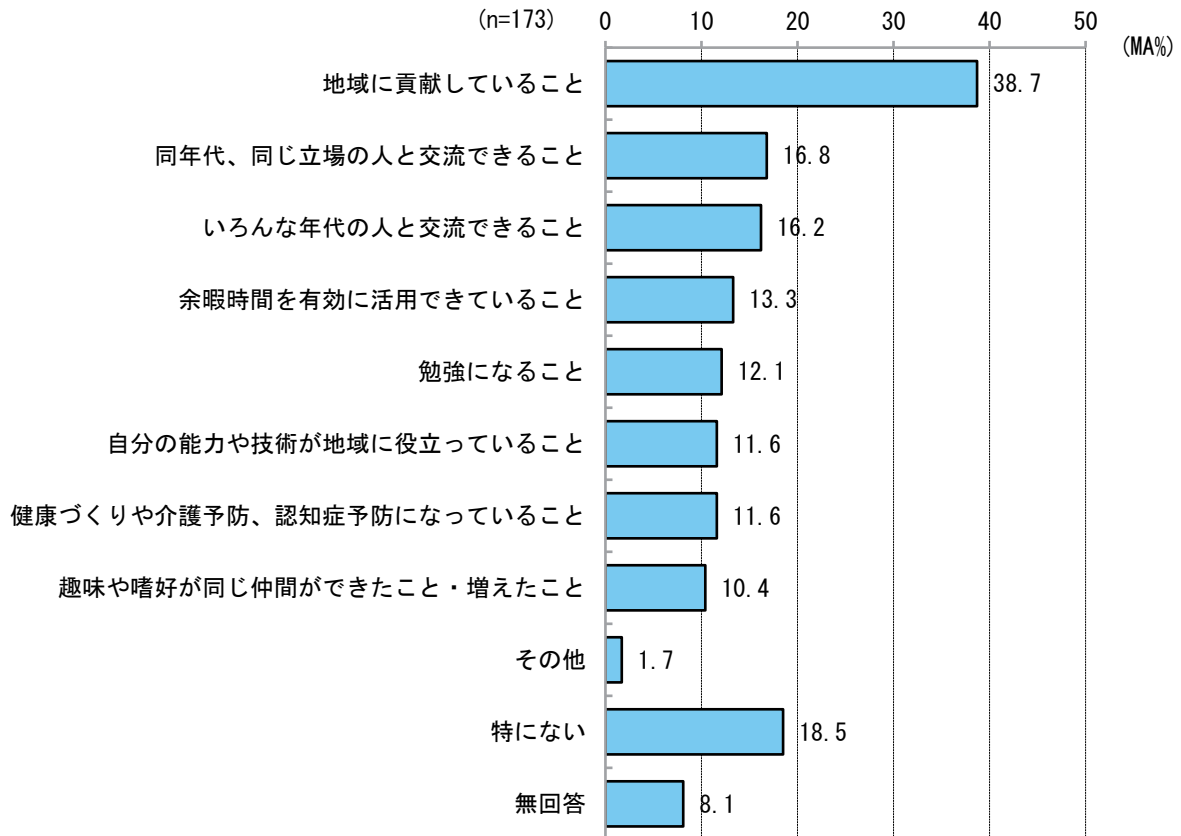
【図表5-9-3 居住地域別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



(10) 福祉ボランティア活動に参加してよかったこと

問22-1 問22で「1」～「11」のいずれかに回答した方にお聞きします。
参加してよかったことは何ですか。（〇はいくつでも）

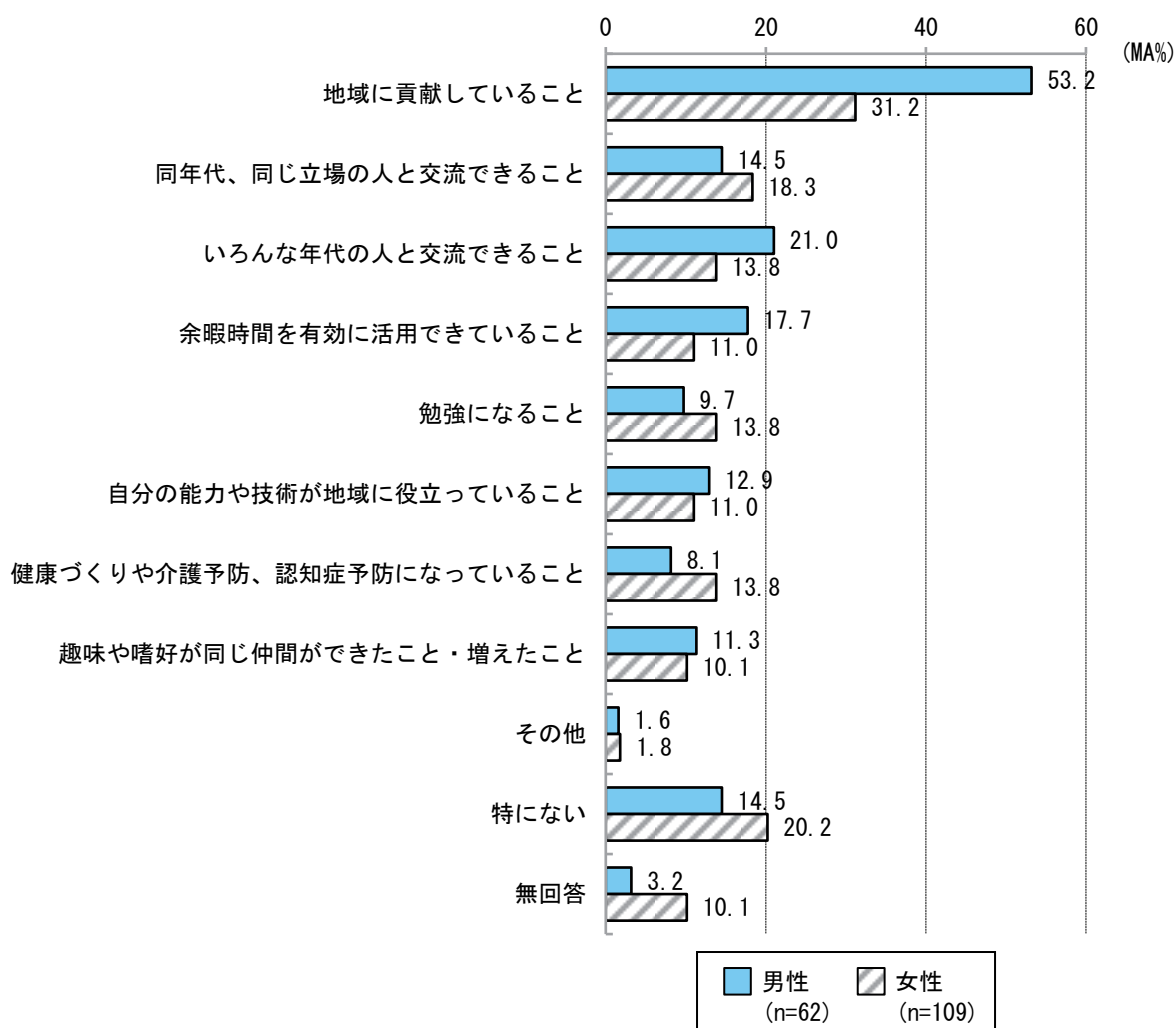
【図表5-10 福祉ボランティア活動に参加してよかったこと】



福祉ボランティア活動に参加したり、取り組んだりしていると回答した人に、参加してよかったことについてたずねると、「地域に貢献していること」が38.7%で最も多く、次いで「同年代、同じ立場の人と交流できること」が16.8%、「いろいろな年代の人と交流できること」が16.2%となっています。一方、「特になし」は18.5%となっています。（図表5-10）

性別で見ると、「地域に貢献していること」の割合は女性（31.2%）より男性（53.2%）のほうが22.0ポイント高く、「いろんな年代の人と交流できること」の割合は女性（13.8%）より男性（21.0%）のほうが7.2ポイント、「余暇時間を有効に活用できていること」の割合は女性（11.0%）より男性（17.7%）のほうが6.7ポイント、それぞれ高くなっています。（図表5-10-1）

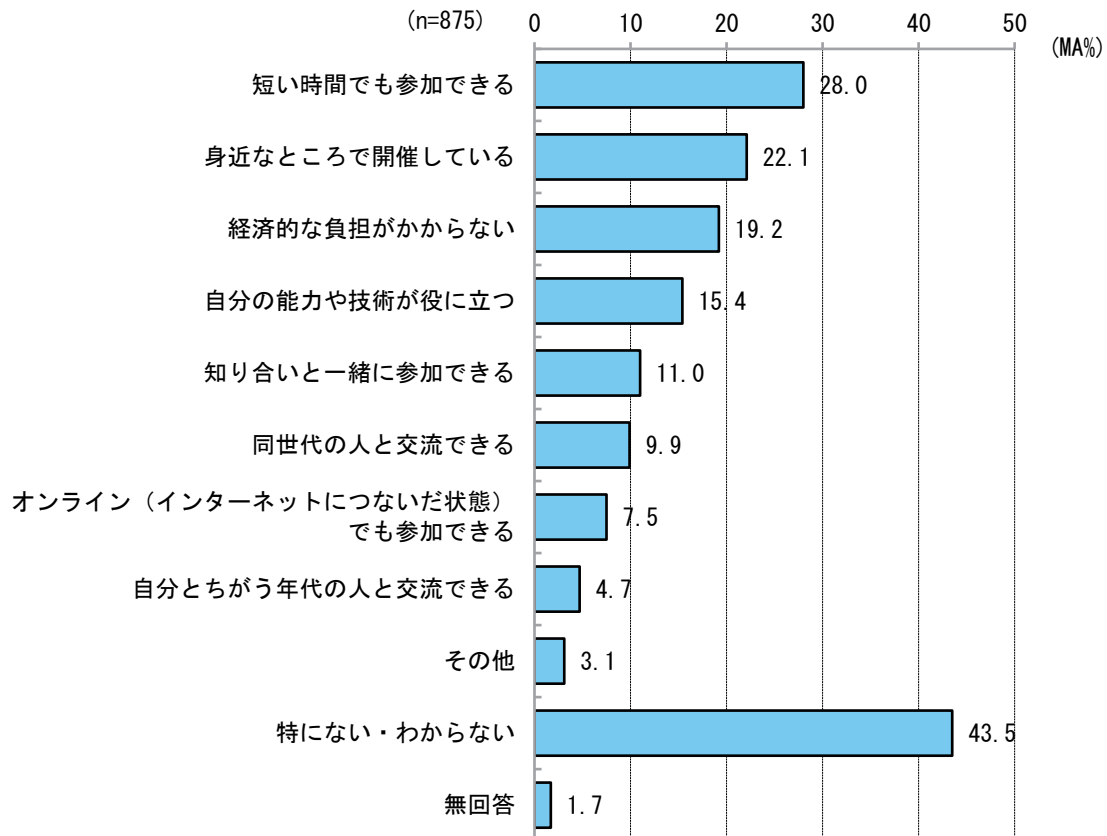
【図表5-10-1 性別 福祉ボランティア活動に参加してよかったこと】



(11) 福祉ボランティア活動に参加してみたいと思える活動内容

問22-2 問22で「12. 参加していない」と回答した方にお聞きします。
 地域でどのようなボランティア活動があれば参加してみたいですか。
 (〇はいくつでも)

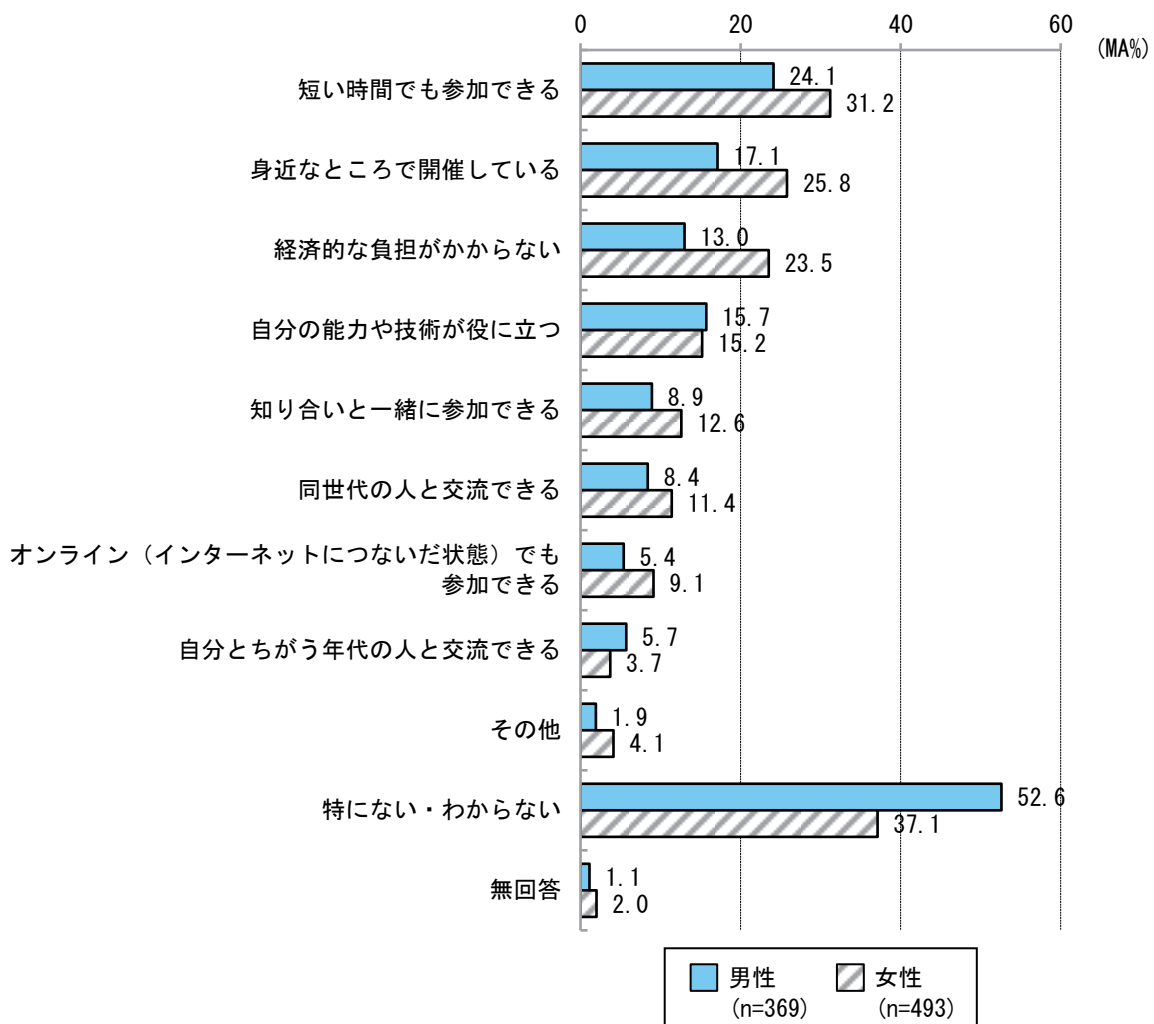
【図表5-11 福祉ボランティア活動に参加してみたいと思える活動内容】



福祉ボランティア活動に参加していないと回答した人に、参加してみたいと思える活動内容についてたずねると、「短い時間でも参加できる」が28.0%で最も多く、次いで「身近なところで開催している」が22.1%、「経済的な負担がかからない」が19.2%となっています。一方、「特にない・わからない」が43.5%と高い割合となっています。(図表5-11)

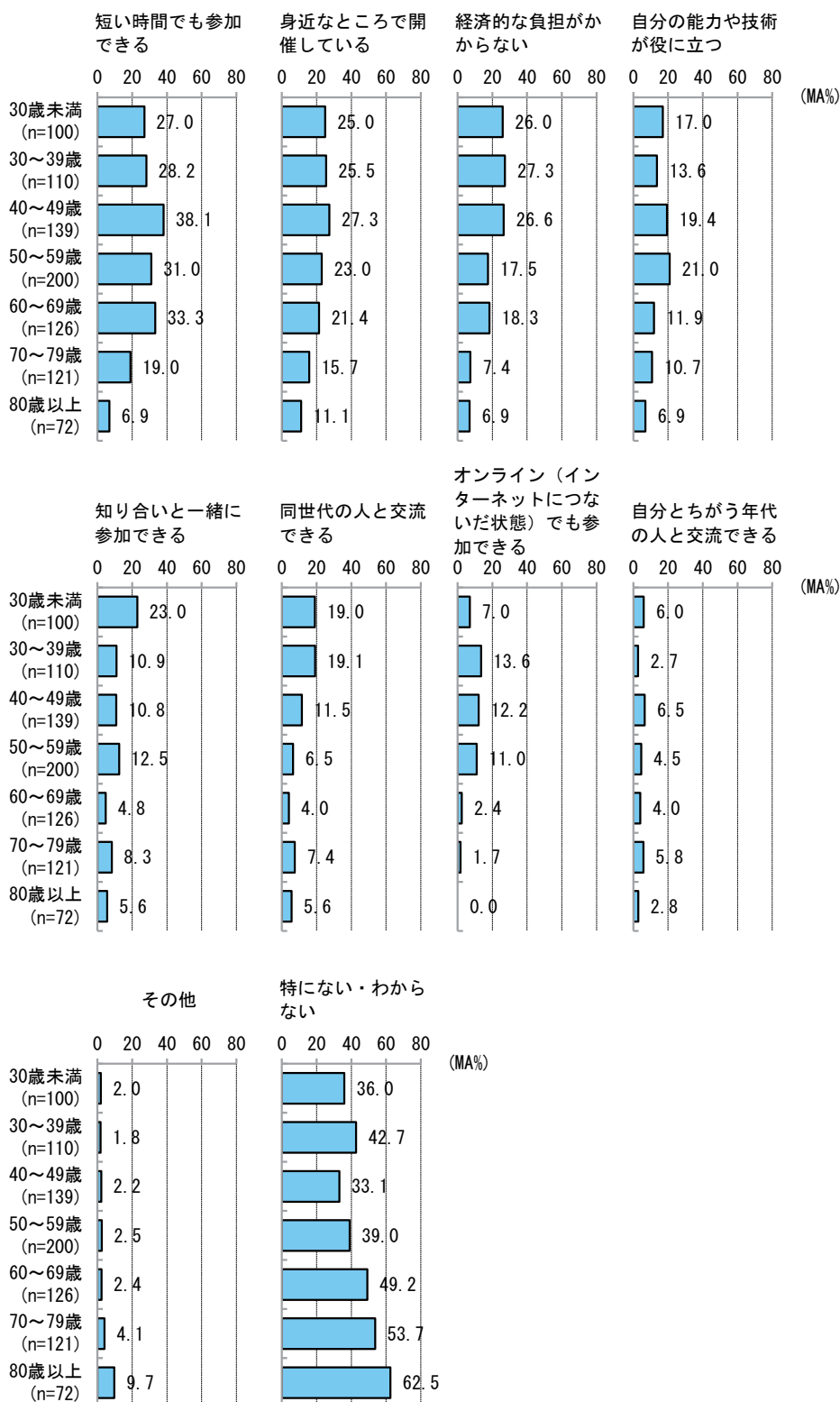
性別で見ると、「特にない・わからない」の割合は女性（37.1%）より男性（52.6%）のほうが15.5ポイント高くなっています。「経済的な負担がかからない」の割合は男性（13.0%）より女性（23.5%）のほうが10.5ポイント、「身近なところで開催している」の割合は男性（17.1%）より女性（25.8%）のほうが8.7ポイント、「身近なところで開催している」の割合は男性（17.1%）より女性（25.8%）のほうが8.7ポイント、それぞれ高くなっています。（図表5-11-1）

【図表5-11-1 性別 福祉ボランティア活動に参加してみたいと思える活動内容】



年齢別でみると、「経済的な負担がかからない」、「同世代の人と交流できる」、「オンライン（インターネットにつないだ状態）でも参加できる」の割合はいずれも30～39歳で最も高く、「短い時間でも参加できる」、「身近なところで開催している」、「自分とちがう年代の人と交流できる」の割合はいずれも40～49歳で最も高くなっています。（図表5-11-2）

【図表5-11-2 年齢別 福祉ボランティア活動に参加してみたいと思える活動内容】

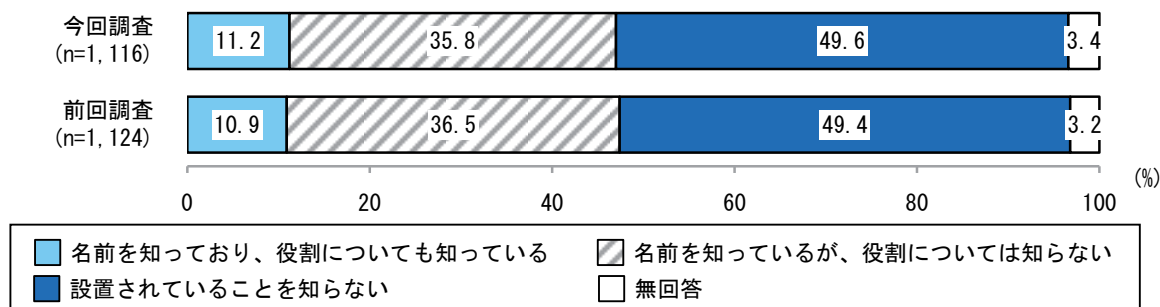


6 社会福祉協議会やCSWについて

(1) 社会福祉協議会の認知状況

問23 市内に社会福祉協議会が設置されていることを知っていますか。(○は1つ)

【図表6-1 社会福祉協議会の認知状況（経年比較）】

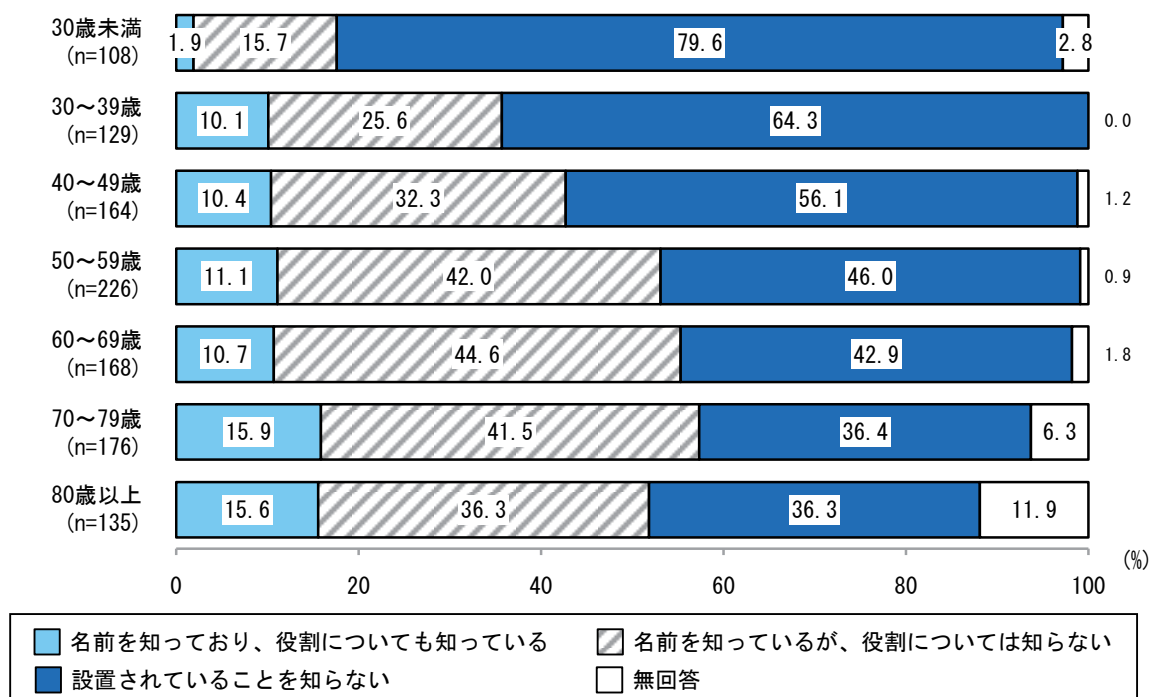


社会福祉協議会の認知状況については、「設置されていることを知らない」が49.6%で最も多く、次いで「名前を知っているが、役割については知らない」が35.8%、「名前を知っており、役割についても知っている」が11.2%となっています。「名前を知っており、役割についても知っている」と「名前を知っているが、役割については知らない」をあわせた認知度は47.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差はみられません。(図表6-1)

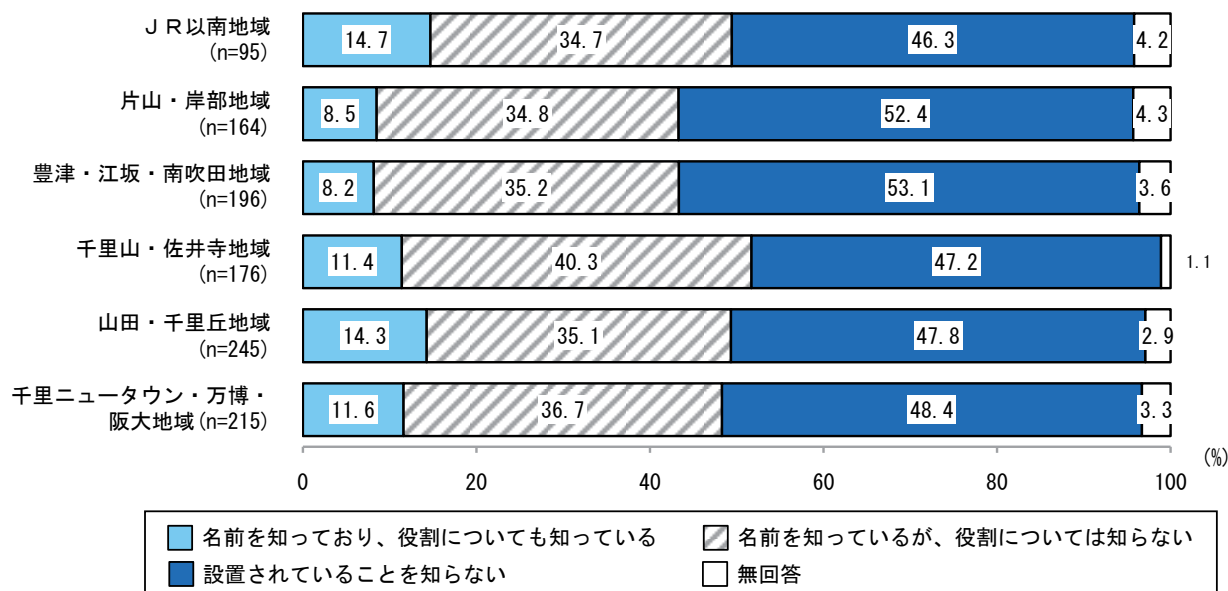
年齢別でみると、「名前を知っており、役割についても知っている」の割合は70～79歳が15.9%で最も高く、次いで80歳以上(15.6%)となっています。一方、「設置されていることを知らない」の割合は30歳未満が79.6%で最も高く、若い年代ほど割合が高くなっています。(図表6-1-1)

【図表6-1-1 年齢別 社会福祉協議会の認知状況】



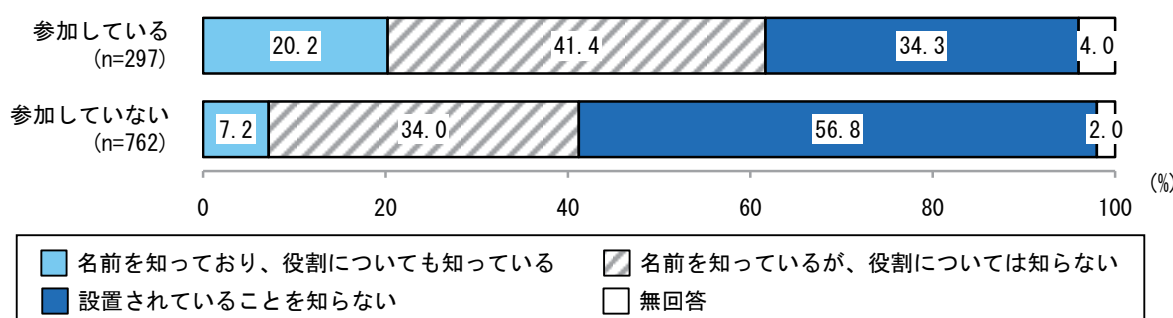
居住地域別でみると、認知度は千里山・佐井寺地域が51.7%で最も高く、「設置されていることを知らない」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が53.1%で最も高くなっています。(図表6-1-2)

【図表6-1-2 居住地域別 社会福祉協議会の認知状況】



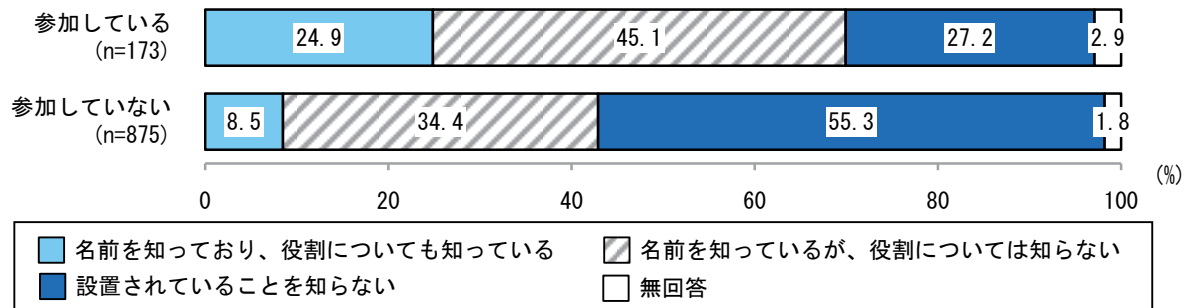
地域活動への参加・取組有無別でみると、認知度は参加していない人(41.2%)より参加している人(61.6%)のほうが20.4ポイント高くなっています。(図表6-1-3)

【図表6-1-3 地域活動への参加・取組有無別 社会福祉協議会の認知状況】



福祉ボランティア活動への参加・取組有無別でみると、認知度は参加していない人(42.9%)より参加している人(70.0%)のほうが27.1ポイント高くなっています。(図表6-1-4)

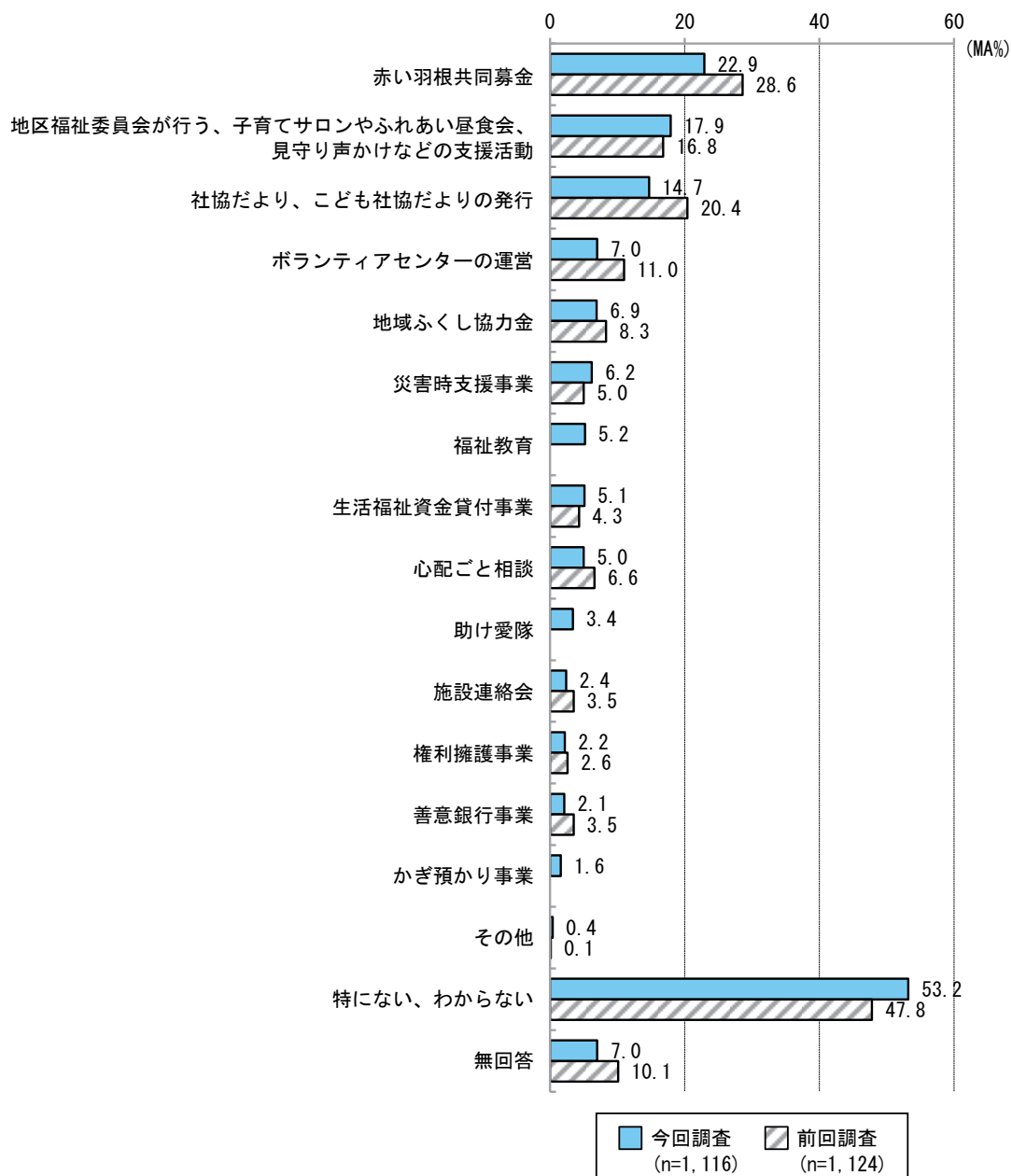
【図表6-1-4 福祉ボランティア活動への参加・取組有無別 社会福祉協議会の認知状況】



(2) 社会福祉協議会の取組として知っているもの

問24 社会福祉協議会の取組として知っているものをあげてください。(〇はいくつでも)

【図表6-2 社会福祉協議会の取組として知っているもの(経年比較)】



※前回調査の「地区福祉委員会が行う小地域ネットワーク活動への支援」は、今回調査では「地区福祉委員会が行う、子育てサロンやふれあい昼食会、見守り声かけなどの支援活動」に変更しています。

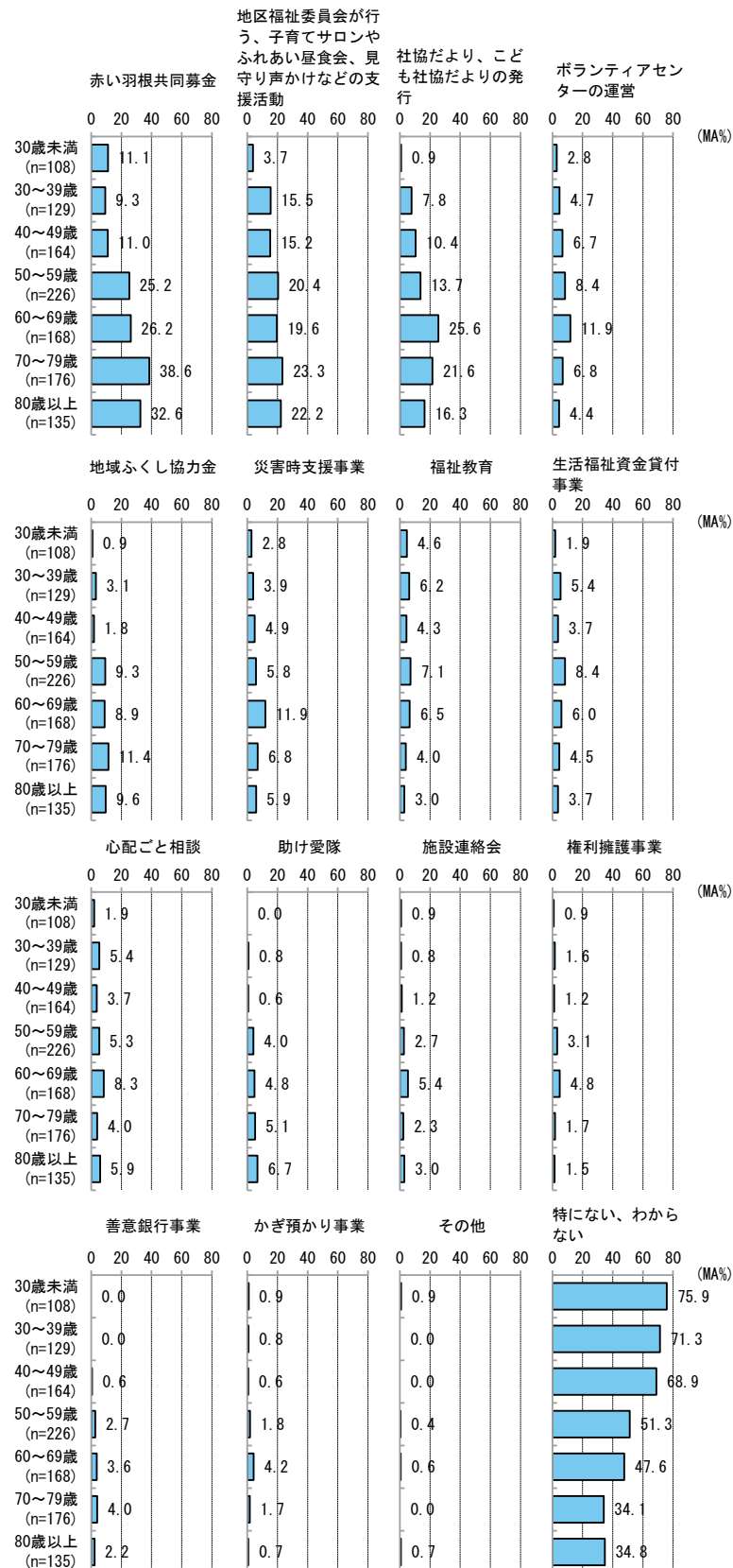
※「福祉教育」、「助け愛隊」、「かぎ預かり事業」は、今回調査の新規項目です。

社会福祉協議会の取組として知っているものについては、「赤い羽根共同募金」が22.9%で最も多く、次いで「地区福祉委員会が行う、子育てサロンやふれあい昼食会、見守り声かけなどの支援活動」が17.9%、「社協だより、こども社協だよりの発行」が14.7%となっています。

前回調査と比較すると、「赤い羽根共同募金」と「社協だより、こども社協だよりの発行」はともに前回より5.7ポイント低くなっています。(図表6-2)

年齢別でみると、30～39歳、40～49歳は「地区福祉委員会が行う、子育てサロンやふれあい昼食会、見守り声かけなどの支援活動」が最も多いですが、それ以外の年代では「赤い羽根共同募金」が最も多くなっています。（図表6-2-1）

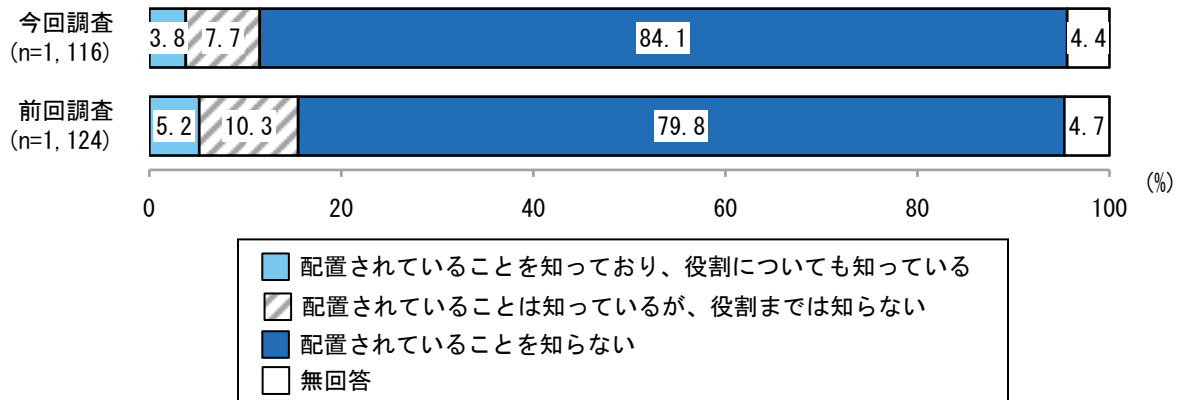
【図表6-2-1 年齢別 社会福祉協議会の取組として知っているもの】



(3) CSWの認知状況

問25 あなたは、社会福祉協議会にCSWが配置されていることを知っていますか。
(○は1つ)

【図表6-3 CSWの認知状況（経年比較）】

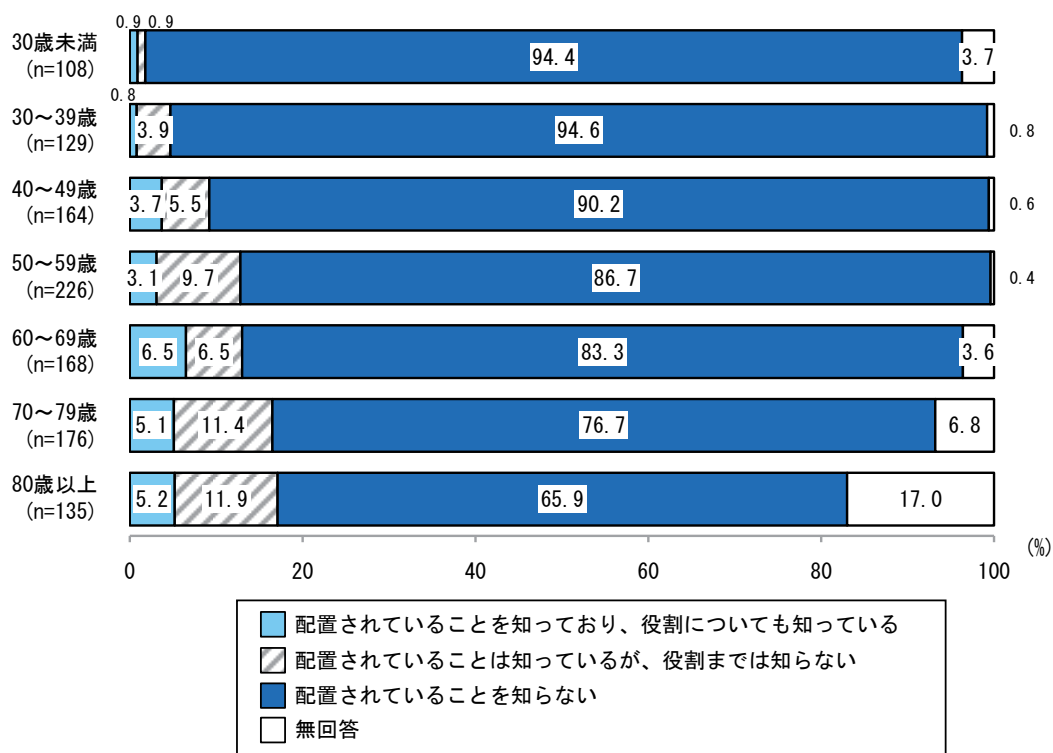


社会福祉協議会にCSWが配置されていることの認知状況については、「配置されていることを知らない」が84.1%で最も多く、次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が7.7%、「配置されていることを知り、役割についても知っている」が3.8%となっており、「配置されていることを知り、役割についても知っている」と「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」をあわせた認知度は11.5%となっています。

前回調査と比較すると、認知度は前回（15.5%）より4.0ポイント低くなっています。（図表6-3）

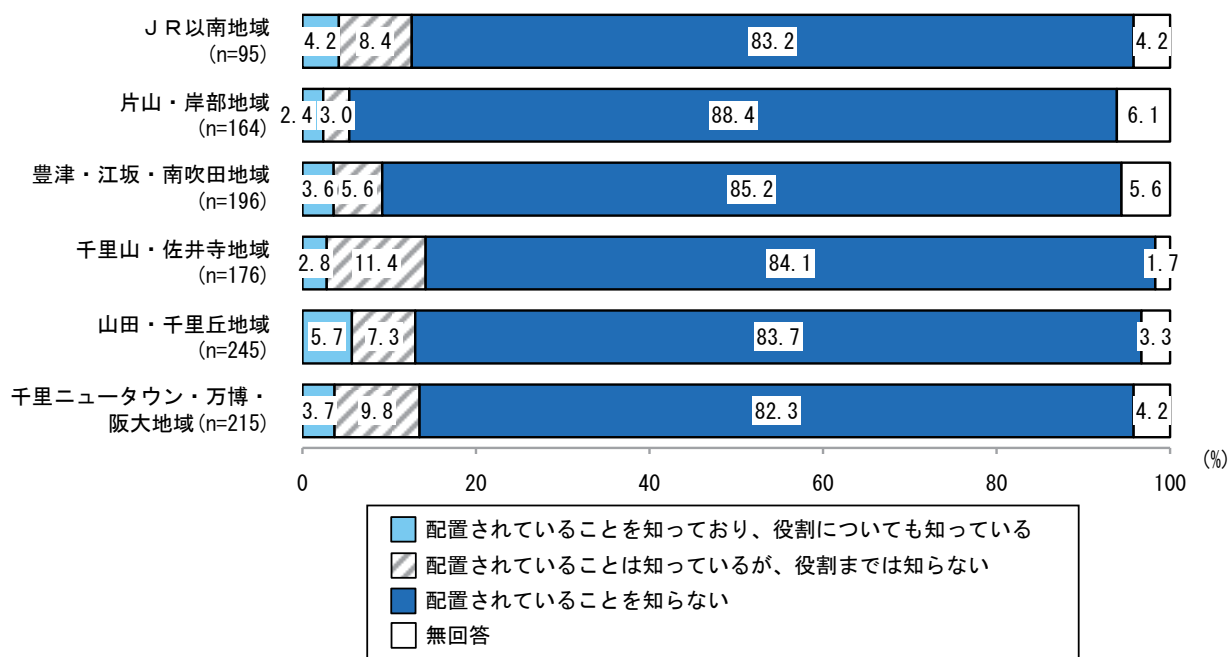
年齢別でみると、認知度は高齢になるほど割合が高くなり、80歳以上が17.1%で最も高くなっています。(図表6-3-1)

【図表6-3-1 年齢別 C S Wの認知状況】



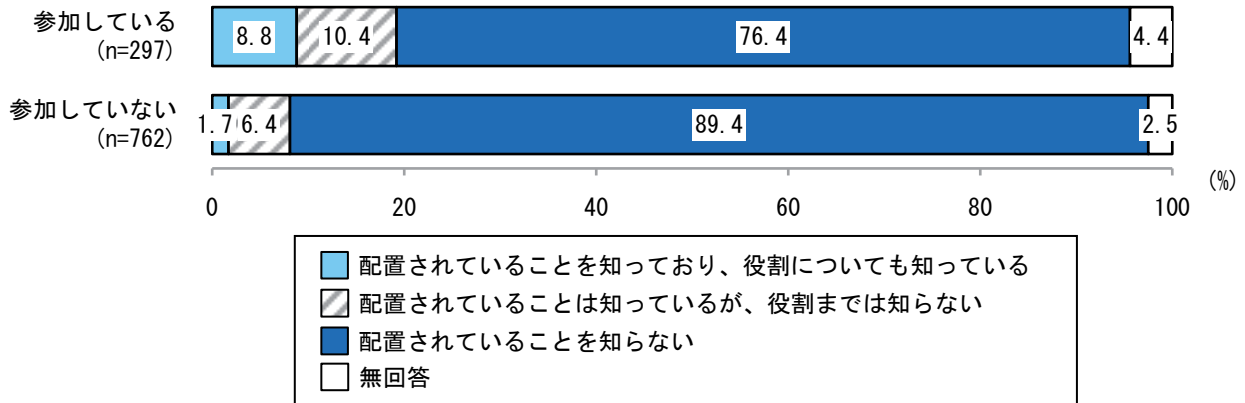
居住地域別でみると、認知度は千里山・佐井寺地域が14.2%で最も高く、次いで千里ニュータウン・万博・阪大地域が13.5%となっており、「配置されていることを知らない」の割合は片山・岸部地域が88.4%で最も高くなっています。(図表6-3-2)

【図表6-3-2 居住地域別 C S Wの認知状況】



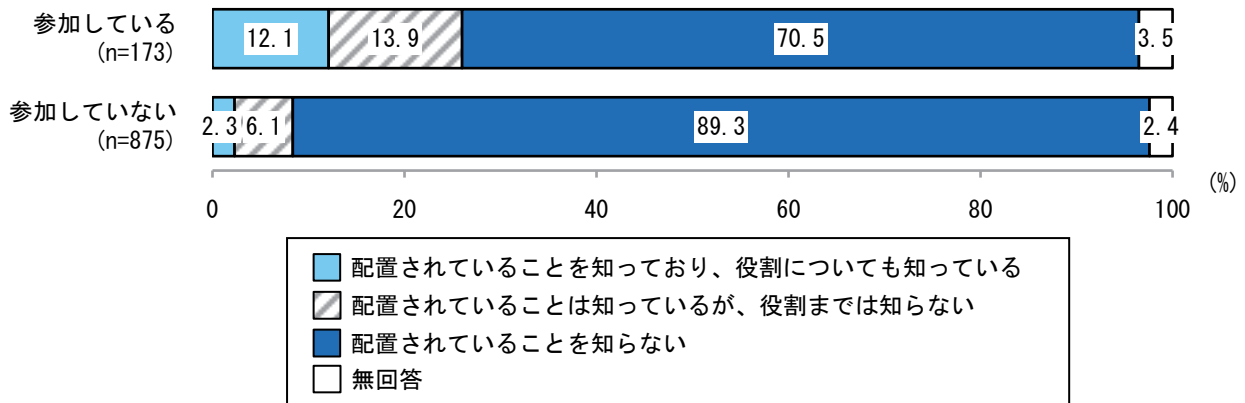
地域活動への参加・取組有無別でみると、認知度は参加していない人（8.1%）より参加している人（19.2%）のほうが11.1ポイント高くなっています。（図表6-3-3）

【図表6-3-3 地域活動への参加・取組有無別 CSWの認知状況】



福祉ボランティア活動への参加・取組有無別でみると、認知度は参加していない人（8.4%）より参加している人（26.0%）のほうが17.6ポイント高くなっています。（図表6-3-4）

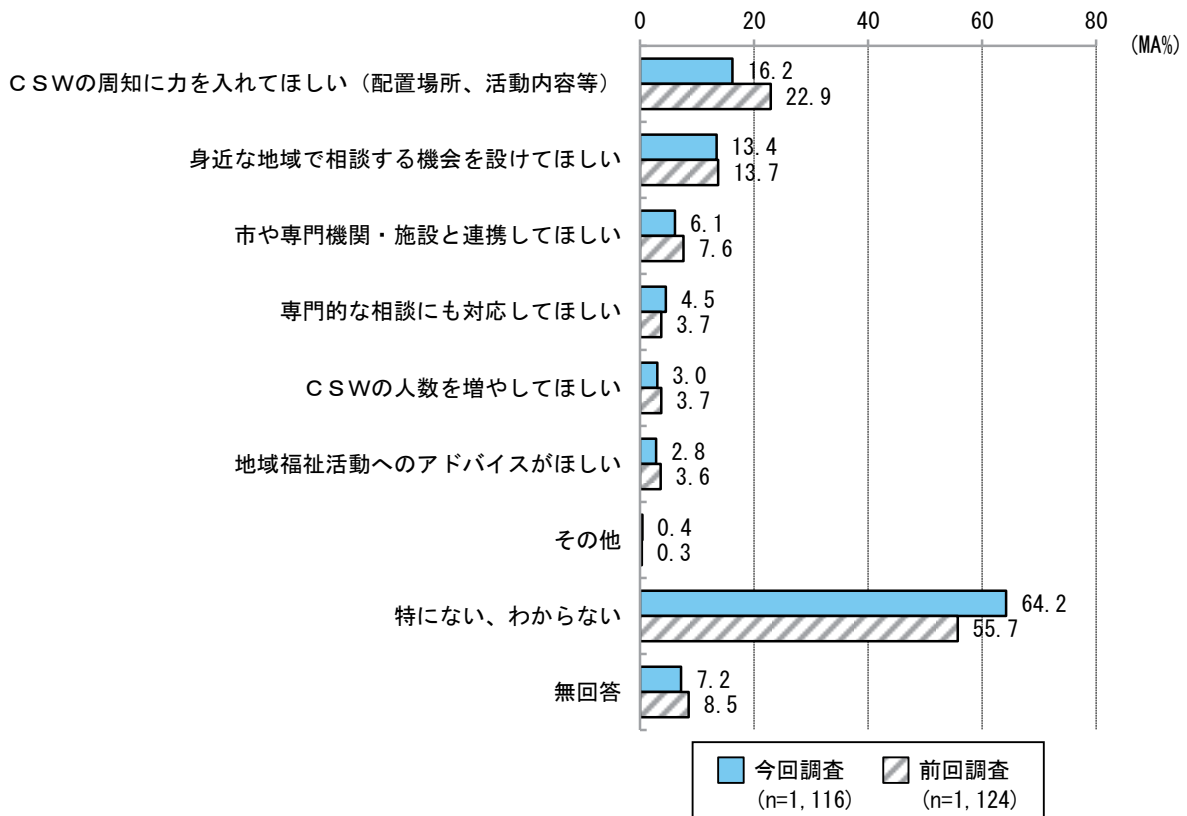
【図表6-3-4 福祉ボランティア活動への参加・取組有無別 CSWの認知状況】



(4) CSWに期待すること

問26 CSWに今後どのようなことを期待されますか。(〇はいくつでも)

【図表6-4 CSWに期待すること(経年比較)】

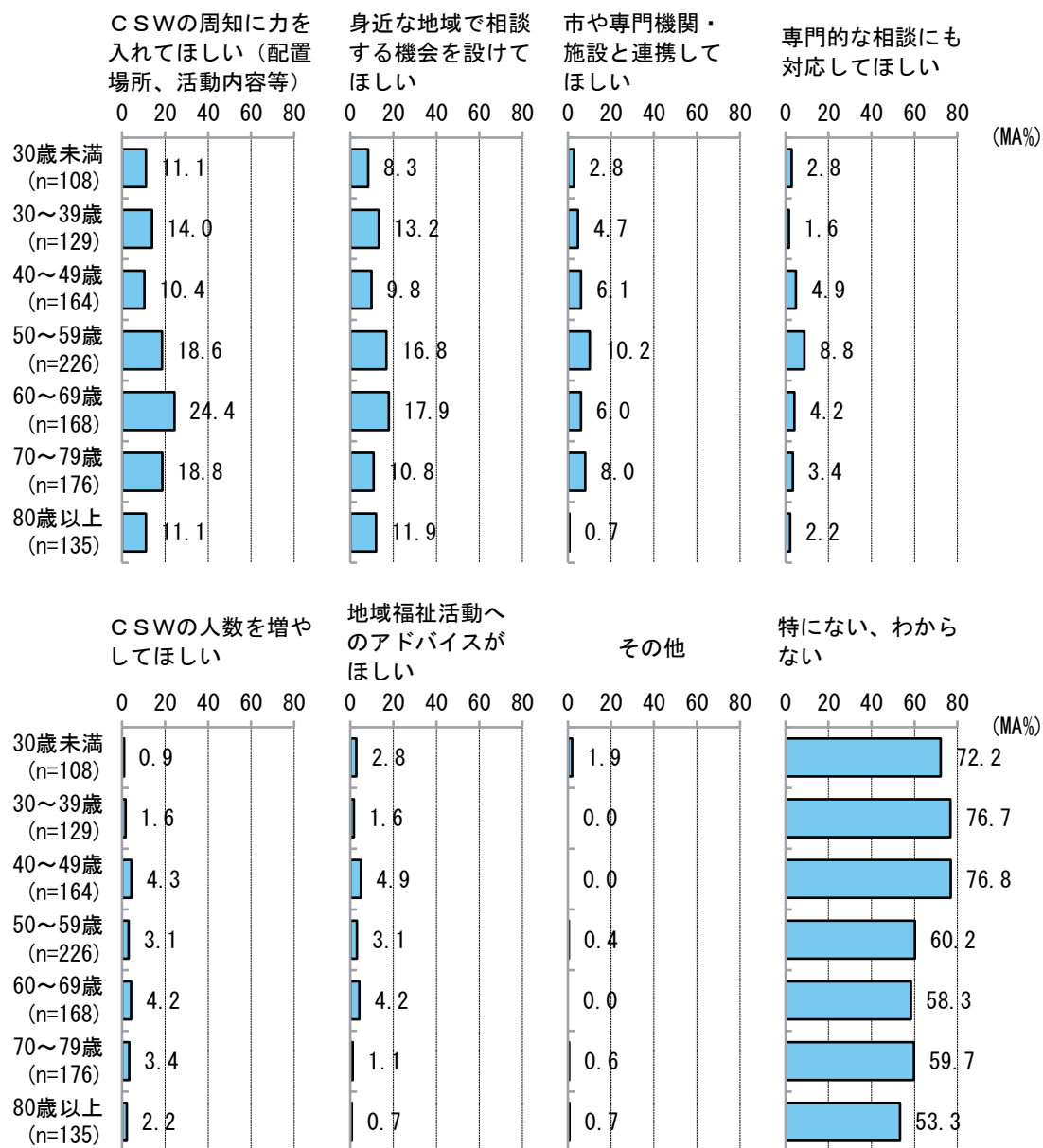


CSWの今後に期待することについては、「CSWの周知に力を入れてほしい(配置場所、活動内容等)」が16.2%で最も多く、次いで「身近な地域で相談する機会を設けてほしい」が13.4%、「市や専門機関・施設と連携してほしい」が6.1%となっています。一方、「特になし、わからない」は64.2%と高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「CSWの周知に力を入れてほしい(配置場所、活動内容等)」は前回(22.9%)より6.7ポイント低くなっています。(図表6-4)

年齢別でみると、「CSWの周知に力を入れてほしい（配置場所、活動内容等）」と「身近な地域で相談する機会を設けてほしい」の割合は60～69歳で最も高くなっています。また、「特にない、わからない」の割合は49歳までの年代で7割台と高くなっています。（図表6-4-1）

【図表6-4-1 年齢別 CSWに期待すること】

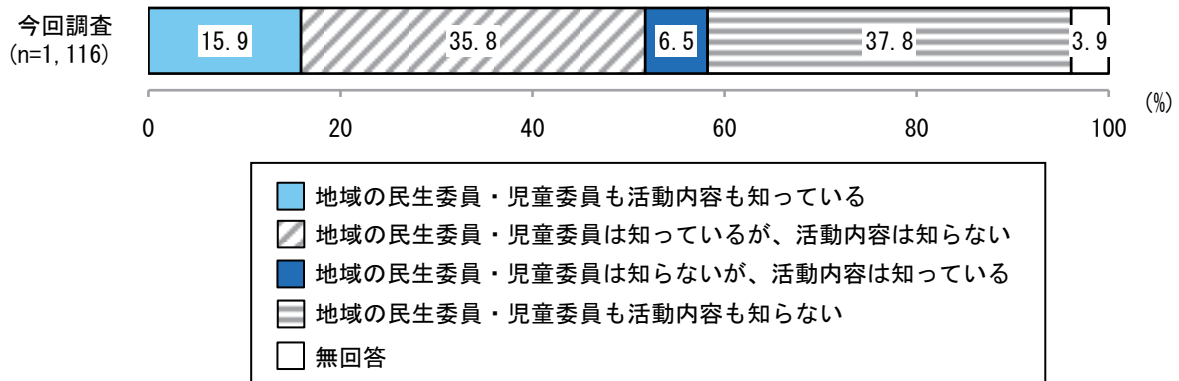


7 民生委員・児童委員について

(1) 民生委員・児童委員の認知度

問27 あなたは、地域住民の中から選ばれた、住民の見守り活動や福祉・子育てに関する相談活動を行う民生委員・児童委員がいることを知っていますか。(○は1つ)

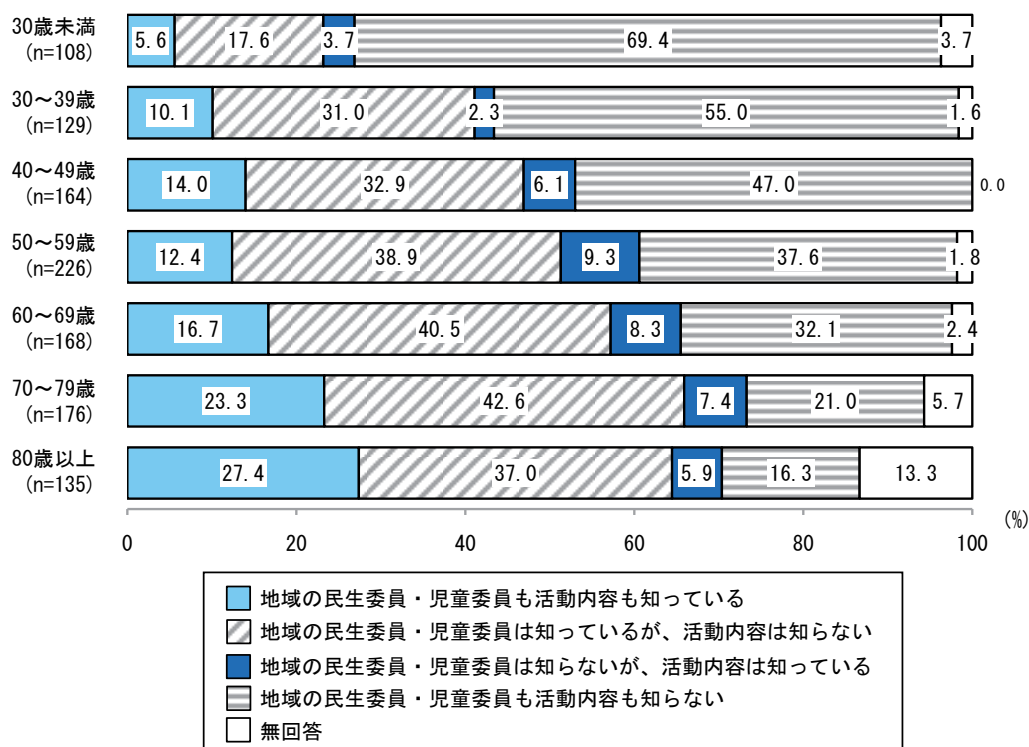
【図表7-1 民生委員・児童委員の認知度】



民生委員・児童委員の認知度については、「地域の民生委員・児童委員も活動内容も知らない」が37.8%で最も多く、次いで「地域の民生委員・児童委員は知っているが、活動内容は知らない」が35.8%、「地域の民生委員・児童委員も活動内容も知っている」が15.9%となっており、「地域の民生委員・児童委員も活動内容も知っている」と「地域の民生委員・児童委員は知っているが、活動内容は知らない」、「地域の民生委員・児童委員は知らないが、活動内容は知っている」をあわせた認知度は58.2%となっています。(図表7-1)

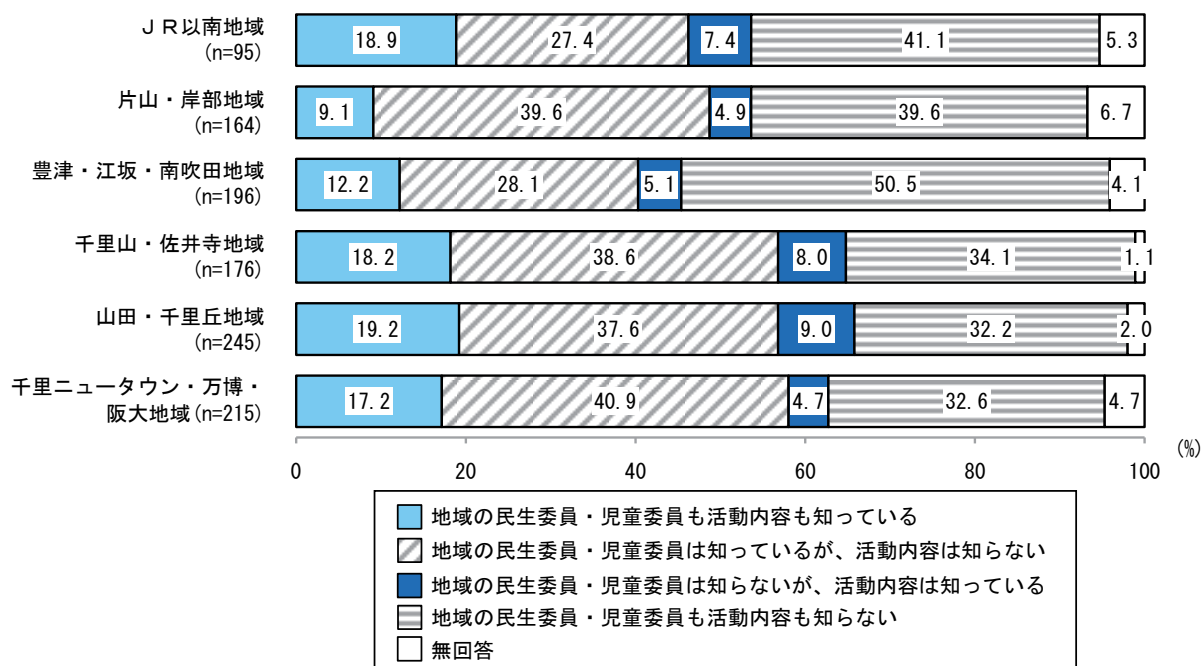
年齢別でみると、認知度は高齢になるほど割合が高く、70～79歳が73.3%で最も高くなっています。「地域の民生委員・児童委員も活動内容も知らない」の割合は30歳未満が69.4%で最も高くなっています。(図表7-1-1)

【図表7-1-1 年齢別 民生委員・児童委員の認知度】



居住地域別でみると、「地域の民生委員・児童委員も活動内容も知らない」の割合は豊津・江坂・南吹田地域が50.5%で最も高くなっています。(図表7-1-2)

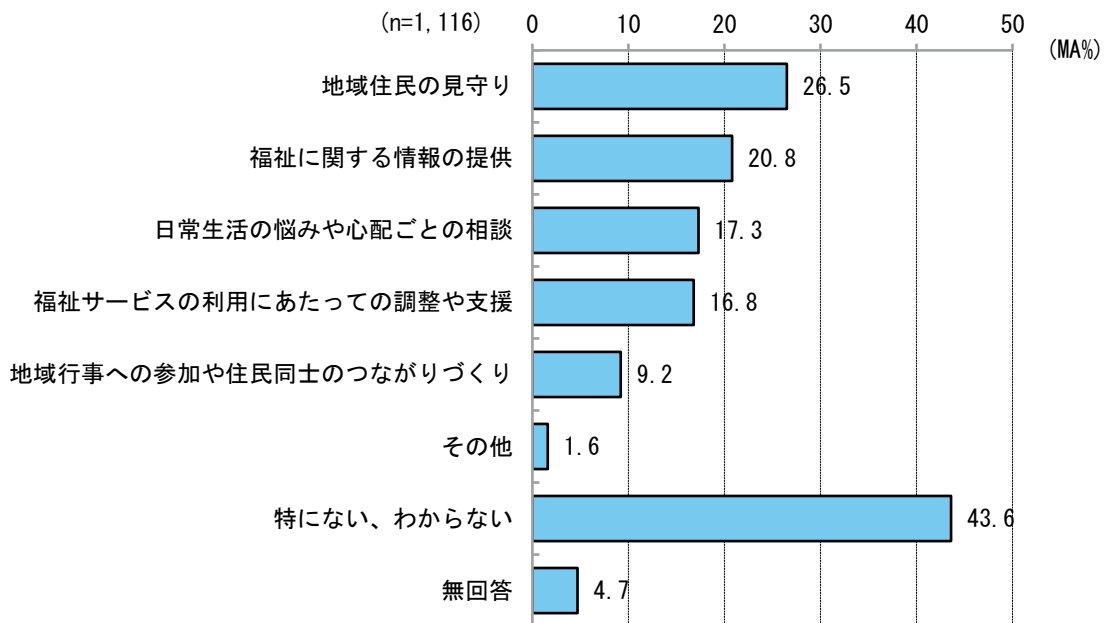
【図表7-1-2 居住地域別 民生委員・児童委員の認知度】



(2) 民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと

問28 民生委員・児童委員の活動で、あなたは特に何を充実してほしいですか。
(○はいくつでも)

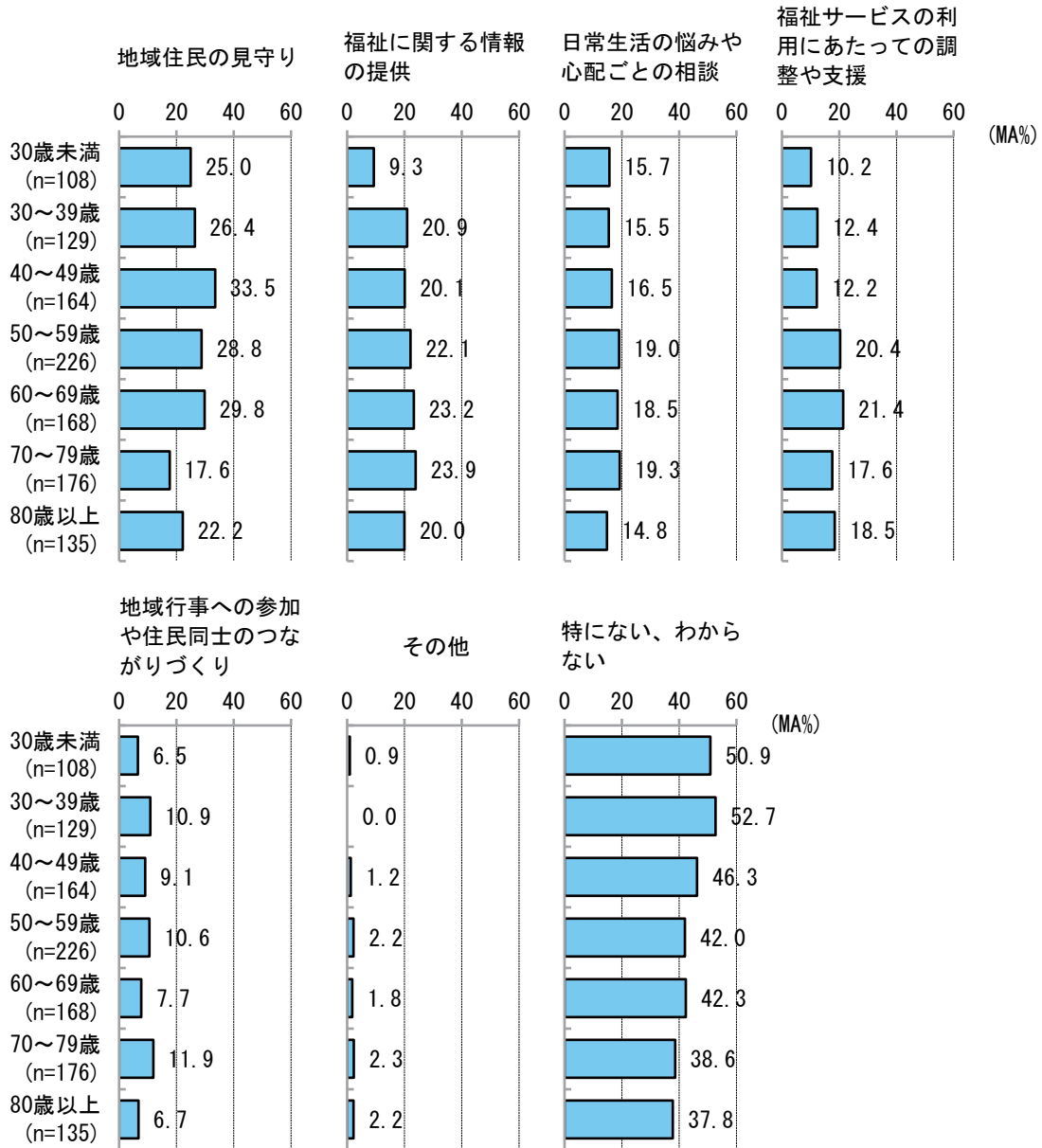
【図表7-2 民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと】



民生委員・児童委員の活動で充実してほしいことについては、「地域住民の見守り」が26.5%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が20.8%、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が17.3%となっています。一方、「特にない、わからない」は43.6%と高い割合となっています。(図表7-2)

年齢別でみると、70～79歳では「福祉に関する情報の提供」が23.9%で最も多いですが、それ以外の年代では「地域住民の見守り」が最も多くなっています。(図表7-2-1)

【図表7-2-1 年齢別 民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと】

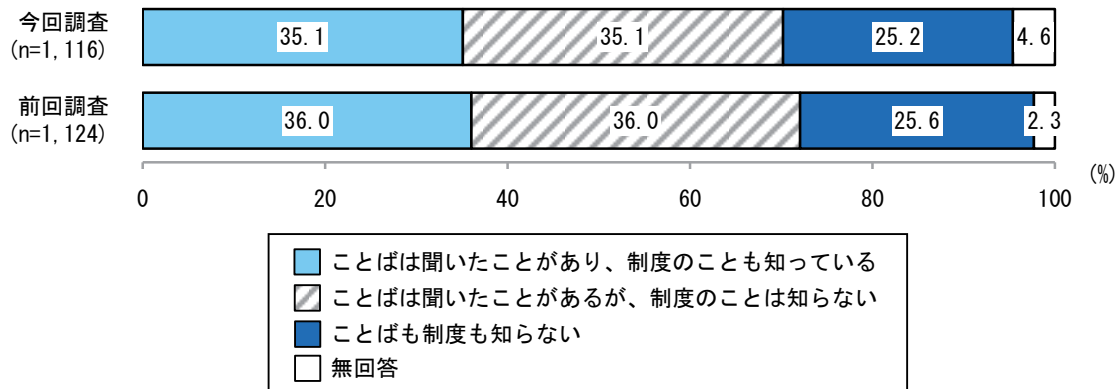


8 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

問29 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

【図表8-1 成年後見制度の認知度（経年比較）】

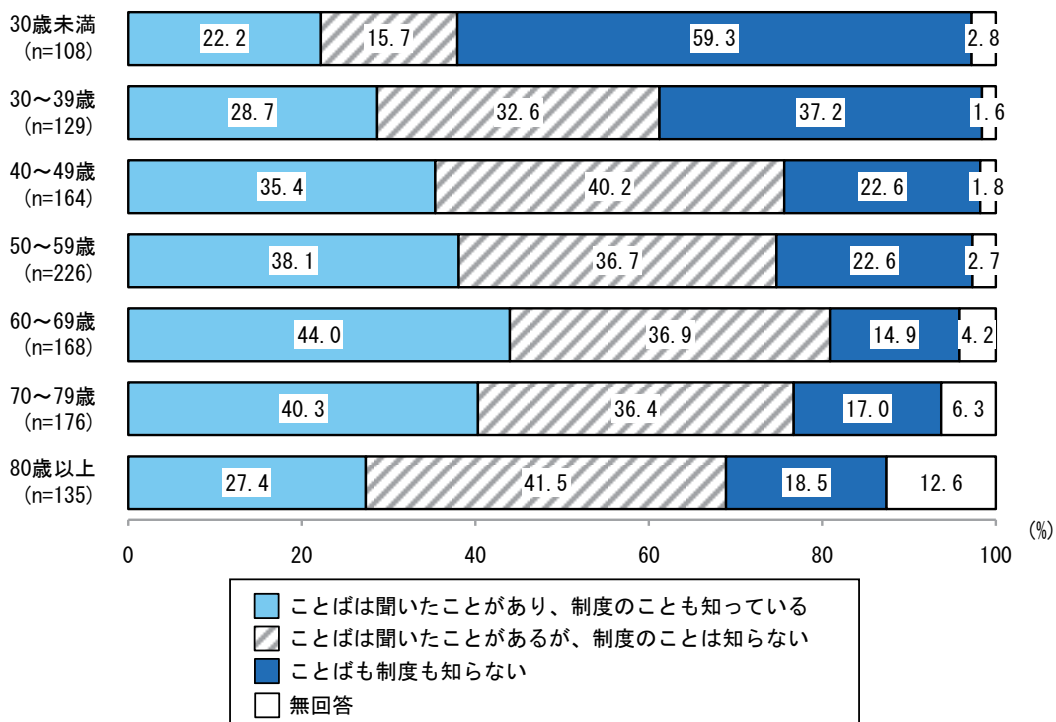


成年後見制度の認知度については、「ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている」と「ことばは聞いたことがあるが、制度のことは知らない」がそれぞれ35.1%で最も多く、両者をあわせた認知度は70.2%となっています。一方、「ことばも制度も知らない」が25.2%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差はみられません。(図表8-1)

年齢別でみると、「ことばも制度も知らない」の割合は30歳未満が59.3%で最も高く、認知度は60～69歳が80.9%で最も高くなっています。(図表8-1-1)

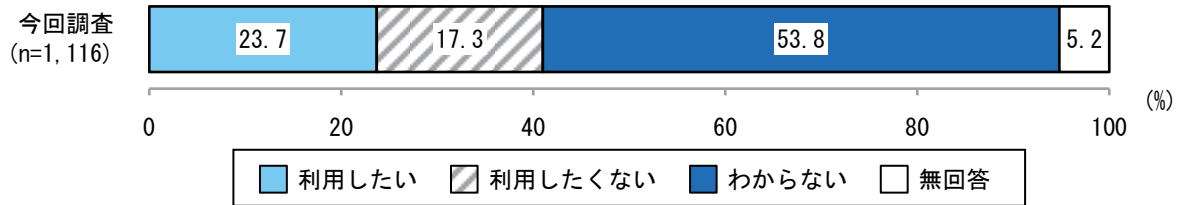
【図表8-1-1 年齢別 成年後見制度の認知度】



(2) 成年後見制度の利用意向

問30 あなたは将来、財産の管理や契約の手続きについて、自分ひとりで判断することが難しくなった場合に、「成年後見制度」を利用したいですか。(○は1つ)

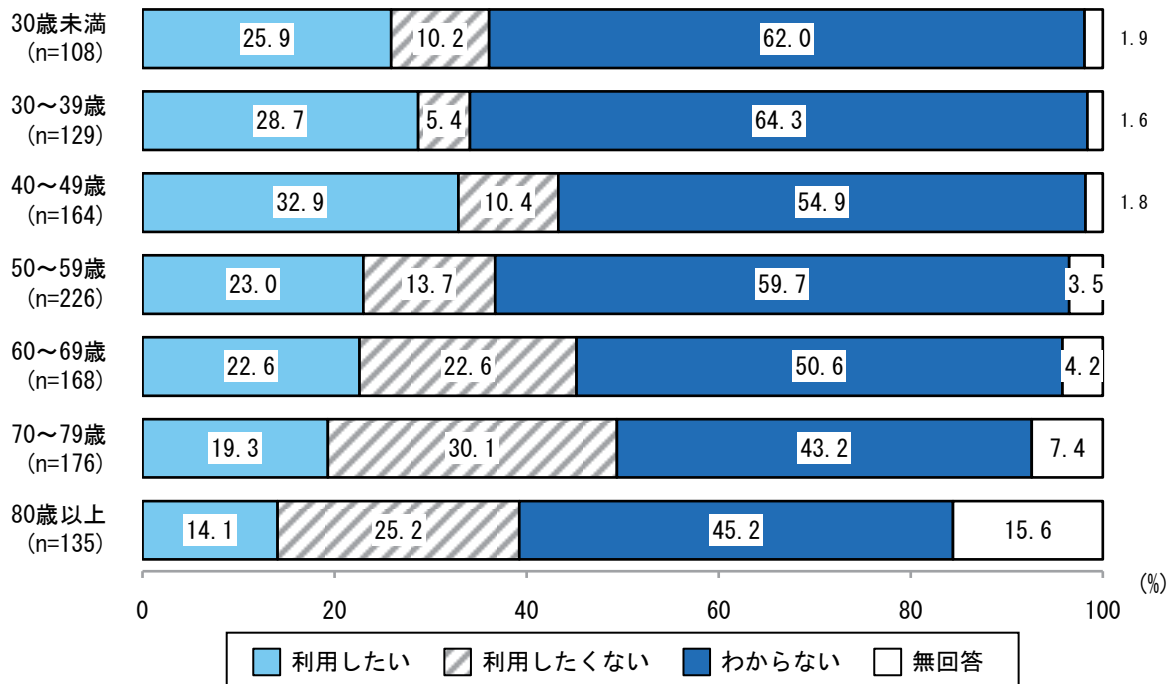
【図表8-2 成年後見制度の利用意向】



成年後見制度の利用意向については、「わからない」が53.8%で最も多く、次いで「利用したい」が23.7%、「利用したくない」が17.3%となっています。(図表8-2)

年齢別でみると、「利用したい」の割合は40～49歳が32.9%で最も高く、次いで30～39歳が28.7%となっています。一方、「利用したくない」の割合は70～79歳が30.1%で最も高くなっています。(図表8-2-1)

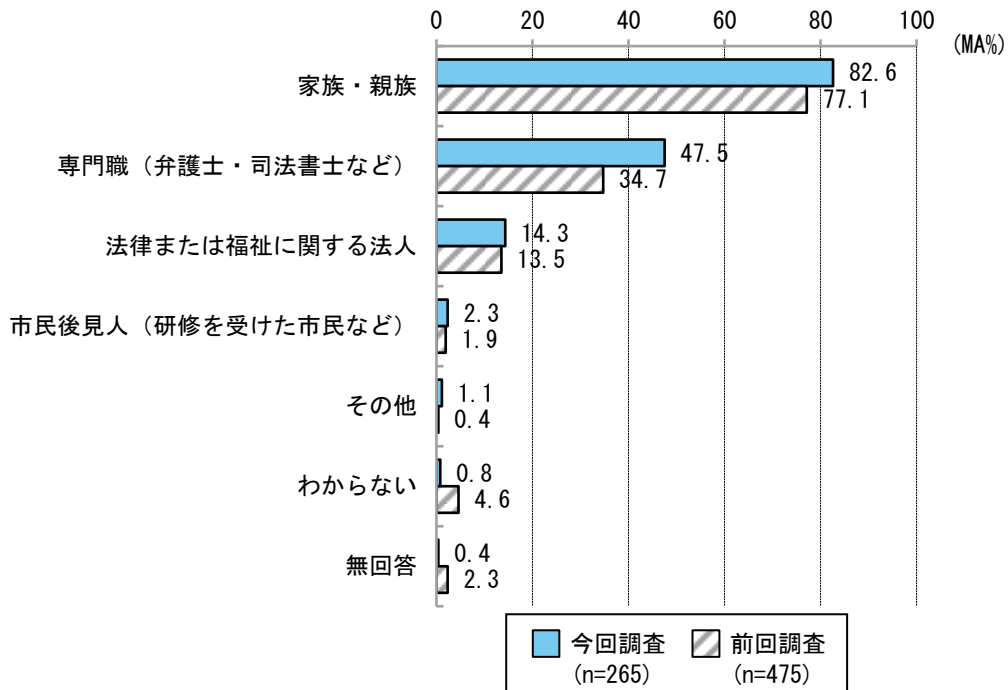
【図表8-2-1 年齢別 成年後見制度の利用意向】



(3) 成年後見人になってほしい人

問30-1 問30で「1. 利用したい」と回答した方にお聞きします。
 財産の管理や契約の手続きをしてくれる「成年後見人」は誰になってもらいたいですか（〇はいくつでも）

【図表8-3 成年後見人になってほしい人（経年比較）】

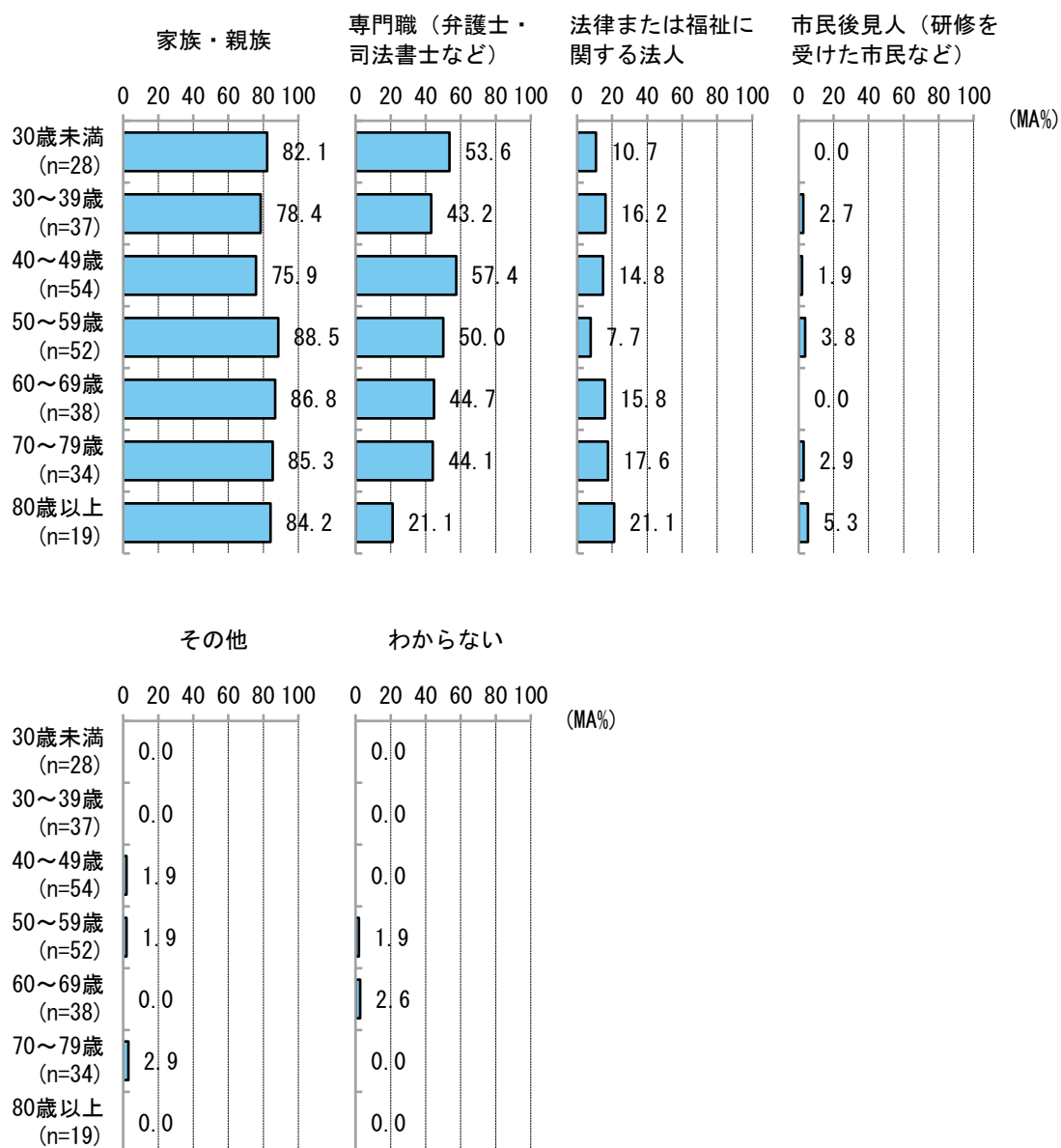


成年後見制度を利用したいと回答した人に、成年後見人になってほしい人についてたずねると、「家族・親族」が82.6%で最も多く、次いで「専門職（弁護士・司法書士など）」が47.5%、「法律または福祉に関する法人」が14.3%となっています。

前回調査と比較すると、いずれの項目も前回より高くなっており、「専門職（弁護士・司法書士など）」の割合は前回（34.7%）より12.8ポイント高くなっています。（図表8-3）

年齢別でみると、「家族・親族」では50～59歳が88.5%で最も高いですが、「専門職（弁護士・司法書士など）」の割合では40～49歳が57.4%で最も高くなっています。（図表8-3-1）

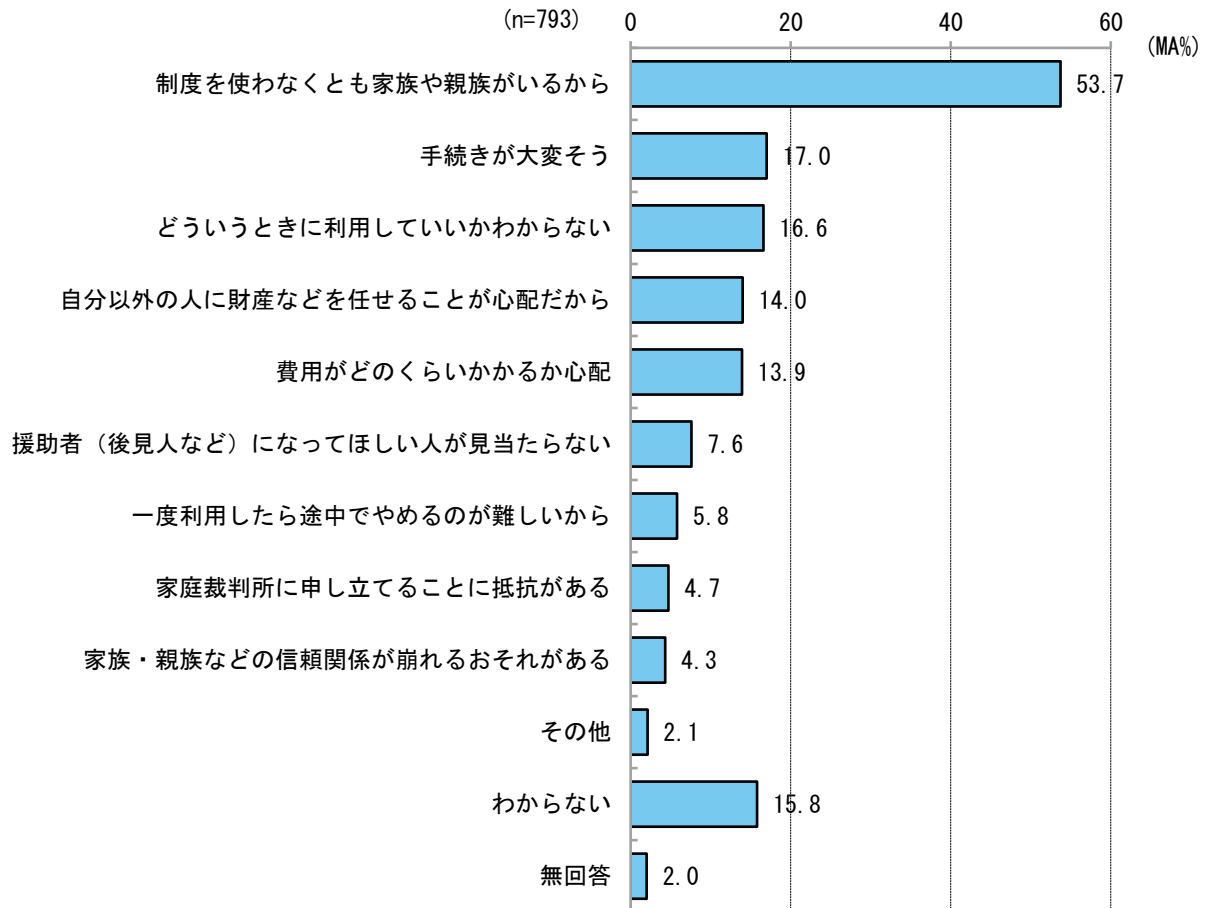
【図表8-3-1 年齢別 成年後見人になってほしい人（経年比較）】



(4) 利用したいと思わない理由

問30-2 問30で「2. 利用したくない」「3. わからない」と回答した方にお聞きします。その理由として、あなたの考えに近いものは何ですか。(〇はいくつでも)

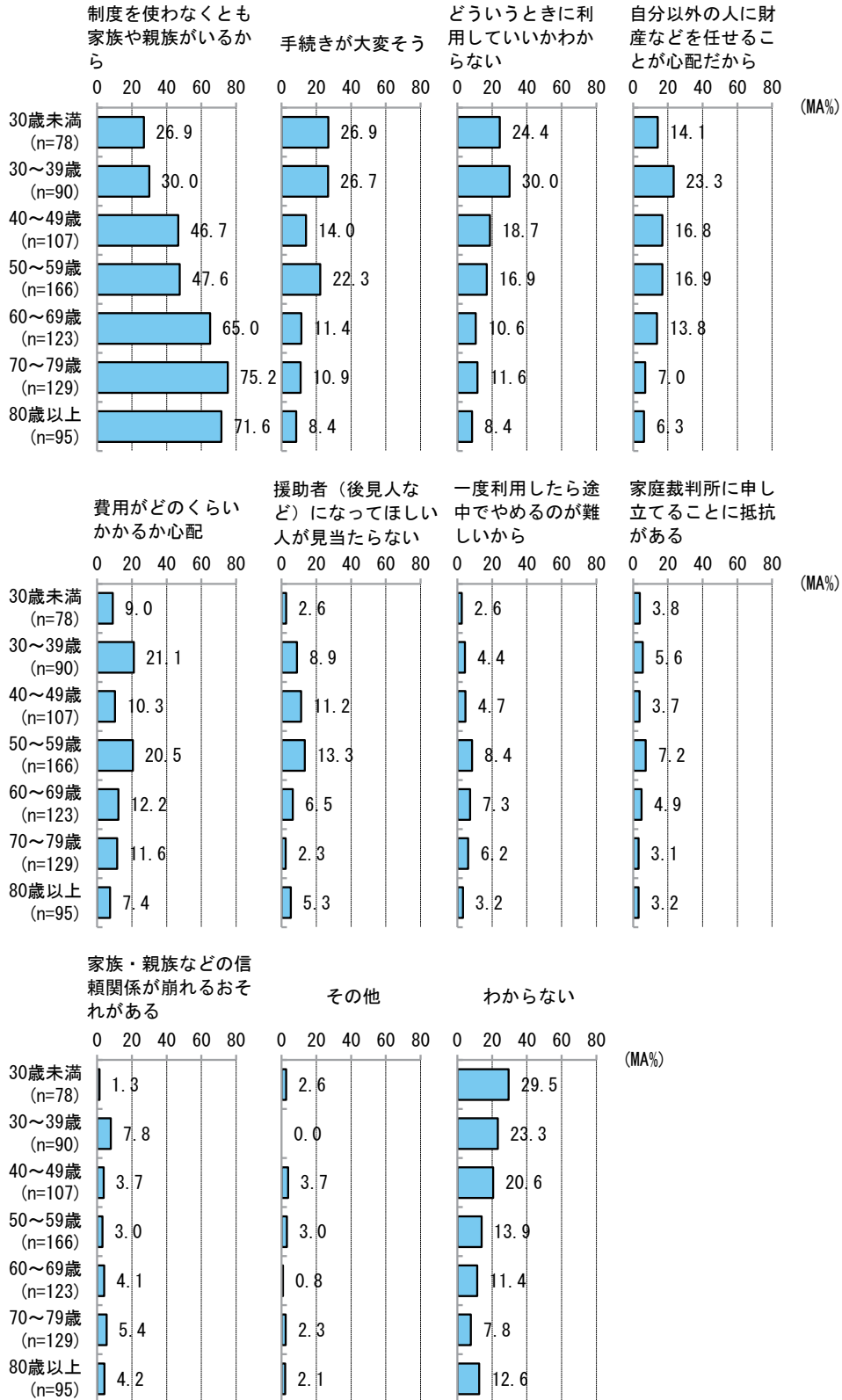
【図表8-4 利用したいと思わない理由】



成年後見制度を利用したくない、わからないと回答した人に、その理由をたずねると、「制度を使わなくとも家族や親族がいるから」が53.7%で最も多く、次いで「手続きが大変そう」が17.0%、「どういうときに利用していいかわからない」が16.6%となっています。(図表8-4)

年齢別でみると、「制度を使わなくとも家族や親族がいるから」の割合は概ね高齢になるほど割合が高くなり、70～79歳が75.2%で最も高くなっています。また、「どうしても利用していいかわからない」、「自分以外の人に財産などを任せることが心配だから」、「費用がどのくらいかかるか心配」では30～39歳が最も高くなっています。（図表8-4-1）

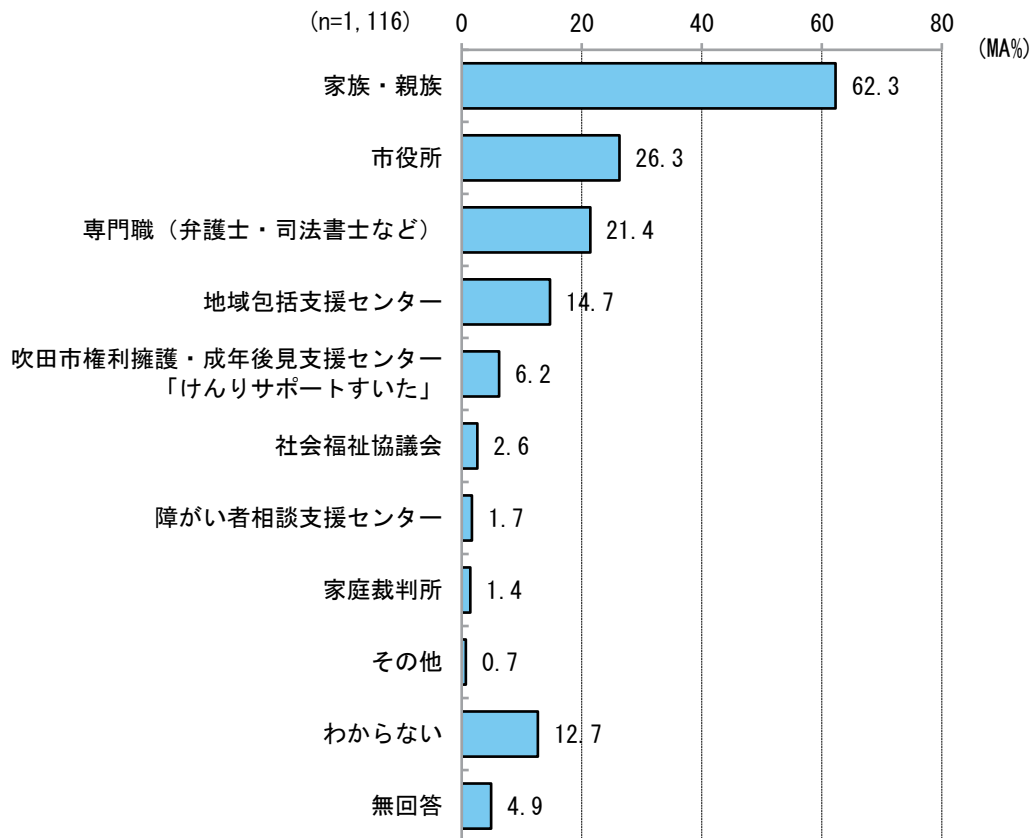
【図表8-4-1 年齢別 利用したいと思わない理由】



(5) 財産の管理や契約の手続きについての相談相手

問31 あなたの周りで、財産の管理や契約の手続きについて、自分ひとりで判断することが難しい方がいた場合、どこに相談しますか。もしくはどこに相談するように伝えますか。(〇はいくつでも)

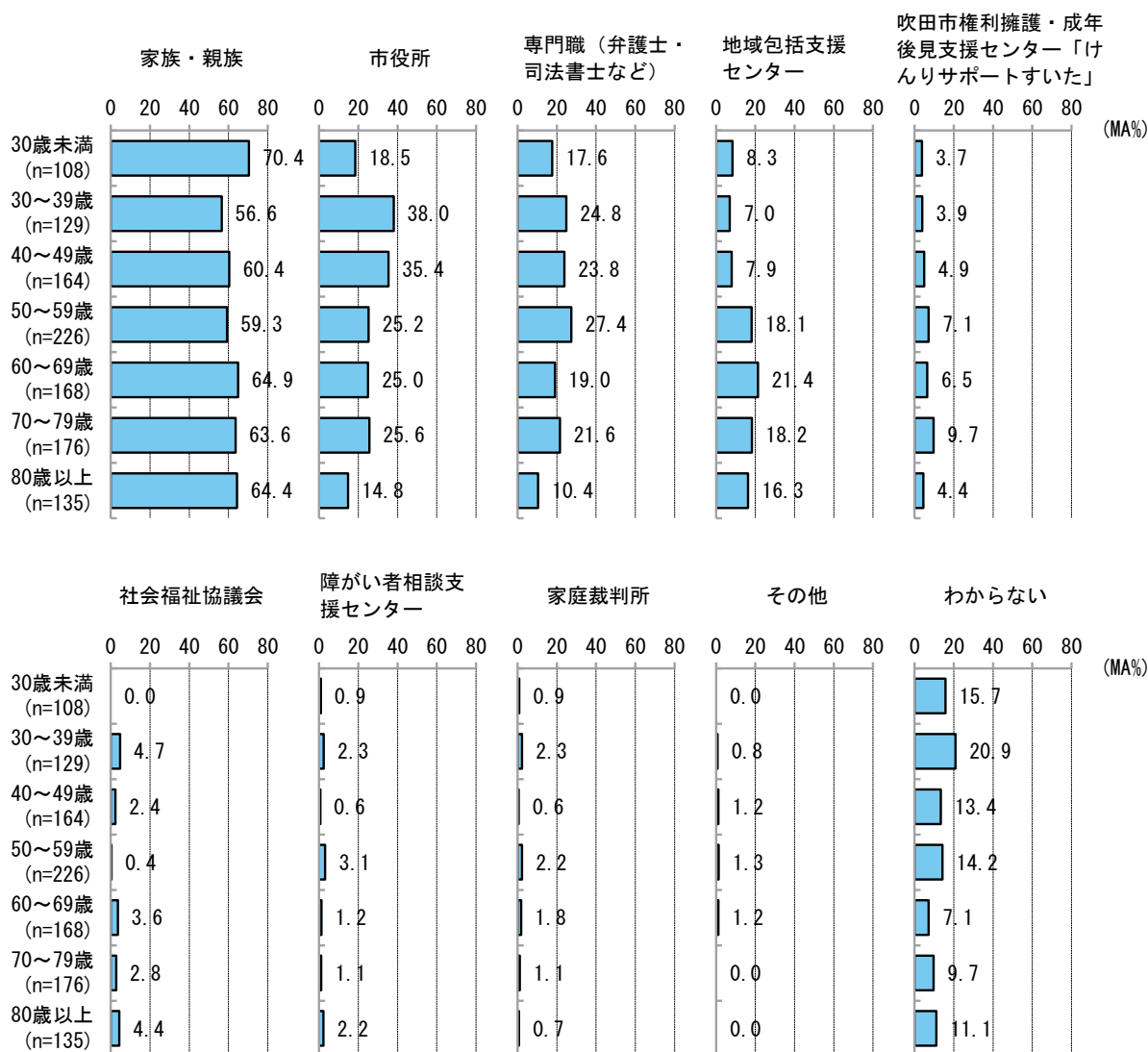
【図表8-5 財産の管理や契約の手続きについての相談相手】



財産の管理や契約の手続きについての相談相手については、「家族・親族」が62.3%で最も多く、次いで「市役所」が26.3%、「専門職 (弁護士・司法書士など)」が21.4%となっています。(図表8-5)

年齢別でみると、「家族・親族」の割合は30歳未満が70.4%で最も高く、「市役所」の割合は30～39歳が38.0%で最も高くなっています。(図表8-5-1)

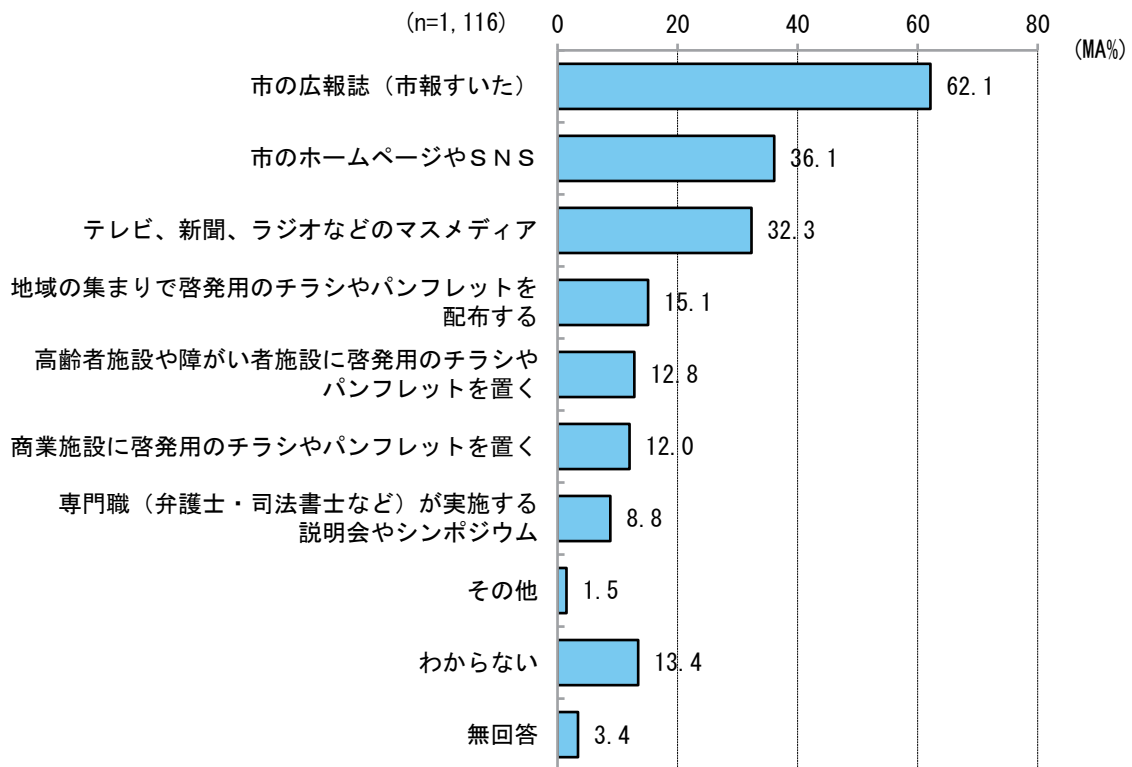
【図表8-5-1 年齢別 財産の管理や契約の手続きについての相談相手】



(6) 成年後見制度の周知に効果的な方法

問32 成年後見制度をより多くの方に知っていただくために、次のどの方法で周知すると効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

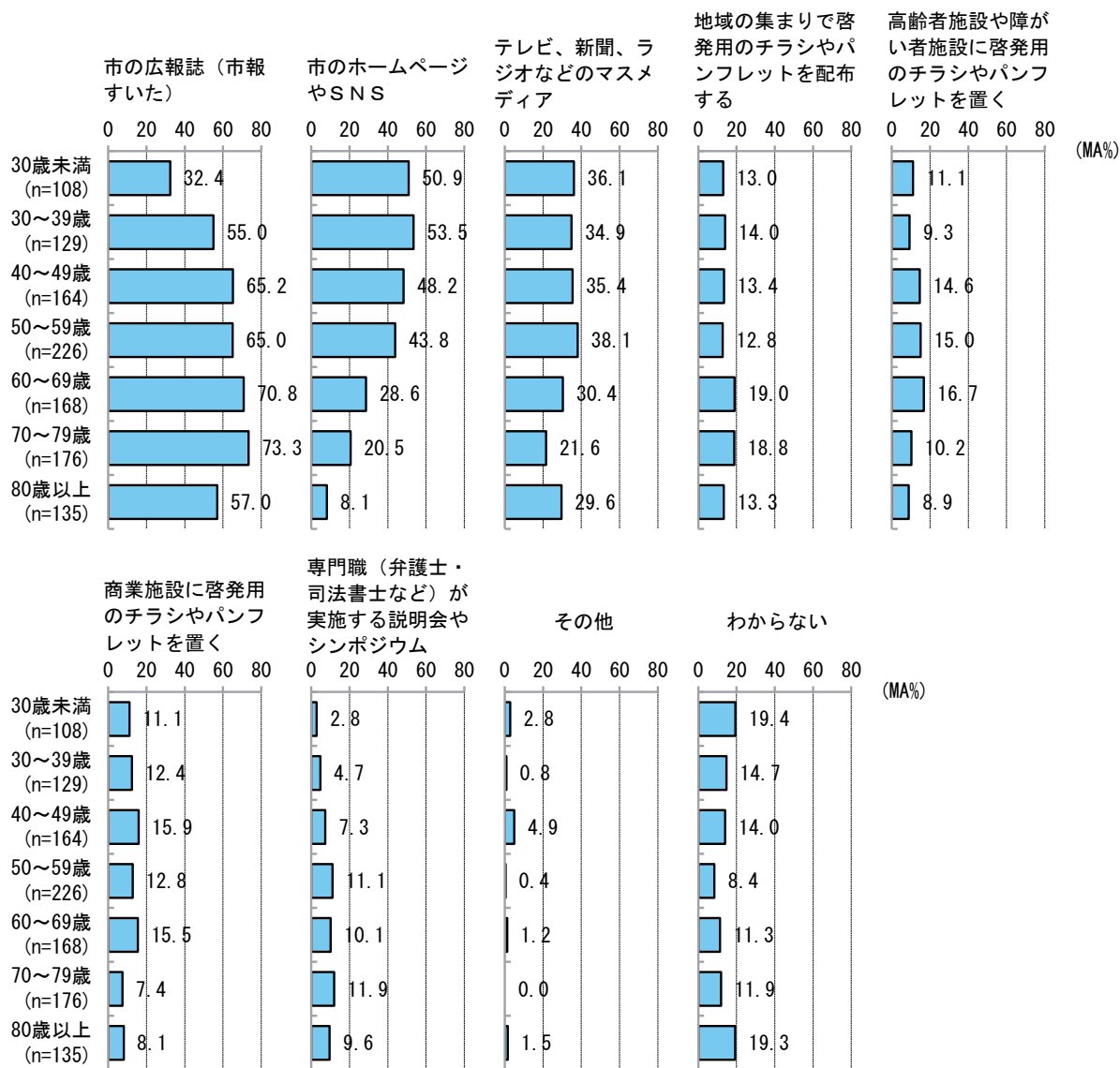
【図表8-6 成年後見制度の周知に効果的な方法】



成年後見制度の周知に効果的な方法については、「市の広報誌 (市報すいた)」が62.1%で最も多く、次いで「市のホームページやSNS」が36.1%、「テレビ、新聞、ラジオなどのマスメディア」が32.3%となっています。(図表8-6)

年齢別でみると、「市の広報誌（市報すいた）」の割合は70～79歳が73.3%で最も高く、「市のホームページやSNS」の割合は30～39歳が53.5%で最も高くなっています。(図表8-6-1)

【図表8-6-1 年齢別 成年後見制度の周知に効果的な方法】

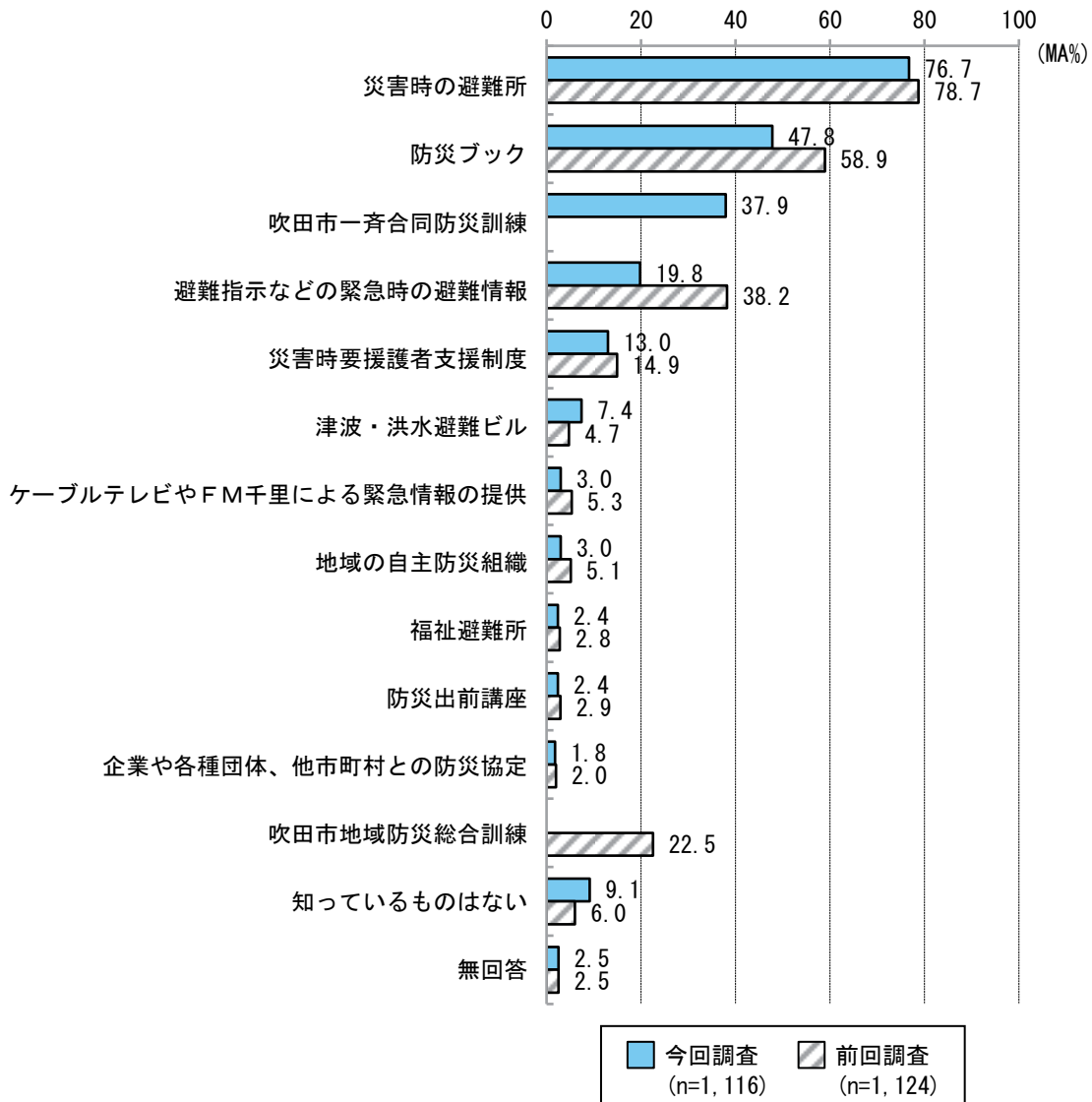


9 災害から生命を守る取組などについて

(1) 防災に関する取組や情報について知っているもの

問33 防災に関する取組や情報について、あなたが知っているものはありますか。
(○はいくつでも)

【図表9-1 防災に関する取組や情報について知っているもの（経年比較）】



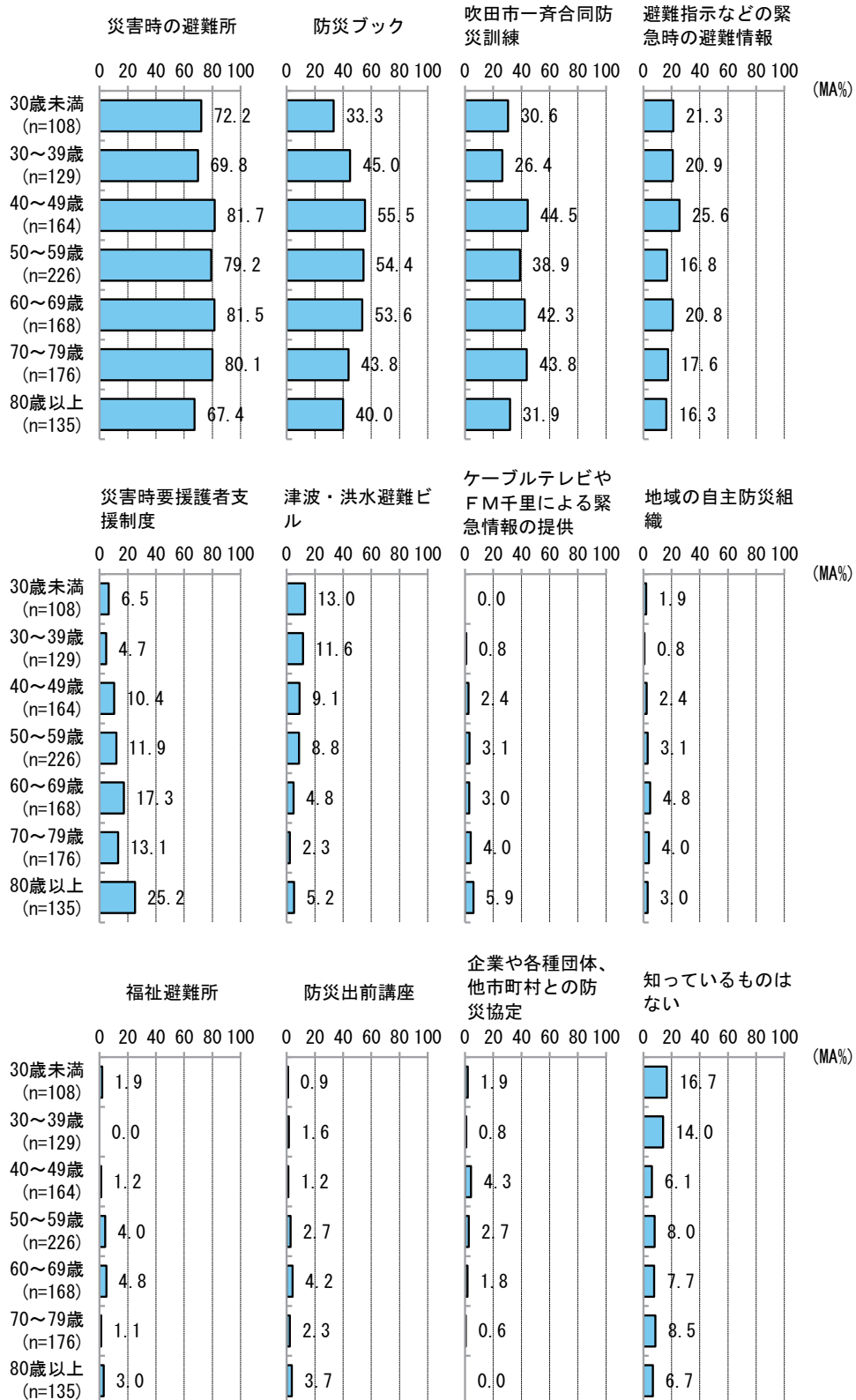
※前回調査の「吹田市地域防災総合訓練」は、今回調査では設けていません。
 ※前回調査の「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」は、今回調査では「防災ブック」に変更しています。
 ※前回調査の「避難勧告などの緊急速報メール」は、今回調査では「避難指示などの緊急時の避難情報」に変更しています。
 ※「吹田市一斉合同防災訓練」は、今回調査の新規項目です。

防災に関する取組や情報について知っているものについては、「災害時の避難所」が76.7%で最も多く、次いで「防災ブック」が47.8%、「吹田市一斉合同防災訓練」が37.9%となっています。

前回調査と比較すると、「避難指示などの緊急時の避難情報」は前回（38.2%）より18.4ポイント、「防災ブック」は前回（58.9%）より11.1ポイント、それぞれ低くなっています。（図表9-1）

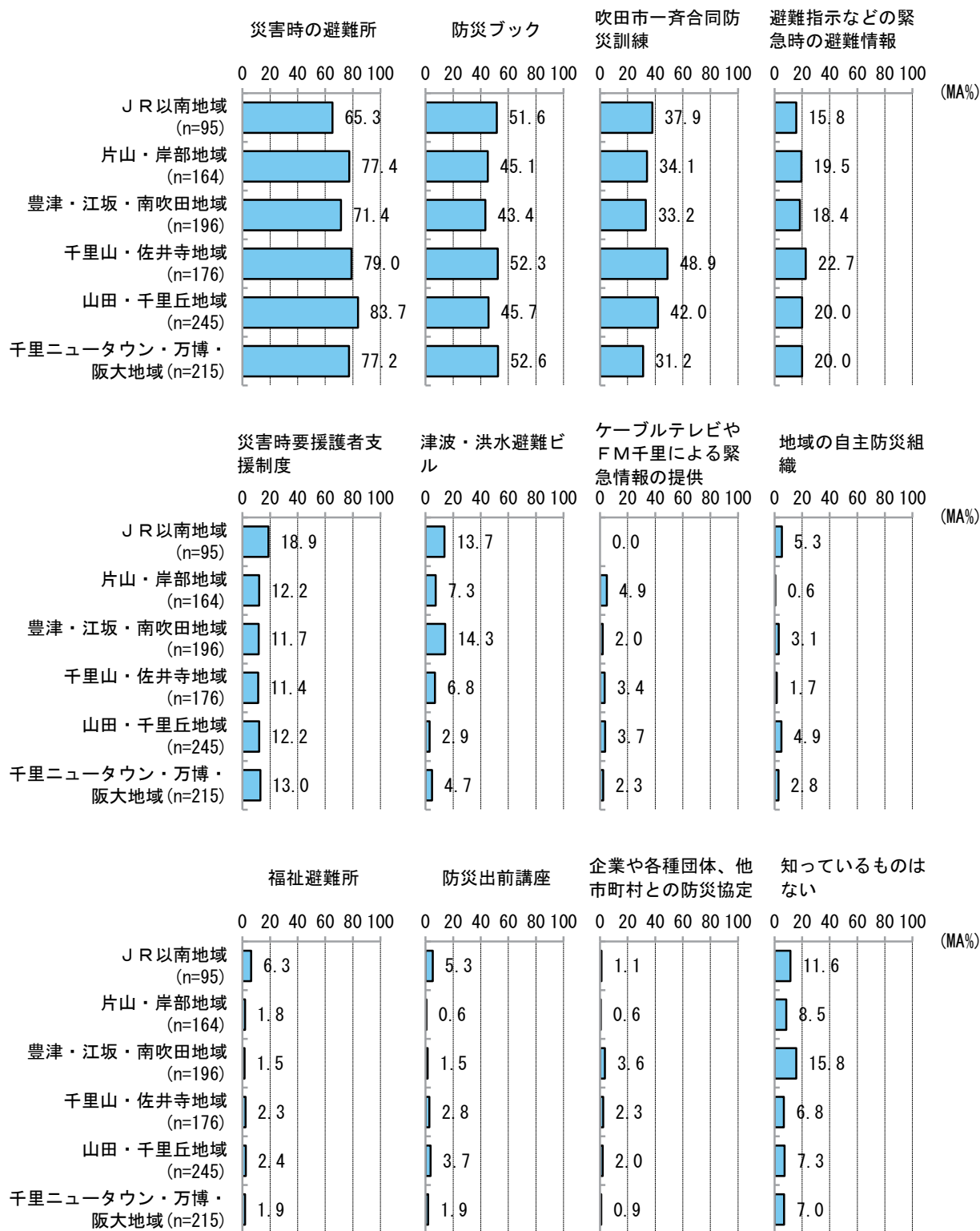
年齢別でみると、いずれの年代も「災害時の避難所」が最も多く、40～49歳が81.7%で最も高くなっています。「災害時要援護者支援制度」の割合は80歳以上が25.2%で最も高くなっています。(図表9-1-1)

【図表9-1-1 年齢別 防災に関する取組や情報について知っているもの】



居住地域別でみると、「吹田市一斉合同防災訓練」の割合は千里山・佐井寺地域が48.9%で最も高く、次いで山田・千里丘地域が42.0%となっています。(図表9-1-2)

【図表9-1-2 居住地域別 防災に関する取組や情報について知っているもの】

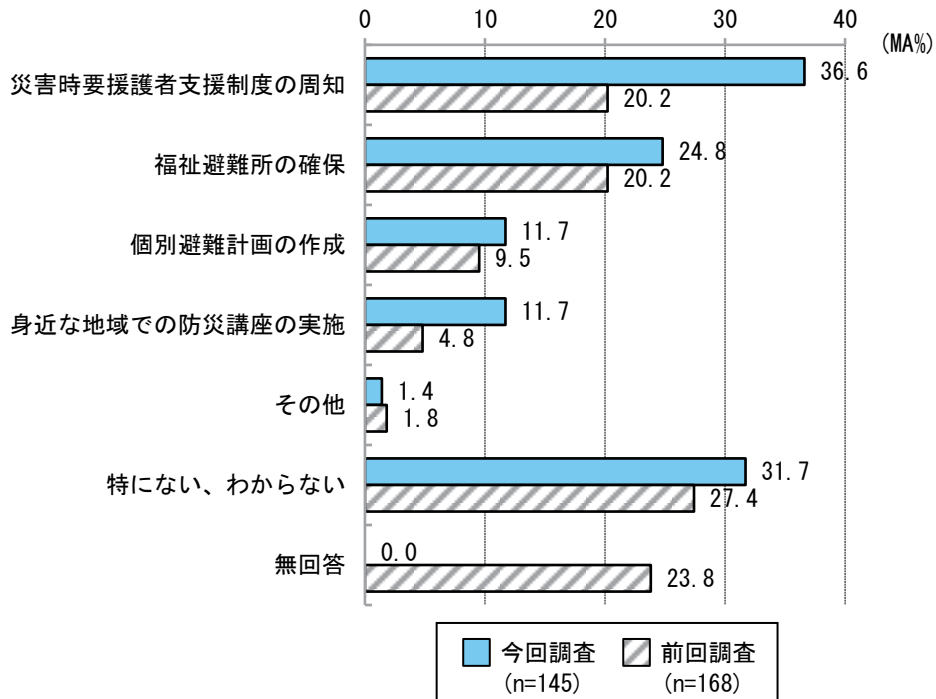


(2) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組

問33-1 問33で「3. 災害時要援護者支援制度」と回答した方にお聞きします。
 「災害時要援護者」への支援を進めるうえで、優先すべき取組は何だと思えますか。
 (〇は1つ)

※複数回答に変更

【図表9-2 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組（経年比較）】



※前回調査の「個別支援計画の作成支援」は、今回調査では「個別避難計画の作成」に変更しています。

防災に関する取組や情報について知っているもので災害時要援護者支援制度と回答した人に、災害時要援護者への支援を進めるうえで、優先すべき取組についてたずねると、「災害時要援護者支援制度の周知」が36.6%で最も多く、次いで「福祉避難所の確保」が24.8%、「個別避難計画の作成」と「身近な地域での防災講座の実施」がそれぞれ11.7%となっています。

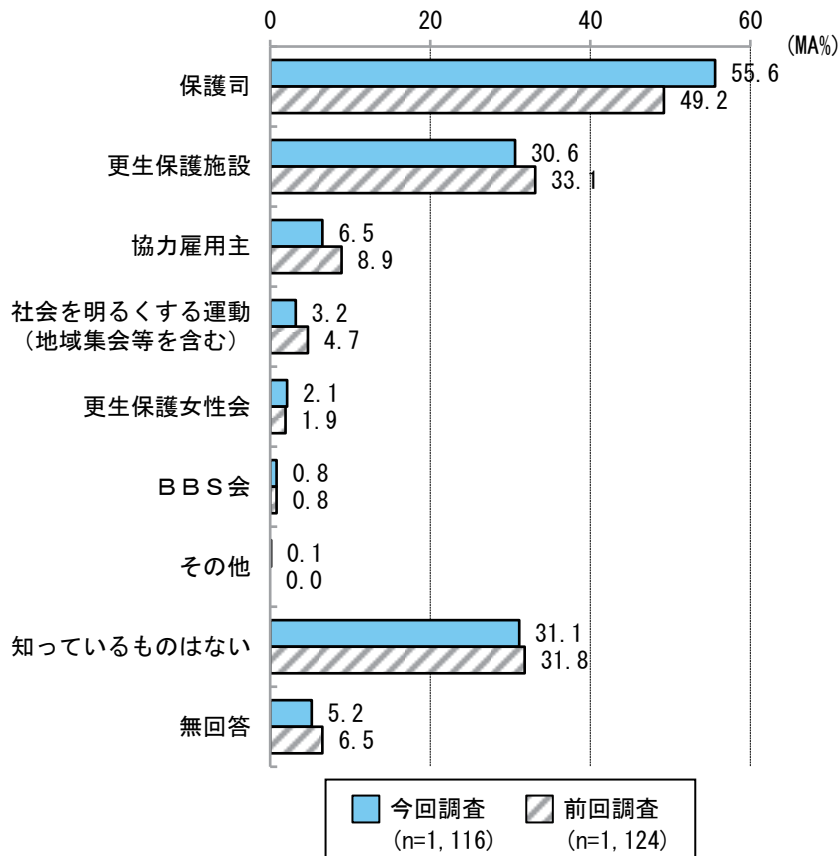
前回調査と比較すると、いずれの項目も前回より割合が高く、「災害時要援護者支援制度の周知」の割合は前回（20.2%）より16.4ポイント高くなっています。（図表9-2）

10 再犯防止の取組などについて

(1) 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの

問34 再犯防止に関する民間協力者や取組で、あなたが知っているものはありますか。
(○はいくつでも)

【図表10-1 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの（経年比較）】

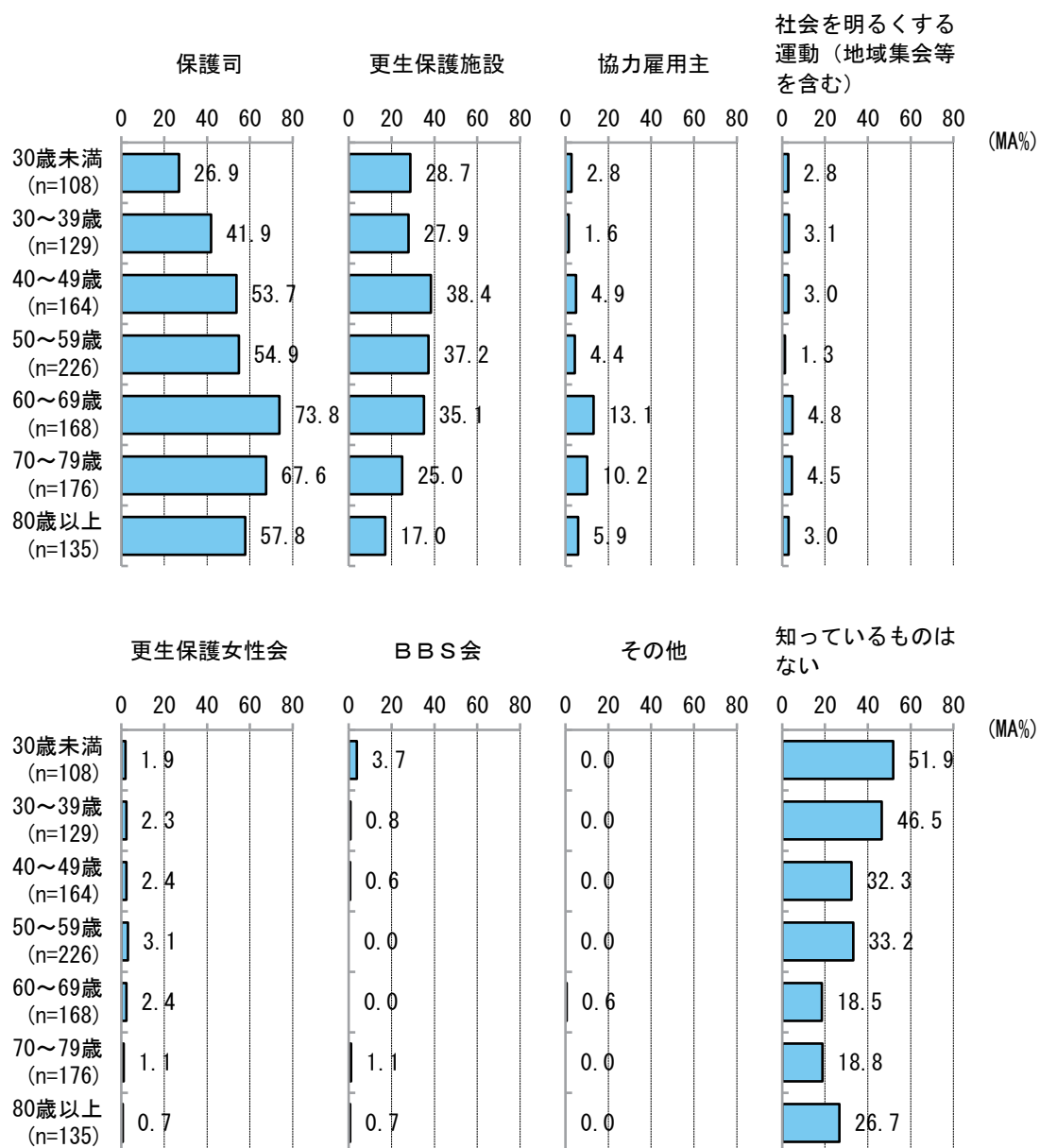


再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているものについては、「保護司」が55.6%で最も多く、次いで「更生保護施設」が30.6%、「協力雇用主」が6.5%となっています。一方、「知っているものはない」は31.1%と高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「保護司」は前回（49.2%）より6.4ポイント高くなっています。
(図表10-1)

年齢別でみると、「保護司」の割合は60～69歳が73.8%で最も高く、「更生保護施設」の割合は40～49歳が38.4%で最も高くなっています。一方、「知っているものはない」の割合は30歳未満が51.9%で最も高くなっています。（図表10-1-1）

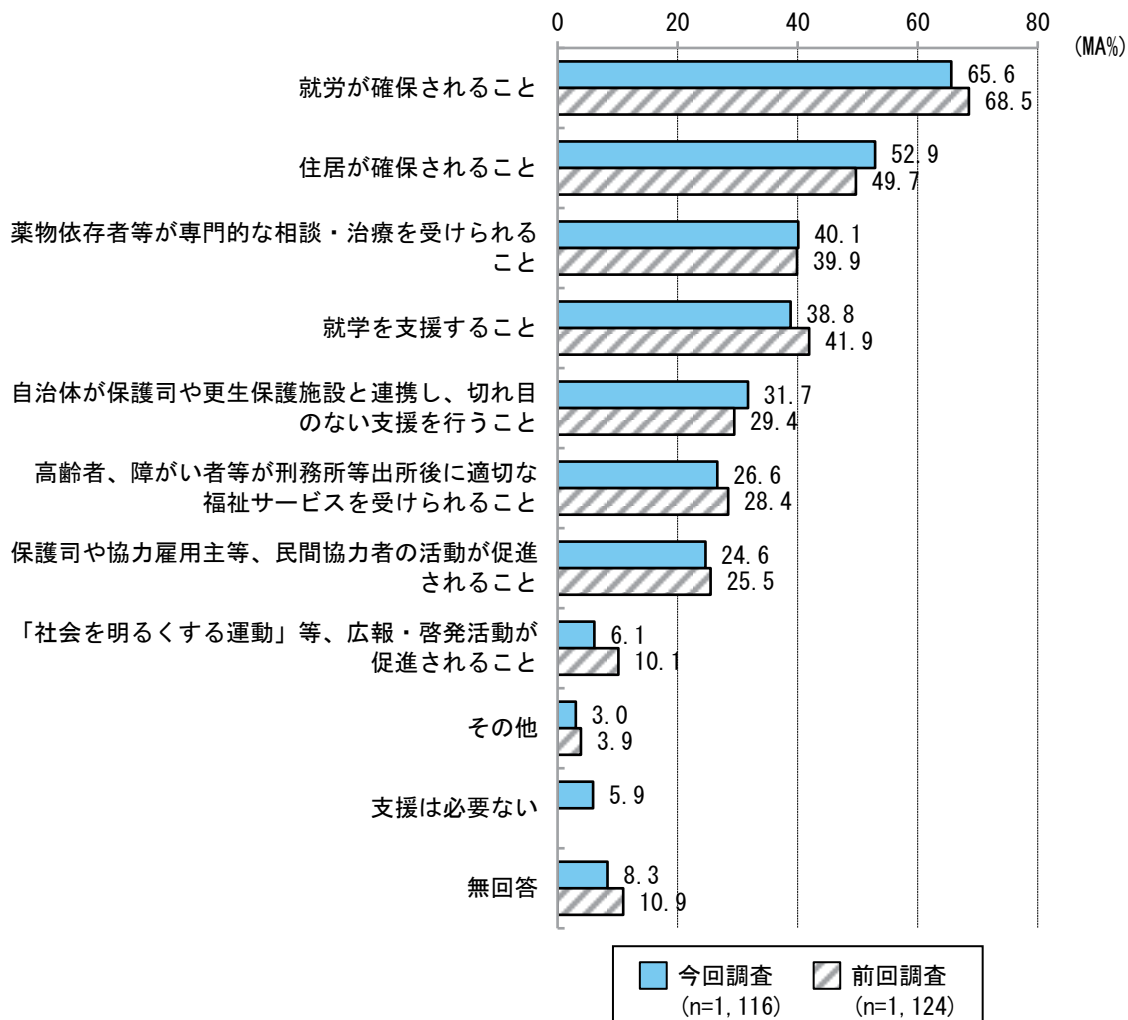
【図表10-1-1 年齢別 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの】



(2) 再犯や再非行を防止するために必要なこと

問35 再犯や再非行を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

【図表10-2 再犯や再非行を防止するために必要なこと（経年比較）】



※前回調査の「自治体が刑務所等の矯正施設と連携し、切れ目のない支援を行うこと」は、今回調査では「自治体が保護司や更生保護施設と連携し、切れ目のない支援を行うこと」に変更しています。

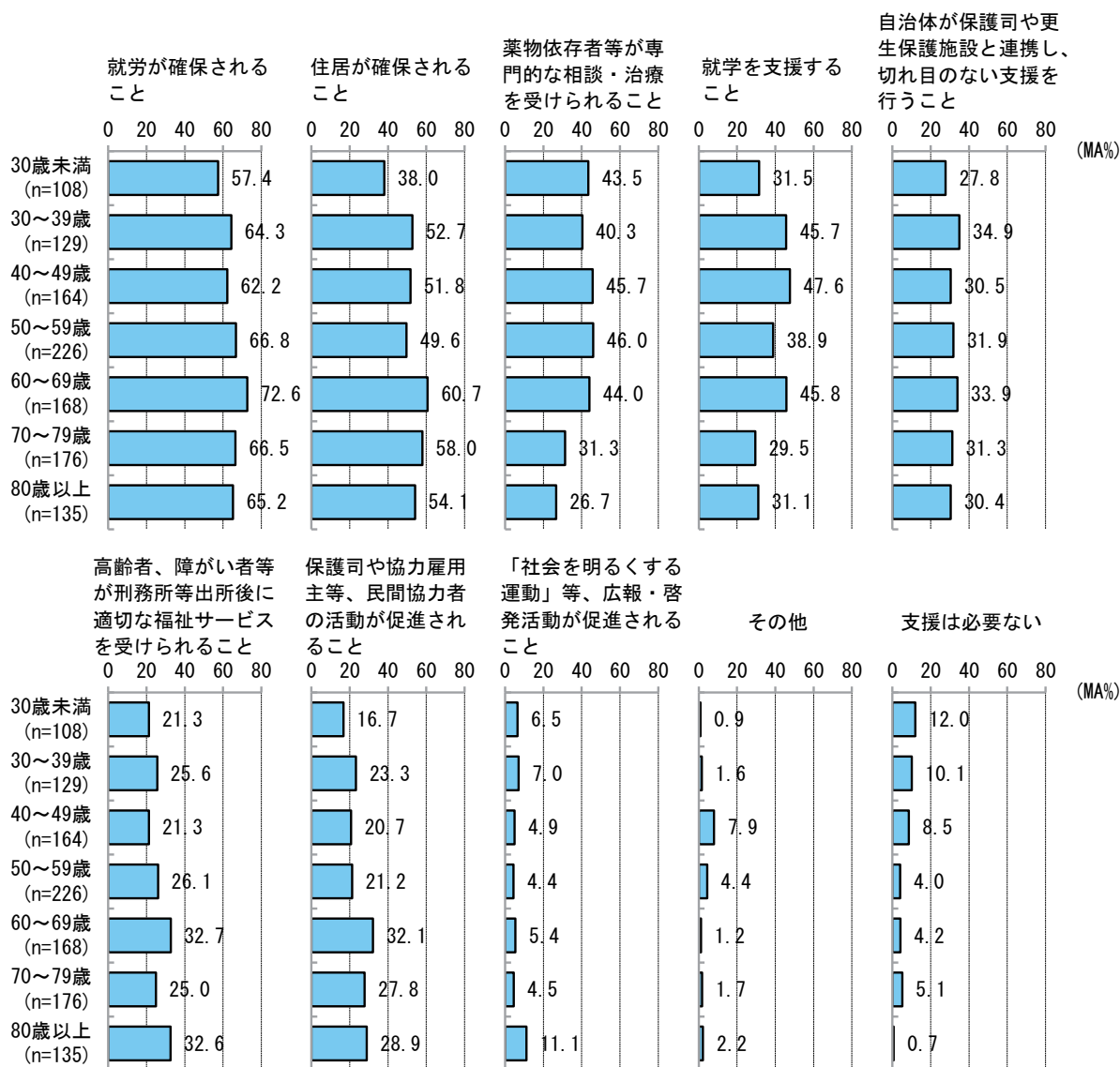
※「支援は必要ない」は、今回調査の新規項目です。

再犯や再非行を防止するために必要なことについては、「就労が確保されること」が65.6%で最も多く、次いで「住居が確保されること」が52.9%、「薬物依存者等が専門的な相談・治療を受けられること」が40.1%、「就学を支援すること」が38.8%となっています。

前回調査と比較すると、「社会を明るくする運動」等、広報・啓発活動が促進されること」は前回（10.1%）より4.0ポイント低くなっています。（図表10-2）

年齢別でみると、「就労が確保されること」、「住居が確保されること」、「高齢者、障がい者等が刑務所等出所後に適切な福祉サービスを受けられること」、「保護司や協力雇用主等、民間協力者の活動が促進されること」の割合は60～69歳で最も高くなっています。(図表10-2-1)

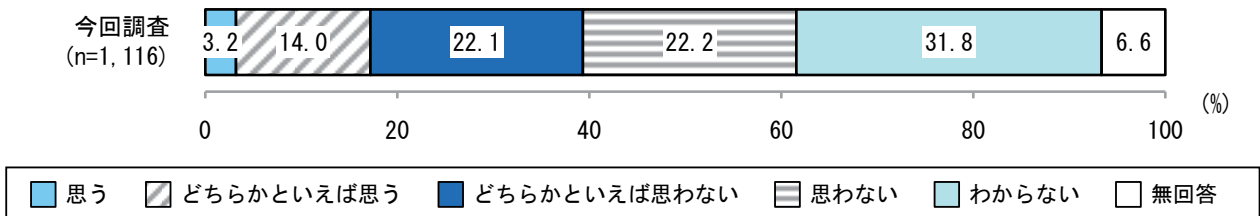
【図表10-2-1 年齢別 再犯や再非行を防止するために必要なこと】



(3) 非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向

問36 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つ)

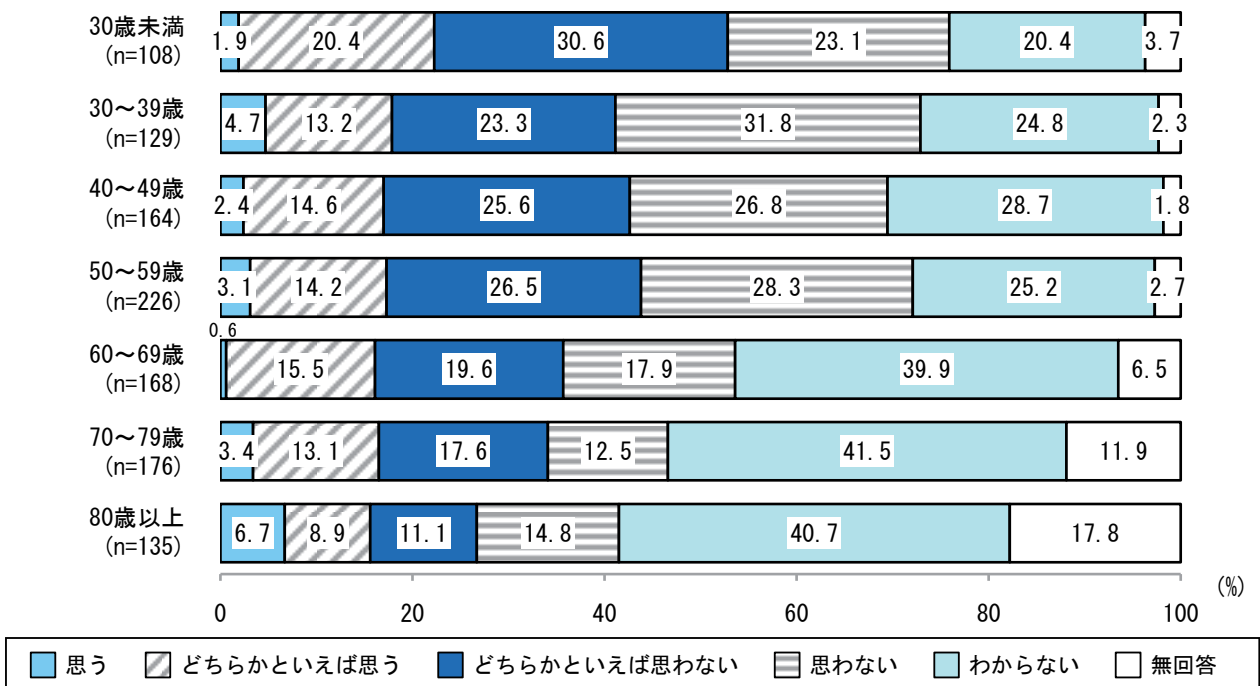
【図表10-3 非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向】



非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向について、「思わない」が22.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば思わない」が22.1%で、両者をあわせた『協力したくない』の割合は44.3%となっています。「思う」(3.2%)と「どちらかといえば思う」(14.0%)をあわせた『協力したい』の割合は17.2%となっています。(図表10-3)

年齢別でみると、『協力したい』の割合は30歳未満が22.3%で最も高くなっています。一方、『協力したくない』の割合は30～39歳が55.1%で最も高くなっています。(図表10-3-1)

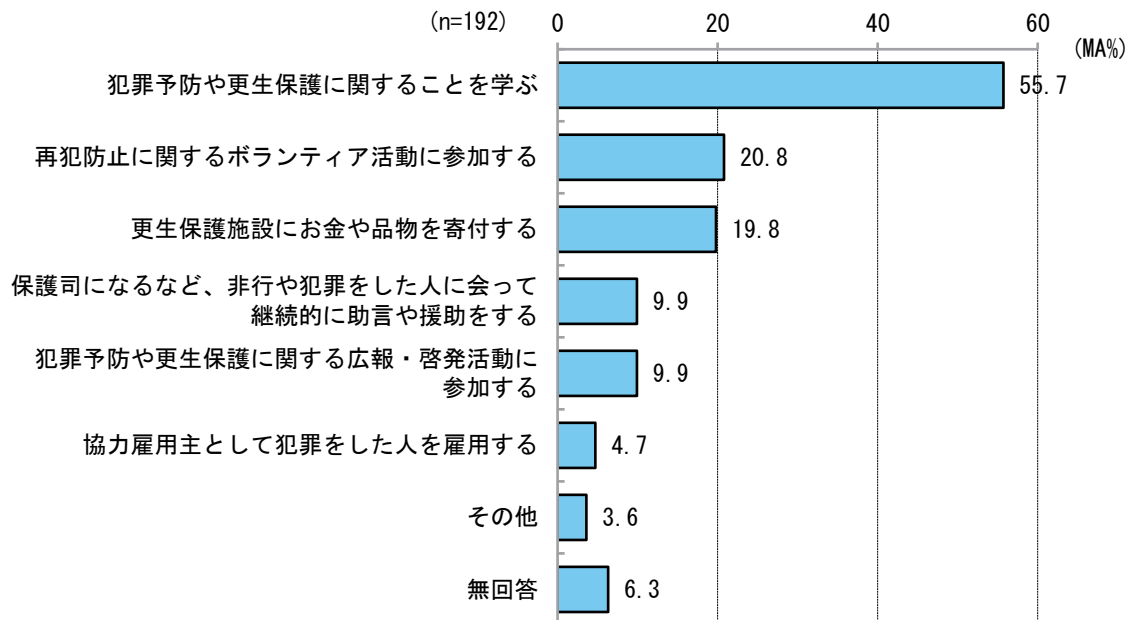
【図表10-3-1 年齢別 非行や犯罪をした人の立ち直りに関する協力意向】



(4) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいこと

問36-1 問36で「1. 思う」または「2. どちらかといえば思う」と回答した方にお聞きします。
 どのような協力をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表10-4 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいこと】

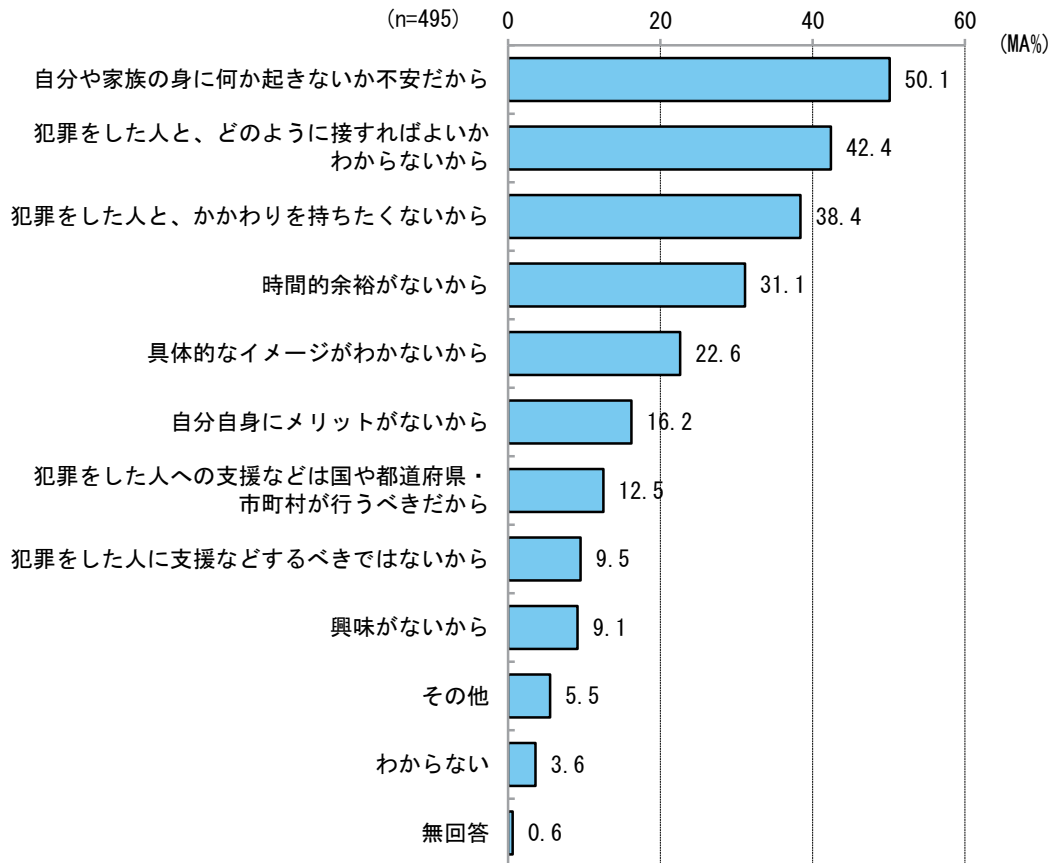


非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと回答した人に、協力したいことをたずねると、「犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ」が55.7%で最も多く、次いで「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が20.8%、「更生保護施設にお金や品物を寄付する」が19.8%となっています。(図表10-4)

(5) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したくない理由

問36-2 問36で「3. どちらかといえば思わない」または「4. 思わない」と回答した方にお聞きします。協力したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

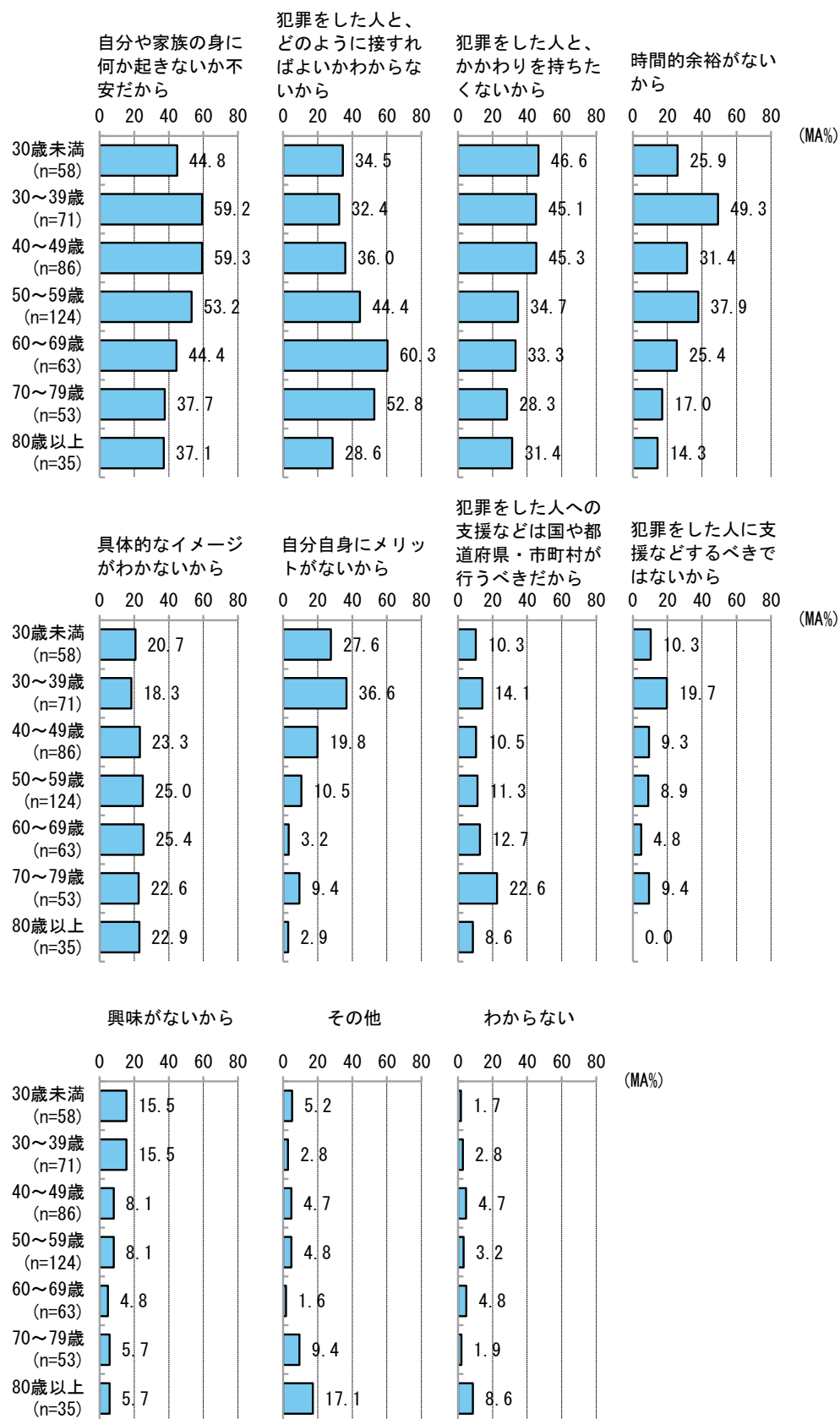
【図表10-5 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したくない理由】



非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したくないと回答した人に、その理由をたずねると、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が50.1%で最も多く、次いで「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が42.4%、「犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから」が38.4%となっています。(図表10-5)

年齢別でみると、30歳未満では「犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから」が46.6%で最も多く、60～69歳と70～79歳では「犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が最も多くなっています。(図表10-5-1)

【図表10-5-1 年齢別 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したくない理由】

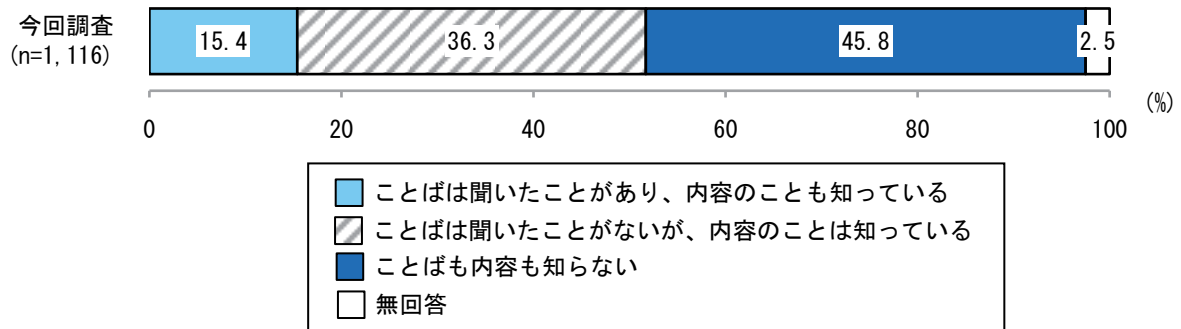


11 合理的配慮について

(1) 合理的配慮の認知状況

問37 あなたは「合理的配慮」を知っていますか。(○は1つ)

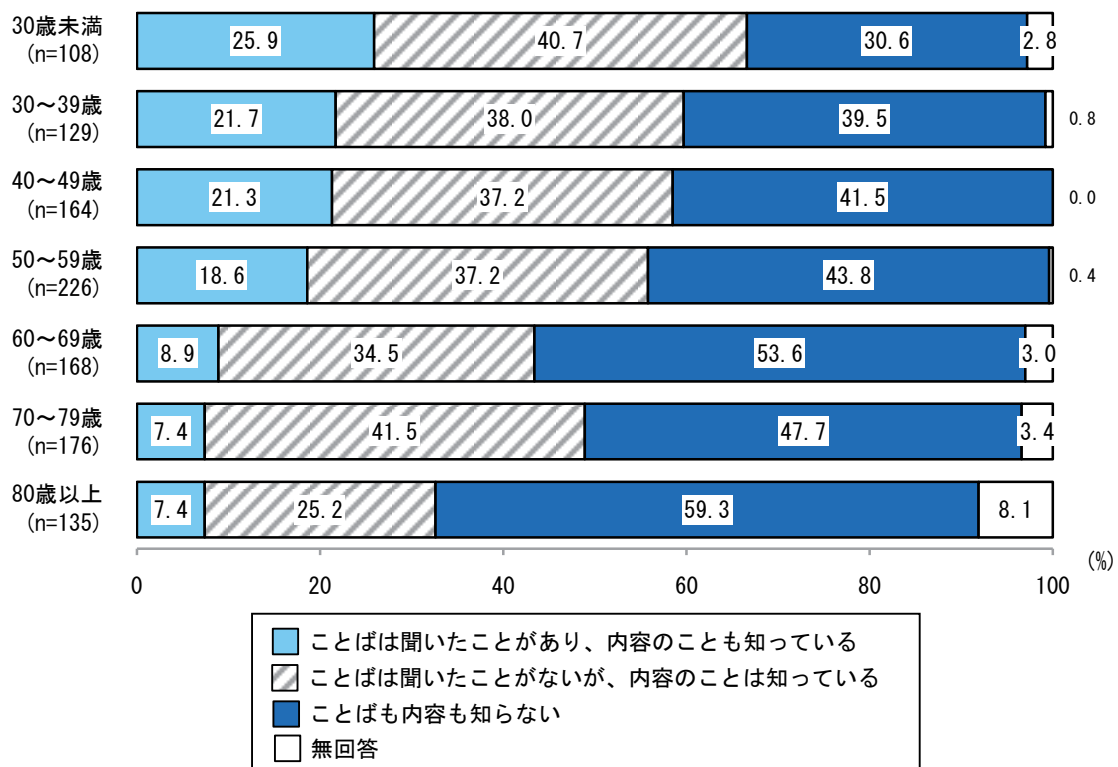
【図表11-1 合理的配慮の認知状況】



合理的配慮の認知状況については、「ことばも内容も知らない」が45.8%で最も多く、次いで「ことばは聞いたことがないが、内容のことは知っている」が36.3%、「ことばは聞いたことがあり、内容のことも知っている」が15.4%となっており、「ことばは聞いたことがあり、内容のことも知っている」と「ことばは聞いたことがないが、内容のことは知っている」をあわせた認知度は51.7%となっています。(図表11-1)

年齢別でみると、「ことばも内容も知らない」の割合は概ね高齢になるほど割合が高くなり、80歳以上が59.3%で最も高くなっています。(図表11-1-1)

【図表11-1-1 年齢別 合理的配慮の認知状況】



12 自由意見

問38 国や府、市など行政に対する要望や意見、この調査に関する意見などをお聞かせください。

回答者のうち、244人から要望や意見が寄せられ、延べ件数は312件でした。
主な意見を整理すると次のとおりとなっています。

行政施策・職員対応について

106件

- 情報提供の充実（わかりやすい福祉の一覧、福祉の制度の啓発など）（11件）
- 税金、社会保険料が高すぎる（8件）
- 相談窓口がわかるものがほしい、知りたい（6件）
- 安心できる世の中になってほしい（6件）
- 物価が高い、物価高対策を期待（4件）
- 市の今後の発展に期待（4件）
- 情報の提供方法の提案（インターネット以外、SNS等）（3件）
- 現役世代、子育て世帯に関するサポートや支援が少なすぎる（3件）
- 将来の子どもたちが安心して暮らせるような計画的な政策を考えてほしい（2件）
- 地域で困っている実情をHPや市報に載せてほしい（2件）
- 様々な立場の人にやさしい取り組みをしてほしい（2件）
- 市報すいたの充実（2件）
- 職員の対応（2件）
- 相談窓口をたらい回しにされないように（2件）
- いろいろ取り組んでいるのはわかるができると思えない、ニーズに合っているのか疑問（2件）
- 吹田市は他市に比べ金券等の配布がない（2件）
- その他（45件）
 - ・市報すいたは見やすく充実している
 - ・相談窓口に出向かなくても相談できるツールがあれば
 - ・パートナーシップ制度の導入を希望
 - ・市をまたいでの施設の供用を検討してほしい
 - ・市や国で保証人になってくれるサービスができないか
 - ・窓口の予約等、ネットが使えない高齢者には困難 など

子育て支援について

29件

- 入園しやすくしてほしい（3件）
- 企業主導型保育園の加点への検討（2件）
- 保育所の充実（2件）
- 児童センター、図書館の充実（2件）
- その他（20件）
 - ・学童に希望すれば入れるようにしてほしい
 - ・保育士の給料を上げてほしい
 - ・子どもの遊び場を増やしてほしい
 - ・校区の縛りがなくなるといい など

都市整備について 28件

- 歩道の整備（視覚障害者が安心して歩ける、歩道がガタガタ）（4件）
- 歩道が狭い、危ない（2件）
- 自転車通行帯の見直し（2件）
- 公園にきれいで明るいトイレ整備（2件）
- その他（18件）
 - ・バスの本数が少なくて不便
 - ・自転車の危険走行の取り締まりの強化
 - ・すいすいバスがありがたい
 - ・千里ニュータウンの側溝掃除を市で定期的に行ってほしい
 - ・歩きたばこをなんとかしてほしい など

高齢者施策について 18件

- ひとり暮らし高齢者の見守りの充実（3件）
- 高齢者のバス、電車、タクシーの割引サービスの充実（3件）
- その他（12件）
 - ・高齢者の就労支援の充実
 - ・認知症特化の施設が少ない
 - ・成年後見制度の利用の仕方がわからない
 - ・施設の職員不足 など

自治会活動などについて 13件

- ・自治会役員への負担の軽減
- ・若い人への自治会、子ども会への参加促進
- ・ゴミ捨て場の管理を自治会任せにしている状況を改善
- ・会館や公共施設の利用料が高い など

福祉サービス・制度について 9件

- ・現場で働く方々の意見をくみ取るべき
- ・サービスを受ける人も提供する人も無理なくできる環境づくりが必要
- ・制度が本当に必要なのか考え直してほしい など

外国人対策について 7件

- ・外国人就労についての相談窓口の設置
- ・外国人の犯罪が増えている
- ・日本で礼儀正しく行動している外国の方々には有益なものであれば など

防犯について 6件

- 防犯カメラの設置（2件）
- その他（4件）
 - ・治安が悪いので、パトロールの強化や学校での指導
 - ・子どもが安全に登下校できる状態をつくってほしい など

医療について 6件

- ・ひとり暮らしでも保証人なしで入院できるようになるといい
- ・健(検)診を受けて病気が見つかった後のフォローがあるといい など

ボランティアについて 5件

- 民生委員児童委員やボランティアに報酬を付ける（4件）
- その他（1件）
 - ・見守り隊のボランティア

防災・災害時の対応について <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所が足りない ・避難所の設備の充実 ・災害時の情報提供の充実 など 	4件
障がい者支援について <ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する理解のための教育が必要 ・精神障害者の社会復帰をめざした場づくり など 	4件
就労支援について <ul style="list-style-type: none"> ・育休の間カバーする人にも手当て支援する制度があると平等 ・定年制度70歳への延長 など 	4件
生活保護について <ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の額を年金より下げるべき ・生活保護の要件緩和 など 	2件
アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ●アンケートで知ることができた、意識するようになった（14件） ●質問項目が多い、もっと整理すべき（7件） ●アンケート結果を活かしてほしい（4件） ●アンケートが難しかった（4件） ●アンケートは税金の無駄（4件） ●アンケートをオンラインをメインに変えるべき（3件） ●アンケートの結果を知らせてほしい（2件） ●必要としている人、福祉に携わっている人に調査すべき（2件） ●謝礼がほしい（2件） ●その他（8件） <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは答えやすかった ・PCが使えない高齢者には質問が多くてしんどかった ・アンケートは意義がある ・同封の用語説明一覧がわかりやすかった など 	50件
その他 <ul style="list-style-type: none"> ●回答者の状況（16件） ●その他（5件） 	21件

吹田市民の地域福祉に関する実態調査

【御協力のお願い】

吹田市では、令和9年度（2027年度）を計画始期とする「第5次吹田市地域福祉計画」の策定に取り組んでいます。

この調査は、地域福祉に関する市民意識を把握することを目的に行うものです。市民の皆様が吹田市にお住まいになって感じておられることなどをお聞きすることで、国が提唱する「地域共生社会」の実現に向けて検討を進めるとともに、だれもが地域で互いに支えあいがながら安心して暮らさるような、夢あるまちづくりを生かしていきたいと考えています。

調査対象は、令和7年（2025年）9月末現在、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に選ばれた2,000人の方です。お答えいただいた内容は目的以外に使用しません。調査の趣旨を御理解いただき、調査に御協力いただけますようお願いいたします。

令和7年（2025年）11月 吹田市

＜回答御記入上のお願い＞

- 宛名の御本人に回答をお願いします。御本人が記入できない場合は、御家族など身近な方が、御本人の意思を確認しながら御記入ください。
- 名前を記入する必要はありません。
- 回答は回答欄の番号に○印を付けてください。
- 「その他」に○を付けた場合は、()内に具体的な内容をお書きください。
- 「用語説明一覧」を同封しています。調査票に注釈（※1～※12）のある用語について説明していますので、ぜひ御覧ください。
- 答えにくい質問にはお答えいただけなくても結構です。可能な範囲で御回答ください。
- その他配慮が必要な方は、お手数ですが、下記のお問い合わせ先まで御連絡ください。記入漏れがないかを御確認のうえ、**12月2日（火曜日）までに同封の封筒（切手不要）にて御返函**ください。

【問合せ先】

吹田市 福祉部 福祉総務室 地域福祉計画担当（吹田市役所 低層棟3階 320番窓口）
〒564-8550 吹田市泉町1丁目3番40号
TEL：06-6384-1803（直通）
FAX：06-6368-7348
E-mail：fukso@city.suita.osaka.jp

受付時間

平日9:00～17:30（土・日・祝日は休み）

あなた自身のことやご家庭のことについておたずねします

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

- 男性
- 女性
- どちらでもある
- どちらでもない

問2 あなたの年齢は。(令和7年11月1日現在) (○は1つ)

- 30歳未満
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～69歳
- 70～79歳
- 80歳以上

問3 あなたが一緒に暮らしている人についてお答えください。

問3-1 一緒に暮らしている人はどなたですか。あなたから見た職柄でお答えください。(○はいくつでも)

- 配偶者（事実婚を含む）
- 未婚の子供
- 結婚している子供
- 子供の配偶者
- 父親
- 母親
- 兄弟姉妹
- 孫
- 誰もいない（ひとり暮らし）
- その他（具体的に：_____）

問3-2 一緒に暮らしている人の年齢や属性を教えてください。(○はいくつでも)

- 未就学児
- 小学生
- 中学生
- 中学校卒業から19歳
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65～69歳
- 70～74歳
- 75歳以上

問4 現在の住まいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- 一戸建ての持家
- 集合住宅の持家（分譲のマンション等）
- 一戸建ての借家
- 集合住宅の借家
- 市営・府営住宅
- 公社・UR賃貸住宅
- 社宅・寮
- 福祉施設（特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅等）
- その他（具体的に：_____）

問5 現在の住まいには、何年間お住まいですか。(○は1つ)

- 1年未満
- 1年以上5年未満
- 5年以上10年未満
- 10年以上15年未満
- 15年以上20年未満
- 20年以上

問6 あなたはどちらの地域にお住まいですか。(1～6の地域の中から○は1つ)

地域	【参考】地域に含まれる町・丁目 (○は不要です)
(1～6から○は1つ)	
1. JR以南地域	朝日町、内本町、川岸町、川園町、春町、幸町、昭和町、吹東町、末広町、清和園町、高城町、高城町、中の高町、西御旅町、東御旅町、日の出町、平松町、南正雀、南清和園町、南高城町、自候町、元町
2. 片山・岸部地域	朝日が丘町、片山町、上山手町、岸部北、岸部新町、岸部中、岸部南、芝田町、茨道町、出口町、西の庄町、原町、藤が丘町、山手町
3. 豊津・江坂・南吹田地域	泉町、江坂町1～4丁目、江の木町、金田町、垂水町、豊津町、広芝町、穂波町、南金田、南吹田、芳野町
4. 千里山・佐井寺地域	江坂町5丁目、春日、佐井寺、佐井寺南が丘、五月が丘北、五月が丘西、五月が丘東、五月が丘南、千里山霧が丘、千里山高塚、千里山竹園、千里山月が丘、千里山西、千里山虹が丘、千里山東、千里山星が丘、千里山松が丘、竹谷町、円山町
5. 山田・千里丘地域	青葉丘北、青葉丘南、樞切山、清水、尺谷、新青屋上、新青屋下、千里丘上、千里丘北、千里丘下、千里丘中、千里丘西、長野西、長野東、山田市場、山田北、山田西、山田東、山田南
6. 千里ニュータウン・万博・阪大地域	青山台、上山田、佐竹台、千里万博公園、高野台、竹見台、津雲台、藤白台、古江台、桃山台、山田丘

問7 あなたの世帯の主な収入についてお答えください。(○はいくつでも)

1. 事業経営による収入	
2. 会社員・団体職員・公務員など正規職員としての賃金	
3. 非正規職員としての賃金(派遣・パート・アルバイト等含む)	
4. 主として家族で営んでいる自営業による収入	
5. 年金による収入	
6. 収入がない・預貯金の取り崩し	
7. その他(具体的に:)	

問8 あなたの生活の経済的な状況について、どのように感じていますか。(○は1つ)

1. ゆとりがある	
2. 普通	
3. ゆとりはないが、なんとか生活している	
4. ゆとりはなく、生活が苦しい	

問9 日常生活で困っていることや不安なことはありますか。(○はいくつでも)

1. 力仕事、掃除、洗濯、料理等の身の回りの手助けをしてくれる人がいないこと	
2. 病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいないこと	
3. 買い物、通院などでの移動手段のこと	
4. 子育てを支援してくれる親戚、友人、知人が身近にいないこと	
5. 防犯や防災対策として何をすればいいかわからないこと	
6. 相談相手がいないこと	
7. 自分にとって必要な情報をどこで手に入れたらいいかわからないこと	
8. 福祉、介護サービスの利用方法がわからない、利用しづらいこと	
9. 経済的なこと(収入、貯蓄等)	
10. 仕事のこと(就労、転職等)	
11. 財産管理や保証人が必要な手続き等があったときに、頼る人がいないこと	
12. 何かあったときに頼れる親族がいないこと	
13. 自身の死後の手続きを任せられる人がいないこと	
14. その他(具体的に:)	
15. 不安はない	

問10 あなたは、日頃、くらしや健康・福祉のことで相談できる相手はいますか。(○はいくつでも)

1. 配偶者	
2. 親	
3. 兄弟姉妹	
4. 子供	
5. 親戚	
6. 友人・知人	
7. 近所の人	
8. 自治会の役員	
9. 民生委員・児童委員*2	
10. 地区福祉委員*3	
11. 市役所の職員	
12. 職場の上司、同僚	
13. 地域包括支援センター*4の職員	
14. 社会福祉施設の職員	
15. 社会福祉協議会*5の職員(コミュニケーションソーシャルワーカー(CSW)*6を含む)	
16. 医療関係者(かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師等)	
17. 幼稚園や保育所、学校の先生	
18. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー(SSW)*7	
19. その他(具体的に:)	
20. 相談できる相手はいない	
21. 相談したいと思わない(具体的に:)	

問11 あなたは、くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）として、知っているものはありますか。

(1～25のそれぞれの相談窓口（相談先）について○を1つずつつけてください。)

相談窓口（相談先）	名前もどのような機関かもしら知らないか	どのようないが、名前を知っている	知らない
1. 市役所	1	2	3
2. 地域包括支援センター	1	2	3
3. 障がい者相談支援センター	1	2	3
4. 子育て支援センター（こども発達支援センター、すこやか親子室、家庭児童相談室）	1	2	3
5. 保健所	1	2	3
6. 子ども家庭センター（児童相談所）	1	2	3
7. 幼稚園や保育所、学校	1	2	3
8. 地域子育て支援センター	1	2	3
9. 子育て広場	1	2	3
10. のびのび子育てプラザ	1	2	3
11. 児童会館・児童センター	1	2	3
12. 青少年活動サポートプラザ	1	2	3
13. 教育センター	1	2	3
14. 男女共同参画センター（デュオ）	1	2	3
15. 障がい福祉サービス事業所	1	2	3
16. 高齢者福祉施設（特別養護老人ホームなど）	1	2	3
17. 高齢者サポートダイヤル	1	2	3
18. かかりつけ医などの医療機関	1	2	3
19. 社会福祉協議会	1	2	3

相談窓口（相談先）	名前もどのようないが、名前を知っている	どのようないが、名前を知っている	知らない
20. 生活困窮者自立支援センター（くらしサポートセンターすいた）	1	2	3
21. 吹田市権利擁護・成年後見支援センター（けんりサポートすいた）	1	2	3
22. 居住支援協議会	1	2	3
23. 市民公益活動センター（ラコルタ）	1	2	3
24. 更生保護サポートセンター	1	2	3
25. 地域のボランティア・NPO団体（具体的に：_____）	1	2	3
26. その他（具体的に：_____）	1	2	

問12 あなたやご家族は、くらしや健康・福祉のことで問11の相談窓口（相談先）に相談した結果、解決しましたか。（○はいくつでも）

1. 困りごとや悩みが解決した、解決の方向に向かった（⇒問13へ）
2. 困りごとや悩みは解決の方向に進まなかった（⇒問12-1へ）
3. ほかの相談窓口を紹介されることが続いた（⇒問12-1へ）
4. 特に相談したことはない（⇒問13へ）

問12-1 その時の相談窓口の対応はどうでしたか。具体的に記入ください。

問13 あなたは、市や地域団体、地域住民が発信している、くらしや健康・福祉に関する情報を何（どこ）から得ていますか。

(1) 市が発信する情報 (〇はいくつでも)

1. 市報
2. 市ホームページ
3. 公共施設の掲示板
4. 啓発チラシ
5. 新聞
6. 市公式SNS (X (旧 twitter)、Facebook、LINE、Instagram、吹田市動画配信チャンネル (YouTube))
7. 情報を得ていない、情報を必要としない
8. わからない

(2) 地域団体や地域住民が発信する情報 (〇はいくつでも)

1. 近隣住民のくちこみ
2. 自治会の回覧板や掲示板
3. 地域団体が発行する広報誌
4. 地域の福祉委員や民生委員・児童委員
5. 地域のホームページ
6. 情報を得ていない、情報を必要としない
7. わからない

ご近所付き合いについておたずねします

問14 あなたは、日頃、近所の方とどのような付き合いをしていますか。

(〇は1つ)

1. くらしのことで話し合ったり助け合っている (⇒問14-1へ)
2. 世間話をする (⇒問14-1へ)
3. あいさつをする (⇒問14-1へ)
4. ほとんど付き合いがない (⇒問14-2へ)

問14-1 問14で「1. くらしのことで話し合ったり助け合っている」「2. 世間話をする」「3. あいさつをする」と回答した方にお聞きします。そのように付き合い合っている理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 昔からの付き合いがあるから
2. 同じ年代の子供がいるから
3. ふだんから顔を合わせる機会が多いから
4. 趣味やペットなど共通の話題があるから
5. いざというときに助け合えるように
6. その他 (具体的に：)

問14-2 問14で「4. ほとんど付き合いがない」と回答した方にお聞きします。近所付き合いが難しい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. フライベートな時間を大切にするため
2. わずらわしいことが嫌いだから
3. 人と一定の距離を保ちたいから
4. 近所付き合いをする時間的余裕がないから
5. 近所付き合いにメリットを感じないから
6. 年代間の考え方に違いがあるから
7. まわりに近所付き合いにおけるトラブルがあるから
8. 近所付き合いをしても良いと思える人がいないから
9. 近所付き合いはしほしいが、つい消極的になってしまいうから
10. ふだん留守の家が多く、近所付き合いがほとんどない地域だから
11. 仕事で家を空けることが多く、知り合う機会がないから
12. マンションなどの集合住宅に住んでおり、知り合う機会がないから
13. その他 (具体的に：)

地域で暮らす中での問題などについておたずねします

問15 あなたが地域で暮らす中で、福祉について、日頃、気になっていることは何ですか。
(Oはいくつでも)

1. ひとり暮らしの高齢者のこと
2. 高齢者世帯のこと
3. 寝たきりや病氣、認知症の方がいる世帯のこと
4. 生活が困窮している世帯のこと
5. 障がい者（児）のいる世帯のこと
6. ひとり親世帯のこと
7. 子育ての不安を抱えている世帯のこと
8. 児童虐待に関すること
9. 高齢者虐待に関すること
10. 障がい者虐待に関すること
11. DV（ドメスティック・バイオレンス）に関すること
12. 孤独死に関すること
13. ひきこもりに関すること
14. 災害時要援護者に関すること
15. 8050問題（80代の親が50代の子の生活を支えている世帯）
16. ヤングケアラー（家族を介護する18歳未満の子ども）
17. ダブルケア（子育てと家族の介護を同時に担っている方）
18. 身寄りのない高齢者のこと
19. その他（具体的に：_____）
20. 特にない

問16 あなたが地域で暮らす中で、地域住民の交流について、日頃、気になっていることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 住民が安心して気軽に集える場所が少ないこと
2. 住民相互の連携や助け合いが乏しいこと
3. 若い人と高齢者との交流が乏しいこと
4. 子供をもつ親同士の交流の場が少ないこと
5. 子供の見守り（交通安全、防犯）のこと
6. 自治会や地域団体の役員に関する学習会が少ないこと
7. くらしや健康・福祉に関する学習会が少ないこと
8. ボランティアや福祉に関心があがる人が少ないこと
9. その他（具体的に：_____）
10. 特にない

問17 あなたが地域で暮らす中で、くらしや健康・福祉に関する制度や施設・サービスについて、日頃、気になっていることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 希望する保育所に入所できないこと
2. 留守家庭児童育成室（学童保育）に入室できないこと
3. 子供が気軽に集える施設が少ないこと
4. 子供と親が一緒に気軽に集える施設が少ないこと
5. 障がい児や障がい者のための施設が少ないこと
6. 障がい児や障がい者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと
7. 介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと
8. 高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと
9. 高齢者や障がい者の介護等で、急用時に利用できるサービスが少ないこと
10. 公共施設がどこにあるかわからないこと
11. いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと
12. 往診をしてくれる医療機関が少ないこと
13. くらしや医療・福祉のことで利用できる機関・施設が少ないこと
---->（具体的に：_____）
14. くらしや医療・福祉のことで相談できる窓口が少ないこと
15. その他（具体的に：_____）
16. 特にない

問18 あなたは、地域で力を合わせて安心して暮らすために、どんな取組が必要だと考えますか。

(1) 住民が主体的に取り組むことは、(○はいいくつでも)

1. 地域の問題を自分のこととして考えること
2. 住民相互の日常的な対話・交流・支えあい
3. 世代間交流を広げること
4. 自治会などが住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯などに取り組むこと
5. 身近な地域でくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やすこと
6. 自治会、地区福祉委員会、民生委員・児童委員とボランティアとの協力・連携を広げること
7. 住民が主体的にボランティア活動・地域福祉活動に参加すること
8. 地域福祉活動のための地域ふくし協力金（社会福祉協議会）や赤い羽根共同募金など、地域福祉活動等に役立てられる募金に寄附すること
9. その他（具体的に：_____）
10. わからない
11. 特にない

(2) 問18(1)の選択肢の中で、あなたは、どのようなことができそうですか。できるものについて、問18(1)の選択肢の1～9のいずれかの番号をお書きください。（番号はいくつでも）

できるものの番号 → (_____)

(3) 市役所などの行政が主体的に取り組むことは、(○はいいくつでも)

1. 地域福祉活動や公共施設に関する情報提供を充実させること
 2. 行政の施策をわかりやすく住民に知らせること
 3. 地域福祉活動のことで相談できる専門職を増やすこと
 4. くらしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること
 5. ボランティア活動や地域福祉活動のことで相談できる専門職を充実させること
 6. 障がい者、子供や高齢者等、支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスを充実させること
 7. 地域福祉活動の拠点となる施設を整備すること
 8. 身近な地域に障がい者、子供や高齢者等支援を必要とする人たちが利用しやすい施設を整備すること
 9. 地域福祉活動に関する財政支援策を充実させること
 10. 学校などでの福祉教育を充実させること
 11. 災害発生時における高齢者や障がい者等への支援を充実させること
 12. 福祉や健康を担当する市役所職員や関係団体と住民が交流・学習できる機会を設けること
 13. 行政職員が率先して地域で福祉活動やボランティア活動に参加すること
 14. 地域で自主的に行われている福祉活動を支援すること
- ▶（具体的な福祉活動は：_____）
15. その他（具体的に：_____）
 16. わからない
 17. 特にない

地域活動やボランティア活動についておたずねします

問19 あなたの世帯では地域の自治会に加入していますか。(Oは1つ)
 1. 加入している (⇒問19-1へ) 2. 加入していない (⇒問19-3へ)
 3. わからない (⇒問20へ)

問19-1 問19で「1. 加入している」と回答した方にお聞きます。
 加入してよかったことは何ですか。(Oはいくつでも)
 1. 日々の生活で困ったときに相談をすることができ
 2. 防災や防犯面で頼りになる
 3. 地域や行政などの情報を多く入手できる
 4. 住民同士のつながりの場を提供してくれること
 5. 特にな
 6. その他 (具体的に: _____)

問19-2 問19で「1. 加入している」と回答した方にお聞きます。
 加入して課題だと感じたことは何ですか。(Oはいくつでも)
 1. 自治会の活動が多く、任せられる仕事量が多い
 2. 自治会の活動でわからないことがあっても相談しにくい
 3. 他の用事と被ってしまい、なかなか活動に参加できない
 4. 普段の暮らしに変化がなく、加入する必要性が感じられない
 5. 特にな
 6. その他 (具体的に: _____)

問19-3 問19で「2. 加入していない」と回答した方にお聞きます。
 その理由は何ですか。(Oはいくつでも)
 1. 近所付き合い合いをしたくないから
 2. 自治会費が高いから
 3. 自治会役員を引き受けたくないから
 4. 加入のきっかけがないから・わからないから
 5. 加入していても生活面に支障がないから
 6. 仕事などが忙しく参加が難しいから
 7. 住まいの地域には自治会そのものがないから
 8. その他 (具体的に: _____)

問20 あなたは今、地域活動に参加したり、取り組んだりしていますか。(Oはいくつでも)
 1. 自治会の行事
 2. 地区福祉委員会の活動
 3. 民生委員・児童委員の活動
 4. PTA活動
 5. 高齢クラブ活動
 6. ボランティア活動
 7. 青少年団体活動(ボート・カイト等)
 8. 子ども会活動
 9. 防犯活動
 10. 防災活動
 11. 子育て・育児サークル
 12. スポーツ団体の活動
 13. 生涯学習の講座・座談会
 14. 趣味・娯楽の集まり
 15. くらしや健康に関する自主的な学習会
 16. その他 (具体的に: _____)
 17. 参加していない (⇒問20-2へ)

問20-1 問20で「1」～「16」のいずれかに回答した方にお聞きます。
 参加してよかったことは何ですか。(Oはいくつでも)
 1. 自分の能力や技術が地域に役立っていること
 2. 趣味や嗜好が同じ仲間ができたこと・増えたこと
 3. 余暇時間を有効に活用できていること
 4. 地域に貢献していること
 5. 健康づくりや介護予防、認知症予防になっていること
 6. 同年代、同じ立場の人と交流できること
 7. いるんな年代の人と交流できること
 8. 勉強になること
 9. その他 (具体的に: _____)
 10. 特にな

問20-2 問20で「17. 参加していない」と回答した方にお聞きます。
 地域でどのような活動(居場所)があれば参加してみたいですか。
 (Oはいくつでも)
 1. 知り合いと一緒に参加できる
 2. 自分の能力や技術が役に立つ
 3. 身近なところで開催している
 4. 短い時間でも参加できる
 5. 自分と同じ趣味をもつ人と交流できる
 6. 同世代の人と交流できる
 7. 自分とちがう年代の人と交流できる
 8. 自分が興味・関心のある内容を扱っている
 9. オンライン(インターネット)につないだ状態でも参加できる
 10. 経済的な負担がかからない
 11. その他 (具体的に: _____)
 12. 特にない・わからない

問21 地域活動に参加しやすくするために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 気軽に相談できる窓口を設置すること
2. 活動できる拠点や場所を整備すること
3. 交通費等の費用をまらえるようにすること
4. 活動に関する研修や講習会を開催すること
5. 普及の活動や運営にデジタルツール(市や地域のホームページ、SNS(X、(旧Twitter)、Facebook、LINE、Instagram、動画配信チャンネル(YouTube)など)を活用すること
6. 活動に関する情報をデジタルツール(市や地域のホームページ、SNS(X、(旧Twitter)、Facebook、LINE、Instagram、動画配信チャンネル(YouTube)など)を用いて発信すること
7. 若い世代への参加を呼びかけること
8. 人材・リーダーの育成をすること
9. その他(具体的に: _____)
10. 特にない・わからない

問22 あなたは、現在、福祉ボランティア活動に参加したり、取り組んだりしていますか。(〇はいくつでも)

1. 地域の社会福祉施設内でのボランティア活動
2. 手話、点訳、要約筆記、傾聴ボランティア等の活動
3. 通学や通所、通院など、外出の送迎や付き添い
4. 地域や公園の清掃活動
5. 子供の安全見守り活動
6. 使用済みブリペイドカードなどの回収ボランティア
7. 地域の高齢者等の見守り・声かけ活動
8. ひとり暮らし高齢者向けの昼食会やいきいきサロン、子育てサロンなど
9. 地域の集会所等を活用した居場所づくり
10. 赤い羽根共同募金等への寄付
11. その他(具体的に: _____)
12. 参加していない (⇒問22-2へ)

問22-1 問22で「1」～「11」のいずれかにも回答した方にお聞きます。参加してよかったこととは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 自分の能力や技術が地域に役立っていること
2. 趣味や嗜好が同じ仲間ができたこと・増えたこと
3. 余暇時間を有効に活用できていること
4. 地域に貢献していること
5. 健康づくりや介護予防、認知症予防になっていること
6. 同年代、同じ立場の人と交流できること
7. いろんな年代の人と交流できること
8. 勉強になること
9. その他(具体的に: _____)
10. 特にない

問22-2 問22で「12. 参加していない」と回答した方にお聞きます。地域でどのようなボランティア活動があれば参加してみたいですか。(〇はいくつでも)

1. 知り合いと一緒に参加できる
2. 自分の能力や技術が役に立つ
3. 身近なところで開催している
4. 短い時間でも参加できる
5. 同世代の人と交流できる
6. 自分とちがう年代の人と交流できる
7. オンライン(インターネットにつないだ状態)でも参加できる
8. 経済的な負担がかからない
9. その他(具体的に: _____)
10. 特にない・わからない

社会福祉協議会やコミュニティソーシャルワーカー（CSW）についておたずねします

問23 市内に社会福祉協議会が設置されていることを知っていますか。(Oは1つ)

- 名前を知っており、役割についても知っている
- 名前を知っているが、役割については知らない
- 設置されていることを知らない

問24 社会福祉協議会の取組として知っているものをあげてください。(Oはいくつでも)

- 地区福祉委員会が行う、子育てサロンやふれあい昼食会、見守り声かけなどの支援活動
- かぎ頭かけ事業（地区福祉委員会などによる見守り声かけの一環として実施）
- ボランティアセンターの運営
- 福祉教育（小中学校などからの依頼を受け、車いす体験などを実施）
- 地域ふくし協力金（地区福祉委員会や社会福祉協議会の活動に充てられる）
- 善意銀行事業（市民からの寄附による善意の物品を預かり、市内の福祉施設や団体等支援を必要とする人に「善意の橋渡し」を行う）
- 災害時支援事業
（自然災害発生時の「災害ボランティアセンター」の設置運営など）
- 助け愛隊（高齢者を対象とした、ボランティアによる生活の簡易な困りごとへの助け合い活動）
- 権利擁護事業※
（けんりサポートすいた、日常生活自立支援事業*、法人後見事業など）
- 心配ごと相談
- 生活福祉資金貸付事業
（低所得者や高齢者、障がい者などの世帯を対象に、必要な資金を低利で貸し付ける生活福祉資金について、相談を行ったり申し込み窓口となっている）
- 社協だより、子ども社協だよりの発行
- 施設連絡会（民間の高齢・保育・障がいなどの多様な施設が、施設間交流を行ったり、地区福祉委員会などと連携して地域貢献活動を行っている）
- 赤い羽根共同募金
- その他（具体的に：_____）
- 特にない、わからない

*日常生活自立支援事業は、判断能力が十分でない認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者の方を対象に、福祉サービスの利用援助、日常の金銭管理サービス、書類などの預かりサービスを行う事業です。

問25 あなたは、社会福祉協議会にCSWが配置されていることを知っていますか。(Oは1つ)

- 配置されていることを知っており、役割についても知っている
- 配置されていることは知っているが、役割までは知らない
- 配置されていることを知らない

問26 CSWに今後どのようなことを期待されますか。(Oはいくつでも)

- 身近な地域で相談する機会を設けてほしい
- 地域福祉活動へのアドバイスがほしい
- 専門的な相談にも対応してほしい
- CSWの周知に力を入れてほしい（配置場所、活動内容等）
- CSWの人数を増やしてほしい
- 市や専門機関・施設と連携してほしい
- その他（具体的に：_____）
- 特にない、わからない

民生委員・児童委員についておたずねします

問27 あなたは、地域住民の中から選ばれた、住民の見守り活動や福祉・子育てに関する相談活動を行う民生委員・児童委員がいることを知っていますか。(Oは1つ)

- 地域の民生委員・児童委員も活動内容も知っている
- 地域の民生委員・児童委員は知っているが、活動内容は知らない
- 地域の民生委員・児童委員は知らないが、活動内容は知っている
- 地域の民生委員・児童委員も活動内容も知らない

問28 民生委員・児童委員の活動で、あなたは特に何を充実してほしいですか。(Oはいくつでも)

- 日常生活の悩みや心配ごとの相談
- 福祉に関する情報の提供
- 地域住民の見守り
- 福祉サービスの利用にあたっての調整や支援
- 地域行事への参加や住民同士のつながりづくり
- その他（具体的に：_____）
- 特にない、わからない

成年後見制度についておたずねします

成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力が不十分な人の権利や財産を守る制度です。
 成年後見制度には法定後見制度と任意後見制度の2種類があり、法定後見制度は家庭裁判所が成年後見人等（成年後見人・保佐人・補助人）を選任し、任意後見制度は代理人（任意後見人）をあらかじめ自分で選ぶものです。

問29 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

1. ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている
 2. ことばは聞いたことがあるが、制度のことは知らない
 3. ことばも制度も知らない

問30 あなたは将来、財産の管理や契約の手続きについて、自分ひとりで判断することが難しくなった場合に、「成年後見制度」を利用したいですか。(○は1つ)

1. 利用したい (⇒問30-1へ) 2. 利用したくない (⇒問30-2へ)
 3. わからない (⇒問30-2へ)

問30-1 問30で「1. 利用したい」と回答した方にお聞きします。財産の管理や契約の手続きをしてくれる「成年後見人」は誰になってもらいたいですか (○はいくつでも)

1. 家族・親族
 2. 専門職（弁護士・司法書士など）
 3. 法律または福祉に関する法人
 4. 市民後見人（研修を受けた市民など）
 5. その他（具体的に：_____）
 6. わからない

問30-2 問30で「2. 利用したくない」「3. わからない」と回答した方にお聞きします。

その理由として、あなたの考えに近いものは何ですか。(○はいくつでも)

1. 制度を使わなくても家族や親族がいるから*
 2. 自分以外の人に財産などを任せることが心配だから
 3. 家族・親族などの信頼関係が崩れるおそれがある
 4. 援助者（後見人など）になってほしい人が見当たらない
 5. 一度利用したら途中でやめるのが難しいから
 6. 費用がどのくらいかかるか心配
 7. 手続きが大変そう
 8. 家庭裁判所に申し立てることに抵抗がある
 9. どのようなときに利用していいかわからない
 10. その他（具体的に：_____）
 11. わからない

*ご家族やご親族が財産管理を行う場合、銀行でお金をおろしたり口座を開設する際にご本人でなければ対応できないことがあります。

問31 あなたの周りで、財産の管理や契約の手続きについて、自分ひとりで判断することが難しい方がいた場合、どこに相談しますか。もしくはどこに相談するよう伝えませんか。(○はいくつでも)

1. 家族・親族
 2. 地域包括支援センター
 3. 障がい者相談支援センター
 4. 専門職（弁護士・司法書士など）
 5. 市役所
 6. 吹田市権利擁護・成年後見支援センター「けんりサポートすいた」
 7. 家庭裁判所
 8. 社会福祉協議会
 9. その他（具体的に：_____）
 10. わからない

問32 成年後見制度をより多くの方に知っていただくために、次のどの方法で周知すると効果的だと思いますか。(Oはいくつでも)

1. 市の広報誌(市報すいた)
2. 市のホームページやSNS(X(旧twitter)、Facebook、LINE、Instagram、吹田市動画配信チャンネル(YouTube))
3. 専門職(弁護士・司法書士など)が実施する説明会やシンポジウム
4. テレビ、新聞、ラジオなどのマスメディア
5. 高齢者施設や障がい者施設に啓発用のチラシやパンフレットを置く
6. 商業施設に啓発用のチラシやパンフレットを置く
7. 地域の集まり(自治会の行事やボランティア活動)で啓発用のチラシやパンフレットを配布する
8. その他(具体的に: _____)
9. わからない

問33 災害から生命を守る取組や情報などについておたずねします。

問33 防災に関する取組や情報について、あなたが知っているものはありませんか。(Oはいくつでも)

1. 災害時の避難所
2. 吹田市一斉合同防災訓練
3. 災害時要援護者支援制度※10 (⇒問33-1へ)
4. 防災ブック(防災マップや洪水ハザードマップ、備蓄品のリストなど、防災に関する情報を記載した冊子)
5. 福祉避難所※11
6. 避難指示などの緊急時の避難情報(緊急速報メール、災害時自動サービスなど)
7. ケーブルテレビやFM千里による緊急情報の提供(吹田市との協定による)
8. 防災出前講座
9. 地域の自主防災組織※12
10. 企業や各種団体、他市町村との防災協定
11. 津波・洪水避難ビル
12. 知っているものはない

問33-1 問33で「3. 災害時要援護者支援制度」と回答した方にお聞きします。「災害時要援護者」への支援を進めるうえで、優先すべき取組は何だと思いますか。(Oは1つ)

1. 災害時要援護者支援制度の周知
2. 福祉避難所の確保
3. 個別避難計画の作成
4. 身近な地域での防災講座の実施
5. その他(具体的に: _____)
6. 特にない、わからない

再犯防止の取組などについておたずねします

犯罪や非行をした人の多くは、事件への反省を踏まえて生活を立て直し、社会の健全な一員として暮らしていきませんが、中には再び犯罪や非行をしてしまう人もいます。「再犯防止の取組」とは、こうした再犯者を減らすため、犯罪や非行をした人の立ち直りを支える取組であり、国や地方公共団体が推進しているものです。吹田市でも、保護司（本年10月末現在・57名）による活動をはじめ、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるために様々な取組を行っています。

問34 再犯防止に関する民間協力者や取組で、あなたが知っているものはありませんか。（〇はいくつでも）

1. 保護司
2. 更生保護女性会
3. 協力雇用主
4. BBS会
5. 更生保護施設
6. 社会を明るくする運動（地域集会等を含む）
7. その他（具体的に：_____）
8. 知っているものはない

問35 再犯や非行を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 就労が確保されること
2. 住居が確保されること
3. 就学を支援すること
4. 高齢者、障がい者等が刑務所等出所後に適切な福祉サービスを受けられること
5. 薬物依存者等が専門的な相談・治療を受けられること
6. 保護司や協力雇用主等、民間協力者の活動が促進されること
7. 「社会を明るくする運動」等、広報・啓発活動が促進されること
8. 自治体が保護司や更生保護施設と連携し、切れ目のない支援を行うこと
9. その他（具体的に：_____）
10. 支援は必要ない

問36 あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いませんか。（〇はいくつ）

1. 思う（⇒問36-1へ）
2. どちらかといえば思う（⇒問36-1へ）
3. どちらかといえば思わない（⇒問36-2へ）
4. 思わない（⇒問36-2へ）
5. わからない（⇒問37へ）

問36-1 問36で「1. 思う」または「2. どちらかといえば思う」と回答した方にお願いします。どのような協力をしたいと思いませんか。（〇はいくつでも）

1. 保護司になるなど、非行や犯罪をした人に会って継続的に助言や援助をする
2. 協力雇用主として犯罪をした人を雇用する
3. 更生保護施設にお金や品物を寄付する
4. 再犯防止に関するボランティア活動に参加する
5. 犯罪予防や更生保護に関する広報・啓発活動に参加する
6. 犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ
7. その他（具体的に：_____）

問36-2 問36で「3. どちらかといえば思わない」または「4. 思わない」と回答した方にお聞きします。協力したくない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1. 自分や家族の身に何か起きないか不安だから
2. 犯罪をした人と、かわわりを持ちたくないから
3. 犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから
4. 自分自身にメリットがないから
5. 具体的なイメージがわからないから
6. 時間的余裕がないから
7. 興味がないから
8. 犯罪をした人への支援などは国や都道府県・市町村が行うべきだから
9. 犯罪をした人に支援などするべきではないから
10. その他（具体的に：_____）
11. わからない

ごうりてきはいりよ

合理的配慮についておたずねします

ごうりてきはいりよ

合理的配慮とは、障がいのある方が障がいのない方と同じように日常生活や社会生活を送るために、過度な負担が生じない範囲で環境の整備や調整を行うことです。障がいのある方にとつての社会的なバリアを除去するために、対話を重ねて対応策を検討していくことが重要とされています。

【例】車いす利用者のために店舗の入退店時の補助をする
聴覚障がい者のために筆談や手話で対応する 等

問37 あなたは「合理的配慮」を知っていますか。(〇は1つ)

1. ことばは聞いたことがあり、内容のことも知っている
2. ことばは聞いたことがないが、上記の【例】のような内容は知っている
3. ことばも内容も知らない

た

その他(要望や意見等)

問38 国や府、市など行政に対する要望や意見、この調査に関する意見などをお聞かせください。

調査に御協力いただきまして、ありがとうございます。
御記入いただいた調査票は、回封の返信用封筒に入れて、
切手は貼らずにポストに御投函ください。

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんので御注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元コードを読み取ってください。

[二次元コード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）をURL欄に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/272051cf>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDとパスコードを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

◇パスコード

※IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。
- ◆ 12月2日(火曜日)までにご回答をお願いします。

用語説明一覧

掲載ページ	用語	説明
※1 (表紙)	地域共生社会の実現	「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会を目指す」という考え方を示す。
※2 (3ページほか)	民生委員・児童委員	民生委員・児童委員は地域住民の中から選ばれ、厚生労働大臣から委嘱を受けた人です。それぞれの地域において、住民の見守り活動や福祉・子育てなどのお困りごとに関する相談活動を行っています。
※3 (3ページほか)	地区福祉委員	市内に33の地区福祉委員会が組織され、地域の特徴や実情に合わせた助け合い・支え合い活動を行っています。自治会、高齢クラブなど、地域の団体から参加する人や、民生委員、ボランティアなど、多くの市民が地区福祉委員として活動しています。
※4 (3ページほか)	地域包括支援センター	介護保険法で各市区町村に設置が定められている地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。
※5 (3ページほか)	(市区町村) 社会福祉協議会	地域福祉を推進する団体として社会福祉法に規定され、各市区町村に1つ設置されています。福祉のまちづくりを地域ぐるみで推進する民間の自主的組織として、地域住民や福祉関係機関、ボランティア団体、当事者組織などで構成されています。
※6 (3ページ)	コミュニティソーシャルワーカー (CSW)	地域密着の生活・福祉の相談員です。地域で、悩みごとや困りごとを抱えた方の話を聞き、関係機関等と連携して解決の支援を行い、地域福祉の推進役として活動しています。
※7 (3ページ)	スクールソーシャルワーカー (SSW)	子供たちが安心して学校生活を送れるように、学校や家庭が抱える課題に対し、環境面からのアセスメントに基づき、専門的な知識と技術で福祉の支援を行います。教職員や保護者と連携し、相談に応じたり、必要に応じて児童相談所等の関係機関との連携を図ります。社会福祉士または精神保健福祉士等の資格が必要です。

掲載ページ	用語	説明
※8 (10ページほか)	赤い羽根共同募金	社会福祉法に定められた地域福祉推進のための募金です。大阪府共同募金会の配分決定委員会での審議を経て、社会福祉協議会や福祉施設へと配分され、福祉活動に活用されます。
※9 (16ページ)	権利擁護	自己の権利を表明することが困難な認知症の高齢者や、障がい者、子供などのニーズを表明し、支援し代弁することです。
※10 (21ページ)	災害時要援護者支援制度	災害時や災害が発生するおそれがある場合に、重度の障がいや要介護状態にあり自ら避難することが困難で、避難するために特に支援が必要な在宅の方（災害時要援護者）に対し、安否確認や避難誘導などの支援が適切かつ円滑に行えるよう、地域支援組織との連携により、地域で支え合う安心・安全のネットワークづくりを旨とするものです。
※11 (21ページ)	福祉避難所	災害時に高齢者や障がい者等、一般の避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする人を対象に開設する避難所です。社会福祉事業を行う施設等のうち、一定の条件を満たす施設を市で指定しています。
※12 (21ページ)	自主防災組織	災害時や災害が発生するおそれがある場合に、助け合いの精神による自主的な活動を推進するため、平常時から災害に備えて啓発活動や防災訓練などを行う地域住民等を中心として自主的に結成された組織です。町内会や企業、学校、地域サークル等さまざまな単位で結成されています。

吹田市民の地域福祉に関する実態調査
報告書

発行年月 令和8年(2026年)3月
発行 吹田市
事務局 吹田市 福祉部 福祉総務室
〒564-8550 吹田市泉町1丁目3番40号
電話：06-6384-1803